

新津市文化財調査報告書

# 舟 戸 遺 跡

発掘調査報告書

1 9 9 5

新 津 市 教 育 委 員 会

## 例 言

1. 本書は、新潟県新津市大字古津に所在する舟戸遺跡のうち、小字腕田1899番地に新設される株式会社小川組の社屋建設工事に先立って行われた発掘調査の報告書である。
2. 調査は、新津市教育委員会が実施し、川上貞雄が担当した。調査体制は別記の通りである。
3. 調査は、1993年10月4日から11月20日まで現地調査を実施し、11月22日から1994年7月19日に至る間に中断をしながら整理作業を実施した。整理作業の日数は約160日を要した。
4. 整理作業の一部は、諸般の事情により笹神村郷土資料館の研究室を借用して行った。
5. 本書の執筆は川上が担当し、作図、編集作業は川上の指導のもとで杉本恵子、佐藤友子、田中順子が分担した。
6. 発掘調査から報告書作製にいたる過程で、次の方々及び機関により御指導・御教示・御援助を賜わった。記して謝意を表したい。

植木ヨシノ 小川重蔵 垣内光次郎 萱森武夫 川村浩司 鈴木眞吾 高橋 保 増子正三  
柳千代美 横山勝榮 渡辺 明 渡辺幸吉 (株)小川組 笹神村教育委員会 笹神村郷土資料館

## 発掘調査体制

調査主体	川瀬 紱夫 (新津市教育委員会教育長)
調査担当者	川上 貞雄 (日本考古学協会会員)
調査員	杉本 恵子 (県考古学会会員) 佐藤 友子
調査補助員	田中 順子 (笹神村郷土資料館職員)
事務局	榎本 泰伸 (生涯学習課長) 吉沢 功 ( " 補佐) 上沼 茂 ( " 係長) 窪田 吉衛 ( " 主幹係長) 渡辺 朋和 ( " 主事) 川崎 昌晃 ( " " ) 阿達 哲二 ( " 技士)
調査参加者	神田藤吉 風間庄吾 泉 春一 皆木三代作 安田ミツ 斎藤登志之 植木 進 伊藤リイ 伊藤タセ 渡辺睦子 小柳ハツミ 伊藤コウ 坂上ノブ 劔 昂 関口 寛 阿部才治 本多隆一 伝田耕三郎 斎藤淳子 諸橋スミ子

# 目 次

I はじめに		7 井戸	28
1 調査にいたる経過	2	8 その他	29
2 遺跡と周辺の遺跡	2	9 近現代の遺構	29
3 確認調査の概要	5	III 出土した遺物	
4 調査の方法と経過	6	1 遺物の概要と分類	31
5 整理の方法と経過	6	2 遺物	37
6 基本層序	7	IV 掲載遺物一覧表	101
II 発見された遺構		V まとめ	
1 住居址	9	1 遺物・遺構の時期	126
2 建物址	15	2 おわりに	127
3 溝	19	VI 写真図版	
4 土坑	21		
5 杭列	25		
6 ピット群	27		

# 挿 図 目 次

第1図 周辺の弥生時代・古墳時代の遺跡分布図	3	第12図 SB-1号建物址平断面図	14
第2図 調査位置図1	4	第13図 SB-1号建物址土器出土状況	14
第3図 調査位置図2	6	第14図 SB-2号建物址平断面図	16
第4図 グリット設定図	6	第15図 SB-3号建物址遺物出土状況	16
第5図 遺跡の土層柱状図	7	第16図 SB-3号建物址平断面図	17
第6図 遺構全測図	8	第17図 SB-4号建物址平断面図	18
第7図 SI-1号住居址平断面図	10	第18図 SB-4号建物址出土柱根	18
第8図 SI-1号住居址残遺層内溝状遺構平断面図	11	第19図 SB-5号遺構平面図	18
第9図 SI-1号住居址覆土中の土器出土状況	12	第20図 SB-5号遺構出土柱根	19
第10図 SI-2号住居址平断面図	12	第21図 SD-1号溝平断面図	20
第11図 SI-2号住居址出土柱根	13	第22図 SD-2号～9号溝断面図	20
		第23図 SK-2号土坑平断面図	21
		第24図 SK-3号土坑・9号土坑平断面図	22

第25図	S K - 7号土坑平断面図……………	22	第59図	S K - 1号土坑出土土器 2 ……	56
第26図	S K - 8号土坑平断面図……………	22	第60図	S K - 2号土坑出土土器 1 ……	57
第27図	S K - 16号土坑平断面図……………	23	第61図	S K - 2号土坑出土土器 2 ……	58
第28図	S K - 19号土坑平断面図……………	23	第62図	S K - 3号土坑出土土器……………	59
第29図	S K - 20号土坑平断面図……………	23	第63図	S K - 4号土坑出土土器……………	60
第30図	土坑平断面図……………	24	第64図	S K - 5号土坑出土土器 1 ……	61
第31図	1号杭列平面図……………	26	第65図	S K - 5号土坑出土土器 2 ……	62
第32図	1号杭列出土杭……………	26	第66図	S K - 6号土坑出土土器……………	63
第33図	2号杭列平面図……………	27	第67図	S K - 7号土坑出土土器 1 ……	64
第34図	2号杭列出土杭……………	27	第68図	S K - 7号土坑出土土器 2 ……	65
第35図	S X - 1号ピット遺構……………	28	第69図	S K - 8号土坑出土土器 1 ……	67
第36図	S E - 1号・2号井戸平断面図 ……………	29	第70図	S K - 8号土坑出土土器 2 ……	68
第37図	攪乱層採集杭と板状木製品……	29	第71図	S K - 8号土坑出土土器 3 ……	69
第38図	近現代の遺構……………	30	第72図	S K - 9号土坑出土土器……………	70
第39図	出土遺物の器種分類 1 ……	32	第73図	S K - 10号土坑出土土器……………	70
第40図	出土遺物の器種分類 2 ……	33	第74図	S K - 11号・12号・13号・14号土坑 出土土器……………	71
第41図	S I - 1号住居址出土土器 1 ……	38	第75図	S K - 16号土坑出土土器……………	72
第42図	S I - 1号住居址出土土器 2 ……	39	第76図	S K - 19号土坑出土土器……………	73
第43図	S I - 1号住居址出土土器 3 ……	40	第77図	S K - 20号土坑出土土器……………	74
第44図	S B - 1号建物址出土土器 1 ……	42	第78図	S K - 21号・22号・24号・25号・26 号土坑出土土器……………	75
第45図	S B - 1号建物址出土土器 2 ……	43	第79図	遺構外出土土器 1 ……	79
第46図	S B - 1号建物址出土土器 3 ……	44	第80図	遺構外出土土器 2 ……	80
第47図	S B - 1号建物址出土土器 4 ……	45	第81図	遺構外出土土器 3 ……	81
第48図	S B - 2号建物址出土土器……	46	第82図	遺構外出土土器 4 ……	82
第49図	S B - 3号建物址出土土器 1 ……	47	第83図	遺構外出土土器 5 ……	83
第50図	S B - 3号建物址出土土器 2 ……	48	第84図	遺構外出土土器 6 ……	84
第51図	S B - 3号建物址出土土器 3 ……	49	第85図	遺構外出土土器 7 ……	85
第52図	S B - 4号建物址出土土器……	50	第86図	遺構外出土土器 8 ……	86
第53図	S D - 1号溝出土土器 1 ……	51	第87図	遺構外出土土器 9 ……	87
第54図	S D - 1号溝出土土器 2 ……	52	第88図	遺構外出土土器 10……………	88
第55図	S D - 1号溝出土土器 3 ……	53	第89図	遺構外出土土器 11……………	89
第56図	S D - 2号溝出土土器……………	54	第90図	遺構外出土土器 12……………	90
第57図	S D - 4号溝出土土器……………	54	第91図	遺構外出土土器 13……………	91
第58図	S K - 1号土坑出土土器 1 ……	55			

第92図	遺構外出土土器14	92	第96図	遺構外出土土器18	96
第93図	遺構外出土土器15	93	第97図	遺構外出土土器19	97
第94図	遺構外出土土器16	94	第98図	時代の異なる遺物	98
第95図	遺構外出土土器17	95			

## 図 版 目 次

図版 1	遺跡遠景 発掘調査風景	図版26	S K - 1・2号土坑出土遺物
図版 2	図版 3 の図解	図版27	S K - 2～4号土坑出土遺物
図版 3	全景	図版28	S K - 4～6号土坑出土遺物
図版 4	図版 5 の図解	図版29	S K - 6・7号土坑出土遺物
図版 5	遺跡部分	図版30	S K - 7・8号土坑出土遺物
図版 6	S I - 1号住居址	図版31	S K - 8号土坑出土遺物
図版 7	S I - 1号住居址	図版32	S K - 10～12・16・19号土坑出土遺物
図版 8	S I - 1号住居址	図版33	S K - 19・20号土坑出土遺物
図版 9	S I - 1号住居址内の土器	図版34	S K - 20～22・24・26号土坑出土遺物
図版10	S I - 2号住居址	図版35	S K - 26号土坑出土遺物 遺構外出土遺物
図版11	S I - 2号住居址柱根	図版36	遺構外出土遺物 2
図版12	S B - 1号建物址	図版37	遺構外出土遺物 3
図版13	S B - 2号建物址	図版38	遺構外出土遺物 4
図版14	S B - 4号建物址	図版39	遺構外出土遺物 5
図版15	S K - 1～9号土坑	図版40	遺構外出土遺物 6
図版16	S K - 12～26号土坑	図版41	遺構外出土遺物 7
図版17	1～3号杭列 S X - 1号環状ピット群 S E - 1・2号井戸	図版42	遺構外出土遺物 8
図版18	近現代の遺構	図版43	遺構外出土遺物 9
図版19	S I - 1号住居址出土遺物	図版44	遺構外出土遺物10
図版20	S I - 1号住居址出土遺物	図版45	遺構外出土遺物11
図版21	S B - 1号建物址出土遺物	図版46	S I - 2号住居址・S B - 4号建物址 5号遺構出土柱根 1・2号杭列出土杭
図版22	S B - 1号建物址出土遺物	図版47	時代の異なる遺物
図版23	S B - 3・4号建物址 S D - 1号溝出土遺物		
図版24	S D - 1号溝出土遺物		
図版25	S D - 1・4号溝 S K - 1号土坑出土遺物		

## 表 目 次

表 1	土 坑 一 覧 表	25
表 2	高 坏 の 坏 部 と 脚 部 の 関 連	99
表 3	埴 の 口 縁 部 と 体 部 の 関 連	99
表 4	出 土 遺 物 比 率 表	100
表 5	掲 載 遺 物 一 覧 表	101

## 凡 例

1. 挿図の断面図中の標高及びその他の GL の単位は cm である。
2. 遺物の割付番号は、一覧表番号及び写真図版の番号と符合する。
3. 写真図版の内※印の付く番号は遺物番号であり、図示していないものである。
4. 遺物の内トーンの表示は、それぞれ丹塗・漆幕・黒色土器・陶器等である。
5. 出土遺物一覧表の甕の内、個体数に上げたものは特に単純に見て明らかなものに限った。

# I はじめに

## 1 調査にいたる経過

1993年8月、新津市大字古津字腕田1899番地における埋蔵文化財有無の照合が、株式会社小川組の新本社ビル建設に係わる担当者より、新津市教育委員会生涯学習課宛になされた。当該地域は『新潟県遺跡地図』（新潟県教育委員会1979）に「舟戸遺跡（市町村番号No.9）」に登録された遺跡の範中にあるものと考えられた。舟戸遺跡は戦後（昭和20年代後半）に行われた耕地整理事業によって、多量の土器が出土したことで、弥生時代・古墳時代・古代の周知の埋蔵文化財包蔵地であり、この範囲は推定の域を出ないが、かなりの広範囲と考えられていた。

株式会社小川組と新津市教育委員会との協議結果、1993年9月20日試掘調査を実施した。この結果については次項でその概要を記載するが、当該地は予想通り弥生土器か古墳時代の土師器の出土が報告され、合わせて遺構の存在も報告され、開発予定地（建造物の範囲）に対する発掘調査の実施が必要であると判断されるに至った。この確認調査をふまえて発掘調査の期日・費用等に関して協議を重ねた結果、株式会社小川組と新津市教育委員会で合意に達した。これによって同年10月4日から厚い客土の排除作業に入り、同10月12日より調査を開始した。

## 2 遺跡と周辺の遺跡

新津市は新潟平野のほぼ中央に位置し、東側は阿賀野川、西側は信濃川、北側は阿賀野川から信濃川に流れる小阿賀野川に接している。南側からは越後山脈の小支脈の一つである新津丘陵が入り込み、丘陵先端部は市域の中心部に至っている。この様に三方は大河が形成した平坦な沖積平野となり、一部は標高70m前後の緩やかな丘陵から成り立っている。

舟戸遺跡は、この新津丘陵の西麓裾部に接した平端部に位置する。丘陵裾部に沿って走るJR東日本、信越本線の古津駅西方約200m地点に中心を持ち、北東から南西にかなりの広範囲に広がる遺跡と考えられている。現在この地域の大半は市街化区域に指定され、盛土による埋立が進み住宅団地や工場用地などになっているが、かつては沖積地の底地であり、水田・畑地であった。第2図に示したトーン部分が舟戸遺跡の南半と推定されるが、同図西側に走る道路の東側は現状では総て埋立がなされている。これまで舟戸遺跡から採集されて保存されている遺物は、古式土師器・ロクロ土師器・須恵器・中世陶器で、これらは『新津市史資料編第一巻』（川上1989）に収録されたものが総てであるが、昔時に於ける排水路掘削工事中に古式土師器の高坏が数10点も出土したと言われている。

近年新津市域や隣接町村で発見される遺跡は多く、旧石器を始めとする原始時代の遺跡から中・近世にわたる歴史時代の遺跡までが知られ、丘陵頂部はもとより、丘陵麓・裾部から沖積地の低



- |       |         |          |        |
|-------|---------|----------|--------|
| 1 結   | 2 善右衛門沢 | 3 古津諏訪社前 | 4 二百刈  |
| 5 埋葬地 | 6 八幡山古墳 | 7 八幡山    | 8 円塚古墳 |
| 9 大倉山 | 10 向屋敷  | 11 中店A   | 12 中店B |
| 13 長沢 | 14 諏訪前  | 15 エゾ塚古墳 | ★ 舟戸   |

第1図 周辺の弥生時代・古墳時代の遺跡分布図

湿地と考えられている部分にまで遺跡が点在していることが判明してきた。第1図にはこれらのうち弥生時代と古墳時代の遺跡についてのみ示した。舟戸遺跡に近接する遺跡で(3)古津諏訪社前遺跡、(4)二百刈遺跡は共に古墳時代の遺跡である。共に400mの至近距離にある。前者は丘陵裾



部に位置し、後者は沖積地であり、弥生の遺物をも含む。やゝ遠隔の地にある(1)結遺跡、(13)長沢遺跡、(14)諏訪前遺跡はやはり古墳時代の遺跡である。前2者は沖積地にあり、共に古代の遺物をも含む。後者は丘陵裾部に位置している。

一方、舟戸遺跡に近い丘陵頂部には(6)八幡山古墳がある。1987年の発見で、その後の測量調査の結果、直径55mに及ぶ円墳で山側に周濠をもち、古墳時代前期に位置づけられるものである〔甘粕1992〕。(15)エゾ塚古墳は平野との比高約117mの山嶺に、円墳2基、方墳1基が造営されている。初期の古墳群であり、山麓の諏訪前遺跡との関連が考えられている。(8)円塚古墳は丘陵端部の台地上に営まれた円墳でありやゝ時期が降るものと推測されている。八幡山古墳を含む丘陵頂部は弥生時代中期後半から後期における大規模な(7)八幡山遺跡である。山腹に二重あるいは三重に環濠をめぐるした高地性集落、あるいは高地性環濠集落と呼ばれる遺跡であり、日本海側最北の要砦である〔川上1994〕。丘陵背後の(9)大倉山遺跡も山頂部に遺物を見る弥生時代の高地性集落である。弥生時代の遺跡はその他に(2)善右衛門沢遺跡、(5)埋葬地遺跡、(10)向屋敷遺跡、(11)中店A遺跡、(12)中店B遺跡がある。このうち前者3遺跡は縄文遺跡と複合している。

この様に新津丘陵先端部を中心にした弥生時代から古墳時代にかけての遺跡は決して多いとは言えない。そして次の時代、即ち須恵器やロクロ土師器を伴う古代の遺跡は新潟平野の沖積地に爆発的な勢いで発生する。新津市域の古代の遺跡もこの低湿地帯に多く発見されつつある今日である。



第2図 調査位置図1 (A=八幡山遺跡)

### 3 確認調査の概要

1993年9月20日、新津市教育委員会生涯学習課主事渡辺朋和氏を担当者として当該地の確認調査が行われた。その調査報告書があるので要点を転載させて戴く。

#### 調査方法

開発予定区域内に2×4m前後のトレンチを任意に設定し、バックホーで表土から地山まで徐々に掘り下げた後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無を確認し記録する。

#### 調査面積

(1) 調査対象面積 409㎡

(開発面積2,872㎡ ※建造物以外は砂利敷きということで調査対象から除外した。)

(2) 確認調査面積 40㎡ (トレンチ5か所)

#### 調査結果

(1) 層 序

全体に70～130cmの盛土に厚く覆われている。かつては水田か畑地だったものと思われるが、旧表土は存在せず、これを搬出後に盛り土を行ったものと考えられる。遺物包含層は、黒褐色砂層あるいは粘土層で、現地表面から140～190cmの深さを測る。層厚約25cmである。地山と考えられる基盤層は青灰色砂層・粘土層である。1Tでは黒褐色土が2枚検出されたが、下層から遺物の出土はなかった。黒褐色土の形成は遺物が河川等によって堆積したものではなく、生活面が地上にあったことを示している。

トレンチによっては、包含層の上下には河川堆積と考えられる砂層が見られた。

(2) 遺 構

1T・3Tで柱穴・土坑などが検出された。

(3) 遺 物

1T14点・3T184点・4T68点・5T68点の土器が検出された。遺跡の保存を考えて、4T・5Tでは包含層を全掘しなかった。刷毛目調整を行う甕や高杯・鉢等が見られることから、弥生土器か古墳時代の土師器と思われる。全般に焼成が不良で石英・長石・海面骨針を含むものが多い。なお、内面黒色処理をするものが若干存在する。

#### ま と め

今回の確認調査対象範囲には、ほぼ全体に遺跡が広がっているものと思われる。出土土器から見て、弥生時代後期か古墳時代の遺跡と考えられる。舟戸遺跡は、弥生時代後期の高地性環濠集落である八幡山遺跡・県内最大規模の八幡山古墳がつくられた丘陵の裾部に位置している。八幡山遺跡の人々の後裔が住んだ可能性や八幡山古墳を造った人々の集落だった可能性もあり、注目される遺跡であろう。

時間的制約から建物の造られる範囲外は確認調査を実施しなかったが、今後取扱いに注意する必要がある。

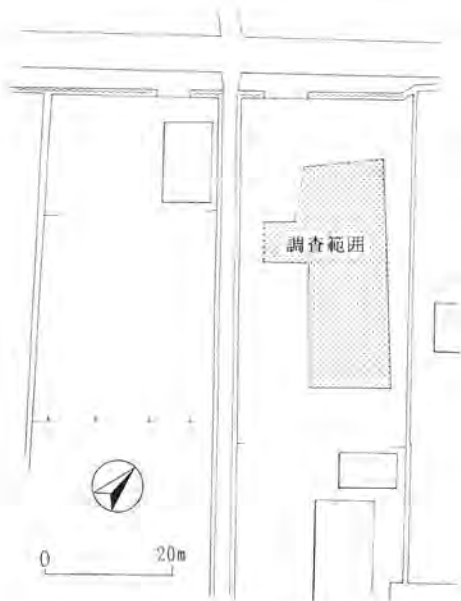
## 4 調査の方法と経過

当該開発予定地は遺跡推定範囲の南西部の一面に位置する（第2図斜線部分）。その地は市道古津8号線に面した幅27m、奥行56mの埋立地で、これまで社有のテニスコートであった。西側は農道に接し、東側は分譲宅造地で住宅建設が進んでいる。発掘範囲は建造物の面積のみに限られ、第3図に示した様な位置となりその面積は469.5㎡となった。なお建造物の設計変更により、確認調査の位置とは一部が異なる。この土地は確認調査によって南半のテニスコート部分は約130cmの盛土、北側は約70cmの盛土によって埋立がなされていることが分り、発掘調査に先立って盛土の排除作業が必要となり、10月4日から3日間を要して大型ダンプカーで搬出した。10月8日・9日にグリッドの設定、資材等の搬入を行い、10月12日より発掘調査を開始した。なお現地調査は11月20日で終了した。日曜祭日、雨天の1日を除いた都合33日間の調査であった。排土作業にはベルトコンベアーとバックホーを使用した。用地が狭いため、ほぼ三日おきに残土を他所へ搬出した。

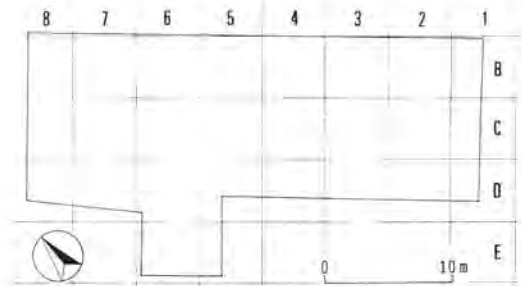
調査区画は5×5mを一グリッドとし、第4図に示した如く、やゝ南北に1～8、東西にA～Eの記号を付した。このグリッド杭は基点をもたず認意のものであり、Aラインの方位はN50度W（北に対して西側へ50度向いている）である。作業は南側から開始した。発掘作業に当たった員数は、調査員の他18名であった。

## 5 整理の方法と経過

発掘調査の結果、小面積にもかかわらず後述する如く、約32,000点余の遺物が採集された。発掘作業の終盤に入って、遺物の水洗作業を徐々に始め、雨天日にも集中したが、現地調査終了した11月20日までに約半数の水洗を終えることが出来た。11月22日より市営野球場の一室を借り残りの水洗作業と注記作業などを行った。水洗作業には現地作業員の女性6名が主に当り数日を要した。一方調査員の他安田ミツに新たに斎藤淳子、諸橋



第3図 調査位置図2



第4図 グリッド設定図

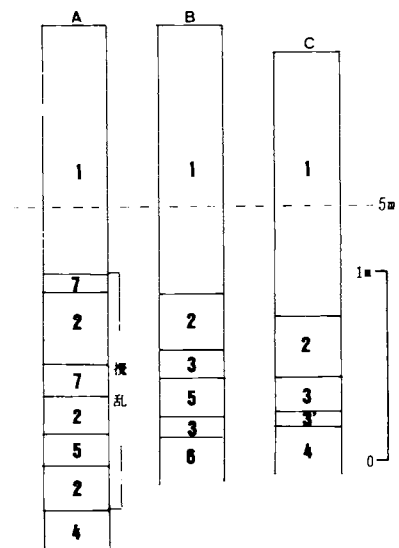
スミ子が参加して注記・分類・復元作業を開始した。12月28日、借用した市営野球場が閉鎖されるため、一担作業を打切ることになり、12月27日遺物を笹神村郷土資料館の研究室へひとまず移転した。

1994年1月10日より笹神村郷土資料館の研究室を借用して整理作業を再開した。調査員の他田中順子の補佐を得た。整理作業はその後3月下旬に10日間余の中断をしながら、7月19日に一応の終了を見た。作業は木製品即ち柱根・杭類の保存の為の真空パック作業、土器の分類、実測、トレース、撮影、割付、作業などである。

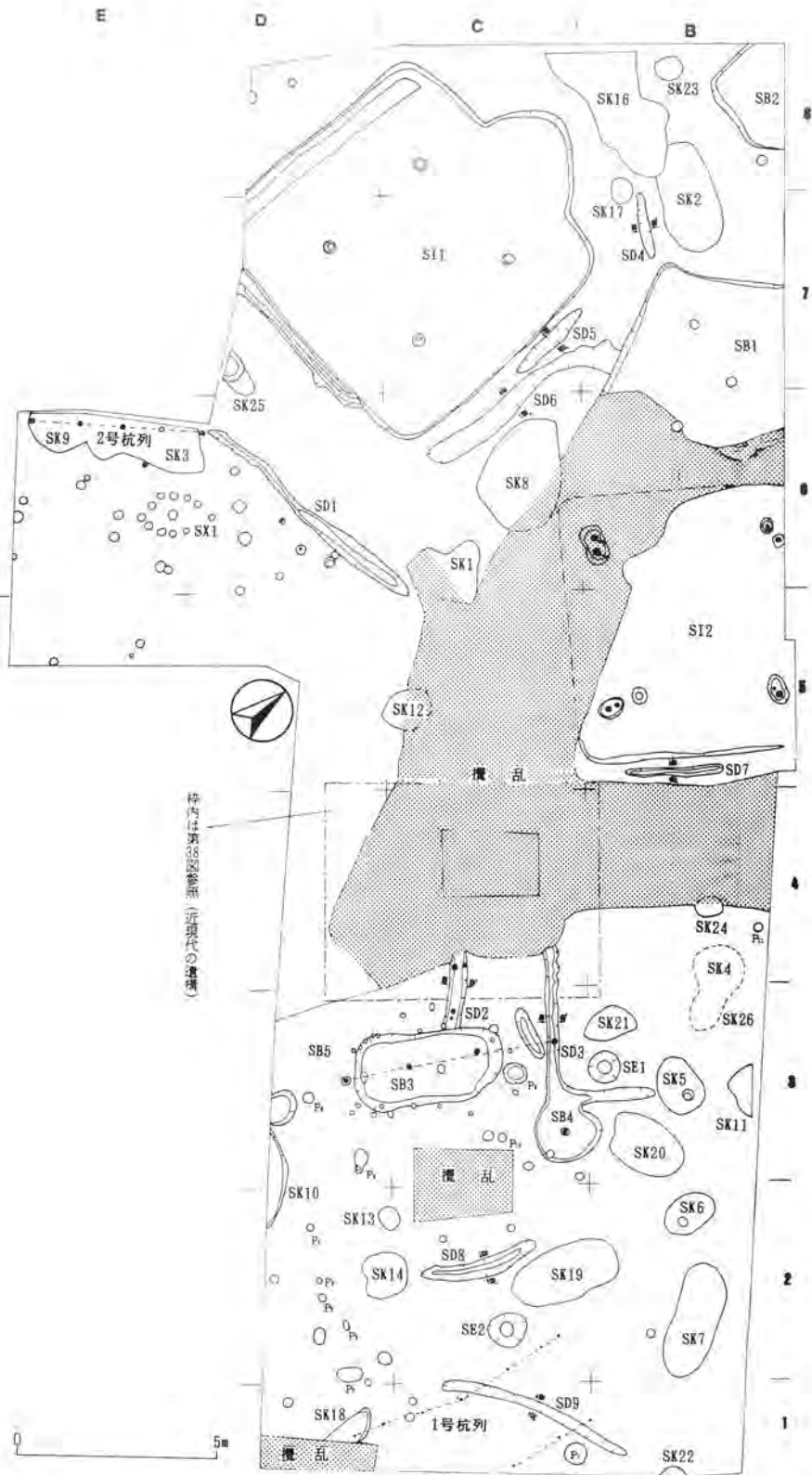
## 6 基本層序

当調査区の基本的な層序は第5図に示した。調査区の東寄りと西側で下層部の層序が異なるが、遺物包含層及び遺構検出層は同一である。なお第6図に示した様に調査区の中央部が広く攪乱されており、下層部のつながりを見ていない。第5図の柱状図のAは中央攪乱層でC-4区、BはC-1区、CはB-7区である。盛土は近年に行われたもので、以前は水田であったと聞き及んだ。盛土は旧水田面より約140cmが見られ、さらに100～110cm積重ねてテニスコートを造成している。旧水田面は(2)暗灰色粘質土で、28～30cmの層が残る。中央攪乱部分は不明だが、東側より西側に向って緩い傾斜地であり、低い段差をもって田面が並んでいたものと推測されるが、確認するまでには至らなかった。この旧水田の耕作土下部はやゝ荒い砂粒を含む(3)黑色砂質土層で、15～20cmの層となり多くの土器を含むいわゆる遺物包含層である。この包含層内で遺物は大半が上層部で検出されている。なお柱状図Bにおける第5層に同様の2層目の(3)黑色砂質土層が見られる。この層は範囲も東側の数mに限られ、南に向って薄くなり消滅するものと推測されるものであるが、ここでは遺物は認められない。従って遺物包含層は1層のみである。柱状図Cに示した第4層の3'は、遺物包含層の土層と同一の地層であるが、遺構の掘込部分であり遺構の覆土である。遺構を支える地層は東側（柱状図B）と西側（柱状図B）とでは異なり、東側は(5)黑色粘土層であり、西側は(4)薄茶色砂層である。

当調査において遺構と確認出来る時点は上記の(5)黑色粘質土、又は(4)薄茶色砂層に近い層位である。然しながら土坑などの多量の遺物の検出はより上層より堆積した状況で出土している。従って遺構の始まり、即ち当時の生活面は(3)遺物包含層の上層位置にあったものと考えられるのだが、その地面を把握することはできなかった。



第5図 遺跡の土層柱状図



第6図 遺構全測図

## II 発見された遺構

### 遺構について

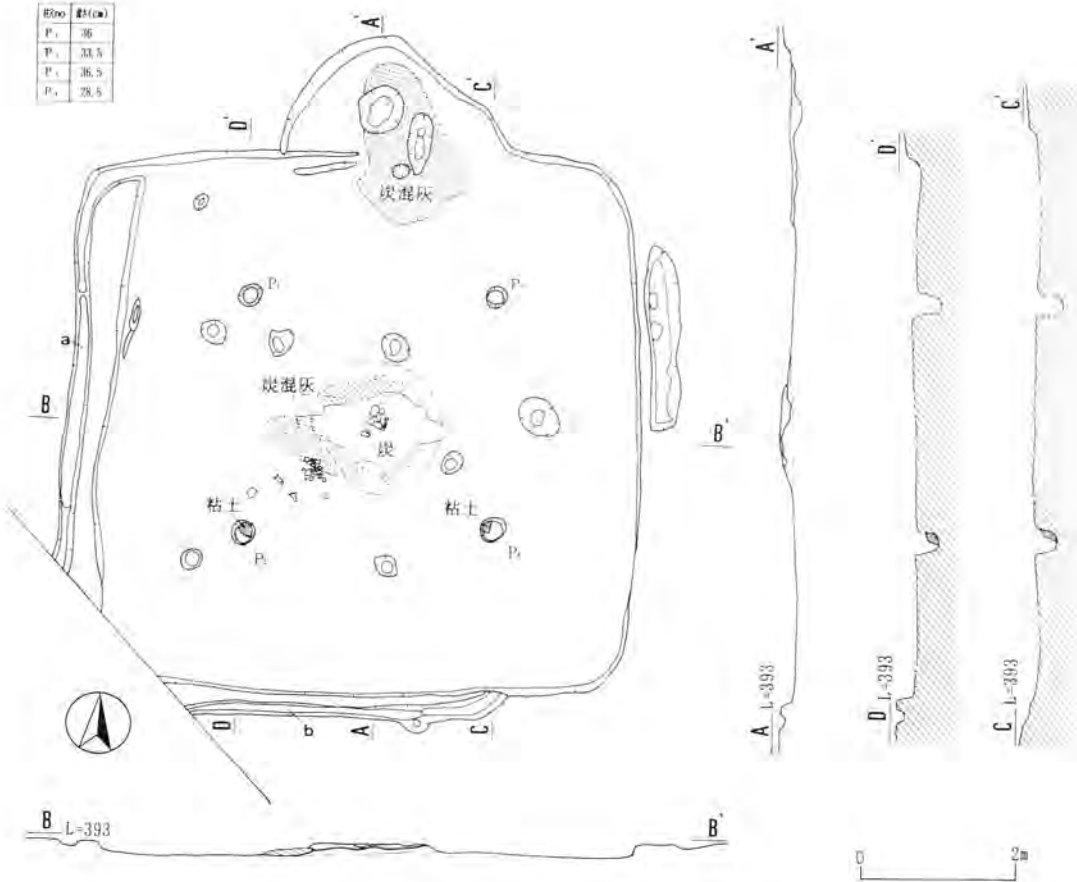
遺跡における遺構とは大地に遺された人々の生活や生産のための構造物の跡を言う。当遺跡では住居跡、住居以外の建物跡、土坑、溝、井戸、杭列、掘立柱及び柱跡などがある。住居址は2棟ありSIの記号で現わした。建物址は一部に不確定のものを含めて5棟ありSBで示した。このうち4基は竪穴状の遺構であり、他の1基は掘立柱建物と推定される柱列の残根である。土坑は穴状の遺構であり、ここでは本来の目的は把握できないが、大半は土器捨場、ゴミ捨場と考えられる。これらをSKの記号を用いSK-26号まで示した。しかしながら遺構が下層の地層まで到達しておらず、検出できなかった4号・26号の2点の土器溜りもSKをもって示した。なお15号が欠番である。溝又は溝状遺構は9本が見られ、SDの記号を付した。2基検出された井戸はSEで示した。杭列は3条が検出した。この内2条はペア関係にあると推測するため、これを杭列1とし他を杭列2で示した。この他柱跡と見られる柱穴、ピットが点在するが、それぞれに関連性が見られない。これらのうち環状に連らなるものがあり、不明の遺構としてSXの記号を付した。以上の遺構の配置については第6図遺構全測図、図版2～5に示した。

### 1 住居址

#### 1号住居址〔SI-1号〕（第7～9図、図版6～9）

1号住居址は調査区の西隅に当るC・D-7・8区に位置する。隅丸方形の竪穴住居で北側の一边の中央部に張出し部分を持つ。南西の一隅が調査区外にあたり完掘はできなかったものの、ほぼ完全な形を残している。今この張出し部分を頂天に見て、住居址の方位はN4度Wで、ほとんど真北を向いている。床面のプランは前述した様に隅丸方形を呈し、それぞれ一边の中間がやゝ脹れる。さらに北側に対し、南側がやゝ脹れている。中心地における計測では、南北7.1m、東西6.95mである。北側中央部に半円形の張出し部分があり、その付根部分で2.8m、奥行1.35mを測る。上屋を支える柱はP<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>の4本で、残穴のみを残し、その深さは第7図中に記入した様に28.5～36.5cmである。柱の間隔は南北3.1m、東西3.2mを測る。このうち南側のP<sub>2</sub>・P<sub>4</sub>の2本は柱穴の上方片側に白色粘土のブロックが認められ、これによって根固めが成されたものである。北西の隅より溝aと南壁の東隅より1.4mより溝bがそれぞれ外壁に沿って西南隅に向って延びる。その先端は未掘部分に至り不明である。これらの溝の幅は上部で30～10cmで、底部は18～6cm程である。溝aの床面との接続部分は水平を保つが、溝bは床面より5cm高い。然し溝aの接点より2.5cm低い。確認出来た溝の底部は一定ではないが、始点と西南端部が共に低くなる。このa b 2本の溝は床面の水抜き溝を考えられよう。床面は中央部を高く盛り上げて炉としている（図版8下）。この盛り上がった炉は東西170cm、南北160cmの円形で床面より9～13cm高い。

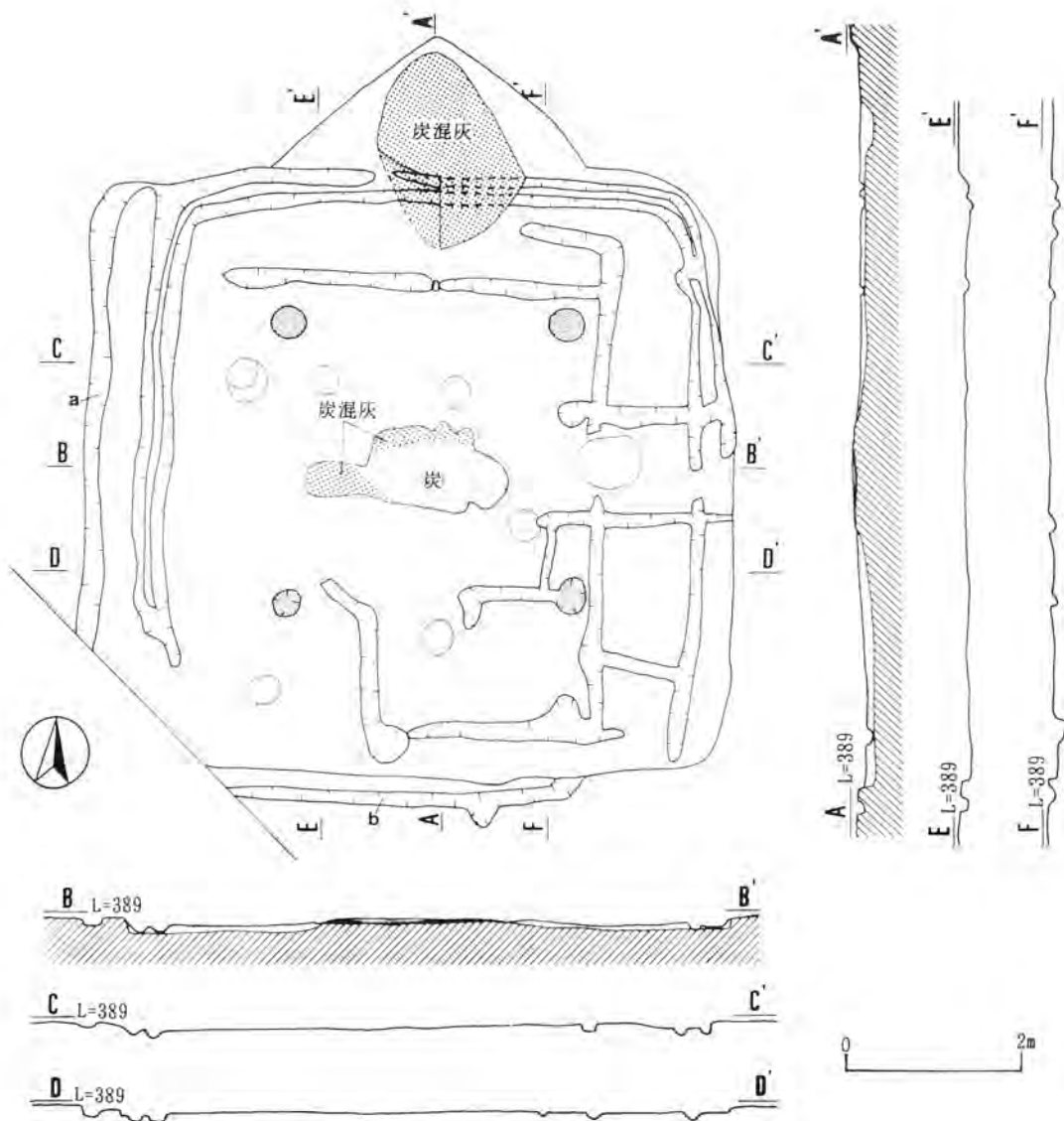
層名	厚(㎝)
P <sub>1</sub>	36
P <sub>2</sub>	33.5
P <sub>3</sub>	36.5
P <sub>4</sub>	28.5



第7図 SI-1号住居址平断面図

検出時点では炉の上から西側床面に広く灰が堆積し、さらに中央部に多量の木炭粒が残っていた。又この木炭上には土器片も見られ、第41図、No40・41の甕がそれである。北側の張出し部分は先端に向かって床が7～8cm程浅くなり傾斜を呈す。円形と楕円の窪みがあり、共に10cmの深さをもつ。この窪みを中心に厚い炭灰の堆積が残り、炊事用の炉と考えられる。その他床面に数点のピットが見られるが、6～17cmの深さで浅い。また東側外部に沿って溝(SD-5)が見られるが、2.5mと短いため、当住居址の周溝、あるいは関連遺構とはにはわかには認められない。確認できた竖穴の深さは浅く東側で14cm、西側19cm、南側19～23cm程である。前項で記述した如く遺構のより上部を発見することはできない。

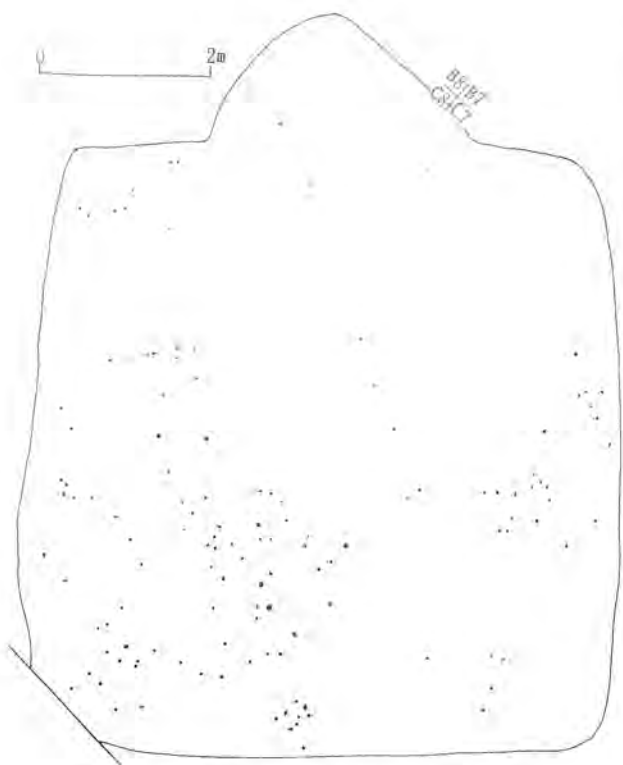
当住居址の発掘時点で、床面上部に何等かの構造物が確認された。第8図及び図版6下、図版7に示した溝状の遺構である。竖穴の内部覆土を10～11cm掘り下げた時点で覆土内に細い溝状遺構とピット状遺構とが確認された。竖穴内の覆土である黒色砂質土が残遺層の暗褐色砂質土に変化する層位で黒色砂質土が落込みとなって溝・ピットを現わした。溝は第8図に示した様に一部で不明の箇所もあるが一定の基準に従うかに認められる。溝状遺構の太さは8～22cmの幅が



第8図 SI-1号住居址残遺層内溝状遺構平面断面図

見られ、溝の底部はいずれも住居址の床面に接している。このことは住居址の床面に木材などが置かれ、それらが流入した土砂で埋没し、その後腐植したものと考えられる。ここでは一応木材と仮定しておくが、確認できたこの木材の配置は西側から北側、そして東側の中央部分まで壁面に沿って5~15cm程の間隔で並べられ、北及び東側では約1m程の間隔を保って並べられている。この内北側のものは東内側で終わっているが壁面にその連続部と考えられる部分が認められる。同様にこの東側には井桁状に交差する複数のものが見られる。南側はやゝ不規則だが、おそらく井桁状に設置されていたものと考えられよう。これらの木材の配置は、これを基にして床張が施されていたことが窺われ、さしずめ現代の根太部に当る。また同時点で確認されたピット状遺構



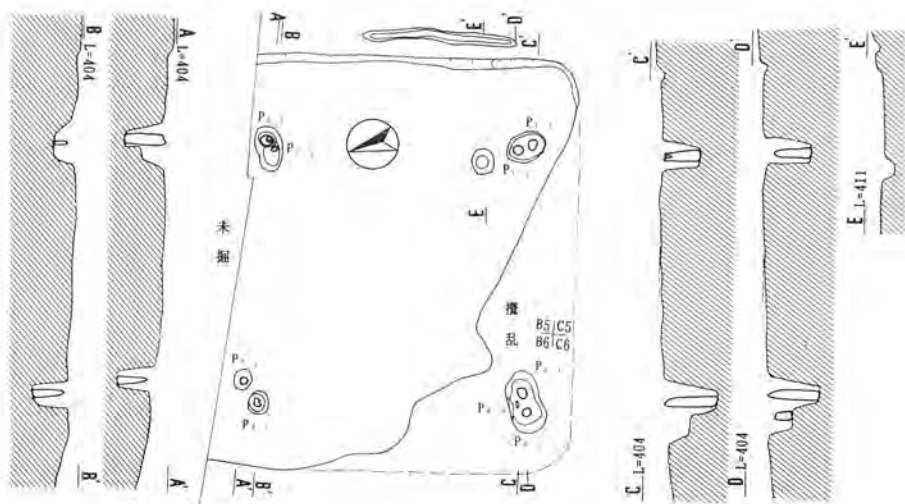


第9図 SI-1号住居址覆土中の土器出土状況

のうち尤も浅いものは竪穴の確認とはほぼ同様のレベルで、標高389.5cmから認められ床面まで達していた。因みに竪穴確認時点のレベルは391cmである。

のうち、ドーンで示した4本の柱の他は、それぞれ竪穴の床面を15～25cm程も窪めている。これらは前記の根太の不明な位置に多いことから、やはり床材を支える役割を持っていた可能性も強い。なおこれらの遺構の検出時点ですでに炉址が検出していた。前述した様に中央炉址が盛土上に築かれていたことは言うまでもなく張床面に炉を持ち上げることだと考えられよう。なお張出炉前面の溝状遺構は上部を覆った灰の下で検出されている。

1号住居址から出土した遺物のうち炉址・床面で検出されたものはごく少量であり、それらは第7図中に示した。第9図に示したものは覆土中のものである。これら

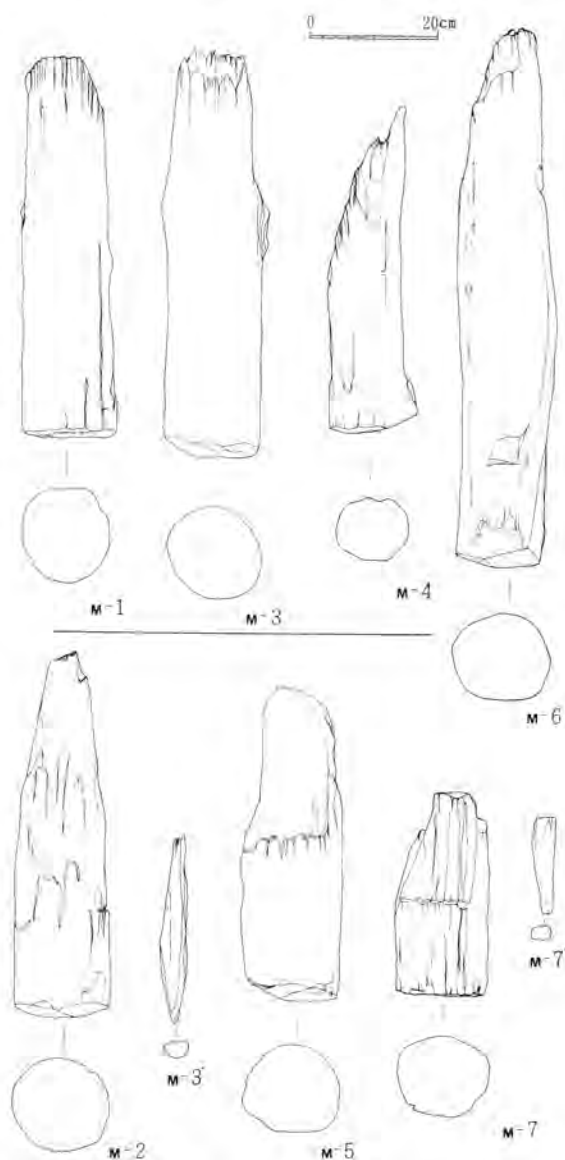


第10図 SI-2号住居址平衡断面図

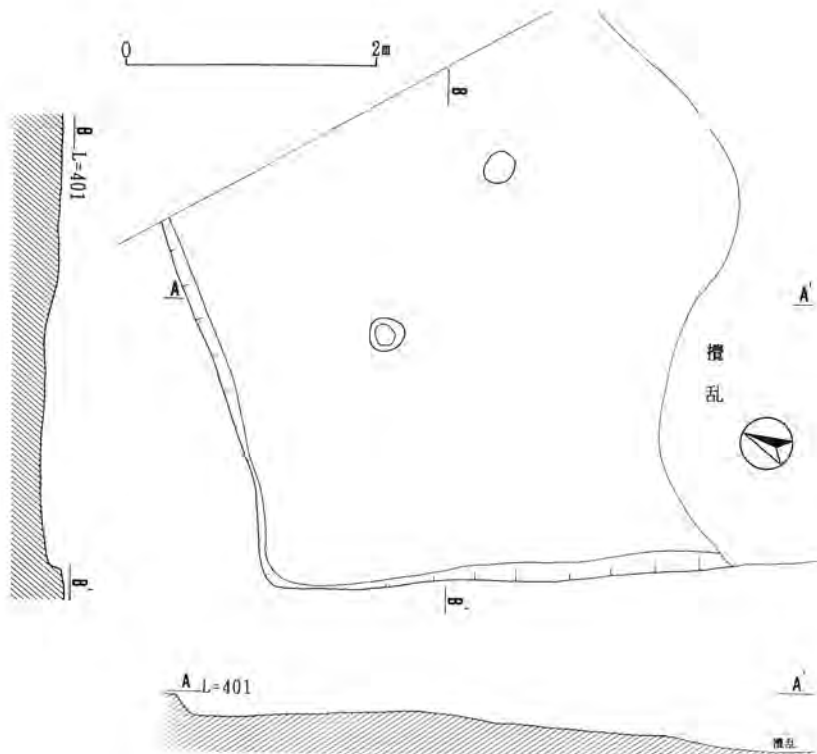
2号住居址〔SI-2号〕（第10・11図、図版10・11・46）

調査区中央東側に当るB-5・6区に位置する。第6図に示した様に遺構の南西北の三方は掘込みによる攪乱地域で、残る東側は未調査区域である。さらにこの区域は上層部も攪乱地層であり、遺物包含層はもとより遺構を覆った覆土も見られない。以前に表土を始め遺構を乗せる基盤層までも削平され、その後粘質土の客土によって水田として使用されたらしくその層内に溝状遺構が認められた。これらの戦後の層の下層に第6図で示したSD7（7号溝）が検出された。この溝は上幅20cm、長さ2.5mと小さなものだったが、この精査の結果この溝に沿ってより細い溝が検出された。これが2号住居址の竖穴の壁であり、さらに壁溝であることは、その後時間を隔て柱穴のP<sub>1</sub>の検出を見るまで考えられないことであった。その他の柱穴は通常の調査では発見されず、スケールによる予測調査で検出した。その結果4本柱の建物であり、建替柱を含めて7本の柱と杭1本を検出した。なお床面も削平されて殆んど残っていない。これら竖穴の一边と柱間などから推測する以外にない。

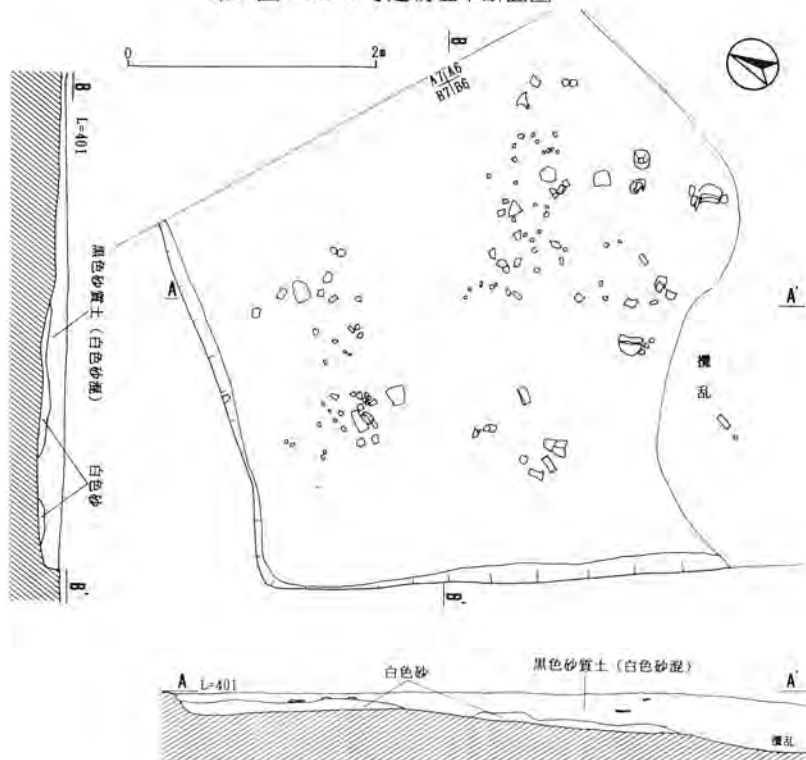
検出された竖穴の壁は東側の一边で、南端が小さな弧を描き隅丸も呈している。この隅丸部分の外部もかなり削平され、その先端も破壊されている。この壁面は全体で5.7m程の検出であり壁の高さも5cm前後に過ぎない。南隅より約1m程は壁溝が認められ、5cm程の深さが見られる。東南及び東北側の柱は、共に壁面より1.3mの位置にある。またこの柱間は約4mを測り、さらに西側の柱間も4m前後である。これらの結果から一边が6.5m程の隅丸方形の竖穴住居址と推定出来る。今、南東の柱をP<sub>1</sub>とし、北東のものをP<sub>2</sub>、北西をP<sub>3</sub>、南西をP<sub>4</sub>とした。この内P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>は建替柱が旧柱と接近し、柱穴が連結しているがP<sub>3</sub>は中心で40cmも隔たりそれぞれ独立した柱穴を持つ。またP<sub>4</sub>の一本は柱状の遺物は見られず、添木と考えられる杉の杭が検出された。ここでは建替の新旧は定めがたいが、



第11図 SI-2号住居址出土柱根



第12图 SB-1号建物址平断面图



第13图 SB-1号建物址土器出土状况

材質なども加味して、1と2に分別した。即ち第10図中にP<sub>1-1</sub>、P<sub>2-1</sub>……としたものとP<sub>1-2</sub>、P<sub>2-2</sub>……としたものがそれぞれ組する。ここでは1組が栗材3本とナラ材1本が使われ、2組はケヤキ2本とナラ1本、添木の杉材である。民俗学的には栗材を多用した1組が後補のものと考えたいところである。なお第11図M7'は契状の木片でP<sub>1-2</sub>の柱穴から出土した。それぞれについては遺物一覧表を参照されたい。なお2号住居址内からは土器の出土は一切見られないが、前記7号溝〔SD-7〕より高坏の細片2点が出土した。

## 2 建物址

### 1号建物址〔SB-1号〕（第12・13図、図版12）

B-6・7区で検出した竪穴遺構である。現地調査では住居址として処理したが、その後の精査の結果、住居址とは認められないことから建物址とした。然し建物としての確実性は薄い。方形と推測される竪穴構造であるが、南側は攪乱により破壊され、北東側は未掘地域に掛り発掘していない。検出した竪穴の壁面は北西・西側のみでやゝ歪んだL字状を成し、隅部は小さな円を保つ。床面の北側はやゝ水平部分があるが、南西に向って傾斜を成し、その角度は6度を測る。この床面の広がりには推測の域を出ないが、一辺4m余と考えられる。床面には2本の柱穴が残る。深さはそれぞれ19cm、15cmと浅く、その位置は床面の中心部とおぼしき点を挟んで斜位の対角線上に位置している。その他図版12-上に見られる穴や窪み状のものは木根などによるものであり、この他の柱穴を探し得なかった。

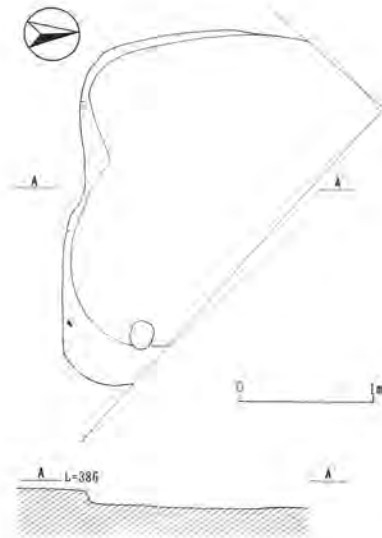
遺構の覆土中より多量の土器が検出された。図版12-中・下に見られる様に、土器の出土状況は建物廃棄後の土器捨場の様相が窺われる。

### 2号建物址〔SB-2号〕（第14図・図版13-上）

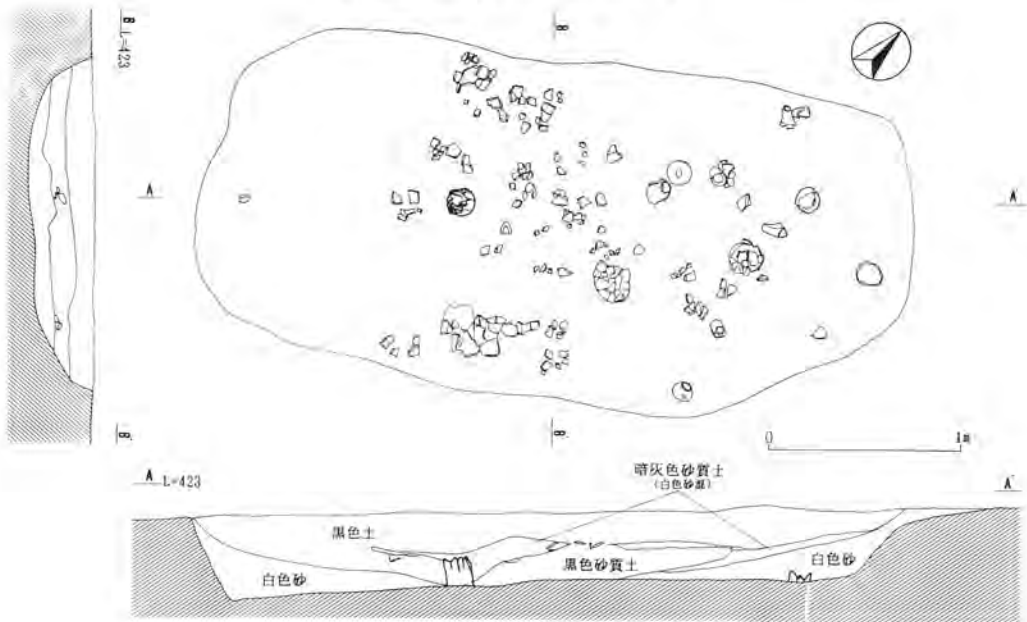
調査区の北隅にその一部分を検出した竪穴遺構で、その位置はB-8区に当る。検出できた竪穴の深さは15~12cm、その床面プランはその北東側が未掘区域にあるが隅丸方形と推定される。この方形の一辺は約2.3mを測る。南東隅に近く窪みを見るが柱穴にはならない。床面にも小さな窪みを持つが木根によるものである。床面を主体として199点の土器を検出した。ここでは一応建物址とした。

### 3号建物址〔SB-3号〕（第15~17図、図版13-中・下、46図）

C-3区に中心を置いて検出した竪穴遺構である。壁面の一部にやゝ傾斜が見られるが竪穴遺構である。平面プランはやゝ細長い楕円形を呈し、床面での長軸・短軸はそれぞれ3.3m・1.43mである。床面は北東側から中央部にかけて平坦だが、南西にかけて僅かに勾配を見る。従って竪穴の深さは遺構確認面から38cm乃至48cmを測る。長軸の方位はN52度Eであるが、これより5度西向き（N47度E）に柱列を見る。柱は遺構の北東寄りに1本（M-11）、中央部よりやゝ南西側に1本（M-10）があり、この間隔は1.8mを測る。さらに南西側の遺構外部にM-9があり、その距離1.6mを計る。この3本の柱を見る限り当遺構に係わるものと見られるが、柱列はさらに北側の2m地点の僅かに中心をはずれる位置に今1本の柱（M-12）が見られ（第19図参



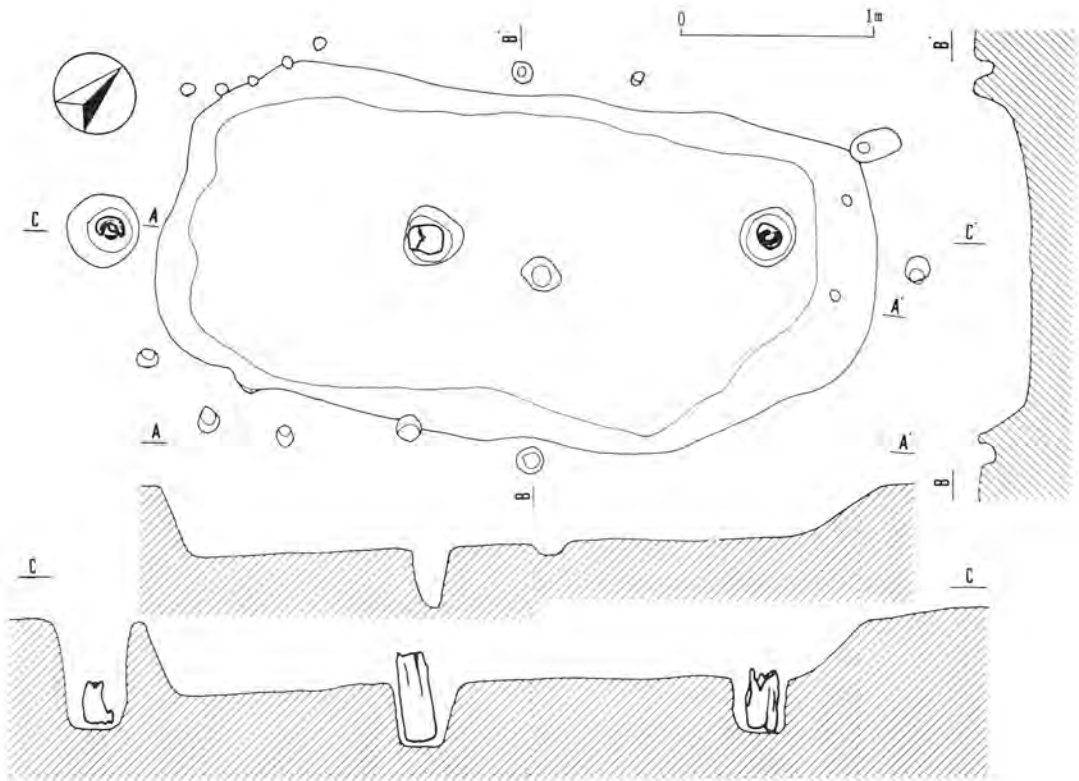
第14図 SB-2号建物址平断面図



第15図 SB-3号建物址遺物出土状況

照)ることから、この柱列は当建物址とは無関係のものとする。

床の中央部に深さ7cm程の小ピットが見られ、遺構の周囲にも小ピットが点在する。一部に検出できない部分もあるが、単純な三角屋根を覆い中央部の杭で天井を支えた可能性がある。完形土器を含めて多量の土器が検出されている。これらは貯蔵具に比して供膳具が多い。遺構内には焼土や炭灰の検出はないが、小規模の建物とはいえ生活の場とも考えられる。あるいは土器の保管庫的な小屋の存在とも考えられる。



第16図 SB-3号建物址平断面図

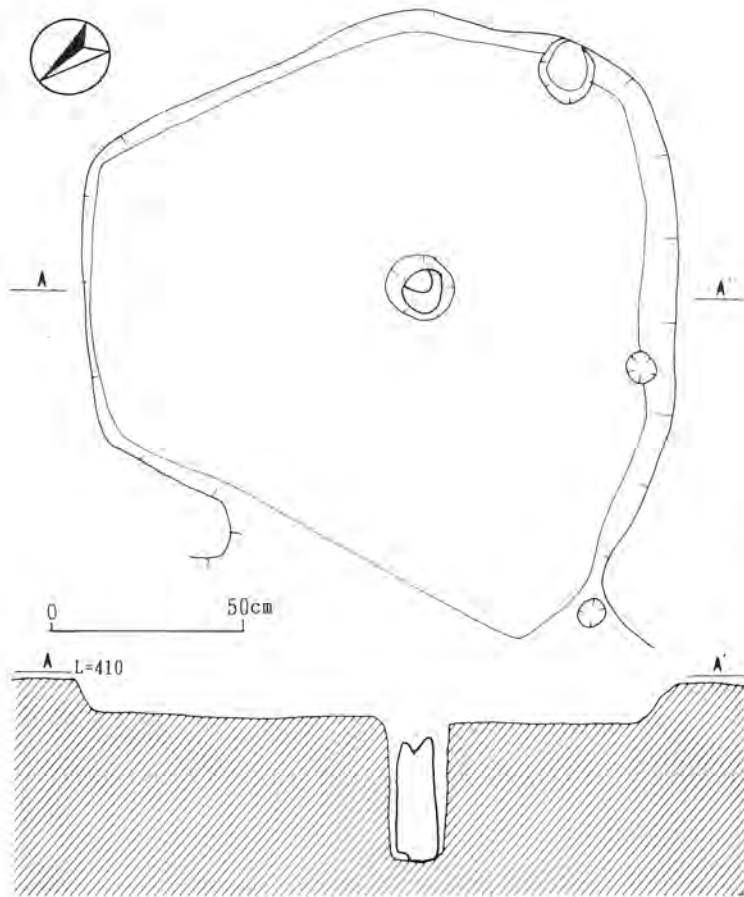
4号建物址〔SB-4号〕（第17・18図、図版14-上・46）

C-3区東隅に位置する小型の遺構である。直径1.5m程の円形の掘込をもつ遺構で中心部に1本の柱を建てる。北側の一部は溝遺構（SD-3号）によって切合い不明瞭のところがある。検出できた掘込の深さは10cmと浅いが水平な床面を保つ。中心部の柱は栗材で太さ10cm、残存長さ33cmで底部を細かく削ってやゝ丸味を持つ。底面のGLは360cmである。南西側の壁面に小ピットが3ヶ検出されているが東側では検出できなかった。中心の柱によって覆屋を支えたものと見られ、小型ではあるが建物址とした。ごく少量の土器が検出されているが、完形のコップ形土器がある。なお図版に見える床面の窪みのうち1ヶは攪乱によるものである。

5号遺構〔SB-5号〕（第19・20図、図版14-中・46）

前項3号建物址内に検出した柱列遺構を5号遺構とした。ここでは柱列の1列のみの検出であるが、建物址となることはほぼ間違いないことからSBの記号を用いた。この柱列に関しては一部前項3号建物址でも記述したが改めて記述する。

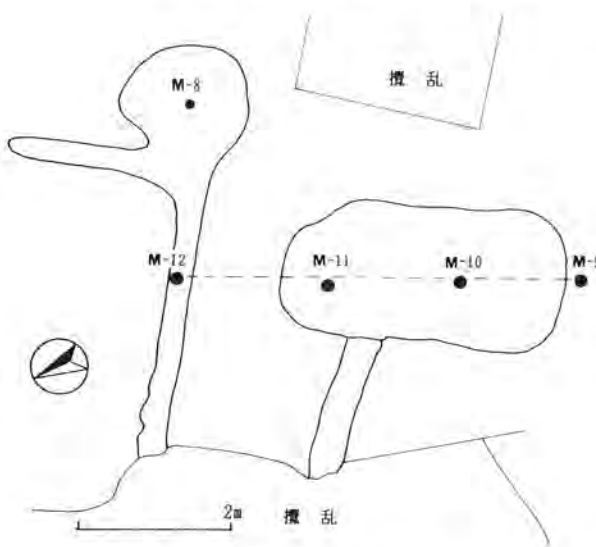
検出できた柱列は4本からなり、南西より北東に並び全長5.4mを測る。今、南西の柱をM-9としそれぞれM-10、M-11、M-12と仮称した。そしてこれらの柱間はM-9からM-12に向って162・178・200cmである。このうちM-10、M-11は3号建物址（SB-3号）の床面に立ち、M-12は後述する3号溝（SD-3）内に位置する。この4本を直線で結ぶといずれかが線上



第17図 SB-4号建物址平断面図

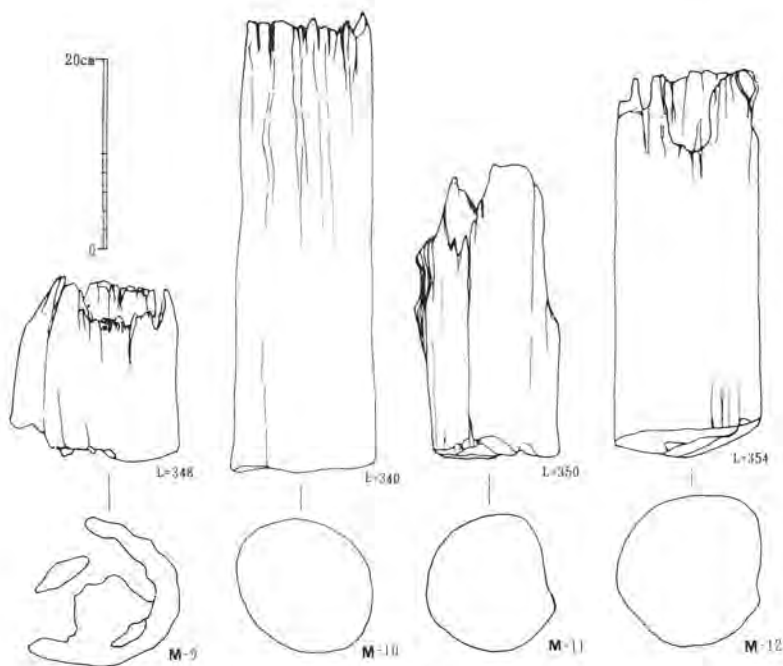


第18図 SB-4号建物址  
出土柱根



第19図 SB-5号遺構平面図

よりはずれる。M-9～M-11を結ぶとM-12は東側に寄ることになるが、一応柱列と見られよう。これらの材質はM-9のチャンチンの他はいずれも栗材で、その太さはM-11の143cmを最低にして160cm、174cmである。また底部の加工は斧によってほぼ平坦に切断あるいは調整されている。一方これら柱底部のGLはM-9より348・340・350・354cmである。今この柱列は建物の行間（桁行）の片方と推定される。第6図及び第19図に示した4号建物址（SB-4号）の柱（M-8）がある。この



第20図 SB-5号遺構出土柱根

行間の柱列に関連するかに見られがちだが、前項に記述した如くM-8は寸法も細く、底部の加工も異なりまた底部のGLも360cmと深く、さらに角度的にも4～6度の狭まりが見られることなどから無関係のものである。これに相対する不検出の柱列は西側の攪乱層によって破壊されたものと推測される。なお当5号遺構は3号建物址、3号溝の廃棄後の造営であることは言うまでもない。

### 3 溝

大小9条の溝又は溝状遺構を検出した。これらのうち改めて図示したのは1号溝（SD-1号）のみである。その他は第6図（全測図）を参照されたい。なおそれぞれの断面については第22図に一括して示した。

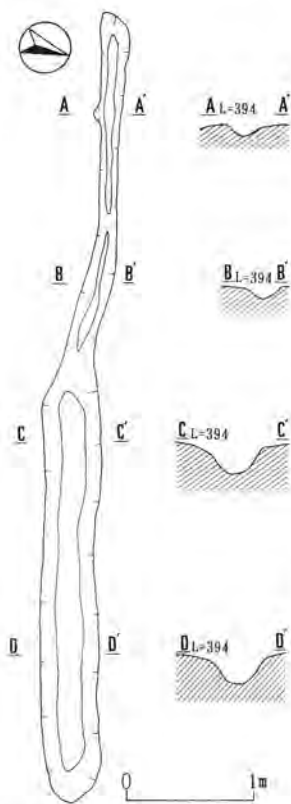
#### 1号溝〔SD-1号〕（第21図、図版14下）

D-6区に位置し、ほぼ東西にのび、その方位はN75度Eである。全長6.4mで東端より3.5mが上幅で40～45cmと広く西側の2.9mは上幅で15～20cmと狭い。深さは西側の8cmから東側の20cmとなる。第6図に見られる様に1号住居址の一辺とほぼ平行であり、この溝の南側にSX-1号を中心としたピット群が集中している。今このピット群に関連する水切り溝と考えられる。なお溝は土器捨場となり図版14下に示した如く多量の土器が充満していた。その数1,131点を数えた。

#### 2号溝〔SD-2号〕（第22図）

C-3・4区にかけて位置する溝で、南東から北西へ向き、その方位はN45度Wである。検出





第21図 SD-1号溝平面断面図

できたのは2mで東端は3号建物にかかり、西端は攪乱層によって消されている。上幅45cm、底部幅28cm前後を測り、深さは検出面から12cmでほぼ平坦である。西端に近い両壁面と東端より40cm地点の中央部に細杭を見る。この杭は近現代の杉杭であり、この溝と直接関連するものであれば、近現代の水路となり、その可能性が大きい。68点の土器片が検出されている。

#### 3号溝〔SD-3号〕

C-3区に中心をもち、C-4区・B-3区にのびる。L字形に直角のコーナーをもつ溝で一端はC-4区の攪乱層によって消滅し、他の一端はやゝ浅いがB-3区の中央部までのびる。コーナーは3号建物址に接している。前者はN52度Wの方位で、長さ4m、上幅28cm、底幅15cm、深さ10cm前後である。後者はN37度Eの方位で長さ2.5mで消滅する。上幅は25cm前後、深さは中央部で7cm程と浅い。コーナーの内側に1号井戸〔SE-1号〕が所在することから、これに関する排水溝とも考えられる。溝の中心近くに5号遺構の柱(M-12)があることからこの遺構に先行する溝である。

#### 4号溝〔SD-4号〕

B-7区に所在し、長さ1.7m上幅30cm深さ10cmの溝状遺構である。1号住居址、1号建物址に近く特に前者に関連するものと考えられる。

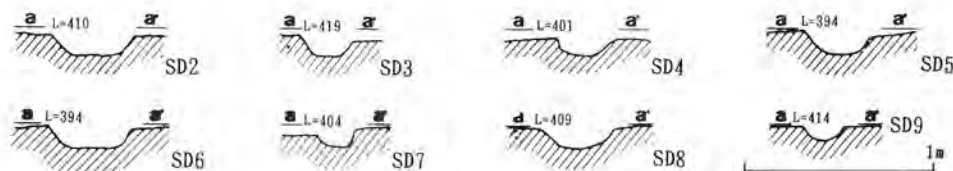
北側には土器捨場となった土坑が密集するが、多少の土器を検出した。なお遺構はN61度Wの方位にある。

#### 5号溝〔SD-5号〕

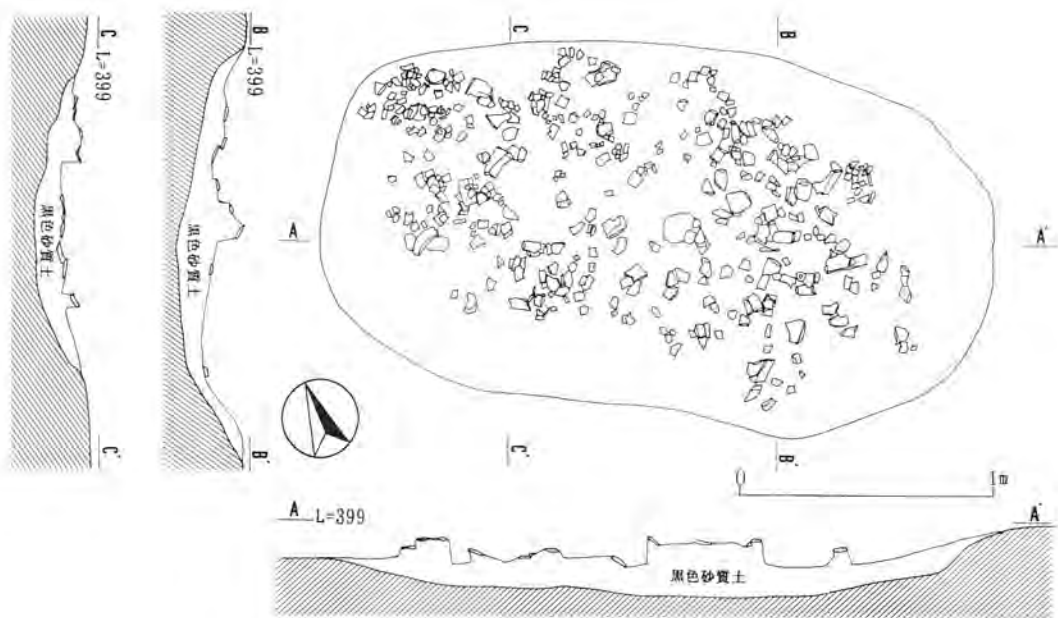
C-7区に所在し、長さ2.3m、最大上幅35cm、深さ12cm程である。1号住居址の東壁に密接するもので、その方位はN7度Wである。

#### 6号溝〔SD-6号〕

C-6・7区に中心を置く溝で、前記5号溝と隣接している。南から北へのび大きく東側へカーブを描き1号建物址によって切られている。南側は1号住居址に沿っているが、東側へ向うことから1号住居址には関連しないものであろう。いま確認できた部分は南北約5m、東西1m弱でその方位はN4度Eと、N60度Eである。上幅50~25cm、上幅30~20cm、深さ15~10cmである。



第22図 SD-2号~9号溝断面図



第23図 SK-2号土坑平面断面図

#### 7号溝〔SD-7号〕

すでに2号住居地の項で記述した通り、B-5区に在り、同住居地の竪穴に平行するものであり住居地の一環と推定されよう。全長2.5m、上幅20cm、深さ10cm弱で、N36度Eの方角を見る。溝内より高坏の細片2点がある。

#### 8号溝〔SD-8号〕

C-2区に所在し、南北にのびる短い溝であるが西に面してやや湾曲している。全長3.1m最大上幅40cm、底部25cm、深さ10cmである。その方位はN26度Eを測る。

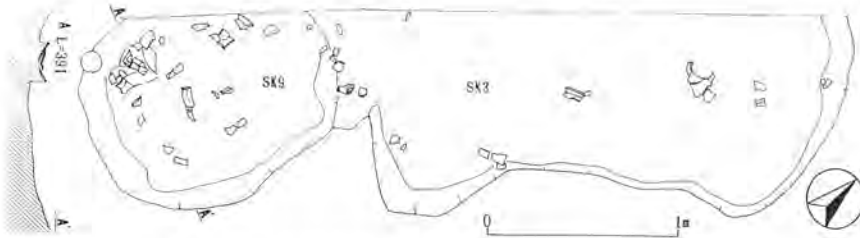
#### 9号溝〔SD-9号〕

C-1区に主体をおきB-1区にのびる溝で南東に向かって僅かに湾曲する。長さ5m、上幅30~23cm、深さ8cm前後である。2條の列をなす1号杭列を跨ぐものである。遺物などは見られない。

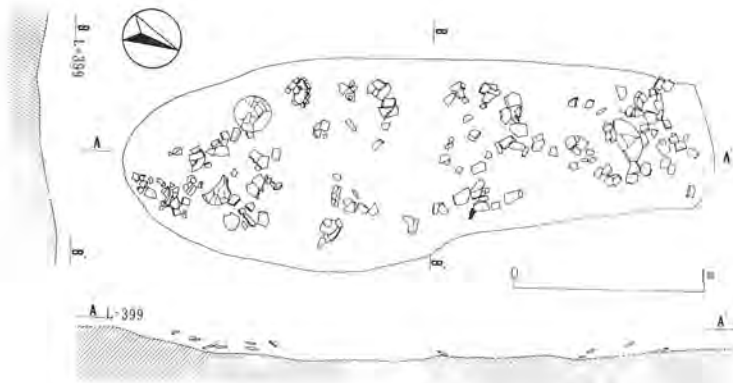
### 4 土 坑 (第23~30図、図版15・16)

地面に掘込まれた穴で、大小の25基が検出された。これらの内SK-15号が欠番となり、SK-1号~SK-26号の番号を付した。これらの土坑のうち、あるものは何等かの目的をもっていたものと思われるが、検出時点ではそのほとんどが土器捨場、即ちゴミ穴として使用されたものである。これらの形態、計測値などに関しては表1に示した。このうちSK-3・9・10・11・16・22・25号は一部が未調査区域にかゝり完掘していないので、出土遺物の少ないものもある。またSK-1・8・12・18・24号の一部は攪乱によって破壊されているものと、一部底部が残存す

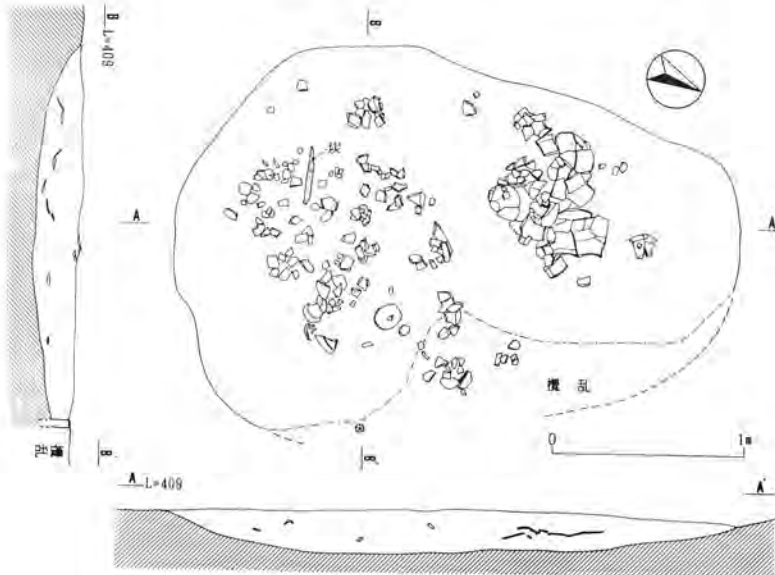
るものがある。一方、SK-4・26号は隣接して位置し、共に土坑としての掘込みが確認出来ないうちに図版16-右下に見られる様に2ヶ所の土器溜りとなり一応4号・26号土坑とした。これらの土器溜りの上層部は土器の大きな広がりが見られ、遺構が検出されないことからその一部



第24図 SK-3号土坑・9号土坑平断面図（土器出土状況）



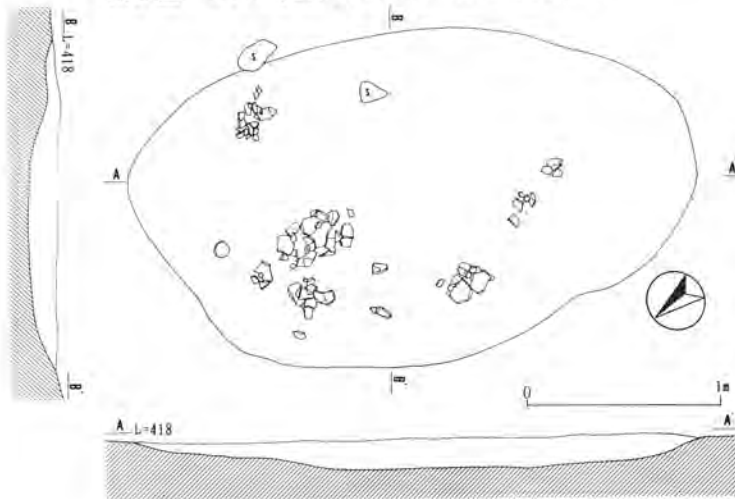
第25図 SK-7号土坑平断面図（土器出土状況）



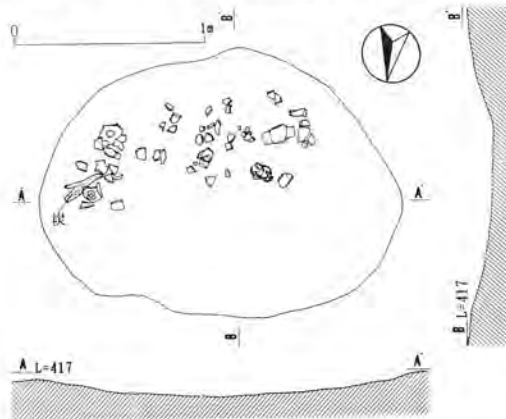
第26図 SK-8号土坑平断面図（土器出土状況）



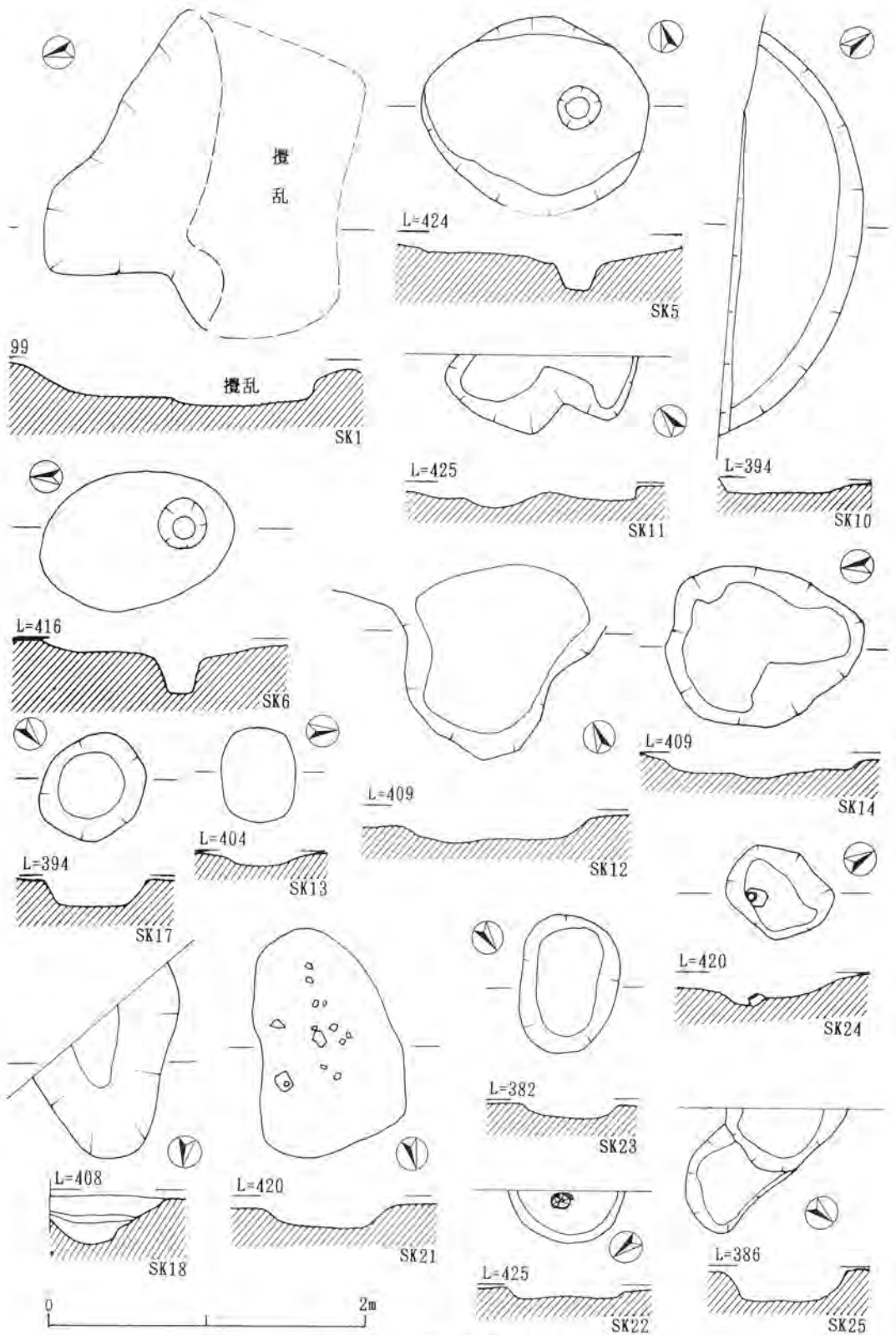
第27图 SK-16号土坑平断面图（土器出土状况）



第28图 SK-19号土坑平断面图（土器出土状况）



第29图 SK-20号土坑平断面图（土器出土状况）



第30图 土坑平断面图

表1 土坑一覽表

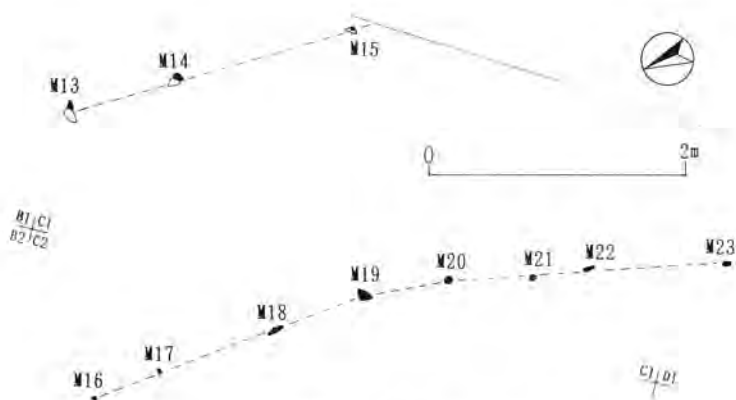
遺構名	所在	形	計測			長軸の方位	土器数	挿図№	備考
			長径	短径	深さ				
SK-1	C-6・5	角	230	210	形	N18° W	542	30	一部の上部攪乱
SK-2	B-7・8	楕円	270	145	28	N68° W	871	23	西側末端
SK-3	E-6	楕円カ	260		16	N40° E	342	24	
SK-4	B-4						149		遺構不検出土器溜
SK-5	B-3	楕円	147	130	15	N70° W	596	30	深度40のビット有り
SK-6	B-2	楕円	125	85	12	N13° W	505	30	深度35のビット有り
SK-7	B-2	楕円	315	100	14	N30° W	911	25	
SK-8	C-6	楕円	300	(210)	23	N30° W	794	26	一部攪乱
SK-9	E-6	楕円	135	(115)	12	N22° E	134	24	一部未掘、2号杭列と重複
SK-10	D-2・3		(260)		10		144	30	一部未掘
SK-11	B-3		(120)		10		27	30	一部未掘
SK-12	C-5	円	(140)	130	10	N31° E	70	30	一部攪乱
SK-13	D-2	楕円	60	48	9	N87° E	15	30	
SK-14	D-2	楕円	125	100	12	N 9° W	26	30	
SK-15									
SK-16	B-8	楕円		105	25	N83° W	439	27	一部未掘
SK-17	B-8・7	楕円	70	60	19	N72° E	84	30	
SK-18	D-1	楕円カ		100	(30)		46	30	一部攪乱
SK-19	C-2・B-2	楕円	300	176	15	N38° E	304	28	
SK-20	B-3	楕円	193	142	14	N81° E	250	29	
SK-21	B-3	楕円	145	92	16	N12° E	59	30	
SK-22	B-1	円カ	(75)		9		15	30	一部未掘
SK-23	B-8	楕円	87	60	10	N43° E	58	30	
SK-24	B-4	楕円	66	54	12	N57° E	42	30	一部の上部攪乱
SK-25	D-7	楕円カ		(60)	(20)		47	30	一部未掘
SK-26	B-3						34		遺構不検出土器溜

はグリットとして取揚げた。この土器溜まりの上層部の標高は424cmで底部の土器との堆積の厚さは23cmを見る。おそらく深さ20cm前後の土坑が存在していたものと推定される。

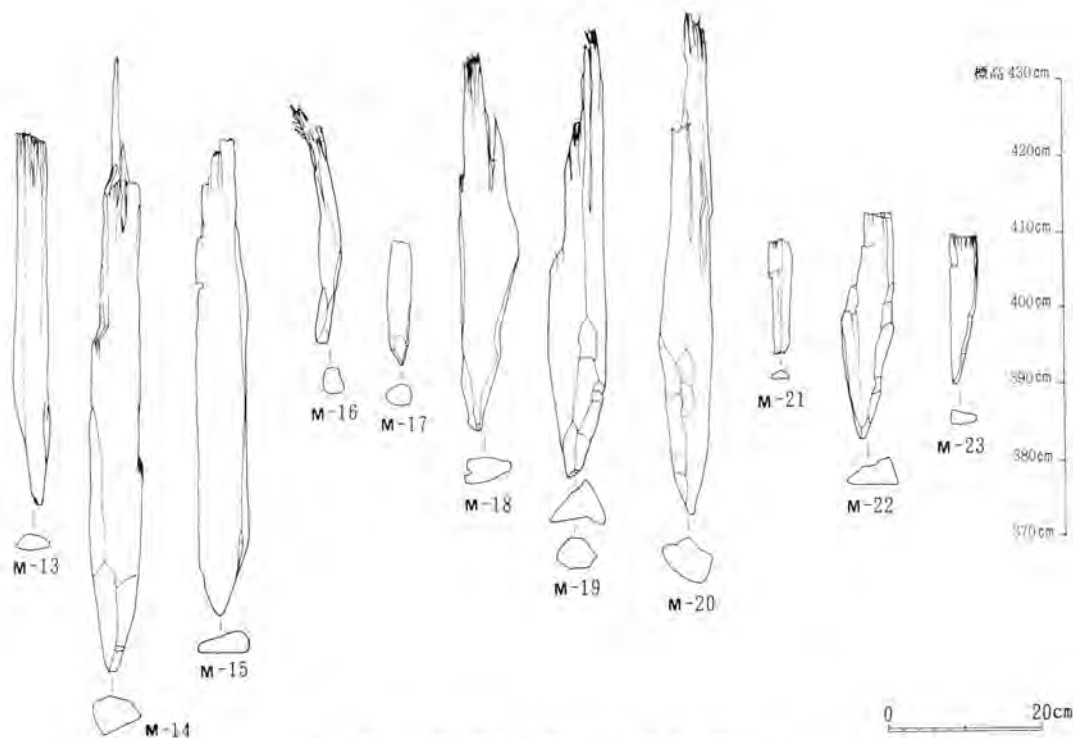
## 5 杭列

### 1号杭列 (第31・32図、図版17-左上)

C-1・C-2区にかけて位置するもので、南北に並ぶ2条の杭列である。東側の1条は3本の検出で調査区域外に連なるものと推定される。ほぼ直線に並びその方位はN10度Eである。この杭の間隔は北側より85・145cmを測る。西側の1条は8本が見られ、西側に中心を持ってくの字状に連なる。東側の第1条目の杭列と第2条目のCの字状の頂点との間隔は2mを測り、北側での最大幅は2.2mである。この第2条目の南北両端を結ぶ線の方位はN13度Eであり、北側4本の方位はN3度E、南側の4本の方位はN19度Eである。また、この杭の間隔は北側からそれぞれ、56・97・75・69・65・46・107cmを測り、全長では507cmである。これらの杭の材質はM-17のケヤキの他は総て栗材であり、割材が主体をなす。また残存するレベルの最高は439cmを示



第31図 1号杭列平面図

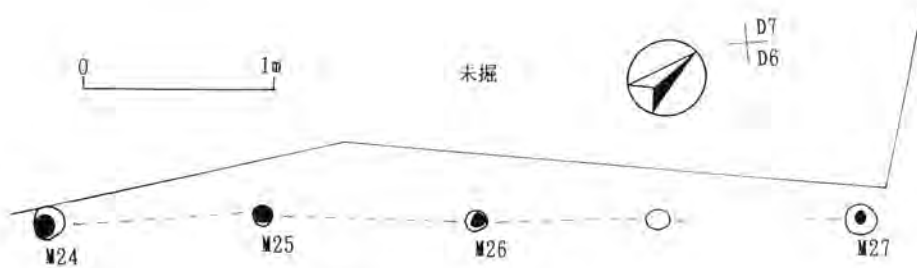


第32図 1号杭列出土杭（出土標高に同定）

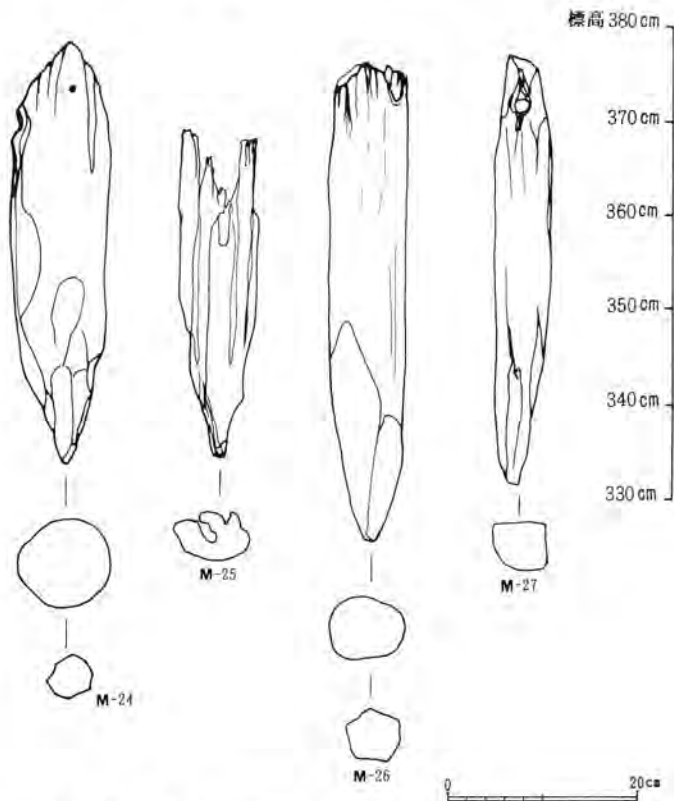
すM-20であり最も深い位置まで打込まれたものはM-14で、その標高353cmである。なお杭の上下の標高などについては第32図及び掲載遺物一覧表に示した。なお当杭列遺構を9号溝が横断するが、前後関係は不明である。

#### 2号杭列（第33・34図、図版17-右中）

E-6区に中心をもちD-6区にかけて位置する1条の杭列である。調査区域の端部に沿って検出され、南西端は調査区域外に近くその連なりは不明である。検出した遺構は4本の杭と1ヶの杭跡からなる。南西から北東に連なり、その方位はN40度Eである。検出した全長は434cmで、



第33図 2号杭列平面図



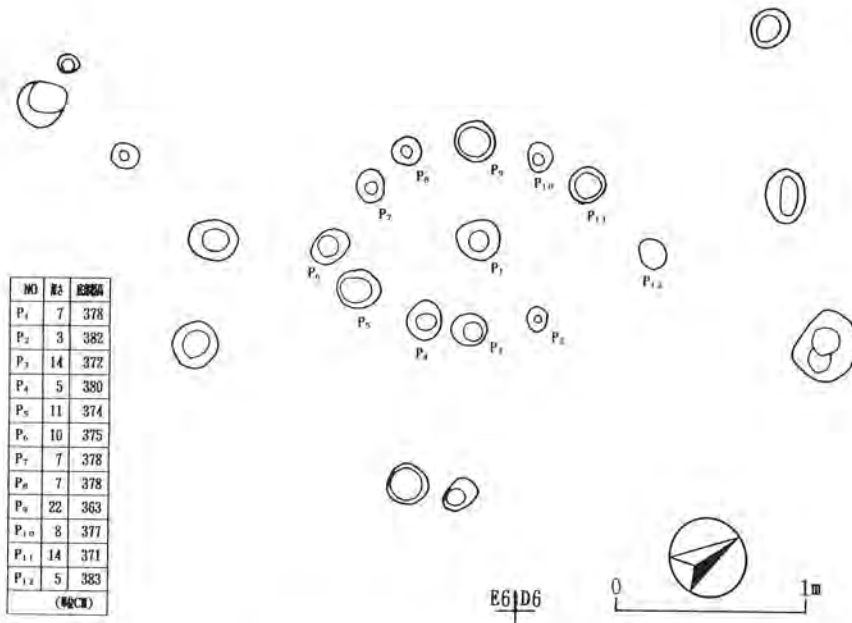
第34図 2号杭列出土杭（出土標高に同定）

それぞれの間隔は南西より115・115・97・107cmである。この内南西より4番目は遺物を止めない。残存した杭根は総て栗材で1号杭列の杭よりは太い。なお残存する杭頭の最高はM-24の378cmでありそれぞれの上下の標高は第34図及び掲載遺物一覧表に示した。この2号杭列は前項の3号土坑・9号土坑に重複する。これらの杭頭は土坑の底部で検出されていることから杭列が土坑に先行するものと考えられる。

## 6 ピット群

調査区域の一部にピットが点在する。位置的にはC-3区、D-2区、D・E-6区に集中し





第35図 SX-1号ピット遺構

ている。これらの関連はSX-1号としたもの以外は全く不明である。

SX-1号遺構 (第35図、図版17-左下)

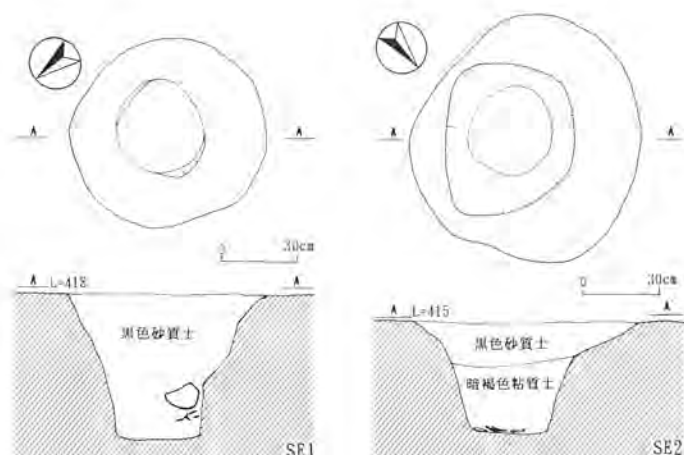
D・E-6区に跨って位置するピット群の一つで、環状ピット遺構である。ピットの上部径10~20cm、底部径5~15cm程の小型ピットが1ヶを中心にして10ヶのピットが楕円形に並ぶ。この長軸の北東側にやや離れてP12が所在するが、形態的にはピット状を示さず、無関連のものと考えられ、この地点の間隔が開き出入口の様子をも窺われる。この長軸はN40度Eを示す。計測は長軸1.6m、短軸1mである。このピット遺構の目的は不明だが、あるいは小型建物であるのかも知れない。

この他多数のピットの内11基から何等かの土器の出土を見た。これらの遺物数は少ないが、Pit 1~11の番号を付した。これらはC・D-1~3区に位置する (第6図参照)。

## 7 井戸

1号井戸 [SE-1号] (第36図、図版17-右上)

B-3区に位置する素掘りの井戸である。現状では上口が大きく崩れ、最大径78cm、小径72cmを見る。底部は直径35cmの円形で平坦である。底面より20cm程の壁面は垂直に近いことから、初期の形態を推定できよう。検出できた深さは58cmである。底面に近い覆土中より須恵質の坏1固体分の破片が検出され、その上部にヒョウタン3固体分が検出された。須恵質の坏 (第96図-1223) の検出は流入物とも見られるが、あるいは8世紀以降の遺構の可能性は強い。南側にL字状に3号溝があるが、井戸との関連は不明である。



第36図 SE-1号・2号井戸平面断面図

### 2号井戸〔SE-2号〕（第36図、図版17-左下）

C-2区に位置する素掘りの井戸である。1号井戸同様に上口が大きく崩れており最大径1mを計る。確認できた深さは45cmで、底部は直径35cmを測る円形である。壁面は底部より約16度前後の傾斜をもって開いている。底部より土器片11点の出土を見た。

## 8 その他（第37図）

遺構の部類に入るものではないが、調査区域中央部の攪乱層より2本の杭と板片が検出された。この攪乱区域は旧圃場整備による土取場として攪乱されたものであるが、この中に上記の遺物が捨てられていた。第37図に示した如く杭は85~86cmで、クリ及びチャンチン材である。何等かの杭列があったことが考えられる。この他チャンチン材のやゝ長い120cmの杭2本を検出している。これらは他に出土した多くの新しい杭類に比して古式と考えられるものだが、120cmの長さを保つことからやゝ不自然であり、ここでは除外した。



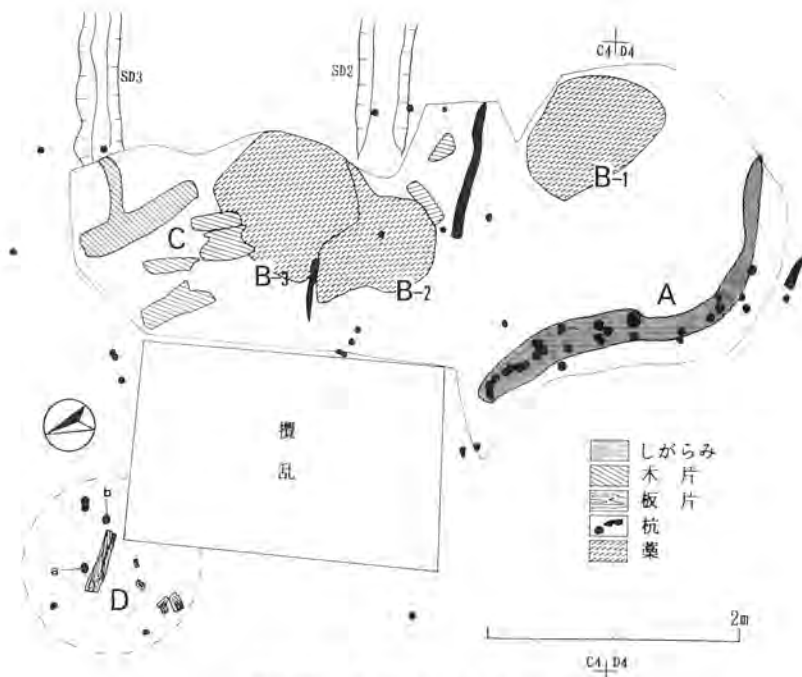
第37図 攪乱層採集杭と板状木製品

## 9 近現代の遺構（第38図）

中央部攪乱区域の南西地域に土取り後に造営されたと推測する幾種類かの遺構が検出した。この位置はC-4区からD-4区にかけて広がる。これらの遺構は当遺跡の基本ベースより10~25cmの底位置に展開するものである。

### A しがらみ（図版18）

南から北西に向って逆S字状に曲線を画くしがらみで、26本の不規則な杭を打ち杉枝を主用材として編み込んでいる。しがらみの高さは上部を失ったかに想定されるが15cm前後であり、最大の厚さは30cmで残存する長さは3.3mを測る。後述する藁座の地上保持のための構造物と考えら



第38図 近現代の遺構

れる。

#### B 藁座

藁を円形に敷きつめた遺構であり、仮に藁座と称しておく。第38図中にB-1・B-2・B-3で示した3基があり、直径1m前後の円形を呈している。中心部がやゝ窪んだ状態で、敷藁の厚さは一定ではないが2～4cmである。このうちB-2はB-3によって切られている。これらは何等かの荷負の台座と考えられるものであり、ここに蓄えられたものは想像の域を出ないが、野菜又は薪木などが考えられる。

#### C 台木

前記藁座B-3に一部が重複して板状の木片を並べた遺構Cがある。杉材を板目状に剥いだもの4点と雑木の素材とから成る。これらは西側にやゝ傾向きを見るが荷負の台座として敷かれたものと考えられる。一辺が1m程の方形を呈する。

#### D 水口

第38図中にDで示したものは水口と推測される遺構で、杭a・bに板を掛けて関としたもので東側が高く西側が低い。水口と考える杭a・bとの間隔は45cmで西側に見える板は本来は東側に掛けられていたものが外れ落ちたものと推定される。なおやゝ西側に離れている板切れは水受けとされたものが流された感じと受け止められる。なおa・b共その材質は唐竹である。また第38図に示したしがらみ以外の杭の多くは竹であり水田当時の水路・水口などに関するものであったと推測される。

### Ⅲ 出土した遺物

#### 1 遺物の概要と分類

##### A 概要

出土した遺物は、土器、石製品その他、前章で報告した柱根、杭類があり、その他時代の異なるものがある。この時代の異なる遺物は当遺跡と無関係のものと考えられる流入物である。遺物の主体である土器は古式土師器に属するもので、その出土量は個体数と破片数を合せて総数 31,925 点を数え、発掘調査面積の 523  $m^2$  に比して非常に多いと言える。これらの出土状況は遺構外の包含層出土のものが多いが、2号、3号建物址、1号溝、1号住居址などから多量に検出されており、また多くの土坑から土器捨て場と思われる如く充満した状況で検出された(図版12~16参照)。検出された土器の種類は壺・甕・鉢・埴・高坏・坏・碗の他不明器種がある。この内埴は壺の範疇に入るものであるが、ここではその他の壺類と比較出来ない程の多量に検出していることから器種として独立させた。なお遺物の内で埴と高坏の多量さが注目される。それぞれの数量に関しては、出土遺構と共に表4・出土遺物比率表に示した。石製品は14点で石垂・浮子・スリ石・叩き石・砥石・スクレーパーがある。時代の異なる遺物としては、弥生土器・古代のロクロ土師器・須恵器・中世陶器・キセルなど33点がある。以上の内主体である古式土師器は1,186点を図示して掲載し、それらの詳細については掲載遺物一覧表に示した。写真図版に示したのはこれらの総てではない。なお、その他の遺物も同様である。

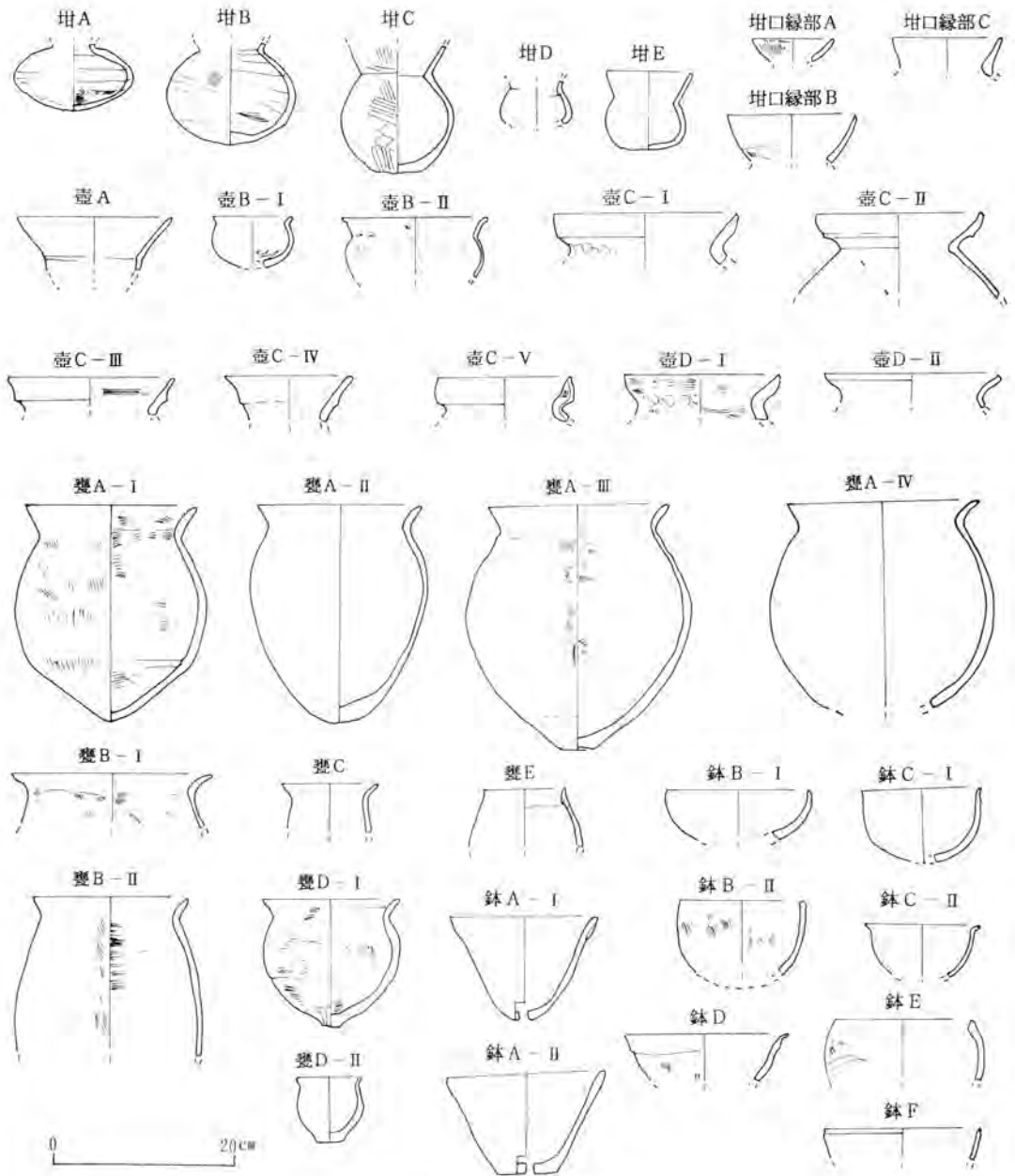
##### B 分類(第39、40図)

器種による分類として埴・壺・甕・鉢・碗・坏・高坏の7種の特異の器種数点に分けられる。これらを部分的な形態や手法によって細分した。全体の器形を知り得るものは少ないため、部分的な形態を以って細分したため多様化した。特に埴は口縁部(頸部)のみの分類、高坏は坏部と脚部との分類が必要となり多様化した。それぞれの特徴は下記に示した。なお部分的な細片の遺物で分類しがたいものはそれぞれの部類内でNの記号を以って示した。それぞれに関する特徴的なものを模式図として第39・40図に示した。

埴 体部における器形の分類と口縁部(頸部における形態によって分けた。器形による分類では埴A~Eの5種、口縁部は埴口縁部A~Cの3種に分けた。

A類 丸底で偏平な体部を呈し、最大径を体部の中心部にもち、概して頸部が小さい形態のものである。大小の型に2分することができるが小型のものが多い。これらの代表的な形態に496・243等がある。

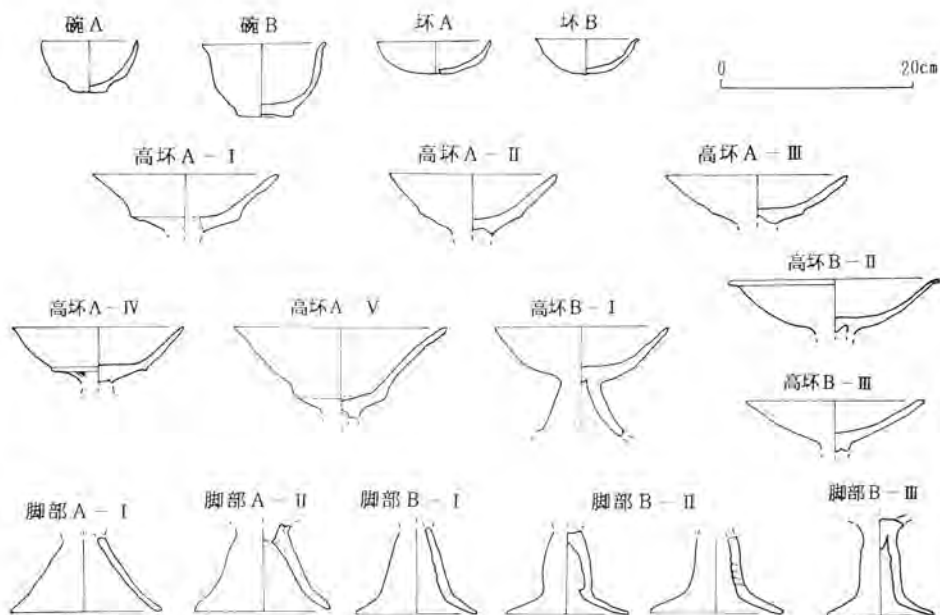
B類 円形の体部を呈するものである。器型は比較的大きいものが多く頸部の絞り込みも少ない。口縁部を見るものはないが体部に最大径をもつものと想定される。2・391などがある。



第39図 出土遺物の器種分類I

C類 平底を呈する一群であり、数は少量である。体部は円形で頸部の絞り込みも少ない。口縁部を知るものはないが、180に見られる如く体部と口縁部の径がほぼ均しいものが多いと想定される。

D類 口縁部を知るものはないが、腰部に最大径を見るものであり、いわゆる下脹みで体部を見る限り偏平を呈する器形である。大・中・小の型に分類することができる。この内小型の部類



第40図 出土遺物の器種分類2

は頸部の径が大きいものが多い。

E類 後述する埴口縁部C類に見る如く頸部の絞り込みの少ない形態を呈し、口縁部に対する体部が比較的小さいものを分類した。これらの形態には大小2通りに分けられるが、体部は概して偏平である。

口縁部A類 頸部の絞り込みが強く口縁部が大きく開きその比率が非常に大きいものである。口縁部に向う立上りはいずれも内湾するものである。小型から大型まで見られ、口縁部A・B・Cの三分類の内、量的に最も多い。

口縁部B類 形態的にはA類に類似するものだが頸部の絞り込みが少なく、頸部と口縁部の比率がやや少ないものを集めた。大小の器型が見られるが量的にはA類の半数である。

口縁部C類 主として短頸のものを集めた。おのずと口縁部の開きが小さく、立上りは直線状に外反ぎみのものが多い。小型器は見られず量的にも少ない。

壺 器形の全容を知るものは皆無に均しいが口縁部などから推定される器形によってA～Dの4種に分類しそれらをさらに細分した。

壺A類 大きく外反する口縁部をもち体部は頸部を最大径とする半球状を呈すものと推定されるものである。いわゆる「小型丸底壺」と呼称するものもある。ここでは壺Aとした。1064が唯一のものである。

壺B-I～B-III類 やや偏平の球形の体部を呈するもので、外反する短頸の口縁部を見る。体部の最大径と口縁部がほぼ同径である。この内小型のものをI類とした。II類の口唇部はつまみ出しが行われ、体部では肩張りの特徴が見られる。共に量的には少ない。

壺C類 二重口縁を呈するものをC類とし、それぞれの形態によってI～V類に細分した。

C-<sub>i</sub>類 口縁部が内湾ぎみに開くものである。口縁部の立上りは短かく、頸部の絞り込みも弱い。

C-<sub>ii</sub>類 内湾ぎみに開く長い口縁を持つもので、頸部の絞り込みも比較的強いものである。

C-<sub>iii</sub>類 や、外反ぎみに開く口縁を呈しているもので立上りは短い。

C-<sub>iv</sub>類 大きく外反する長い口縁部を呈する一群である。いずれも体部を知り得ないが頸部が絞った形態を呈すものと推測される。

C-<sub>v</sub>類 口縁部が直立するもので量的には少ない。

C-<sub>vi</sub>類 その他145・146など特異なものをVIとした。いわゆる無分類のものであり、掲載遺物一覧表（以下一覧表と言う）ではNの記号をもって示した。

壺D類 その他、単純にくの字に開く口縁をもつものをD類とし、I～IIIに細分した。いずれも量的には少ない。

D-<sub>i</sub>類 内湾する短い口縁を有するもので322の大型のものや、564の小型のものがある。

D-<sub>ii</sub>類 外反する口縁の先端部を僅かにつまみ上げたものを分類した。

D-<sub>iii</sub>類 その他の無分類のもので、一覧表ではNの記号で示した。

甕 甕類はく字に外反する単純な口縁部を有するものでありここでは器形によってA～Eの5種に分類した。さらに底部又は口縁によって細分した。

甕A類 大型の一群で胴部が大きくふくらんだ形態のものをA類とした。これらの体部が球形に近いものとや、長めのものがあるが、最大径を体部の中心部にもつ。ここでは底部の形態によってI～IIIに細分し、底部を欠くものをIVとした。

A-<sub>i</sub>類 底部が尖ったもので、いわゆる尖底形のものである。45が唯一のものである。

A-<sub>ii</sub>類 丸底を呈するものを集めた。丸底を示す底部のみの破片は多いが、器形のA類に結びつくものは不明で、II類の数量はごく限られたものである。

A-<sub>iii</sub>類 平底を呈するものである。大型の体部に対して底部は小さい。

A-<sub>iv</sub>類 底部の欠失しているものをまとめた。

甕B類 大型のものであるがA類の如く肩の張りが少ないいわゆる撫肩のものを集めた。器形の全容を知るものはないが長い胴部をもつものと想定できる。口縁部の形によってI・IIに細分した。

B-<sub>i</sub>類 口縁部が大きく外反するもの。

B-<sub>ii</sub>類 口縁部の外反が少ないもの。

甕C類 口縁部に最大径をもつ一群である。器形の全容を知るものはないが体部は胴部にあまり脹みをもたない長形のものとして想定され、口縁部は概ね大きく外反するものが多い。大型から小型まである。なお1063は特大の唯一のものであり、や、特異なものである。

甕D類 口縁部と胴部の最大径がほぼ同径を呈するものを分類した。全容を知らないものも多いが体部は円形に丸みを持つ形態のもので、底部は平底を有するものと想定される。大きさと口

縁部の形態から I・II に細分した。

D-<sub>1</sub>類 中型のものを集めた。くの字に外反する口縁部を有する。

D-<sub>2</sub>類 小型のもので口縁部が短い特徴を呈する。

甕E類 小型のもので非常に短い口縁が頸部より僅かにつまみ出されたものである。体部は大きく脹む形態である。

鉢 器形などによってA～Gの7種に分類し、さらに底部や口縁部の形態によって細分した。

鉢A類 底部に孔をもつもので有孔鉢と称されるものであるが、一般には甌である。底部の形態によってI・IIに細分した。なお他の器種と異なった荒い砂粒を多量に混合させた特異の胎土によるものである。

A-<sub>1</sub>類 尖底で逆三角形を呈する如く器壁も直線をもって開く。口縁外部に張土を施し、口唇部をつまみ上げるものが多い。底部先端に1つの孔を穿つ。

A-<sub>2</sub>類 小さな平底を呈し、器壁の立上りは直線に開くものとやゝ曲線を呈するものがある。口縁部に張土を施すものもあるがI類ほど顕著に現わしていない。孔は概ね1個であるが、85の様に複数の可能性が窺えるものもある。

A-<sub>3</sub>類 有孔鉢で底部の不明なものを集めた。

鉢B類 器壁が内湾状に立上りほゞ半円形を呈するものである。底部を残すものはない。浅深の器形によってI・IIに細分した。

B-<sub>1</sub>類 深い形態のもの。

B-<sub>2</sub>類 半円形の浅いもの。

鉢C類 B類に類似する半円形の体部にくの字に開く口縁部を有するものを分類した754の如く丸底と窺わせられるものもあるが、底部を残す575・764・772は平底を呈している。口縁の形態でI・IIに細分した。

C-<sub>1</sub>類 短い口縁部が僅かにつまみ出されたもの。

C-<sub>2</sub>類 口縁部が大きく外反するもの。

鉢D類 内湾する器壁が外開ぎみに延び、ゆるいくの字の口縁部を呈するものである。数量的には少ない。

鉢E類 大きく内湾するもので胴部に最大径をもつもので、いわゆる仏餉鉢形を呈するものである。

鉢F類 口縁部外側に沈線文や強いおさえによって口縁部を表現させたものをFとした。

鉢G類 その他のものを分類した。一覧表ではNの記号で示した。

碗 単純な平底を見るものと高台状に外壁を削り出すものとが見られる。口縁部は自然の立上りで終了するものと、僅かに外側へつまみ出すものがある。この口縁形態によってA・Bに分類した。その他のものはNで記した。

A類 内湾する器壁をそのまま立上げたものである。深いものと浅いものがある。

B類 口縁部をつまみ出したものを分類した。



坏 概ね丸底を呈するものであるが、459・78など平底のものもある。碗類と同様に口縁の形態によってA～Cの3種に分けた。

A類 口縁を僅かにおさえたものも見られるが、器壁の延長線上にそのままあるものを集めた。器形的には深く内湾する594、450があるが、外開きのものが多い。

B類 口縁部を外側につまみ出したものであり、したがって端部が外反ぎみの形態を呈するものである。

C類 その他無分類のものをCとし、一覧表ではNの記号をもって示した。この内166は口唇部が内側へ向くものであり、78は幅広い面をもつ。

高坏 坏部分と脚部分を接合させて成形することから全容を知るものは248・576・577の3点に過ぎないので、坏部と脚部の2通りの分類を行う。それぞれ基本的な形態によって坏部はA・Bの2分類を行ない、脚部もA・Bの2分類を行ない、さらにそれぞれの形状によって細分した。

坏部 器壁の立上りに稜を有するものをA類とし、稜をもたないものをB類とした。

A-<sub>i</sub>類 腰部に稜をもち、口縁部に向かって外反する立上りをもつものを集めた。器高の深淺、又は底辺の広狭などのものがある。

A-<sub>ii</sub>類 腰部に稜をもち器壁の立上りが直線をもって開くものである。

A-<sub>iii</sub>類 腰部に稜をもち、内湾ぎみに開く器壁をもつものである。数量的には少ない。

A-<sub>iv</sub>類 稜に特徴をもつものを集めた。これらは稜そのものを強調するもので、土紐をめぐらすもの、段差をつけるもの他、稜の位置を口縁部近くにもつものなどがある。

A-<sub>v</sub>類 ごく少数であるが非常に小型の一群と特異な深さを有するものがある。これらを稜をもち、特異な形態のものとして分類した。

A-<sub>vi</sub>類 稜を有するが、器壁の立上りが不明なものを無分類として集めた。

B-<sub>i</sub>類 内湾ぎみに立上る形態のものである。

B-<sub>ii</sub>類 内湾ぎみに立上る器壁の口縁部を強く外側へ引き反らせたものを分けた。

B-<sub>iii</sub>類 器壁が直線で朝顔形を呈するものを分類した。

B-<sub>iv</sub>類 無分類のものをIVとした。

高坏脚部 開脚状のもの、やゝ下開きの筒状で裾を大きく広げるいわゆる屈折脚をA・Bに2分し、さらに細部の形態によって細分した。なお両者共、その内部に見られる成形痕は様々で、輪積、絞り込み、2次的刷毛目調整の3通りに分けることができるが、煩雑を招くのでここでは無視した。脚部はいずれも篋によるミガキが顕著である。

A-<sub>i</sub>類 三角形に開くいわゆる開脚と称するもので裾部の付置が単純なものを分けた。

A-<sub>ii</sub>類 開脚であるが裾部の付置が引き出された「はた反り形」を分けた。

A-<sub>iii</sub>類 付置部を欠失して分類できないものである。

B-<sub>i</sub>類 やゝ裾開きの筒状の脚で裾部を大きく広げる形態のものである。裾部造り出しに2通り見られ、443の如くなだらかな裾開きと970の如き接続痕を残す急激な広がりのもとのがある。

B-<sub>ii</sub>類 やゝ下開きぎみであるが中脹れの筒状を呈するものを分けた。

B-Ⅱ類 筒部の細い一群である。

## 2 遺物

### A 遺構内出土の遺物

#### SⅠ-1号住居址 (第41~43図、図版19、20)

床面と炉址内出土のごく少量の土器以外は覆土中の検出であるが、遺構廃絶後の投棄物と考えられる。

埴 A・B・D類、口縁部A・C類がある。2、5は体部の全体を見ることが出来る。図示した11点を含めて細片64点の出土がある。

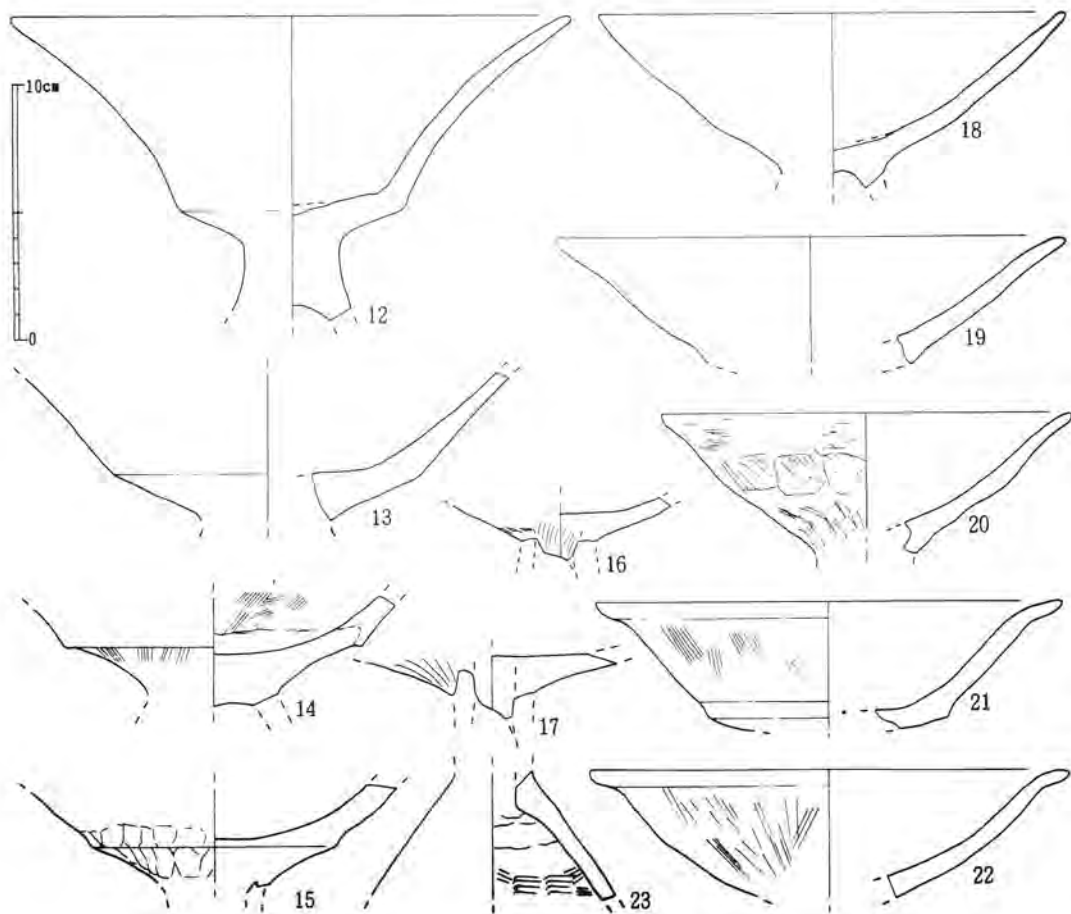
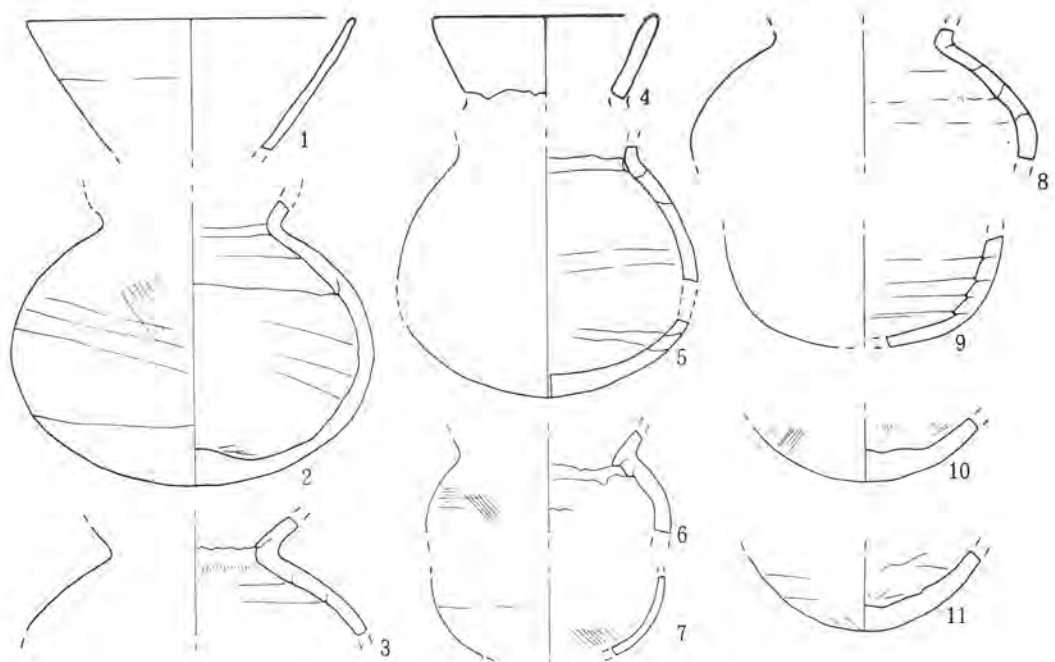
高坏 A-Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ、B-Ⅱ・Ⅲ類、脚部AⅠ~Ⅲ、B-Ⅰ・Ⅱ類がある。12はA-Ⅴ類の内唯一の形態で逆三角形に近い急角度の器壁をもち、口径22cmに対し深さ7cm、底部外径8.5cmと特異なもので、脚部の接続部に見られる形態も独特なものである。24は床面の出土である。坏部63、脚部33点の破片の他11個体を数えることができる。

鉢 A-Ⅱ、B-Ⅱ類がある。37は底部の孔を見ないが胎土や調整の方法よりA-Ⅱ類と做した。

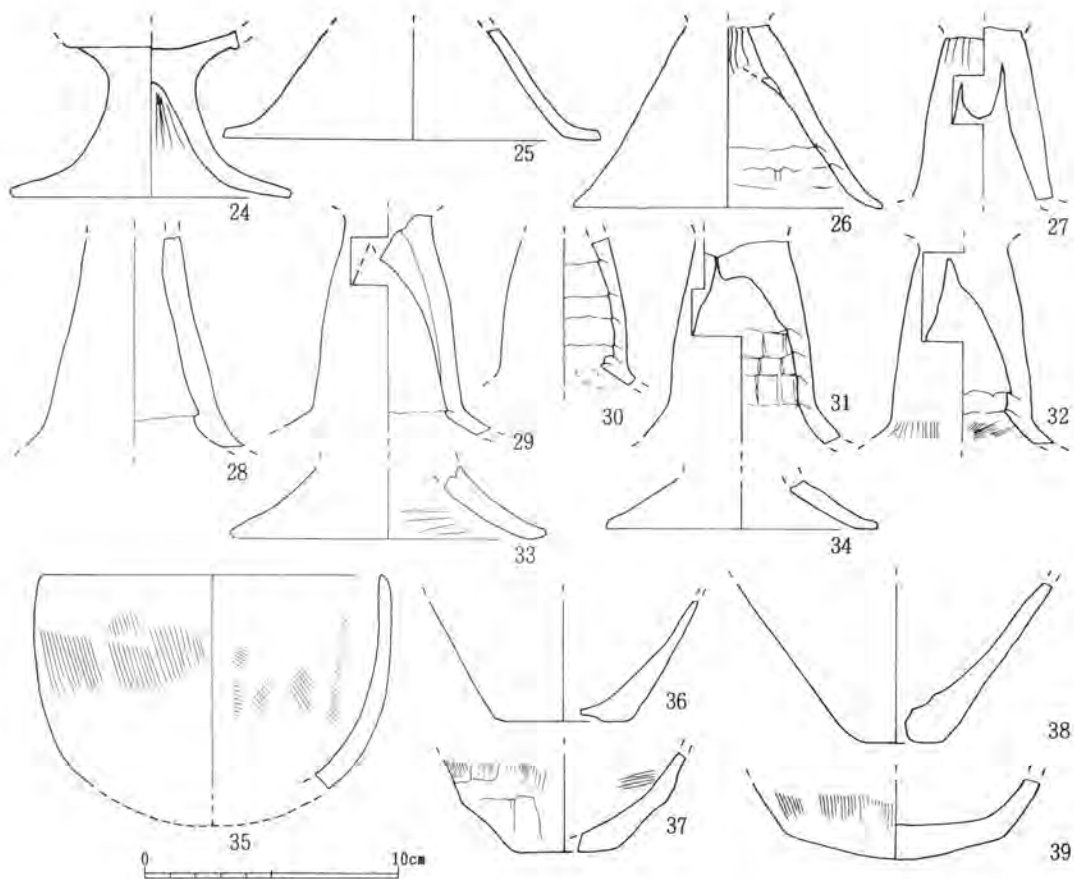
甕 A-Ⅰ・Ⅳ、B-Ⅰ・Ⅱ、D-Ⅰ、がある。40は口縁部・胴部・底部と必ずしも同一個体とは限らないもので、口縁部と底部は住居床面の出土であり、胴部は炉内の炭灰内よりの出土である。41も炉内の検出である。43は尖底形態で全容を知ることができる唯一のものである。個体数を確認できるもの25個、口縁部39、底部12点、胴部破片712点が出土している。

壺 C-Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ類がある。63、64は共に大型であり胎土に多量の砂粒を加えたものでその他の壺類とは型及び胎土の上で特異なものであり、生産地を異なるものと考えられる。なお64はSK-5号土坑出土の破片と接合している。壺類は4点のみで底部や胴部片などは甕と区分出来ず、甕として集計している。

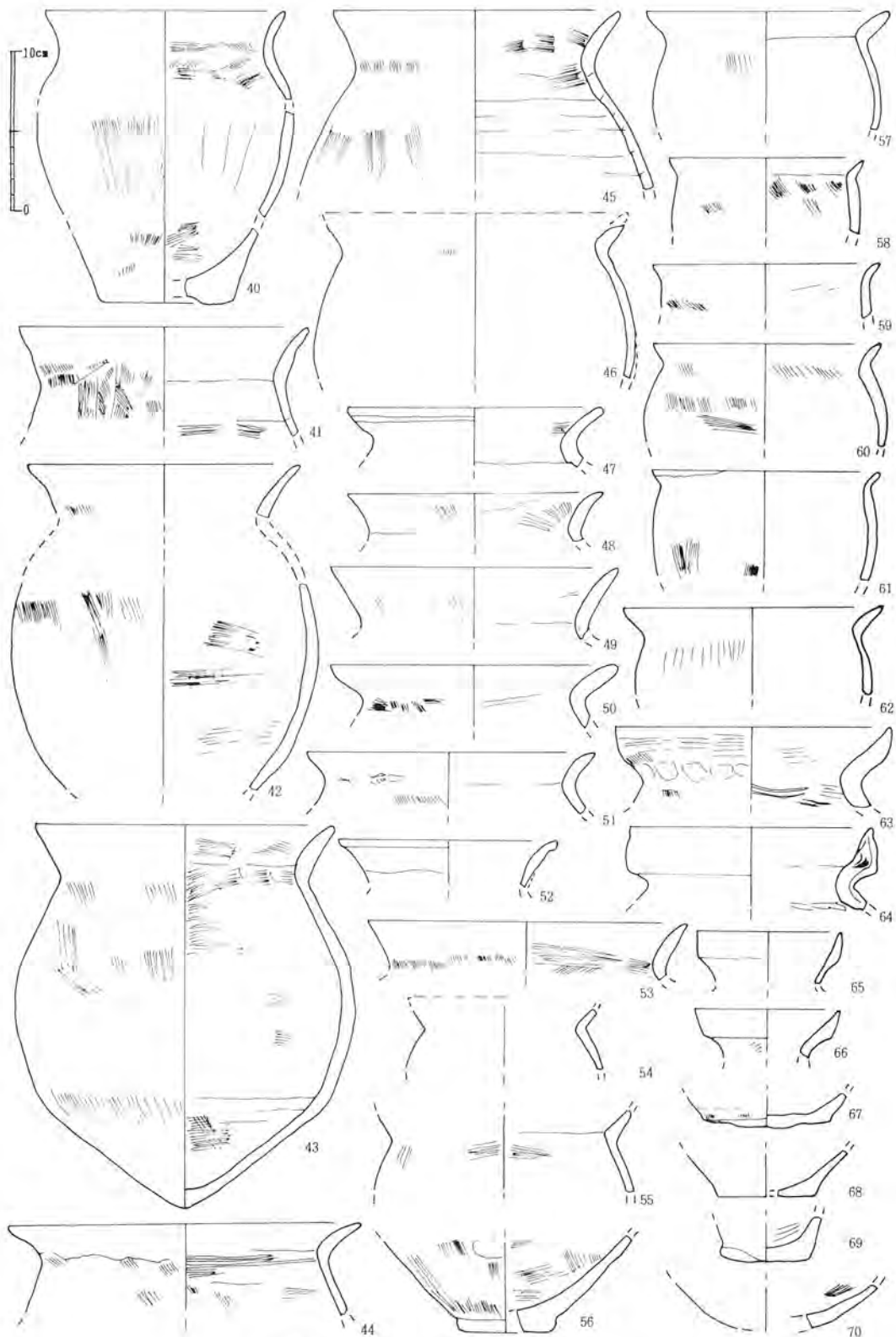
その他 39は不安定な底部片であるが鉢に部類する可能性をもつが器種を特定できない。なお図示していないが坏の口縁部細片4個体分がある。また1196のスリ石がある。



第41图 S I - 1号住居址出土土器 1



第42图 S I - 1 号住居址出土土器 2



第43图 SI-1号住居址出土土器3

### SB-1号建物址（第44～47図、図版20～22）

多量の遺物の出土を見るが図版12に見られるごとく土器溜りの状況を呈して検出されたことから遺構の廃絶後に投棄された土器と考えられる。

埴 D類2点が見られる他は分類できない。4点を図示したが、総数30点を数える。

坏 A・C類がある。78は全容を知り得る数少ないものであるが、狭い平底を呈し口縁部に幅広い面をもつ特異なものである。

鉢 A-Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、C-Ⅳ、E、F類が見られる。81は数少ないE類の中で口縁部が肉厚となる唯一のものである。85は有孔鉢の底部片であるが孔の位置が片寄って見られることから複数の孔を有する可能性がある。82は底部を欠失しているが有孔鉢である。内傾する狭い口唇帯に刷毛先による羽状文をもつ。

高坏 A-Ⅰ・Ⅱ、B-Ⅰ・Ⅱ、脚部A-Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、B-Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類と多様である。この内86の小型のもの、91の深身のものが目立つ。最底個体数16、坏部破片88、脚部破片47点を数える。

甕 A-Ⅱ・Ⅲ、B-Ⅰ・Ⅱ、C、D-Ⅰ・Ⅱ、E類と多様である。144は形態的には数点の内の1点である。確定できる個体数は32個、口縁部57、底部31、胴部破片1300点を数える。

壺 C-Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、D-Ⅰ・Ⅱがある。145は口径28cmを測る最大のものである。146は口縁部を欠失しているが頸部に把手をつ。破片の残存率が12分の3と少ないので確率は少ないが、4箇所につく四耳壺と考えられる。

### SB-2号建物址（第48図）

調査区域の隅部に当り全掘していないので遺物も少ない。

埴 口縁部A・Bの他は分類できないが162はB、163はE類の可能性が大きい。なお162は最大径7cmの小型に対し161は推定胴径16cm程の大型のものである。埴の破片数37点が出土している。

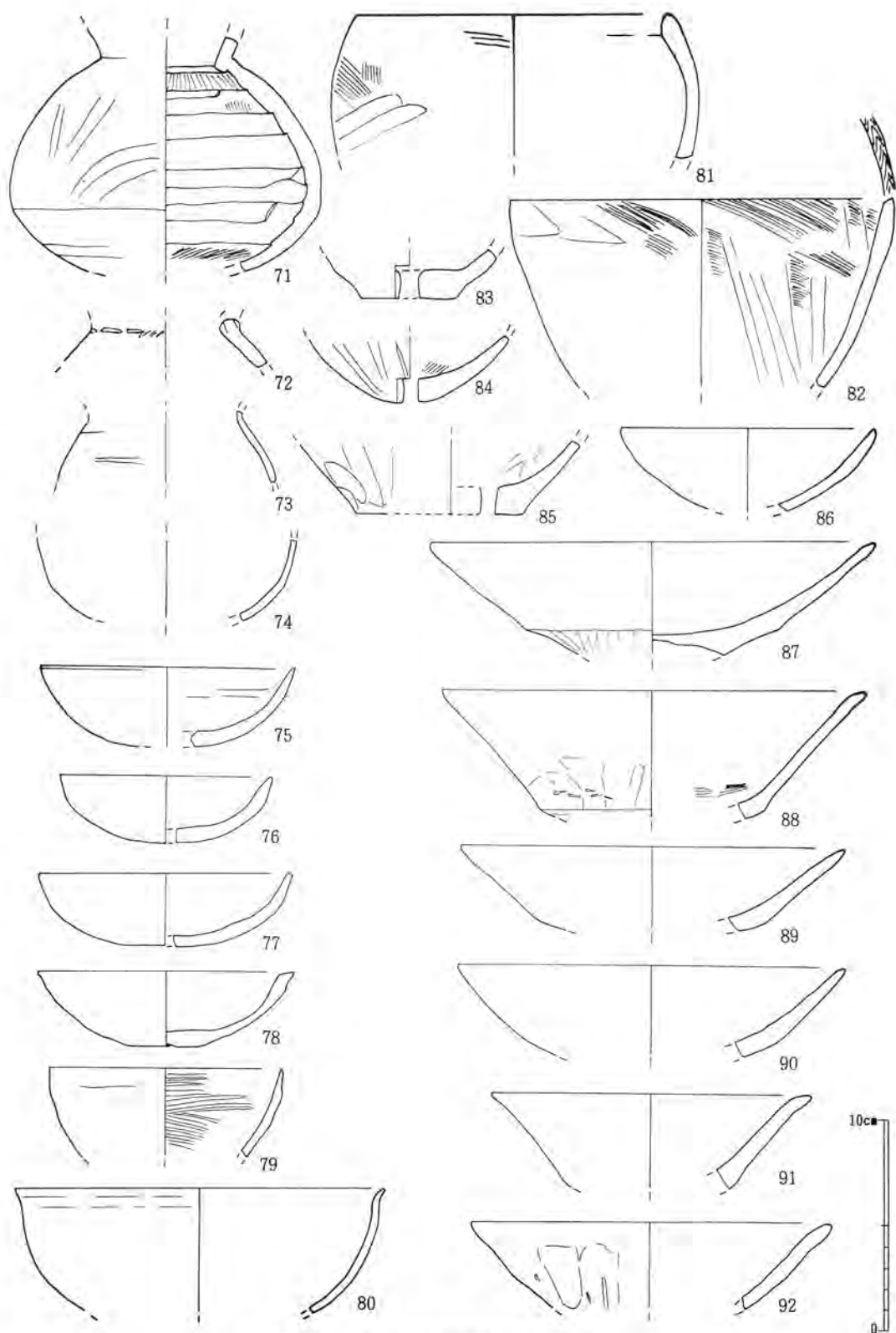
壺 図示できたものは164の肩部破片のみであるが他に細片5点を数える。

鉢 E類1点の図示であるが5個体を数える。

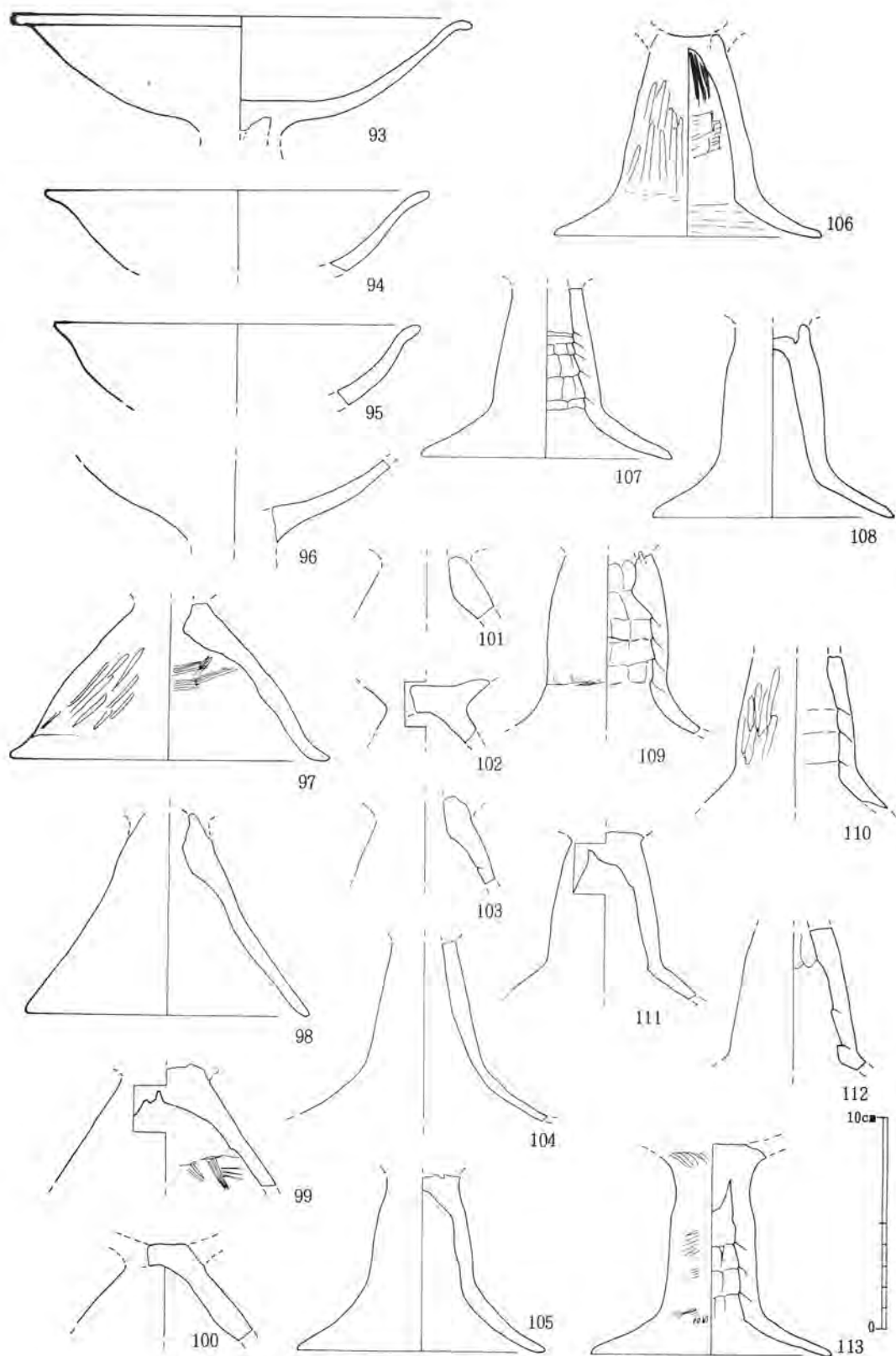
坏 C類であり口唇部を内側へ押し返したもので、1点のみの出土である。

甕 A-Ⅲ、B-Ⅰ類である。168は一見丸底に見えるが直径2cmの狭い底部を造り出している。169は底面内を削り高台状に造り出したもので、外壁も篋削りによって六面体を呈している。甕は個体数を数えるもの2個の他、口縁2、底部片1点、胴部片64点がある。

高坏 A-Ⅳ、B-Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、脚部A-Ⅲ、B-Ⅰ・Ⅱ類がある。170は垂下る稜を付けたもの、172は脚部であるが僅かに残る坏部が非常に急角度を呈するもので坏部A-Ⅴ類である377に類似し稀少なものである。確実な個体数6点で、坏部片68、脚部片13点がある。

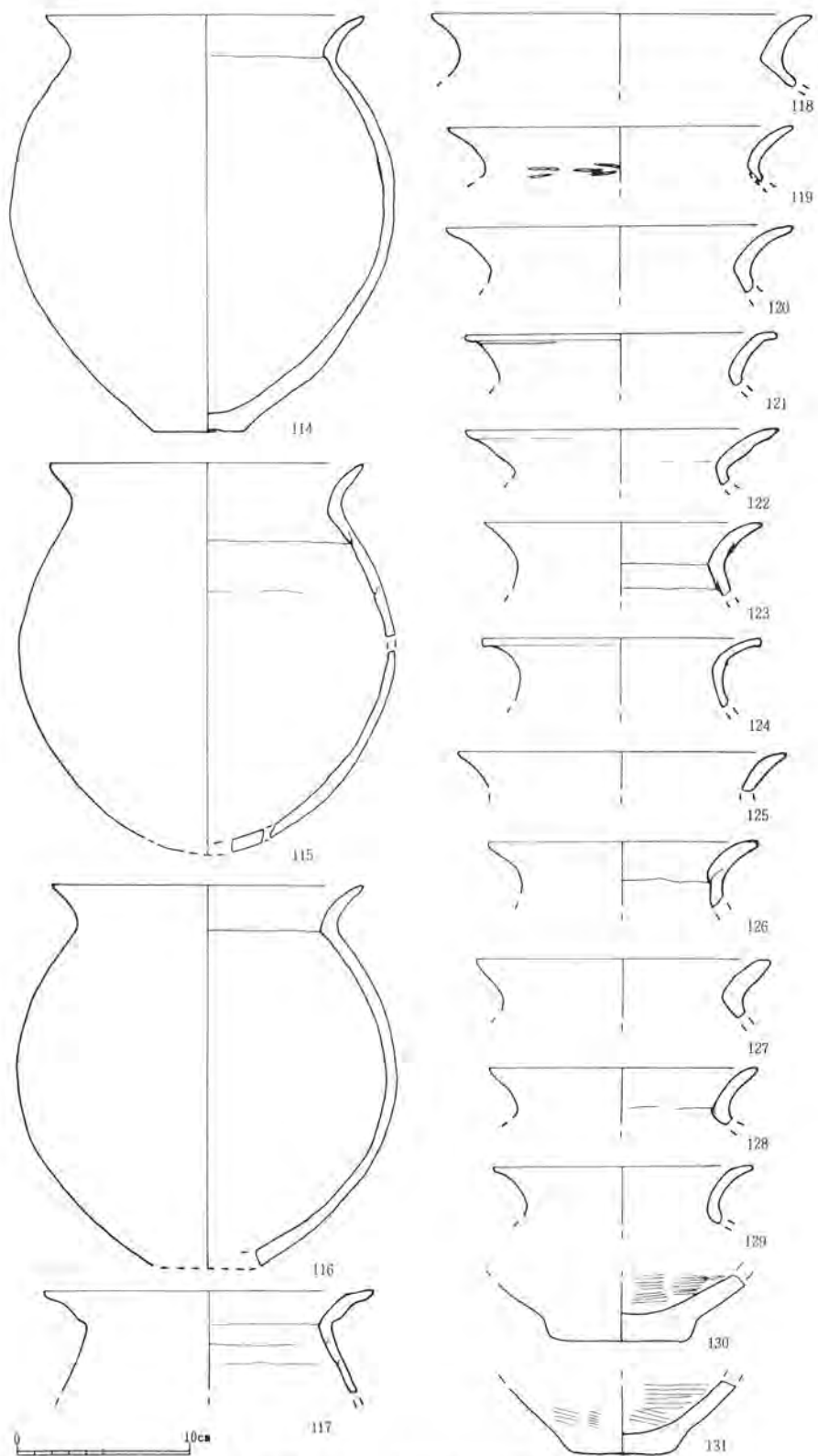


第44图 SB-1号建物址出土土器1

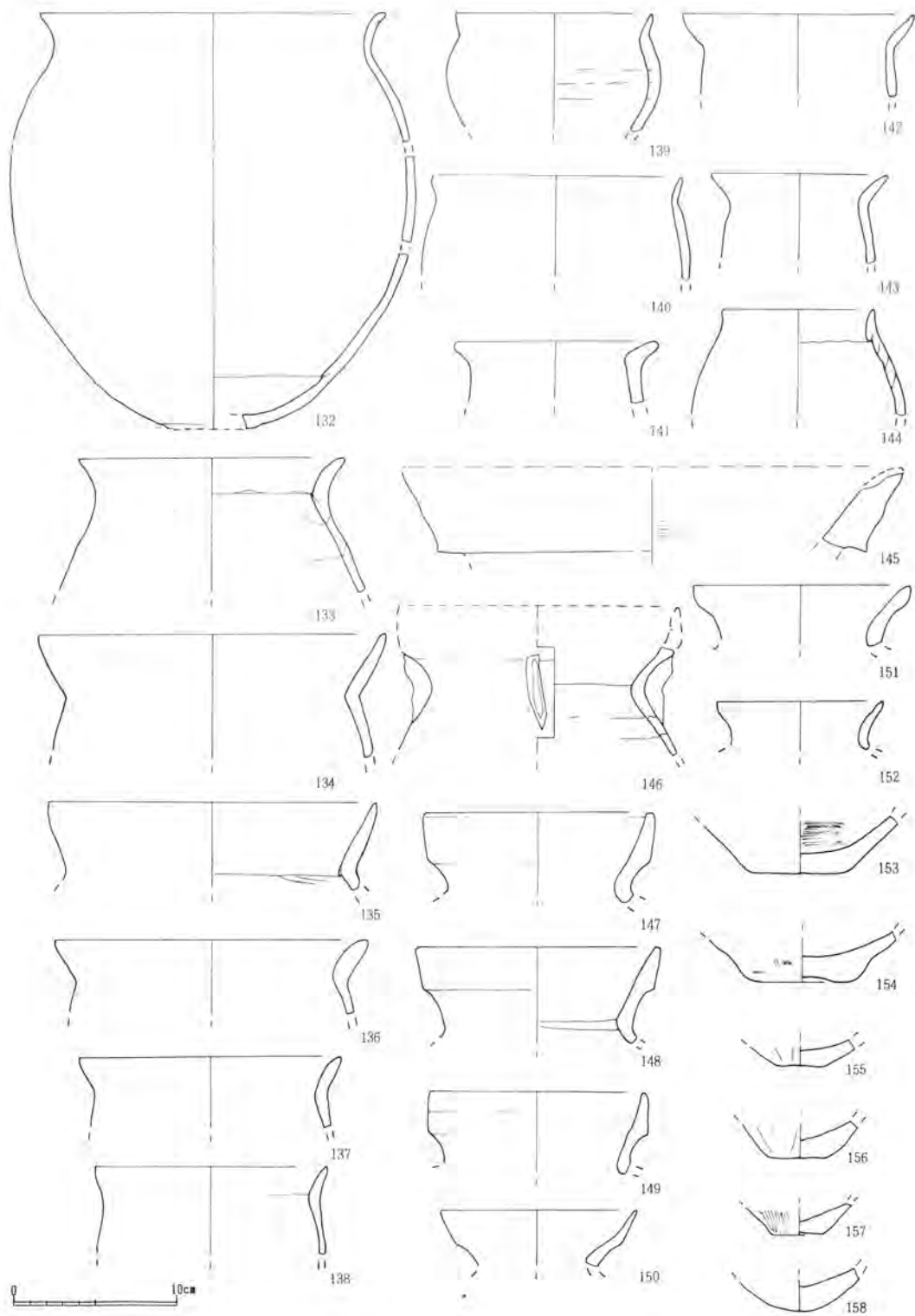


第45图 SB-1号建物址出土土器2

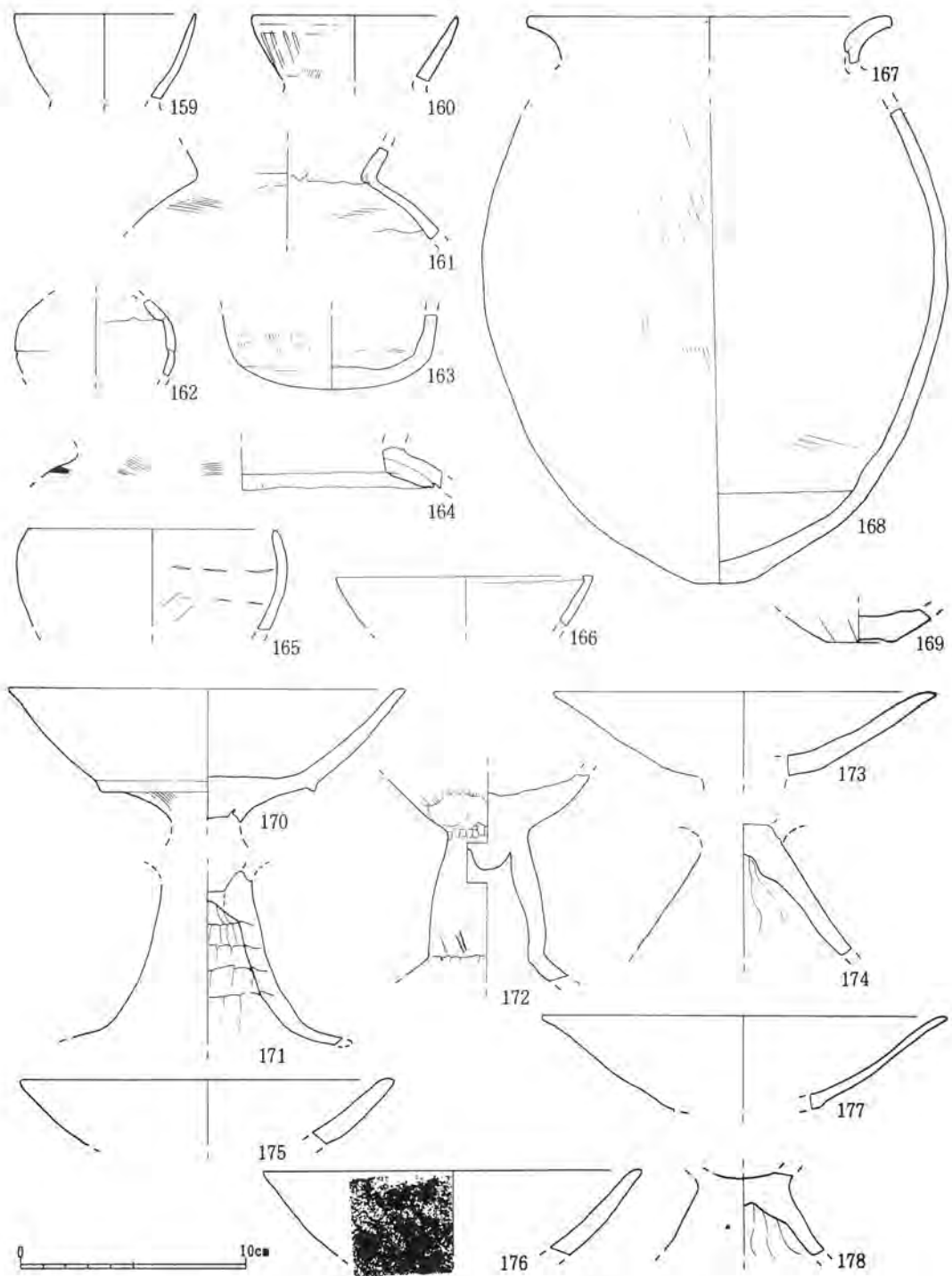




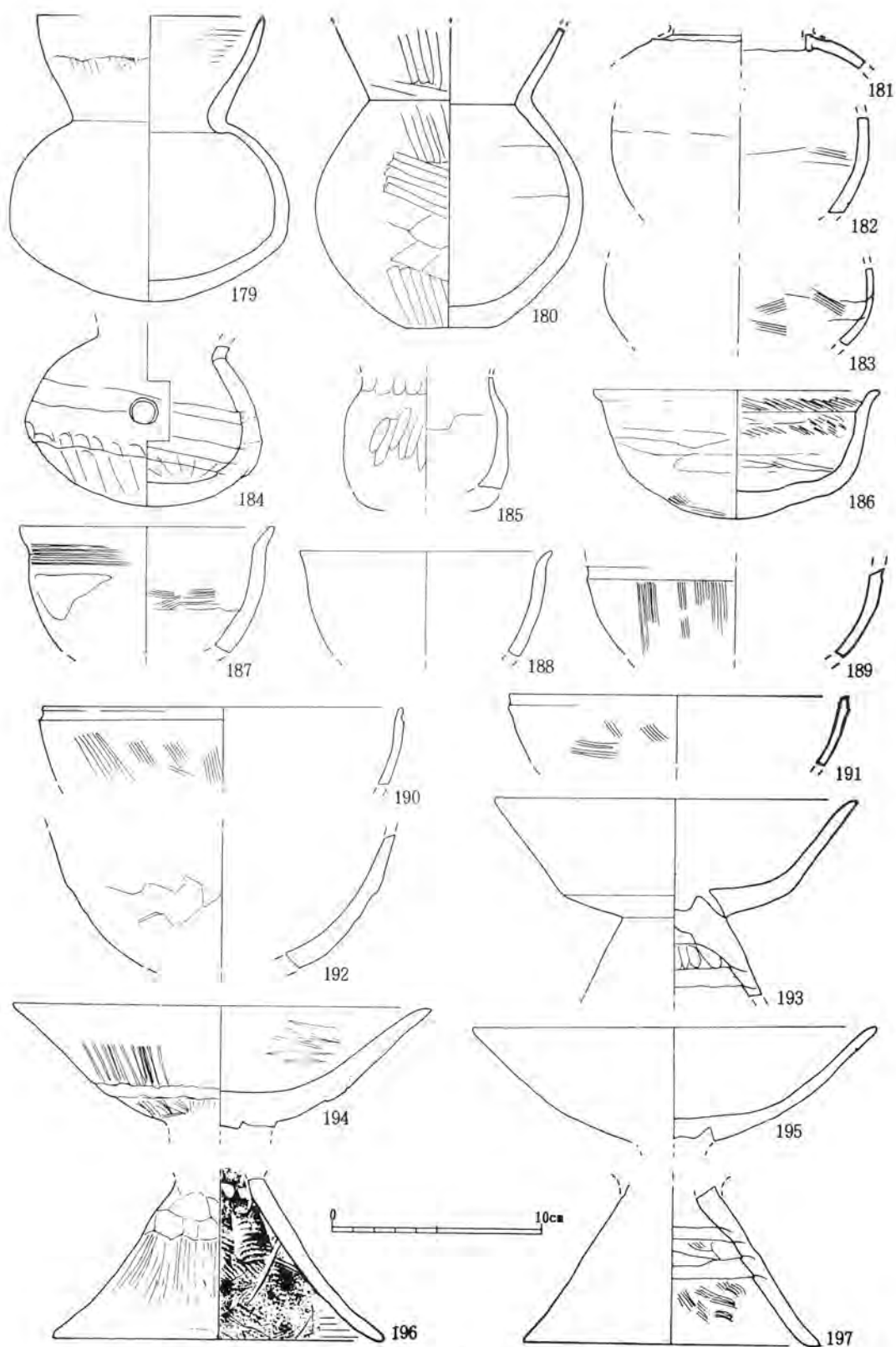
第 46 图 SB-1 号建物址出土土器 3



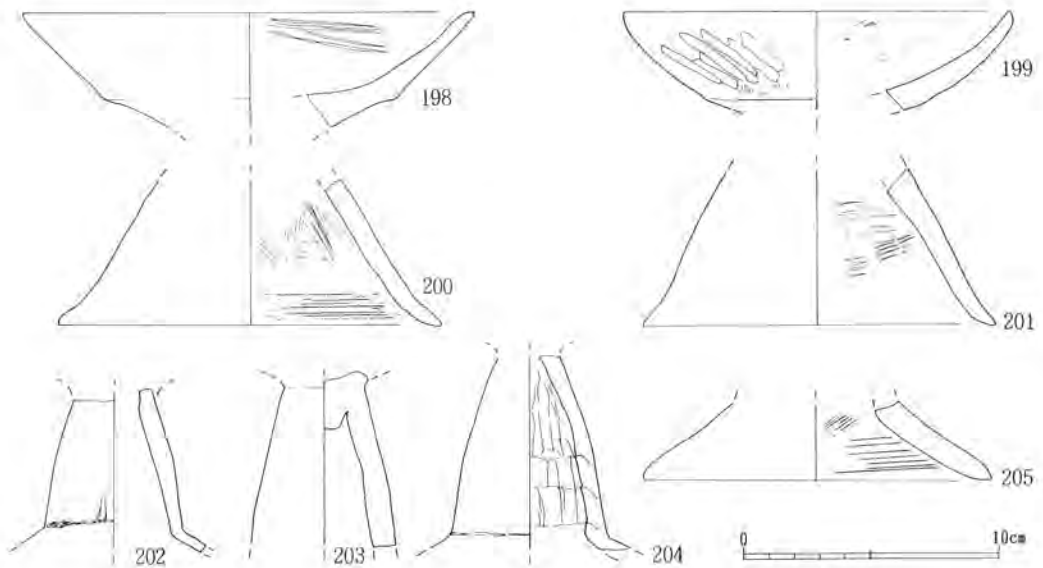
第 47 图 SB-1 号建物址出土土器 4



第 48 图 SB-2 号建物址出土土器



第 49 图 SB-3 号建物址出土土器 1



第50図 SB-3号建物址出土土器2

SB-3号建物址 (第49~51図 図版22、23)

土器の出土状況から遺構廃絶後の投棄とも考えられるものだが、個々の破損度が少ないものが多い。また出土量も多い。

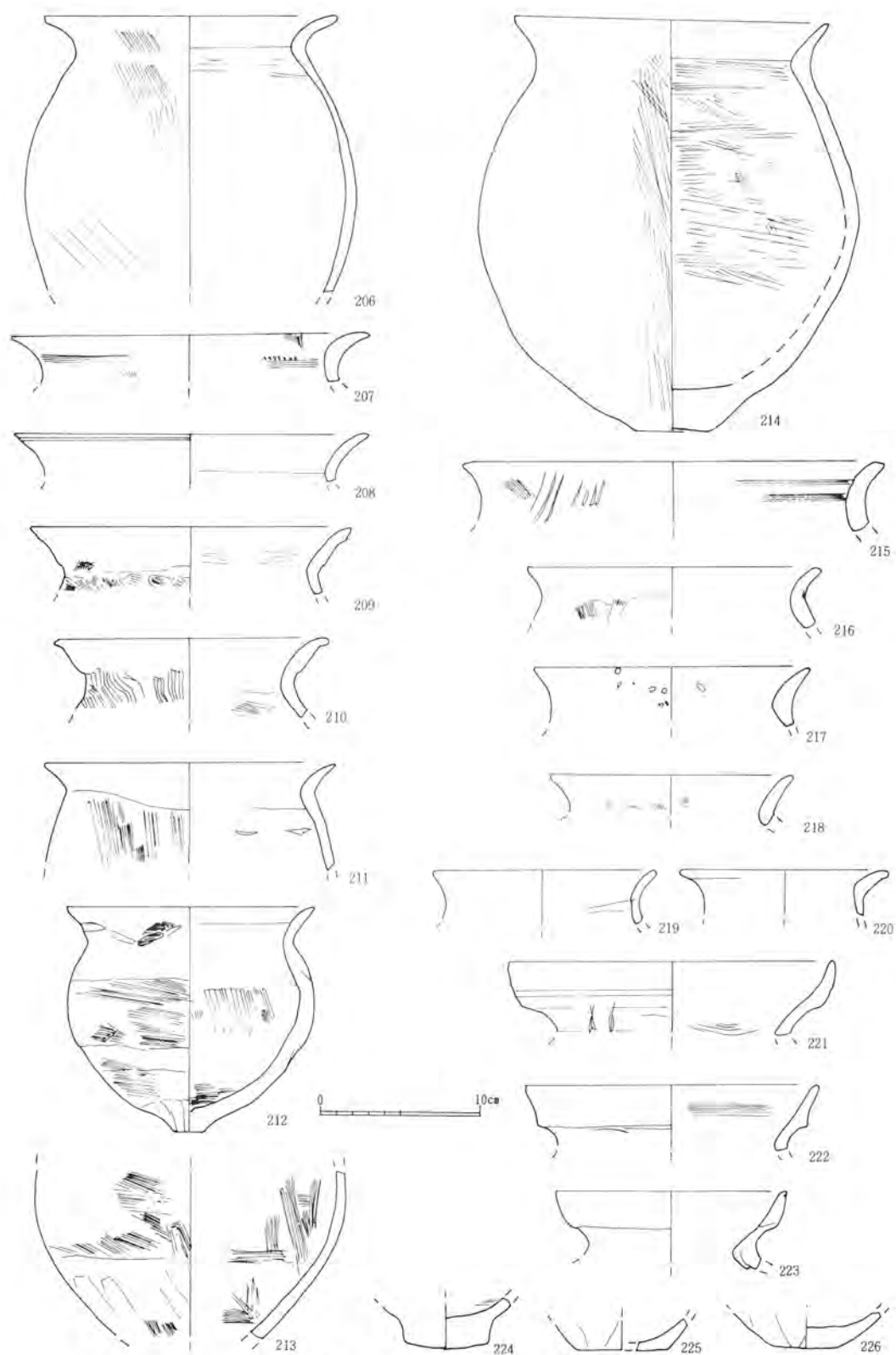
埴 A・C類がある。179は底部の一部を欠くが全容を知り得る稀少のものであり、頸部がやゝ太い造りである。180も平底を呈する稀少なもので、窪削りによって底部を形成している。240は頸部径9cm、241は口径10cmを測る。埴の破片総数24点がある。

碗 B類の2点と無分類の1点が総てである。189は口縁部を欠失しているが端部に浅いU字状の沈線をめぐらせている。B類の可能性が強い。

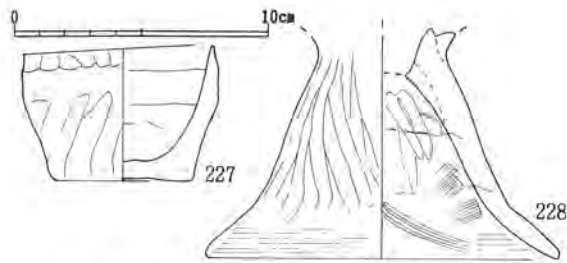
鉢 F・G類がある。190は口縁部に沈線文、191は隆線をもつ、192は無分類のGとしたが、やゝ腰部に丸味をもつが粘土の技法や荒い胎土からA類の可能性が強い。

高坏 A<sub>-1</sub>、B<sub>-1</sub>、脚部A<sub>-1・II</sub>、B<sub>-II・III</sub>類がある。193は坏部と脚部を見られるものであり、坏部A<sub>-1</sub>、脚部も開脚であるA類を呈している。個体数13個の他、坏部片85、脚部片42点がある。

甕 A<sub>-III・IV</sub>、B<sub>-I・II</sub>、C、D<sub>-1</sub>類が見られる。214・212は全容を知り得る。後者は器外面にも輪積の粘土痕を残し、腰部は窪削りによる面取りが成され、内底面は刷毛によって六角状にナデ廻している。口縁帯に工具による押印文を施す。207は刷毛先による刺突痕があり、210は荒い刷毛目痕が器内に強く当たった様子が残る。215は頸部にカキメ痕が見られる。図示した15点の他口縁15、底部52、胴部片1025点を数える。



第 51 图 SB-3 号建物址出土土器 3



第52図 SB-4号建物址出土土器

壺 C-I類がある。221は頸部に2條の太い刻線がある。焼成後の刻みで薬研状に掘られている。

その他、甕、<sup>はろう</sup>コップ形土器、坏が1点ずつ見られる。184は口縁部を欠失しているが、坩の胴部に孔を穿つ形態のもので甕である。形態的には下脹みて坩D類に相当する。器内底部の歪みによって重心に歪が生じている。甕はこの他993の細片1点が確認されている。185はコップ形土器である。口唇部を欠失しているが口縁部を指先で潰している。胴部に棒状工具による叩き状の調整を見る。口縁部を内湾させることから壺に部類するものであろう。186はやゝ深身のものだが坏とした。坏B類に分けられよう。

#### SB-4号建物址 (第52図、図版23)

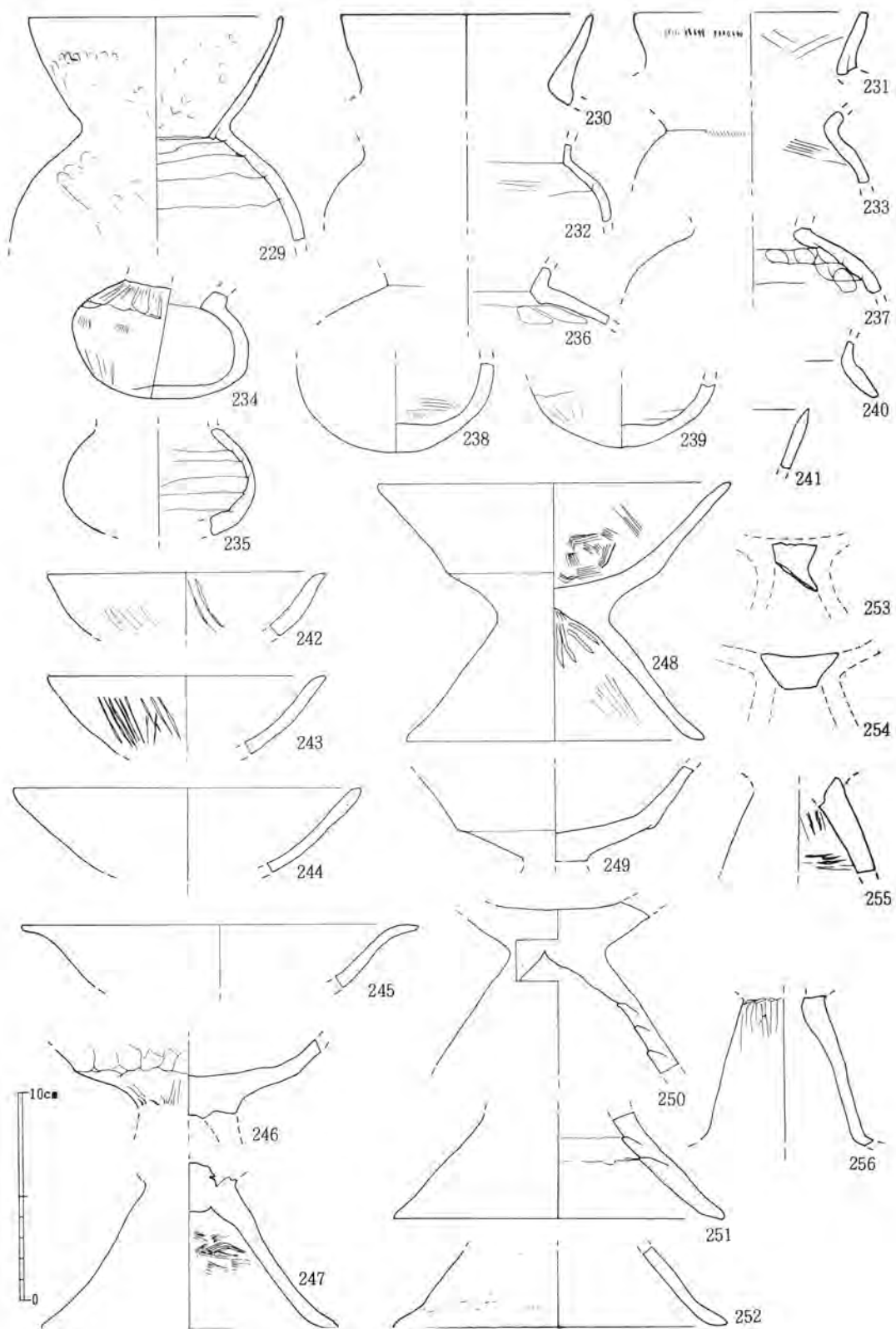
227のコップ形土器と228の高坏脚部A-I類の他、同脚部片1点と甕胴部片23点がある。227は口縁部を篋で押し潰した花卉状の文様をもち、胴部も篋による調整が行われている。技法的には前述した185と同様であるが、形態的には異なり口を開けていることから小鉢に分類するもので、完形を保っている。

#### SD-1号溝 (第53～55図 図版23～25)

細い溝内に廃棄された土器で量的に多い。

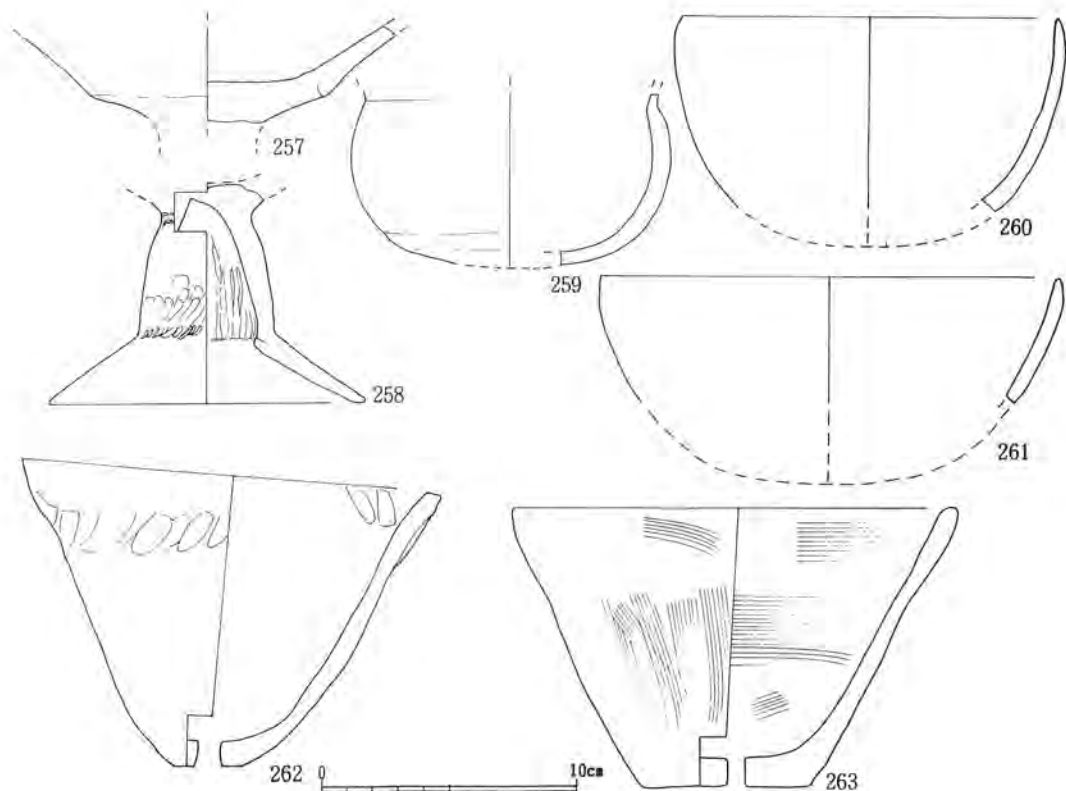
坩 A・B・D類と口縁部C類とがある。229は器表面及び口縁部の内面共に篋磨きが施されたものである。234、238は輪積の痕跡を全く残さないもので稀少である。前者は体部全面が篋削りによって整形され、特に肩部は花卉状の面取りが行われ顕著である。また底部の重心が片寄っている。後者は底部外面の大部分に粘土を行っている。231は刷毛先の刺突痕が見られる。236・237の内部に見られる痕跡は口縁部を接続するための指痕である。個体数を確定できないが図示したものを含めて62点を数える。

高坏 A-I類、B-I類、脚部A-I類、B-I類がある。242・243は数少ない小型のもので共にB-I類で器肉が厚く、器内或いは外面にカキメ痕をもつ。246は稜線上部を篋削りしている。248は全容を知り得、坏部のA-I、脚部もA-Iである。253・254は確たる名称を知らないがコマ或いはヘソと呼んでいる部品である。坏部と脚部の接合に当って坏部の内側から脚の内部に打ち込む鋳であり、上下共粘土でコマを押さえる。大方は253の如く先端が片方に寄って尖るもの



第 53 图 SD-1 号沟出土土器 1





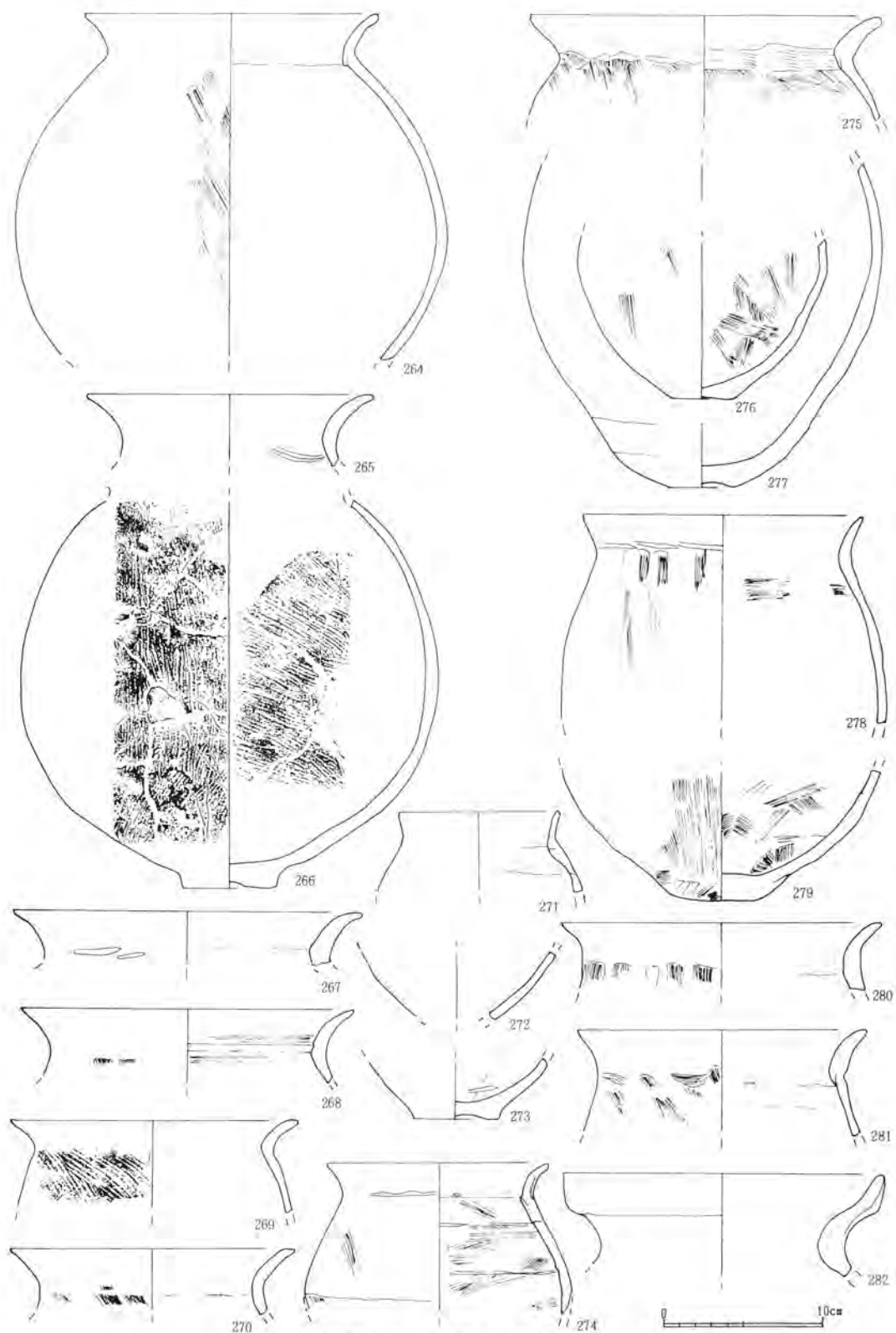
第54図 SD-1号溝出土土器2

が主であるが、中心に尖るものもある。254の下部が平坦なものは稀である。250と251は同一個体の可能性が大きい。個体として数えられる確実な数9個の他、坏部片69、脚部片24点が検出している。

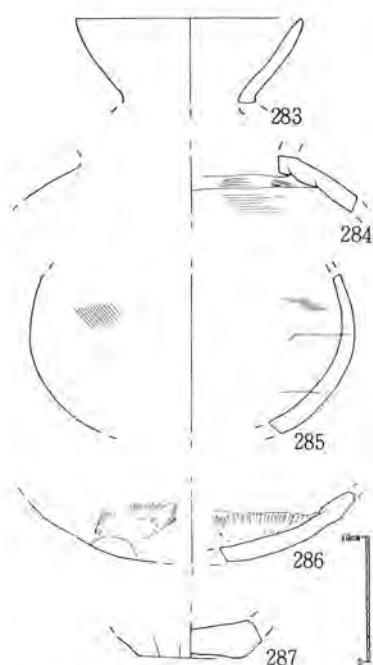
**壺** 259・282の2点がある。259はB類に属するが口縁部を欠失している。体部の形状から推測してII類に属するものであろう。282はC<sub>1</sub>-類である。口縁部を粘土によって稜を強調している肉厚な器である。

**鉢** A<sub>1</sub>-II、B<sub>1</sub>-I<sub>1</sub>-II類がある。262は有孔鉢特有の口縁部の粘土と指先による花卉文状の痕跡を残す。非常に狭い底部を持つが、一見してI類に見られる。263はA類には稀少な刷毛目文が施されている。

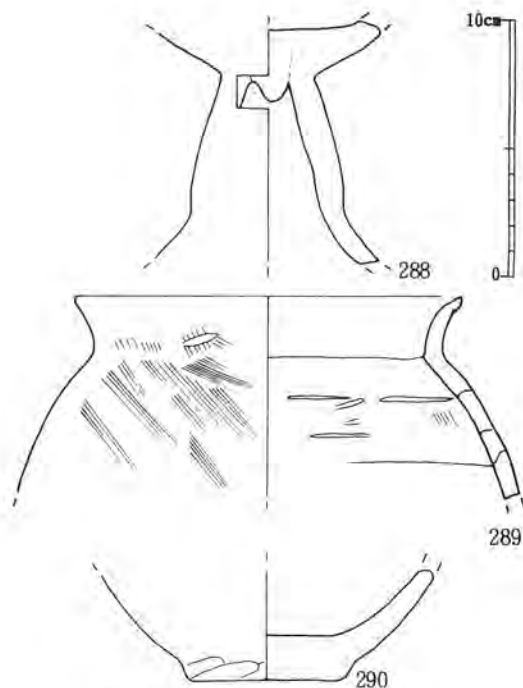
**甕** A<sub>1</sub>-III、IV、B<sub>1</sub>-I<sub>1</sub>-II、C類がある。264・266は特に球状の体部を呈する特異な部類に属する。266の底部も特異である。271はB<sub>1</sub>-II類中でも口縁の立上りが上向きであり、無分類の範疇とすべきかも知れない。18個体の他口縁57、底部8、胴部片877点を数える。



第55图 SD-1号沟出土土器3



第56図 SD-2号溝出土土器



第57図 SD-4号溝出土土器

#### SD-2号溝 (第56図)

甗 17片の出土を見たが図示できるものは3点にすぎず、285のA類、283の口縁部A類が見られる。

鉢・甕 286は鉢で甕整形によるもの、287は甕底部で面取りによって8角形を呈している。いずれも無分類である。甕はこの他に口縁部1、胴部片47点がある。

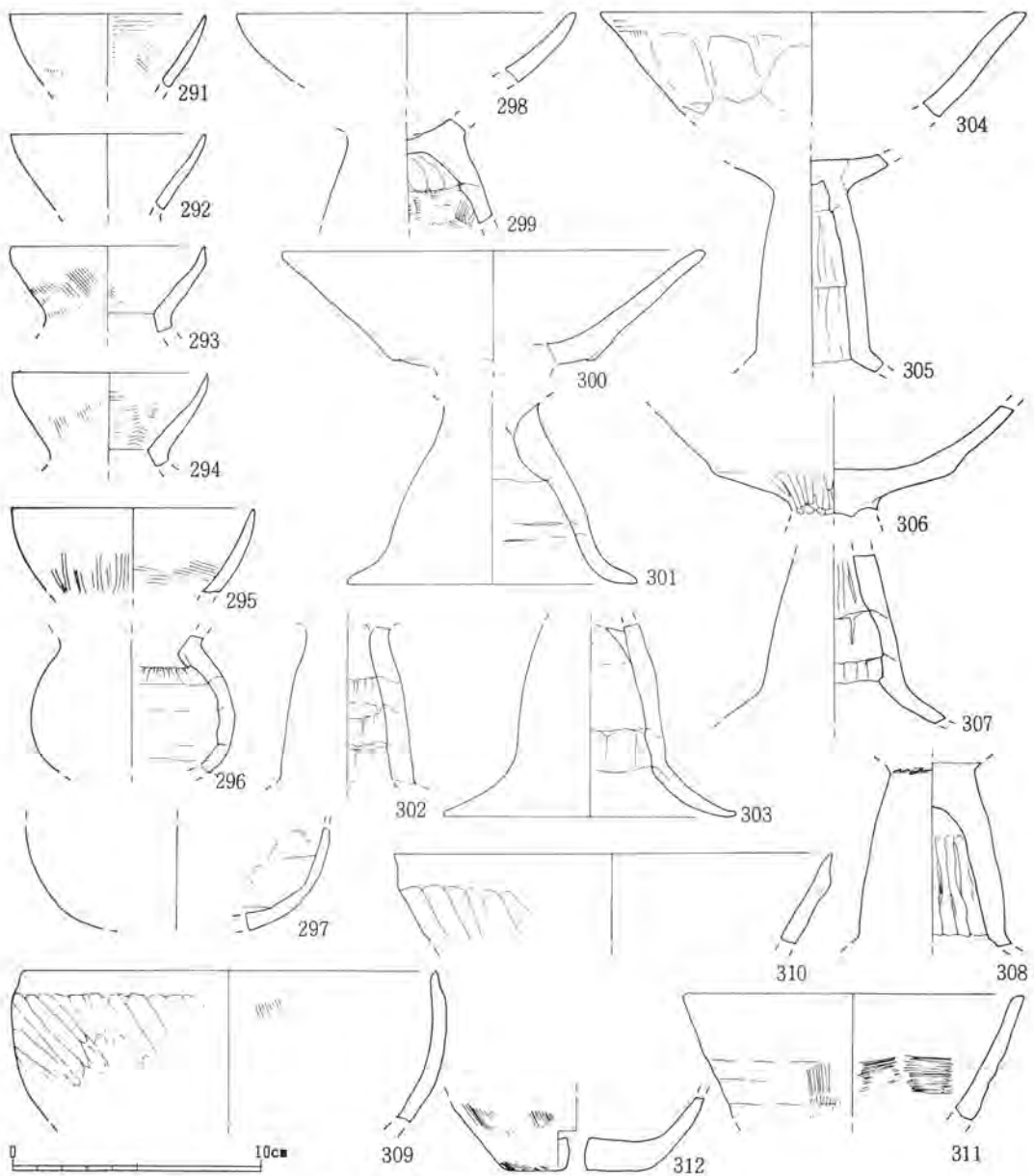
その他 高坏脚部1点がある。

SD-3号溝 図示できるものはないが、高坏2点、甕胴部片3点の出土がある。

#### SD-4号溝 (第57図 図版25)

ごく少量の出土である。高坏2点、甕片45点である。高坏288は脚部B-1類、甕289はA-IV類である。

SD-5～7号溝 SD-5号では高坏1点の出土である。SD-6号では甕片15点が検出された。SD-7号では高坏2点の出土を見た。これらはいずれも図示していない。

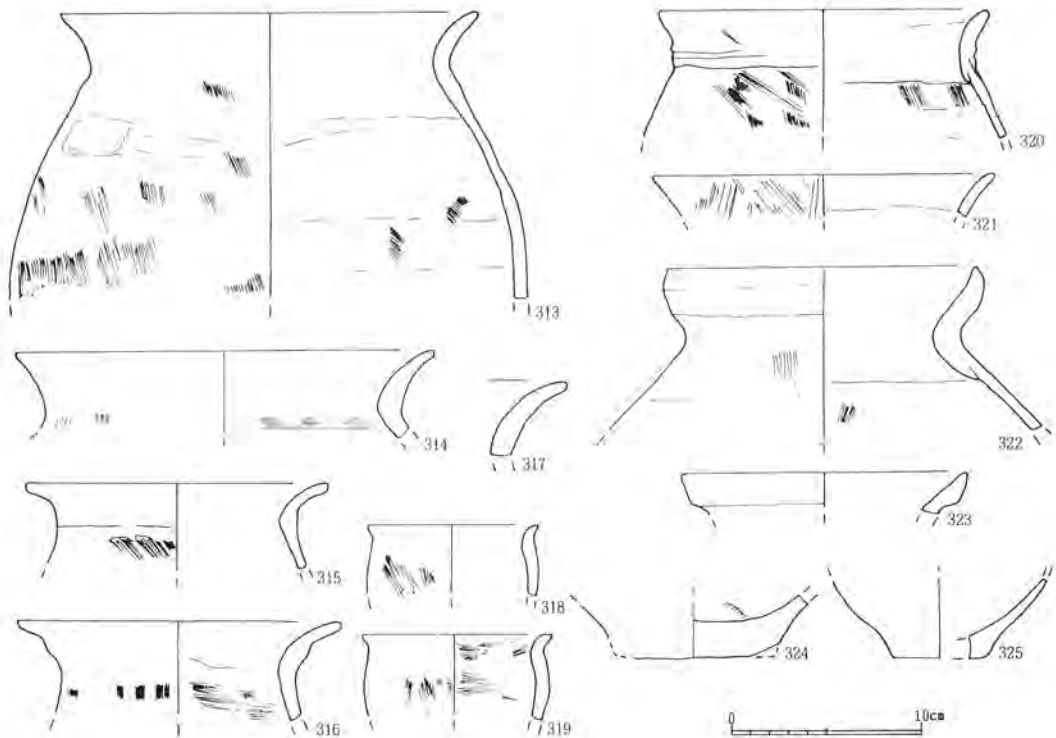


第58図 SK-1号土坑出土土器1

SK-1号土坑 (第58・59図 図版26)

埴 E類、口縁部A・B類がある。296はやゝ歪むものであり、297は無分類としたがB類に属しよう。口縁A類は4点あり口径8cmに揃いセット関係を想わす。これらを含めて47点が検出されている。

高坏 A-1、B-1・Ⅱ、脚部A-Ⅱ・Ⅲ、B-Ⅱ・Ⅲがある。304は篋削り調整、306は腰部及び器内共上方へ向って篋磨きが顕著である。299は繫のコマを中心に八葉花卉状に指圧痕が展開する。



第59図 SK-1号土坑出土土器2

308・305に見られる内壁の縦襞は絞り技法によるものと考えられる。確定できる個体数8個、その他坏部片113、脚部片30点が検出している。

鉢 A-Ⅱ、Ⅲ、Eが見られる309はE類とした仏餉鉢形で口縁部をつまみ出し、体部は篋磨きが施されている。A類のうち310は篋調整の体部と指押えによる口唇部が見られ、311は刷毛による条痕をもつ有孔鉢である。312は底面にも刷毛による条痕が施されている。

甕 A-Ⅳ、B-Ⅰ・Ⅱ、D-Ⅱ類がある。317は口径32cmと推定される大型である。個体数11、口縁部38、底部9、胴部片279点が出土した。

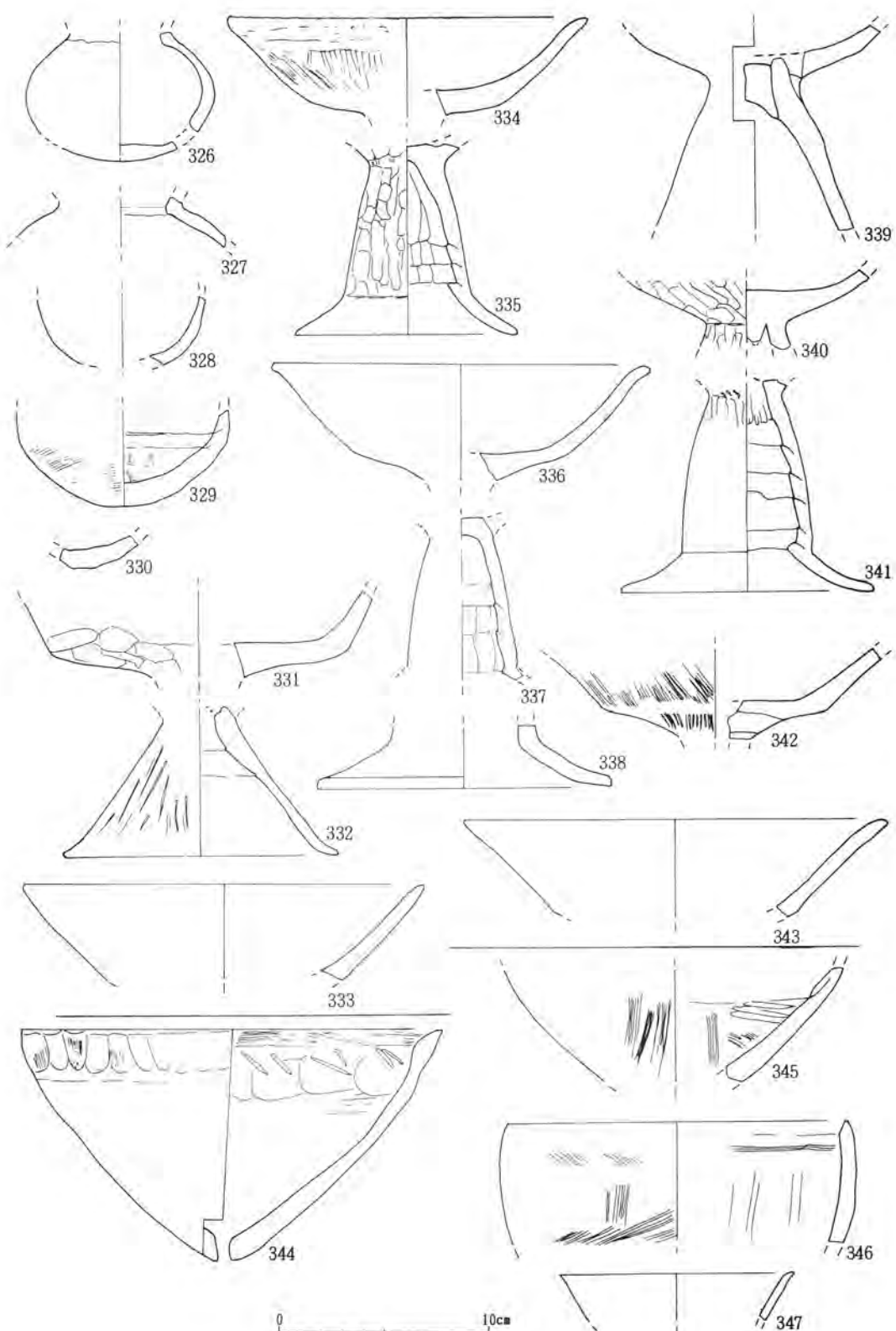
壺 322のD-Ⅱ類、323はC-Ⅲ類に部類する。

SK-2号土坑 (第60、61図 図版26、27)

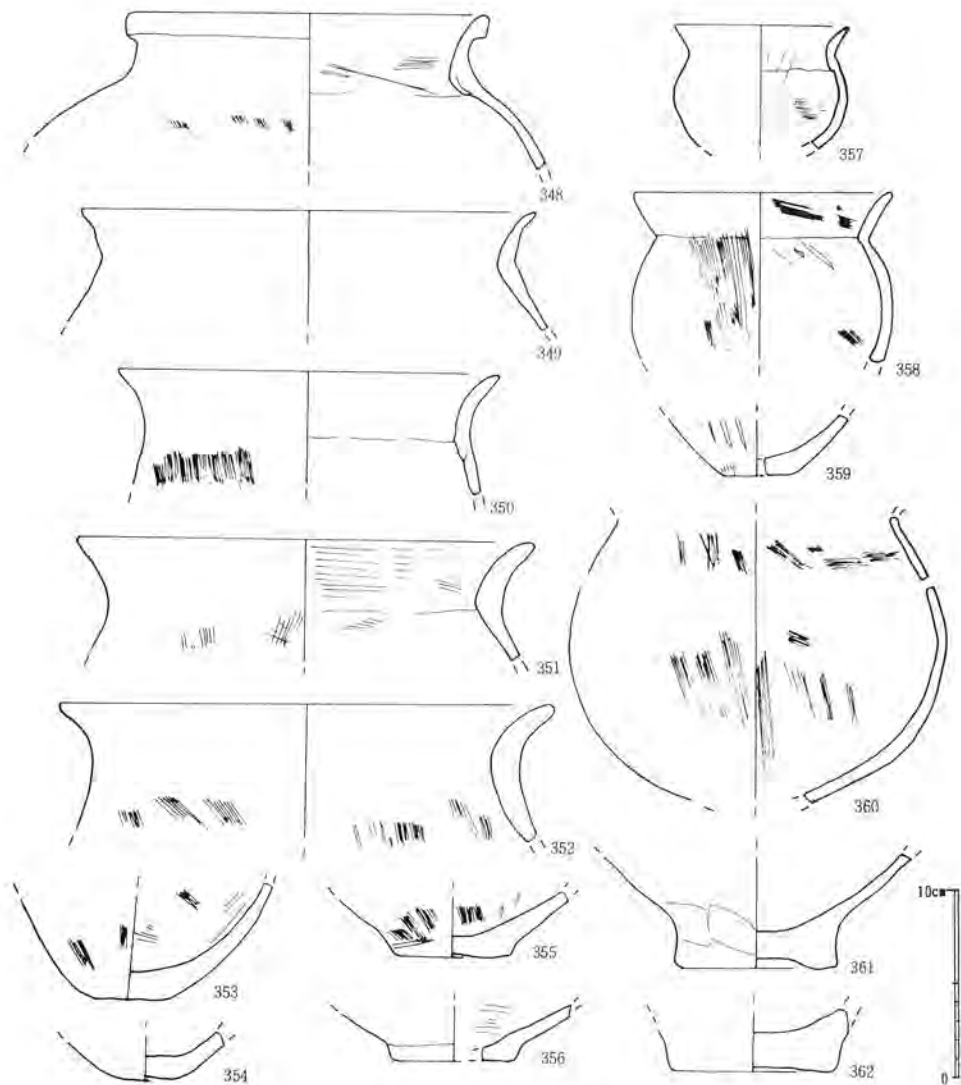
埴 B類の326の他は確定できないが、328・329共B類と推定される。326・328共内面を撫上げている。図示した5点の他に7点の破片がある。

高坏 A-Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、B-Ⅰ・Ⅱ、脚部A-Ⅲ、B-Ⅱ類がある。339は脚部A-Ⅲに分類したが、僅かに残存する坏部もA類である。331は篋削り、335・340の篋磨きは顕著である。図示したものを含めて個体数25個の他、坏部片103、脚部片56点が検出された。

鉢 A-Ⅰ・Ⅲ、B-Ⅱがある。344は内外共に指押さえによる花卉状文が見られ、345は内外共篋調整による有孔鉢である。



第 60 图 SK-2 号土坑出土土器 1



第61図 SK-2号土坑出土土器2

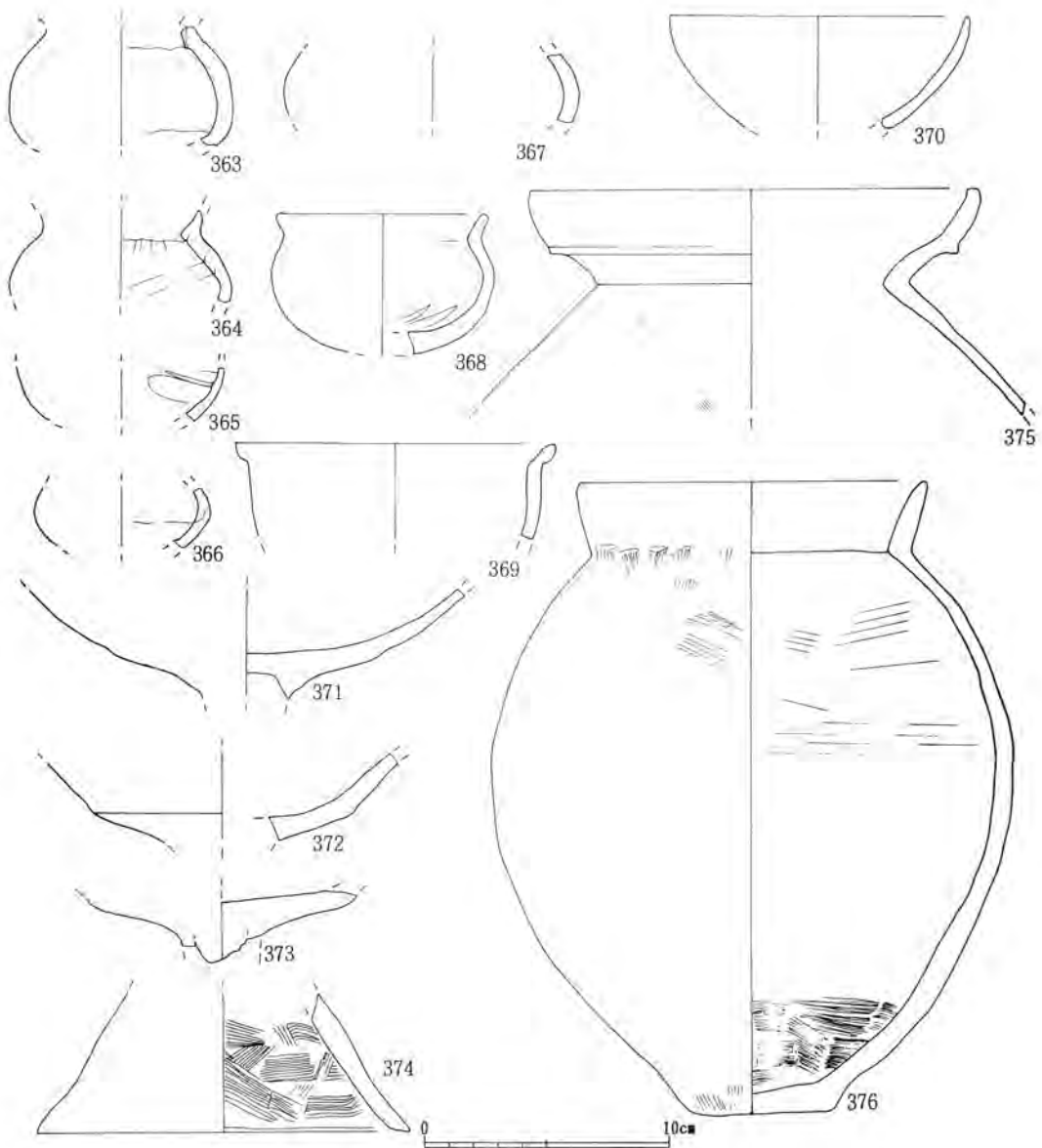
甕 A-v、B-1、D-1、Ⅱが見られる。360は口縁・底部を欠くが球状で266に見られる小さな底部を有したものと推定される。357はD-Ⅱ類としたが、むしろ壺B-1に属するものかも知れない。これらを含めて個体数13個、口縁部37、底部11、胴部片613点がある。

その他 坏と壺がある。347は坏でB類に属する細片である。348は大型器で口唇部の立上りがやや少ないが一応C-v類に分類した。

#### SK-3号土坑 (第62図 図版27)

埴 A、D類がある。363・364は下脹れのD類、366・367は細片だがA類に属するものと思われる。図示した5点を含めて22片を数える。

碗 第62図はスペースの関係上369・370が離れた位置となる。369はB、370はAに分けら



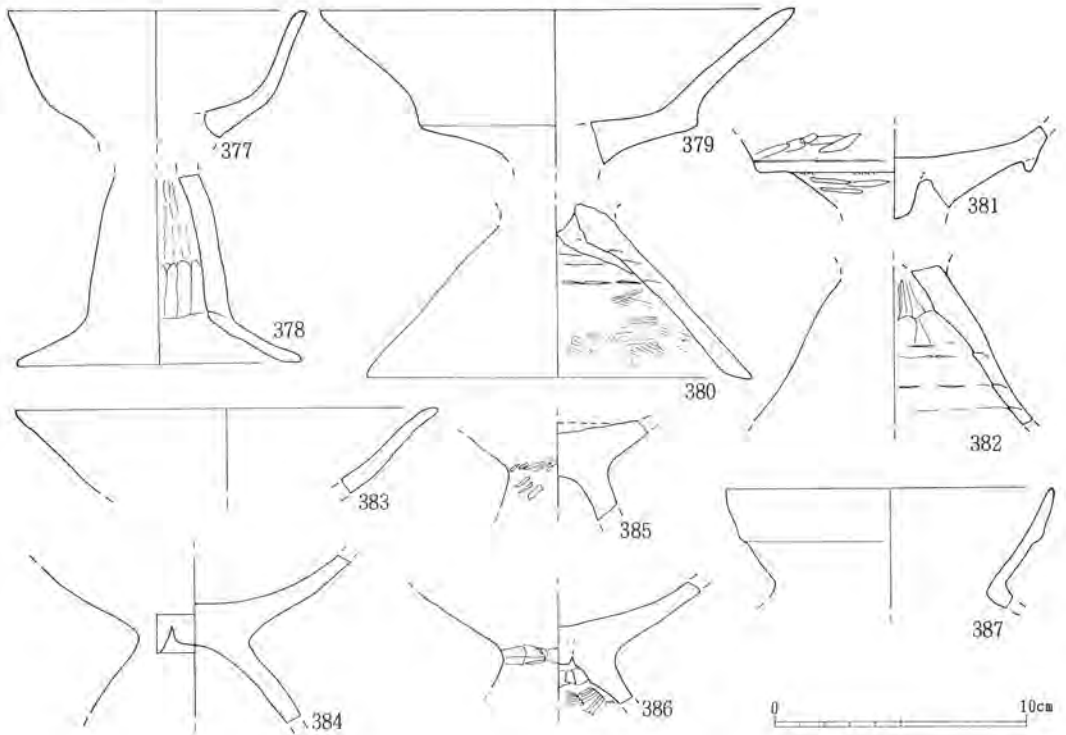
第62図 SK-3号土坑出土土器

れる。後者は横位の篋磨きが施されている。

壺 368のB-i類と375のC-i類のみの出土である。368は内底を棒状工具によってひねりを加えている。375は受口状に延びる長い口縁に稜をつまみ出した稀少のもので、口縁内側も篋磨きが施されている。

高坏 372・373のA-v類、371のB-ii類、脚部A-i類の374がある。371はごく僅かではあるが段差をもつ稜が見られ、器面は回転させたヨコナデが顕著である。確認個体数3個の他坏部片31、脚部片5点がある。





第63図 SK-4号土坑出土土器

甕 図示できるものは376の1点のみでA-Ⅱ類に部類する。腰部に大きな壺がある。この他口縁部21、底部5、胴部片250点が検出された。

SK-4号土坑 (第63図、図版27)

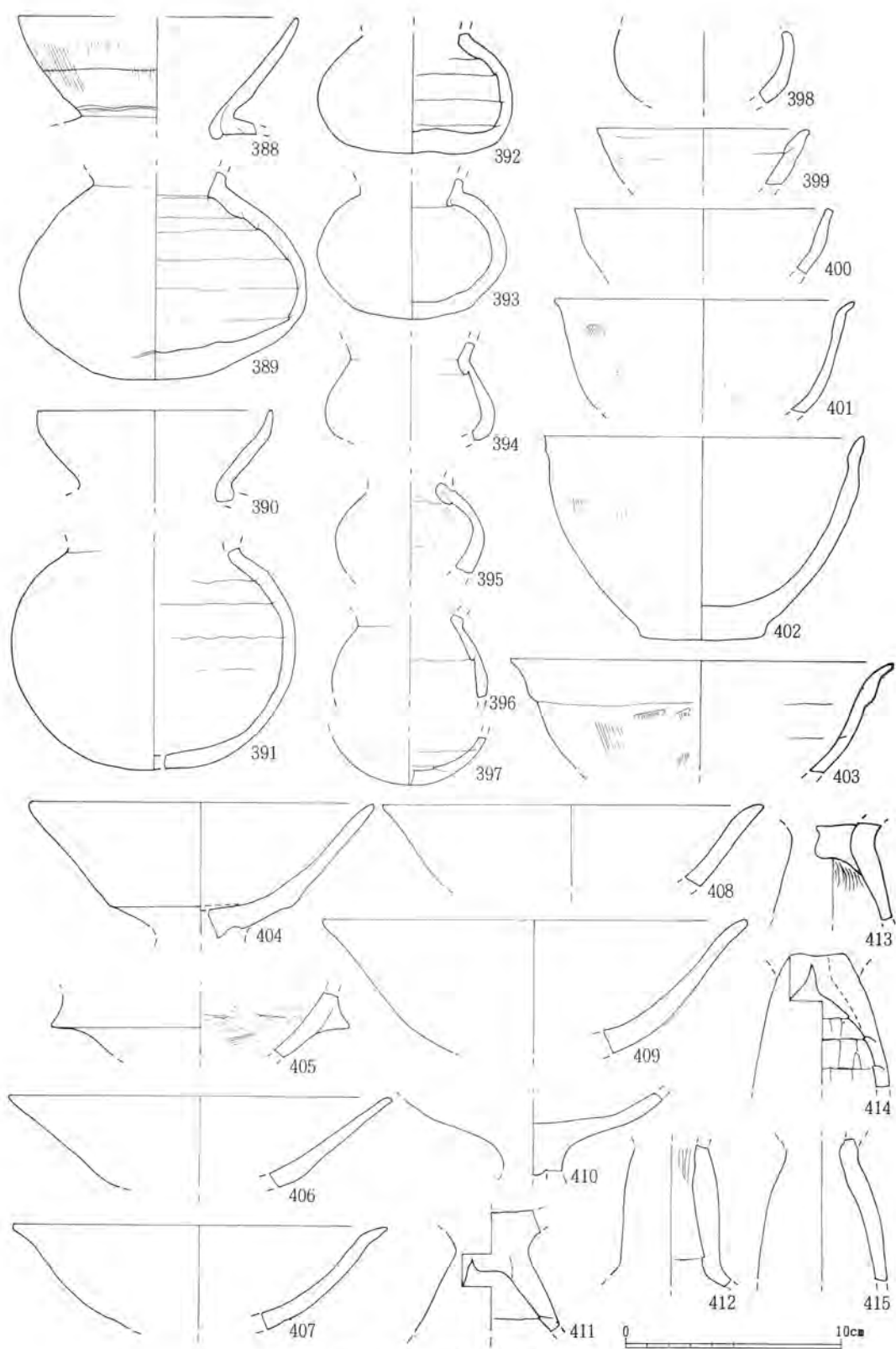
高坏 A-Ⅳ・Ⅴ、B-Ⅱ、脚部A-Ⅰ・Ⅲ、B-Ⅱなどがある。377や、外反ぎみの深い器壁をもつ碗形の坏部で口径も12cmと小さいものである。379・381は共に坏部の稜にその特色をもつもので、前者は大きく張り出す稜が垂下がるものである。無分類である384・386は坏部はB類、脚部はA類の開脚を呈し、385は坏部は大目に見てB類、脚部はB類を呈する。380は正三角形に近い開脚を呈する。確認できた個体数は12個、その他坏部片25、脚部片4点である。

その他 図示できるものは387の壺のみである。この他甕胴部片107点がある。いまこれらの器種組成は破片数ではあるが高坏の27.5%と異状に高い数値となる。

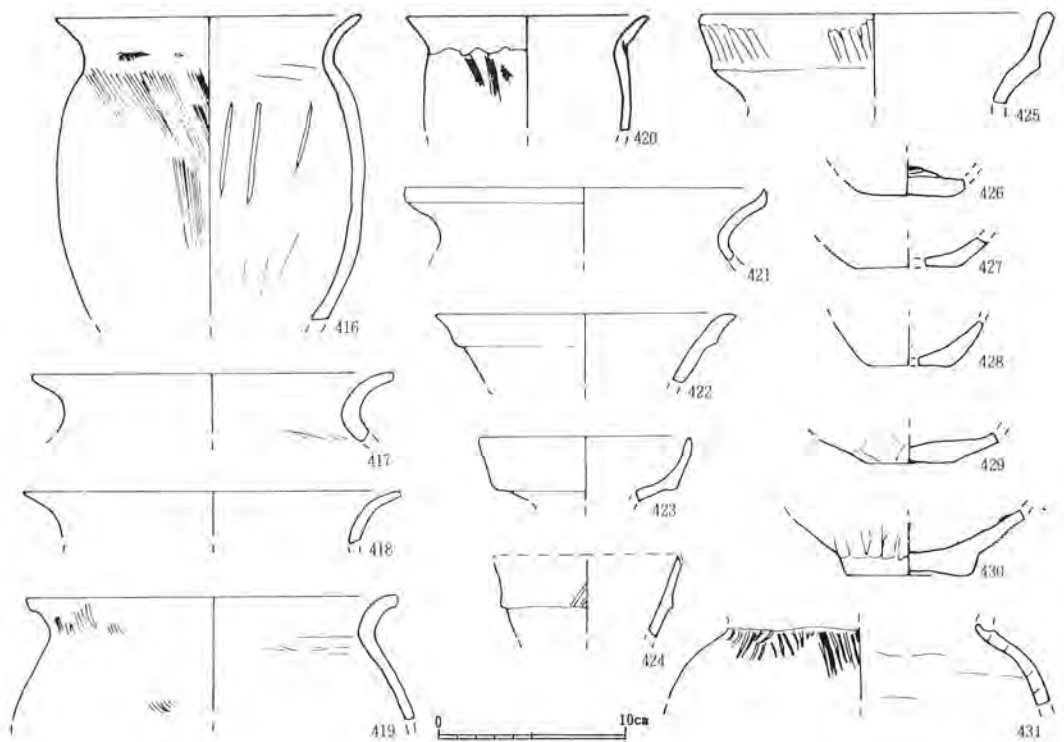
SK-5号土坑 (第64、65図 図版28)

罎 推測のものもあるがA類398、B類391・393・395の他397・398、D類392・394・396の複数のものがあり、口縁部A類388・390がある。これらは図示した如く大小様々である。技法として393・395の指又は工具によるひねり上げと、396の絞り寄せによる肩部の成形が見られる。これらを含めて67点を見、組成率11.2%と大きい。

坏 399・400と坏A類がある。前者は口唇部をつまみ出し、後者は面をもつ。



第64图 SK-5号土坑出土土器1



第65図 SK-5号土坑出土土器2

碗 B類の401が唯一である。

鉢 402のF類、403のD類がある。

高坏 A-II・IV、B-I・III、脚部A-II、B-II・III類がある。405の稜は水平状に張り出す張紐から成る。

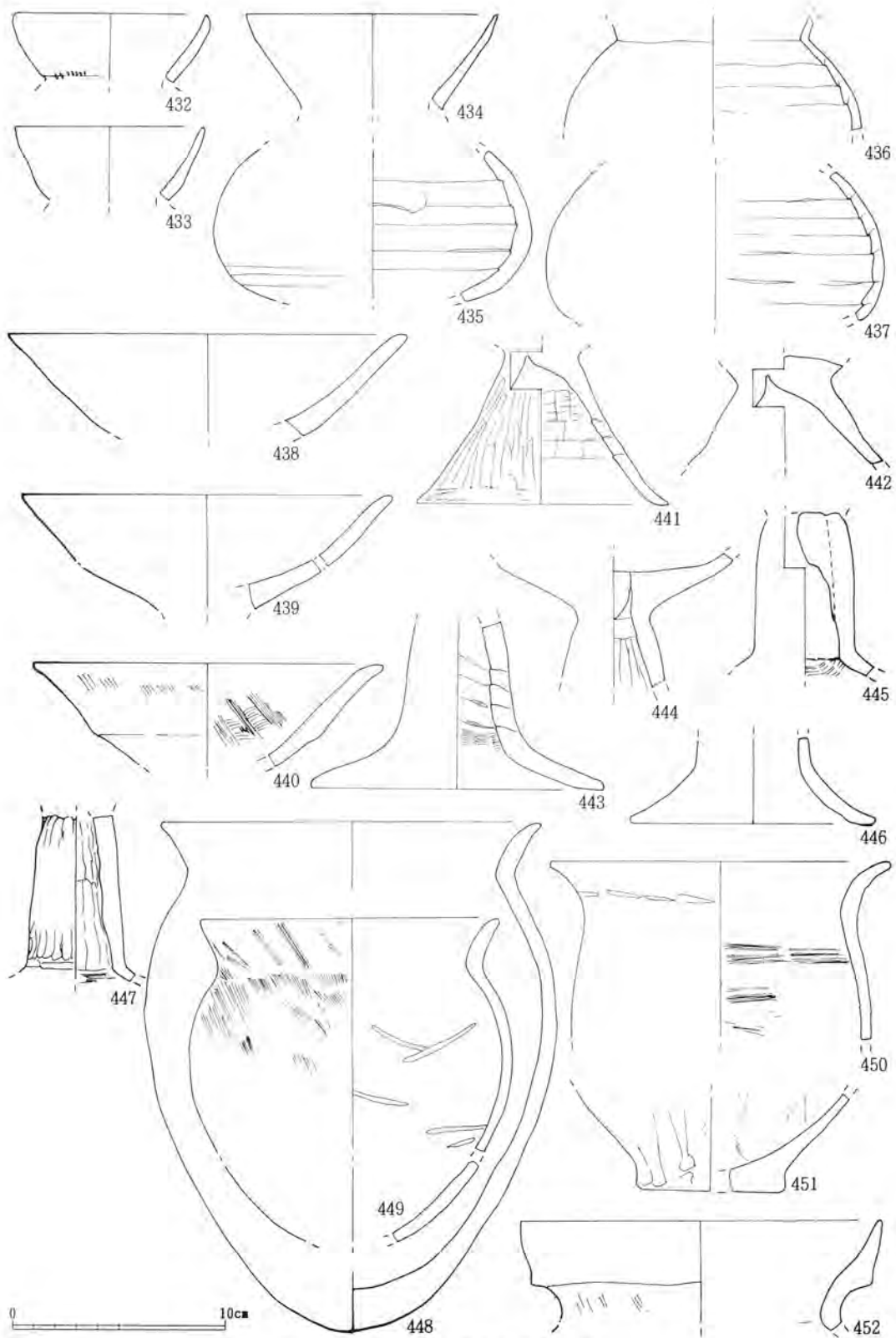
甕 A-IV、B-I、C類がある。416はB-I類に属し、内壁上半に刻線が見られ、下半は篋調整が見られる。417、418は細片であるが、前者がA-IV類、後者はC類の特徴を知ることができる。419はA-IV、420はC類に部類する。7個体の他口縁部44、底部9、胴部片363点を数える。

壺 C-I・II・IV、D-II類がある。421のD-II類、422・424のC-IV類、423のC-II類、425のC-I類などそれぞれ稀少のものである。

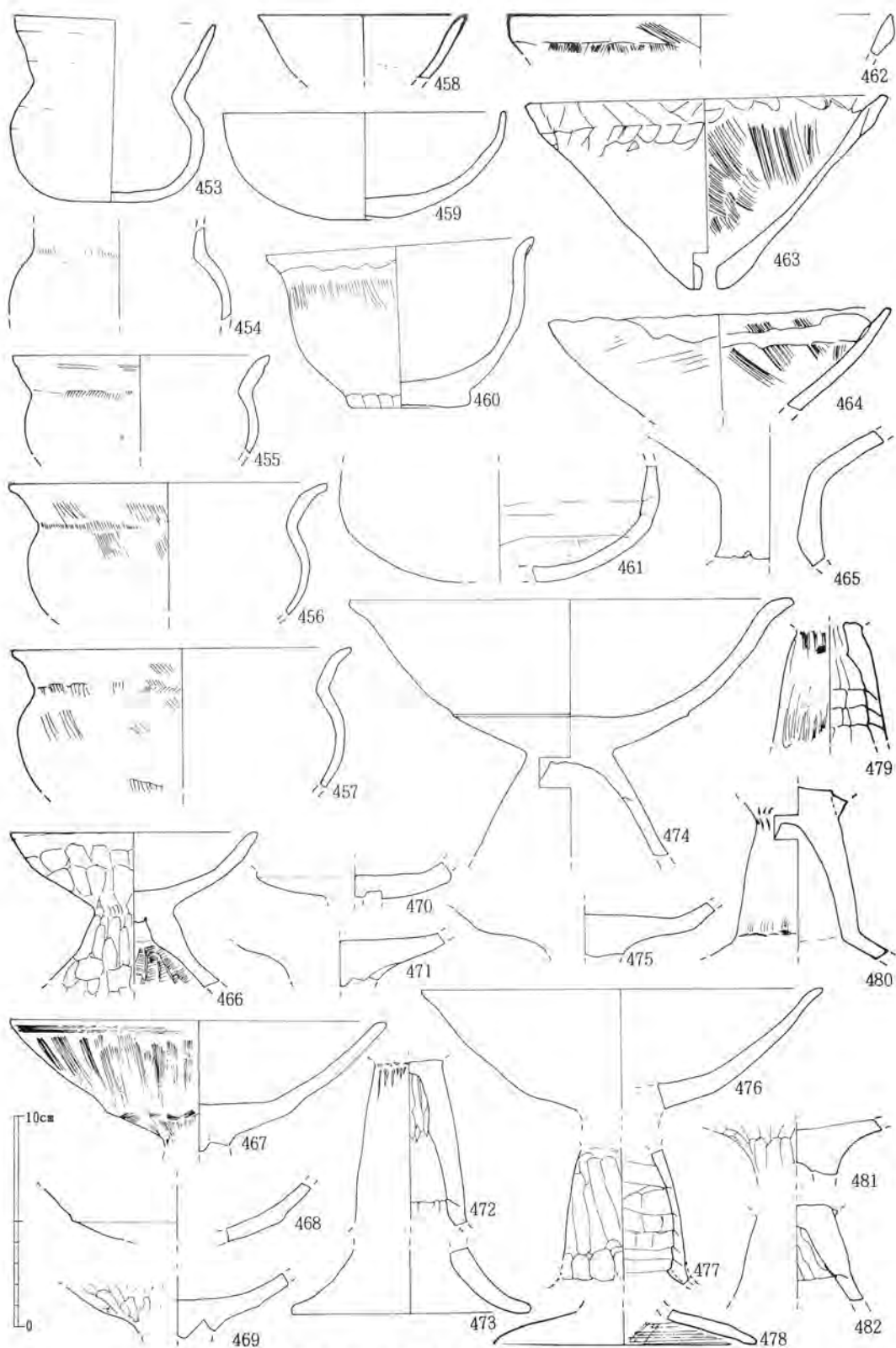
SK-6号土坑 (第66図 図版28・29)

埴 A・D、口縁部A・Bがある。434の口縁部Aは435体部Aと同一個体の可能性が大きい。436は無分類に属したが437同様D類に分類すると思われる。共に器肉が薄い。これらを含めて34点の出土がある。

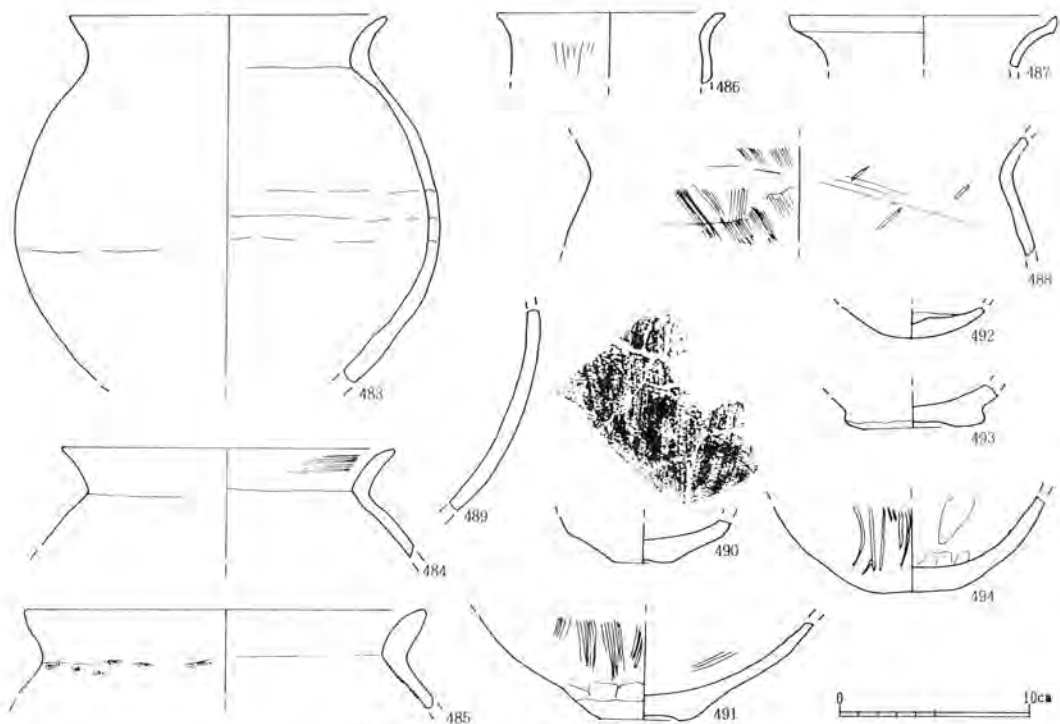
高坏 A-I、B-I・III、脚部A-I・III、B-II・IIIがある。445・447はB-II類、無分類の446はB-I類の可能性が大きい。坏部37、脚部14点がある。



第 66 图 SK-6 号土坑出土土器



第 67 图 SK-7 号土坑出土土器 1



第68図 SK-7号土坑出土土器2

甕 448のB-1、449のA-1、450のC類がある。449は内壁にU字状の沈線が全体に見られる。451は腰部の篋削りが顕著である。個体数3の他口縁部7、胴部片409点がある。

壺 452のC-1類が唯一のものである。

SK-7号土坑 (第67・68図 図版29・30)

埴 453のE類1点のみの図示である。胴部の篋削りに特色を見る。この他細片20点がある。

壺 B-1類が4点、D-1類1点がある。454は細片のためや変形であり埴Eに類似する。

坏・碗 458の坏B、459の坏A類、460の碗B類とがある。

鉢 A-1、E類がある。461は口縁部を欠失しているが内反するものとしてE類とした。内底に放射状の刷毛による条痕を有する。462~464は有孔鉢であろう。463の口縁部の粘土の指ひねりは顕著である。464の内壁は刷毛調整後に粘土をしている。

高坏 A-1、N・V・W、脚部B-1、H・Iの他A類もある。466は分類上B類に属するものである。いま口径11.7cmと小型でありV類とした。稜に特色をもつIV類に468・470・474がある。470は稜部で破損しているが468と共に段差を造り出す形態であり、474は基本的にはB類の湾曲する坏の腰部を僅かに削出すことに依って稜を表現した特異なものである。なお当資料は開脚であるA類の脚をもつ。467に施された刷毛目は顕著である。個体を確認できるもの24個、その他坏部片67、脚部47点がある。

甕 A-Ⅳ、C類がある。無分類の488はB類に属するもので異状に大型である。個体数8、口縁部36、底部7、胴部片686点を数える。

SK-8号土坑 (第69~71図 図版30・31)

埴 496のA類の他は無分類としたが、495は底部を欠失しているが縦長でC類に類似する。図示した4点の他、細片2点が出土している。

碗 500はA類で完形である。篋調整によるが凸凹が多い。499・501はB類である。

鉢 A-Ⅰ・Ⅱ、D、C-Ⅰ類がある。502は底部を欠失しているが胎土や口縁部の指押え文などからA類に属する。504はA-Ⅱ類で篋削りによる六面体の底部をもち、穿孔は中心からはずれた端隅に位置する。505は細片であり孔部を見ないが一応有孔鉢と考えられる。506はC-Ⅰ類である。器表面に篋磨きが施され光沢をもつ。

高坏 A-Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、B-Ⅰ・Ⅱ、脚部A-Ⅱ、B-Ⅱ・Ⅲ類がある。507・508は接点はないが共に小型であることや篋磨きによる同一技法などから同一個体と做される。坏部はB-Ⅲ、脚部はA-Ⅱ類である。513の脚はB-Ⅱ類であるが裾部が反り上り接地しない唯一のものである。確認個体数9個で坏部片95、脚部片35点を数える。

壺 C-Ⅰ・Ⅳ類に分けられる。この内530はやゝ古式の譜系を引くものである。

甕 A-Ⅲ・Ⅳ、BⅠ・Ⅱ類がある。図示したもの他口縁部41、底部16、胴部片574点がある。

SK-9号土坑 (第72図)

埴 548・549は共に大型で、無分類のNで標示しているがB類に属するものと考えられる。なお前者は細片のため胴径に不安が残る。総数21点がある。

甕 550はB-Ⅰ類である。551は甕の底部で丸底の内にやゝ楕円の平坦部が造り出されている。口縁・底部片17、胴部片80点がある。

その他 図示できないが高坏の坏部片12、脚部片4点がある。

SK-10号土坑 (第73図 図版32)

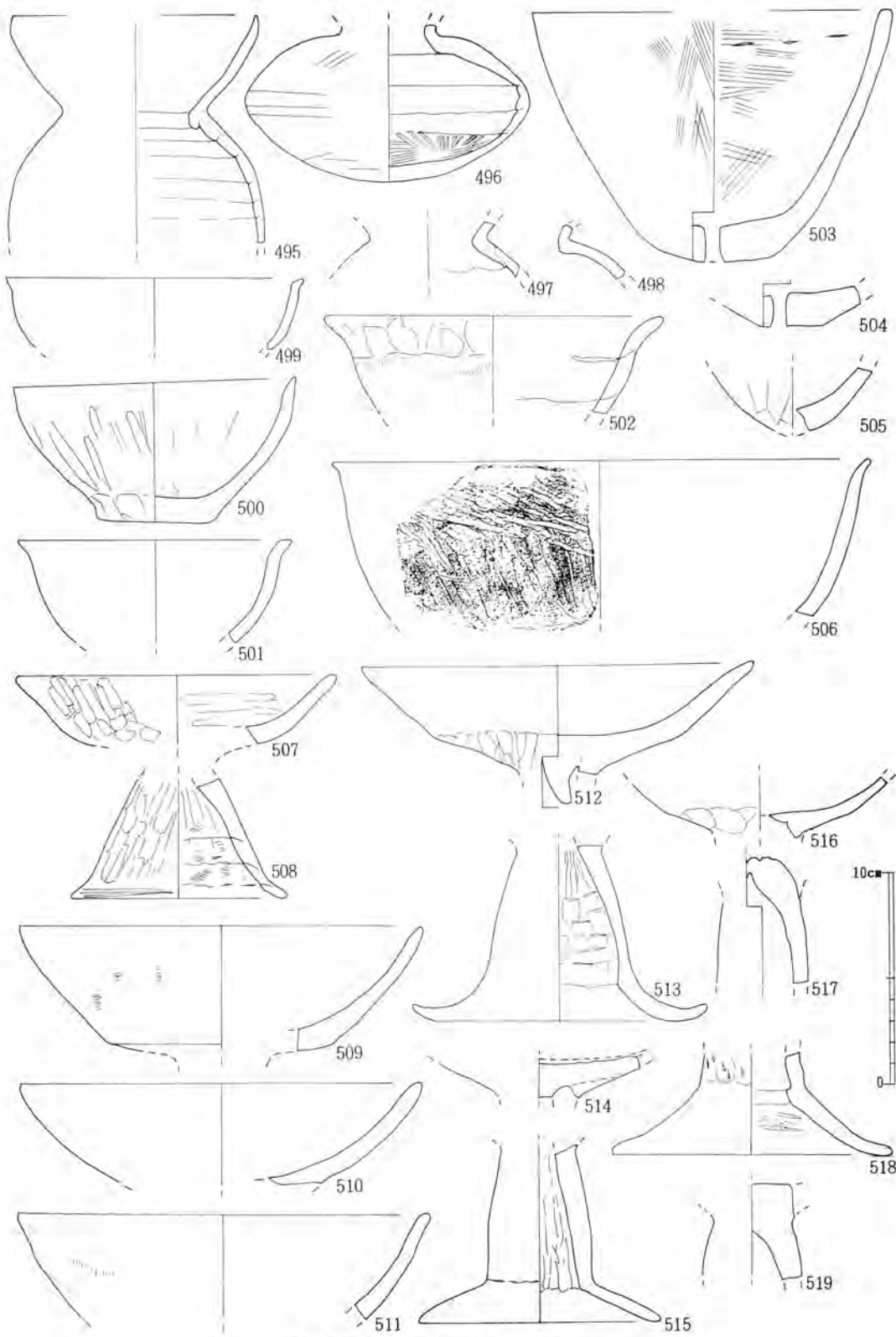
遺構の一部分のみの発掘で遺物は少ない。

埴 口縁部A・C類の他は分類できない。

高坏 A-Ⅰ、脚部B-Ⅱ類の各1点を見る他、坏部6、脚部5点がある。

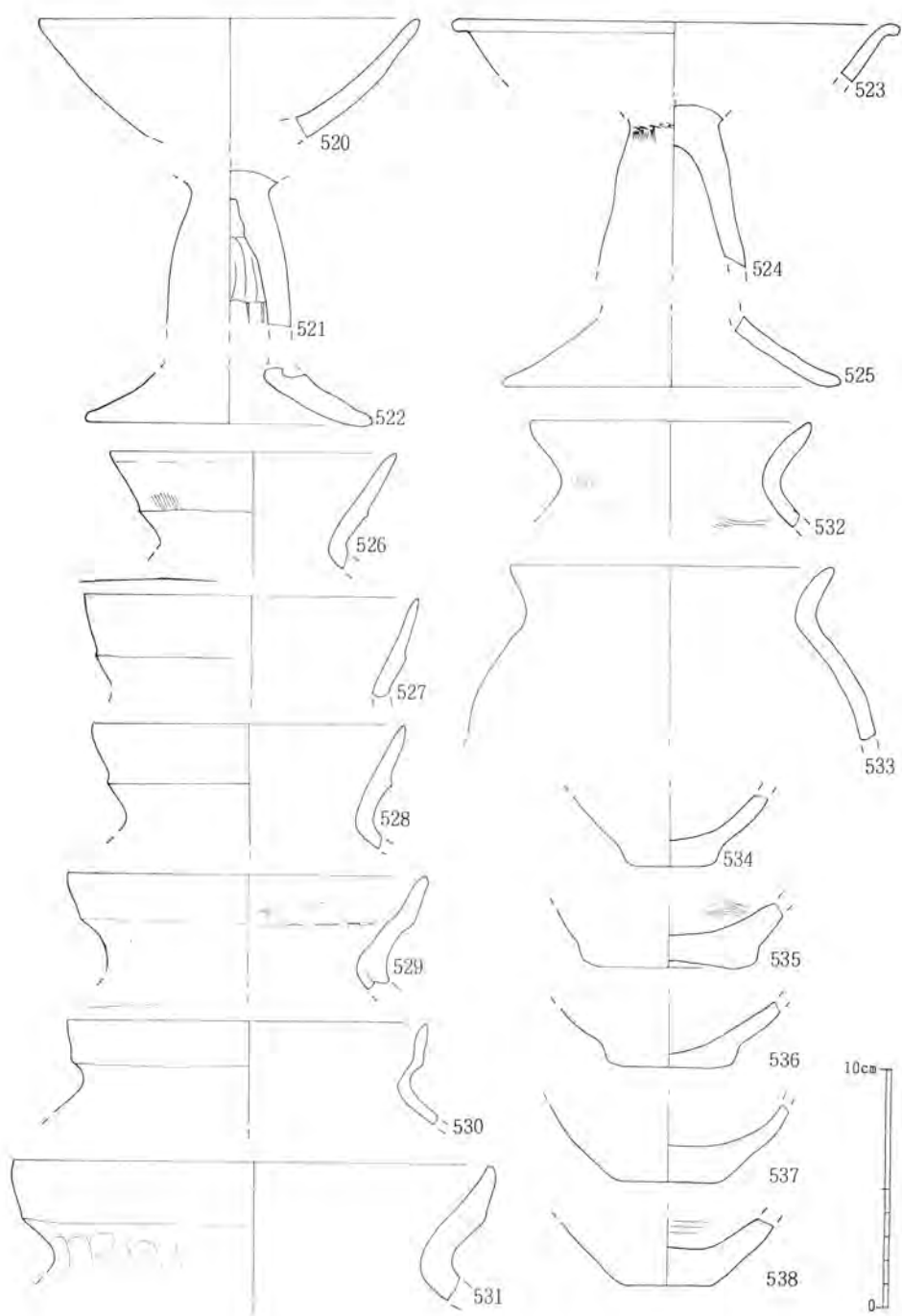
甕 B-Ⅱ、C類557・558の他口縁部4、底部1、胴部片118点を数える。

その他 559は壺C-Ⅰであり、561は有孔鉢と見られA-Ⅱ類、562は碗である。

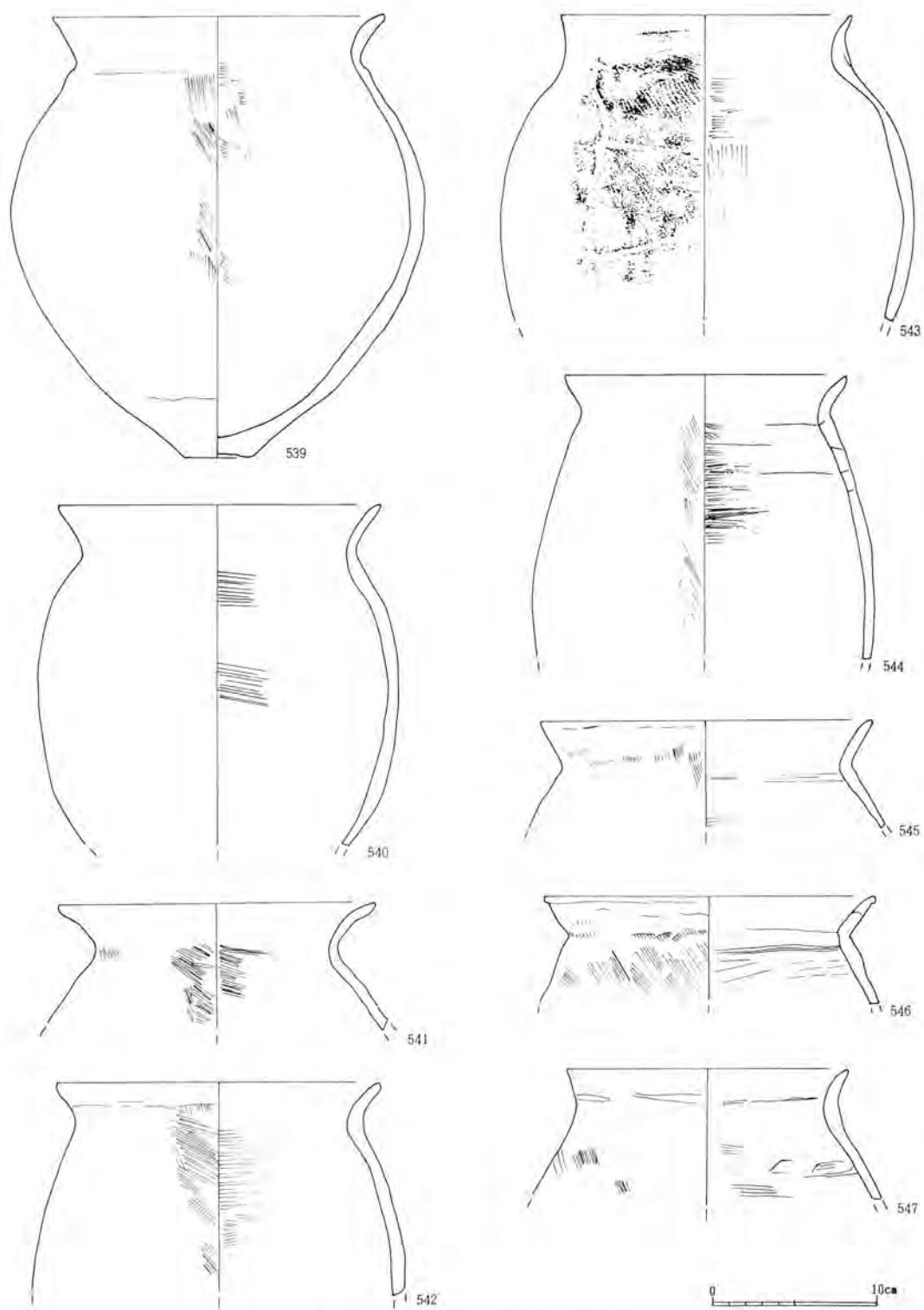


第 69 图 SK-8 号土坑出土土器 1

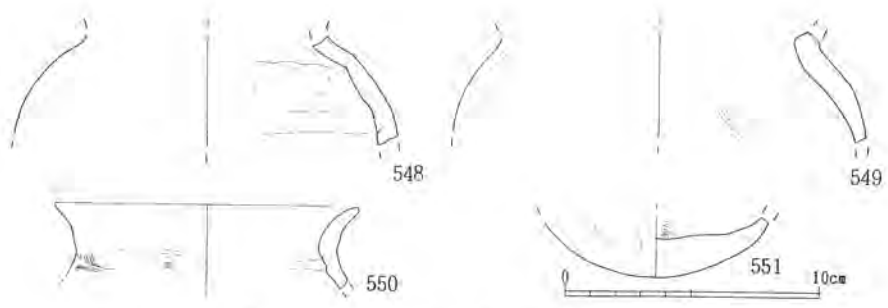




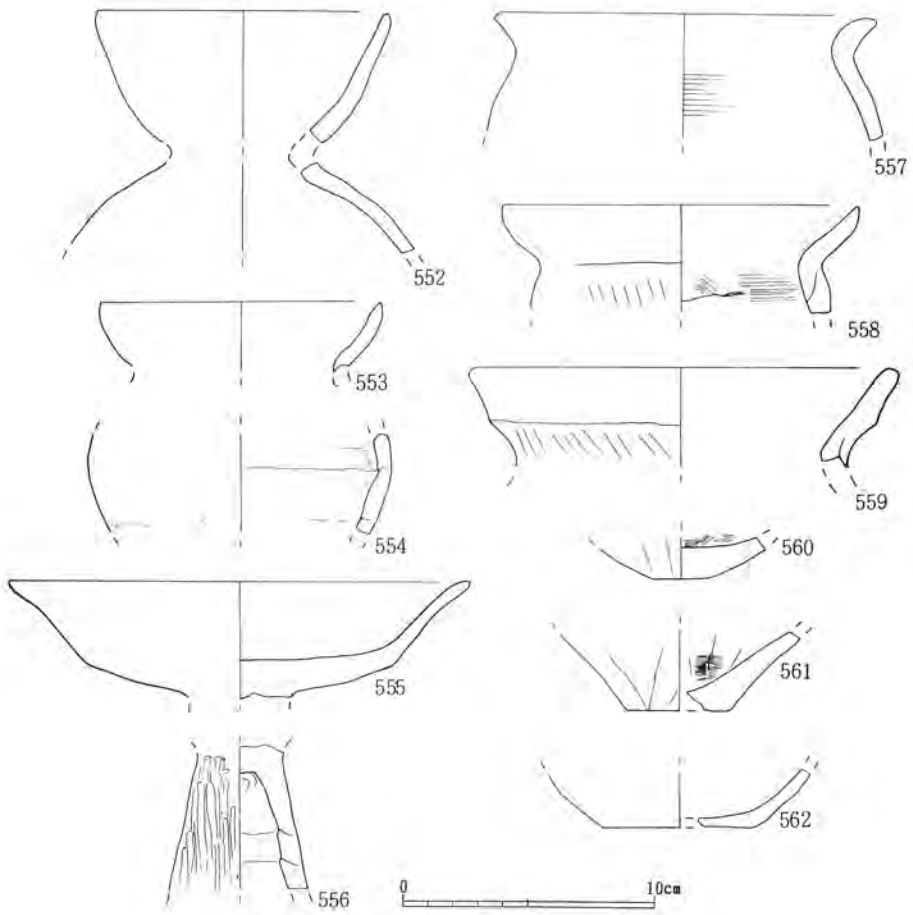
第70图 SK-8号土坑出土土器2



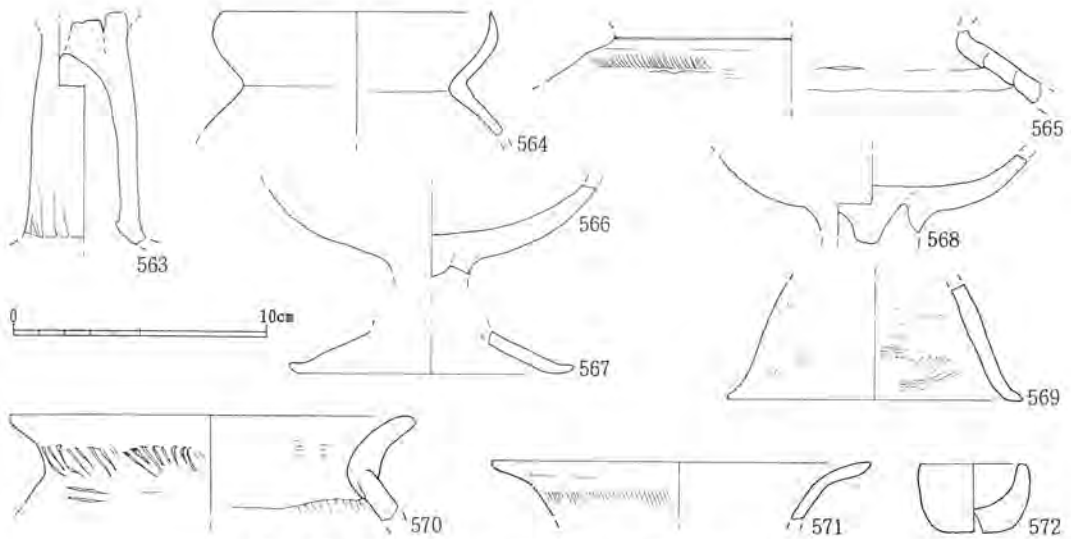
第71图 SK-8号土坑出土土器3



第72图 SK-9号土坑出土土器



第73图 SK-10号土坑出土土器



第74図 SK-11号・12号・13号・14号土坑出土土器

(563=11号 564~569=12号 570=13号 571・572=14号)

SK-11~14号土坑 (第74図 図版32)

SK-11号 563の高坏脚部B-II類の他坏部3点、甕片23点がある。

SK-12号 564はD-II類の壺で、565は壺の肩部であるが無分類である。高坏はB-IV類2点と脚部B類とA-II類の4点の他2点がある。その他埴5点が検出されている。

SK-13号 図示できたのは570の甕B-II類の1点のみにすぎないが、埴13点がある。

SK-14号 571は鉢D類である。572はミニチュア土器である。この他高坏片2、甕片23点がある。

SK-16号土坑 (第75図 図版32)

高坏 A-I、II、脚部B-IIがある。576・577は全容を知り得るもので坏部は共にA-II類で脚部は前者のA-II類、後者はB-II類に分かれる。578の脚部はB-II類に属し、中間部に貫通はしていないが穿孔が見られる。これらを含めて坏部38、脚部13点を数える。

甕 図示したものを含めて口縁部29、底部9、胴部片340点がある。583・584共にB-I類、585はA-IV類である。

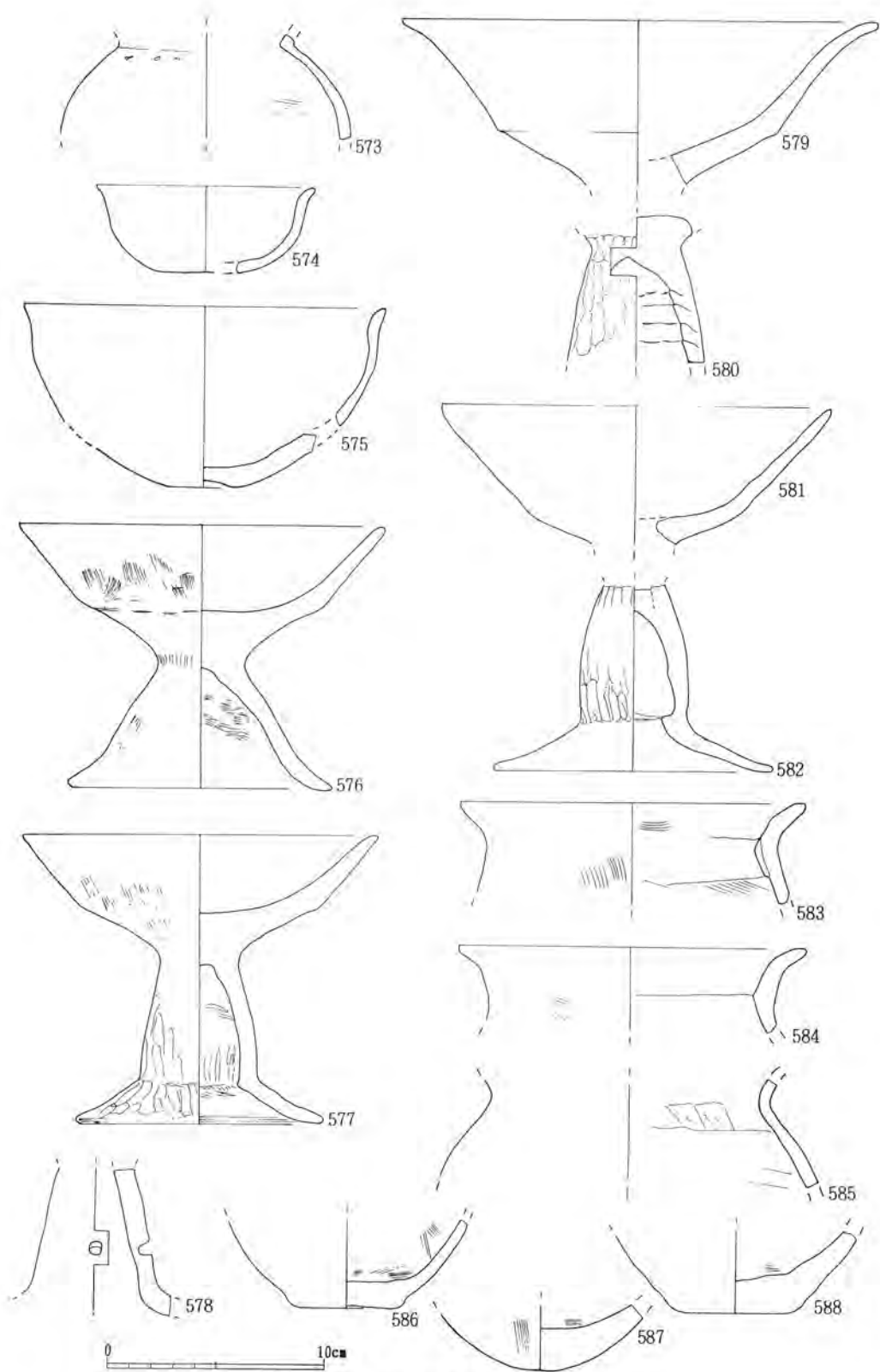
その他 573の埴はB類と思われるが一応無分類とした。この他3点がある。574は坏B類、575は鉢C-I類である。

SK-19号土坑 (第76図 図版32・33)

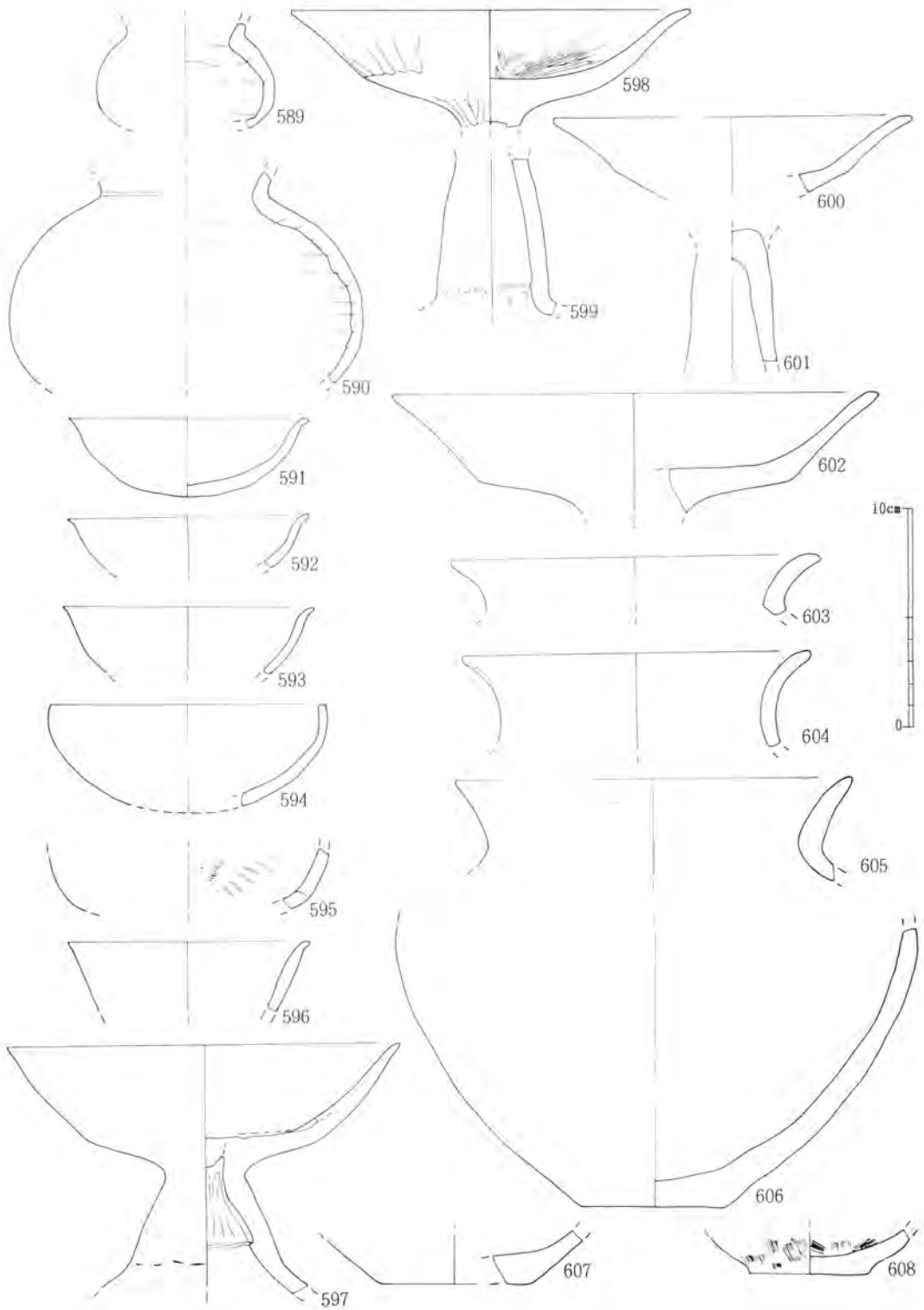
埴 589のD類、590はA類で大型の器である。総数18点の出土がある。

坏 594のA類の他、591~593のB類3点と、その他2点がある。

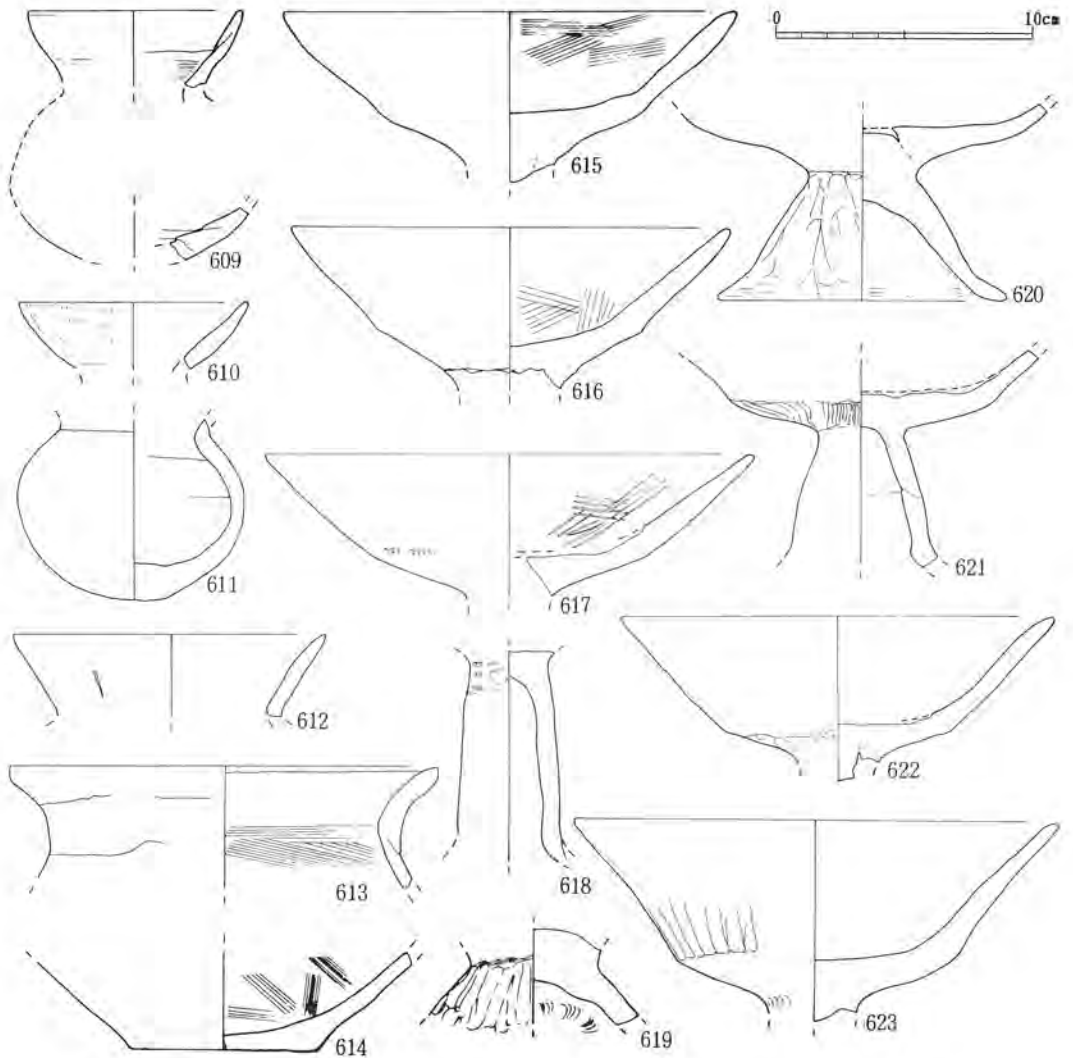
碗 596は細片だが碗であろう。一応B類に分類した。



第 75 图 SK-16号土坑出土土器



第 76 图 SK-19 号土坑出土土器



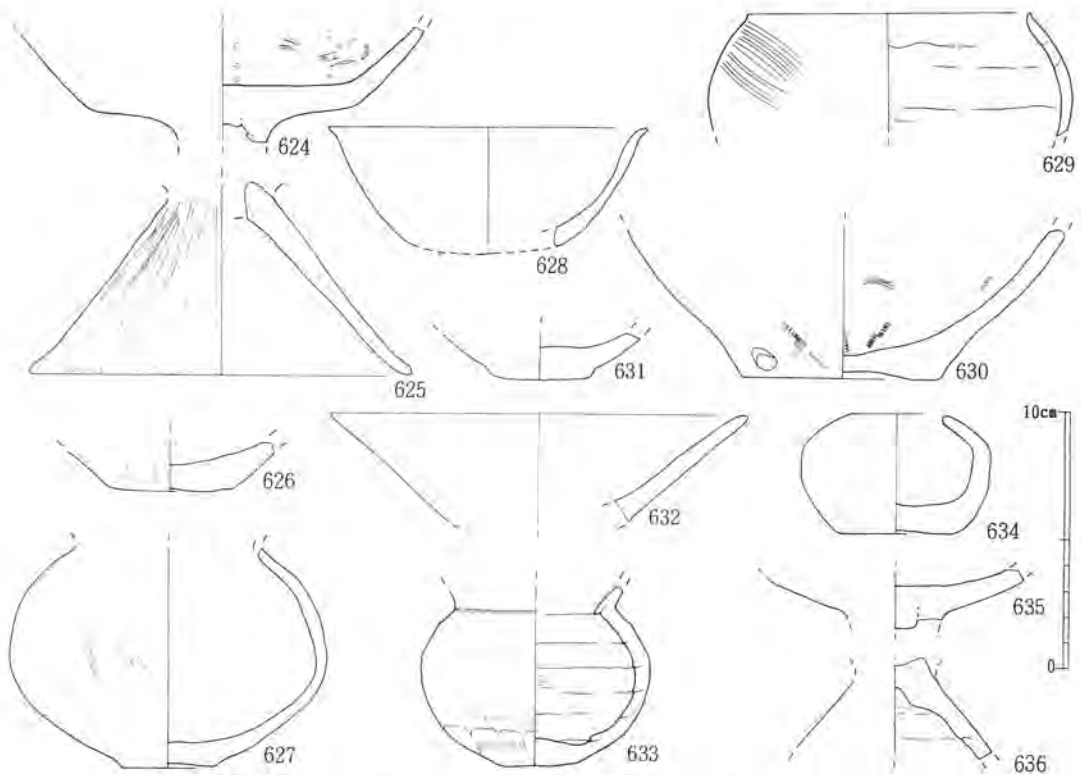
第77図 SK-20号土坑出土土器

高坏 A-1、B-1・II、脚部B-II・IIIからなる。600・602はA-1類、598はB-II類、597はB-I類でA類の開脚をもつ。なお597は器内底部が剥離していることから器台として使用されたことが推測される。個体数4点が確認され、坏部総数31脚部数20点が検出されている。

甕 603はA-w類、605は606と同一個体でA-III類に属するものである。個体数4点の他口縁部15、底部2、胴部片208点がある。

SK-20号土坑 (第77図 図版23・24)

罎 A・C、口縁部A・C類がある。609の体部は腰部の細片だが、残存率3/12で口縁部と共に形態が推測されA類に分類することができる。611は平底を造り出すC類である。内底部を棒状工具で放射状のひねりが施されている。口縁A、Cを図示したが、総数43片の出土を見た。



第78図 SK-21号・22号・24号・25号・26号土坑出土土器

(624~626 = 21号 627 = 22号 628~630 = 24号 631・632 = 25号 633~636 = 26号)

甕 613のB-<sub>1</sub>類が図示できたがその他口縁・底部片20、胴部片131点であり、埴の出土比率から見ると少量である。

高坏 A-<sub>1</sub>・<sub>2</sub>、B-<sub>1</sub>・<sub>2</sub>、脚部A-<sub>1</sub>・<sub>2</sub>、B-<sub>1</sub>・<sub>2</sub>類から成る。620・621は脚部の分類を行ったが、坏部に対し前者はB類、後者はA類であることが分る。なお621は内底部の剥離から器台に転用されたきらいがある。623はA-<sub>1</sub>類だが非常に深身の坏部を残す。個体数7点の他坏部片38、脚部片10点を数える。

SK-21・22・24~26号土坑 (第78図 図版34・35)

SK-21号 図示した高坏2点の他坏部6、脚部1点がある。624はA-<sub>1</sub>、625は脚部A-<sub>1</sub>類である。甕底部1点を図示したが総数50点の細片が出土している。

SK-22号 図示できたものは627の埴C類1点に留まった。腰部に篋調整が見られる。この他甕片14点がある。

SK-24号 628の坏B類、629の鉢E類、630の無分類の甕の他21片がある。高坏も細片19点を検出した。

SK-25号 631の甕と632の高坏B-<sub>1</sub>類を図示した。これを含めて高坏の坏部片8点、甕片39点がある。



SK-26号 633の埴C類、634は壺で大きく口縁をつぼめる形態のもので唯一のものであり、無分類である。635は高坏B-Ⅳ、636は脚部A-Ⅲ類である。これらの他甕片30点が出土している。

#### その他の遺構

多数のピット群の内9基から少量の土器が検出されている。表2に示した如くPit6の高坏7片の他は総て甕片に限られた。また、SE-2号井戸よりも甕片が出土している。

#### B 遺構外出土の遺物

##### 埴 (第79~81図 図版35・36)

割付番号637~731の95点を図示したが、総数1,143片の出土量がある。A類8点、B類18点、D類9点、E類6点、口縁部ではA類9点、B類14点、C類3点がある。この他体部と口縁部の形態関係では662・673が体部Eに対しC類の口縁部をもち、670は同様にA対A、674・690はB対A、665・675はD類特有のC類の口縁を呈する。

成形技法については輪積み技法と手びねり技法とに分けられる。大方が前者であるが後者では666・675・679がある。2次的調整としては器内器外面とも刷毛目調整、篋削り、篋磨きの他器内の指調整が見られる。なお内外部共成形痕を消し去って成形方の不明な706なども見られる。また多くのもにスリッ即ち化粧土が施されている。

##### 坏 (第81図 図版36)

732~741の10点が総てである。A類5点、B類5点であり、内湾するものが殆どであるが外反する737もある。これらは残存率12分法の1~2.5に留まり、さらに底部を見るものもなく云々しがたい。

##### 碗 (第81・82図 図版36・37)

742~752の11点が総てである。B類とした2点の他はA類である。削り出された高台状の平底を呈するものと平坦な平底とが見られる。概して器肉の厚いものが多い。

##### 鉢 (第82・83図 図版36・37)

753~787の34点がある。A-Ⅰ類2点、A-Ⅱ類2点、B-Ⅰ類2点、C-Ⅰ類11点、C-Ⅱ類5点、D類4点、F類2点がある。これらの内C類に属するものは碗類と区分ができないものも多い。784は漆と思われるピッチによって接合点を修理されたものである。

##### 器台 (第83図 図版41-787)

787は器台と想定される細片である。大きく外反する受部であり開脚状の脚部は失っている。底部が開放されていることから器台としたが唯一のものである。

高坏 坏部2,221、脚部622片の多量の出土である。この内205点の788~992を図示した。これらの内坏部ではA-Ⅰ類12点、A-Ⅱ類8点、A-Ⅲ類5点、A-Ⅳ類24点、A-Ⅴ類5点、B-Ⅰ類2点、B-Ⅱ類7点、B-Ⅲ類6点、B-Ⅳ類5点の他A・B類の分類ができないもの26点がある。脚部ではA-Ⅰ類8点、A-Ⅱ類10点、A-Ⅲ類24点、B-Ⅰ類21点、B-Ⅱ類27点、B-Ⅲ類12点、その他A・B類の分類ができないもの3点がある。坏部及び脚部の両形態が判明するものは少量にすぎず793の両部がA-Ⅰ類のもの、824の坏部A-Ⅰ類、脚部B-Ⅰ類、895は細部は不明だが両部がA類

に属するもの、931も同様坏部A類、脚部B-<sub>1</sub>類と分かれる。

成形・調整技法は、刷毛目の上にスリップ（化粧土）し篋による磨きが行われるものが多く、脚部はA・B類にかゝわず、輪積のものとはひねり上げによるものとはならず、内面の刷毛調整、外面の篋磨きが顕著である。特異なものとして803・807の丹塗が見られ、前者は器内、後者は器外面に施されている。925・940の脚の裾部にもその可能性が見られる。839は坏部細片であるが内部に漆状のピッチが付着し、908の脚部にもピッチの付着が見られる。806の内壁には粉殻の抜け痕が着く。797・846の器内底部の剥離は器台として転用されたものと推測できる。

#### 甕（第91～94・96図 図版43～45）

総数15,945点の出土量を見、そのうち底部も含めて156点を図示した。A-<sub>1</sub>類は見られず、A-<sub>2</sub>類2点、A-<sub>3</sub>類15点、B-<sub>1</sub>類21点、B-<sub>2</sub>類1点、C類5点、D-<sub>1</sub>類17点、D-<sub>2</sub>類1点、E類1点及び無分類のもの4点、底部89点である。器形全体を見れるものは僅かにD類の3点のみであり、従ってA類は細分のできないIV類が多い。成形に当っては紐作りによる輪積が行われ篋状工具による撫でや面取りが行われている。さらに刷毛による条痕を施すものが大部分で、その上に化粧土が掛けられたものも多い。口縁部の形態はくの字に折り曲げる単純なもののみであるが、僅かに口唇部をつまみ出した1053・1054などの他、押えて面をもつ1061・1063がある。底部には壺底も混入するが区分できない。その他底部をもつもの6点を加えて平底75点、丸底20点である。なお平底には高台状に削り出したものや揚底状を呈するものもある。また腰部の面取りによって五角形を呈す1152や粘土によって調整された1122・1139・1161がある。

#### 壺（第93～95図 図版44・45）

32点の検出であり総てを図示した。A-<sub>1</sub>類1点、C-<sub>1</sub>類5点、C-<sub>2</sub>類8点、C-<sub>3</sub>類8点、C-<sub>4</sub>類4点、C-<sub>5</sub>類1点、C-<sub>6</sub>類1点、D-<sub>1</sub>類4点でC類が多い。A類とした1064は唯一の形態を呈するもので、体部共細片のものであるが半円球状の体部に大きく外反する口縁部をもつものである。一部では有段鉢と呼称するむきもある。その他も多くが口縁部のみの細片だが、刷毛による条痕を施すものと篋磨きが施されたものが多い。なお1064・1065は縮尺の都合上第93図に入れた。

#### その他の土器（第90図 図版43）

図版紙面の都合により順序が前後する。993は甕である。やゝ下脹れのもので柑D類に類似する体部を呈すると想定される。胴部に注口具を挿す孔を穿つ。前述した184の2点を見るにすぎない。

994はコップ形土器で手づくねの厚肉の器である。ミニチュア土器に近い5cm程の小型で、185・227の3点のみの器種である。

995・996はミニチュア土器である。両者共完形である。

997は甕の胴部片であるが内壁に漆の被膜があるので甕類から分離した。漆の容器として用いられたものと推定される。

998は器種不明である。器面が黒色で磨かれている。あるいは時代を異にするものかも知れない。

## 石器その他 (第97図 図版45)

1187は焼土塊である。握った土を焼成したものである。1188は同様のものであるがミニチュア土器を潰したものである。1189は石垂である。平偏な楕円形の石の両端部を打欠いている。魚網のおもりである。1190は刃物として使用されたスクレーパーである。1191～1197はスリ石で食物の加工用具と做されている。なおこの内1196は1号住居址出土である。1198・1199は形態を異にするがタタキ石、1200・1201は砥石、1202は軽石の面取りのもので浮子と考えられる。

## 柱・杭

### SI-2号住居址出土柱類 (第11図 図版46)

残存した古柱根は長さ85～32cm、太さ16～14cmで材質は栗・榎・樺がある。いずれも丸太のままで加工の痕跡はない。第11図に示した上段の4本と下段の3本と杭がセットになる。

SB-4号建物址出土柱 (第18図 図版46) 残存する長さ33cm、太さ10cm程の栗材の丸物である。

SB-5号建物址出土の柱 (第20図 図版46) 残存する柱根の長さ48～20cm、太さ17～14cm程で加工の痕跡はない。材質はチャンチン・栗である。

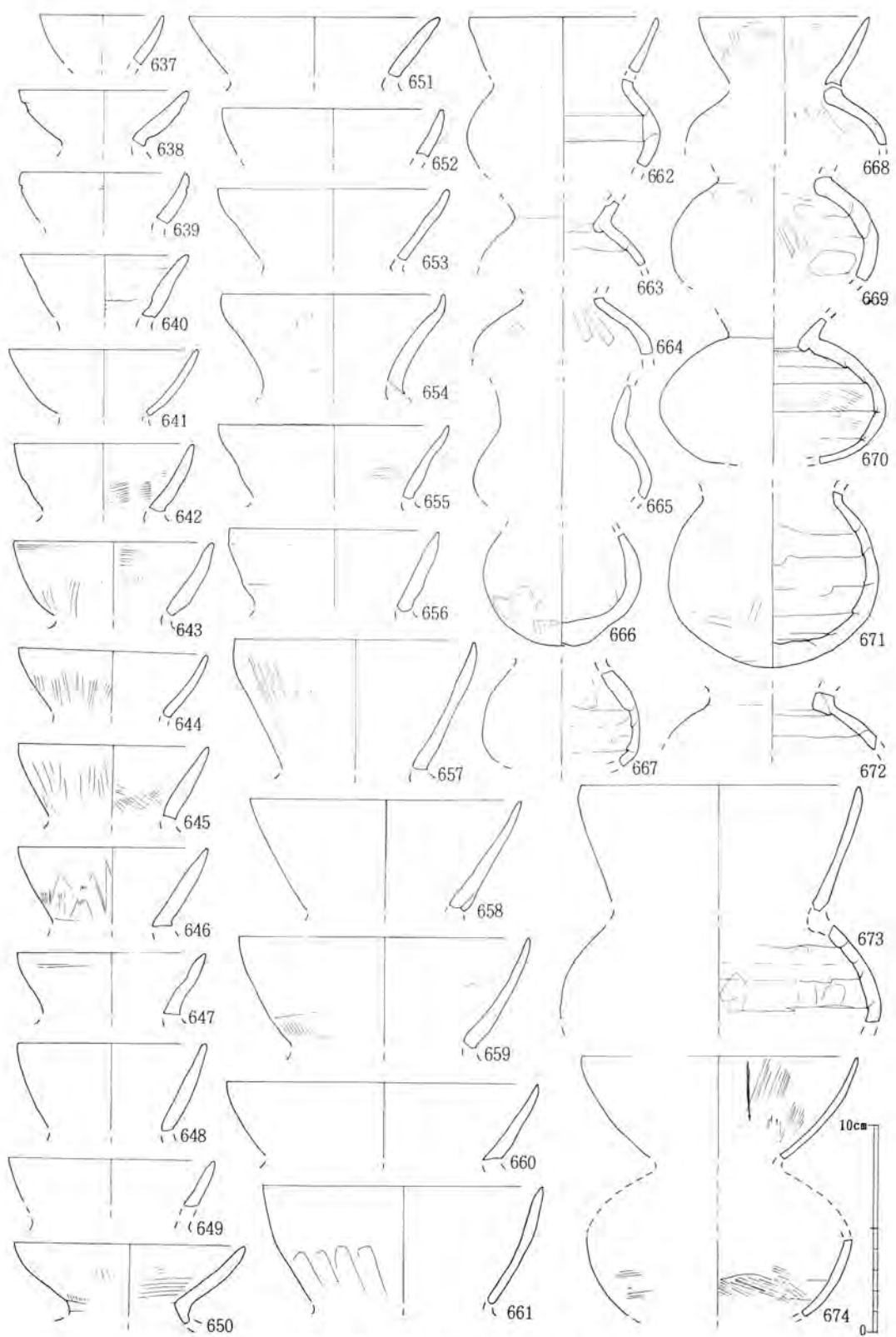
### 1号杭列出土の杭 (第32図 図版46)

残存する長さは81～15cm、太さは8～3cm程を測るM16・17の丸材の他は割材である。材質はM17の樺の他は総て栗である。

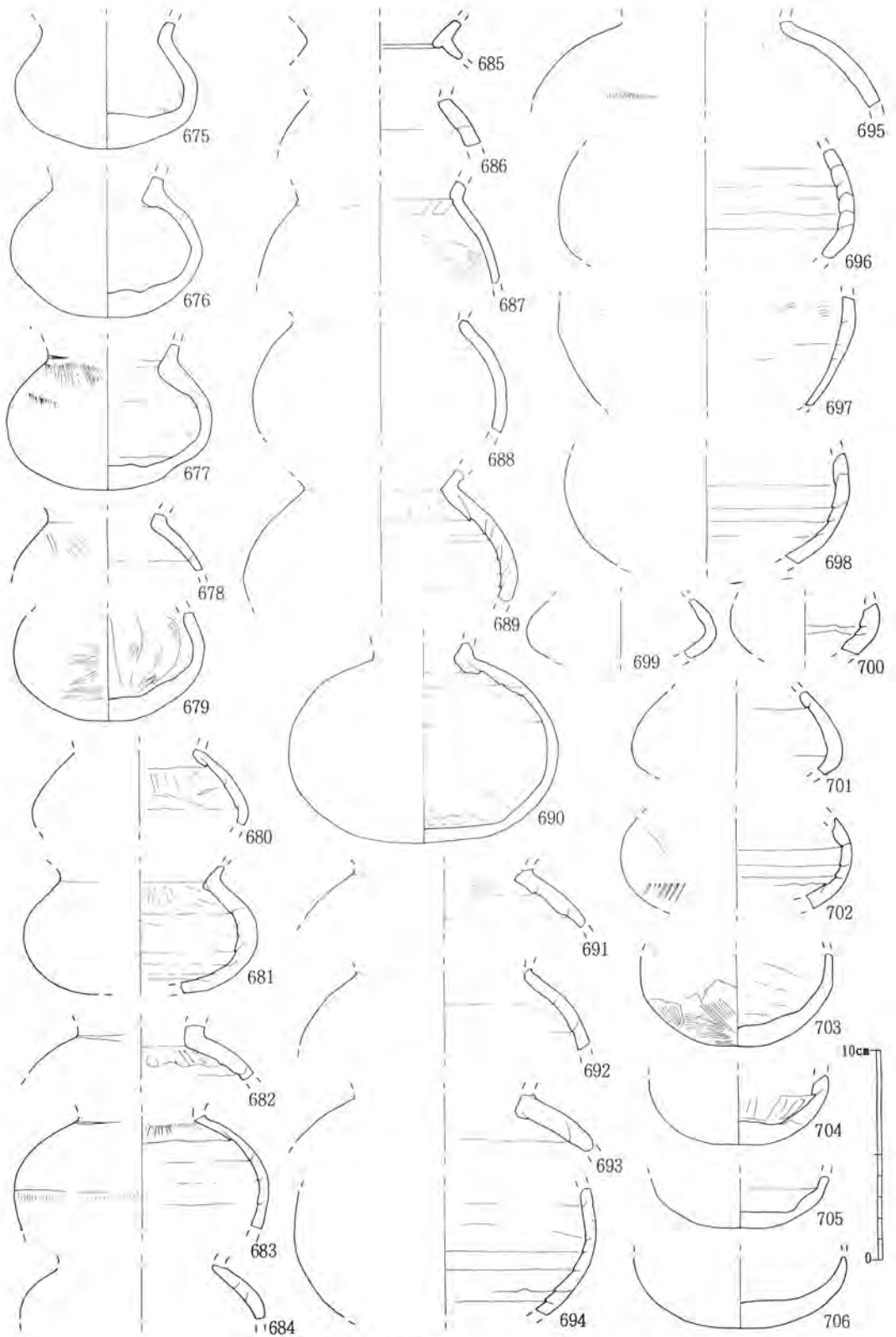
### 2号杭列出土の杭 (第34図 図版46)

残存する長さ50～34cm、太さ10～6cmを測る。M27の割材の他は丸材である。材質は総て栗である。

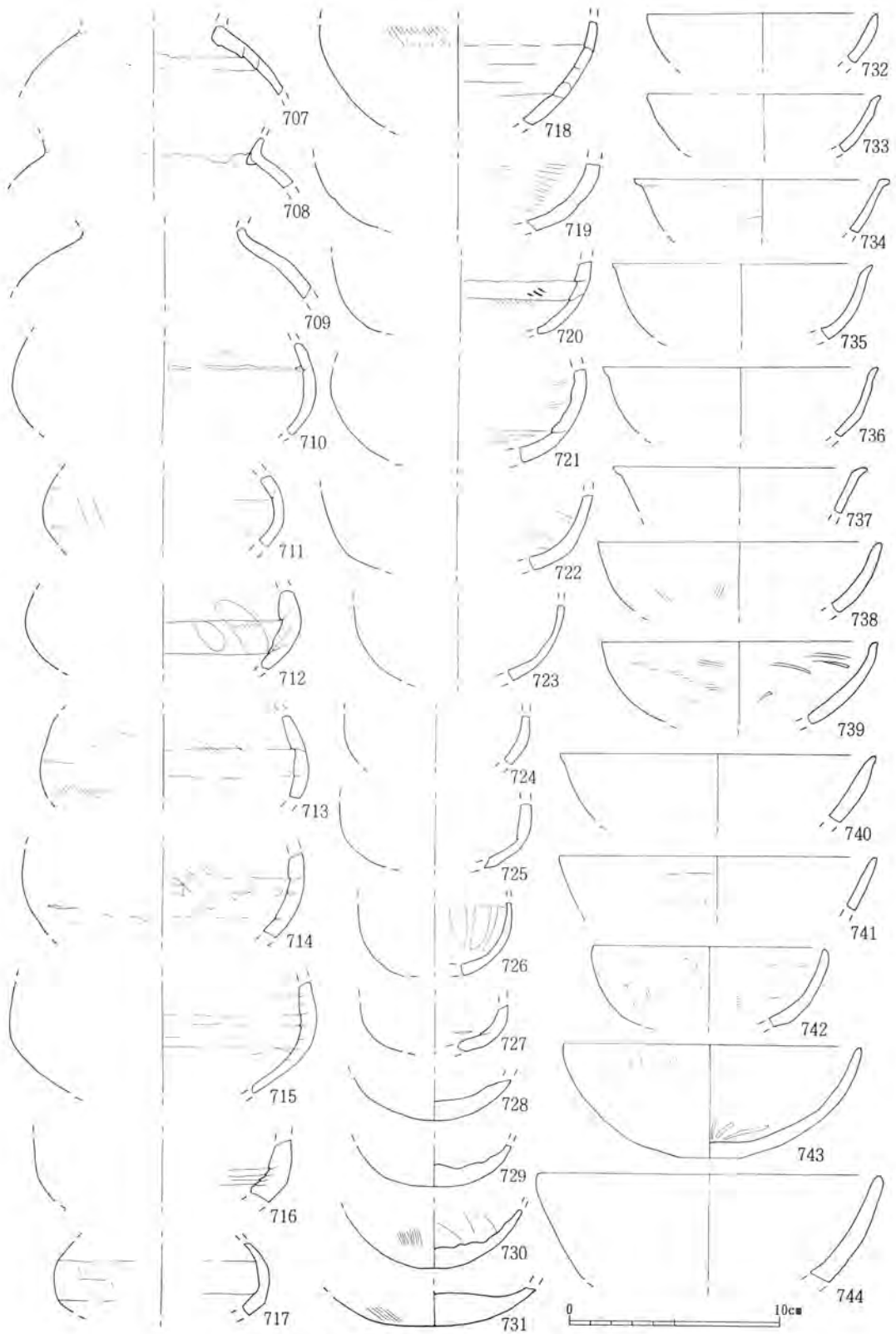
その他の杭等 (第37図) 攪乱層内より採集された杭と板状木材がある。杭は85・86cm、太さ4cm程である。丸材で材質はチャンチン・栗である。板状木材は14×9cmで樺である。



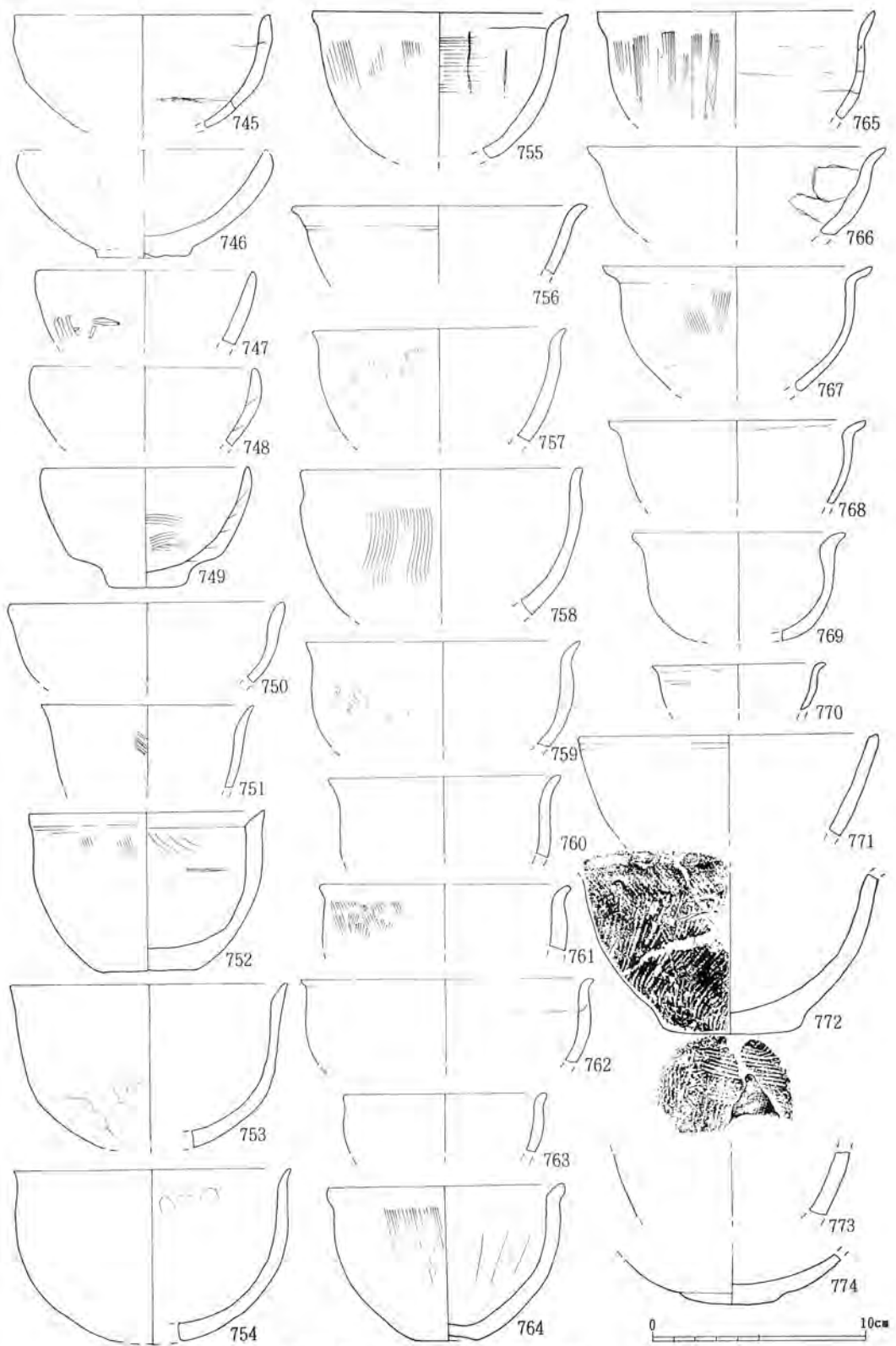
第 79 図 遺構外出土土器 1 (埴)



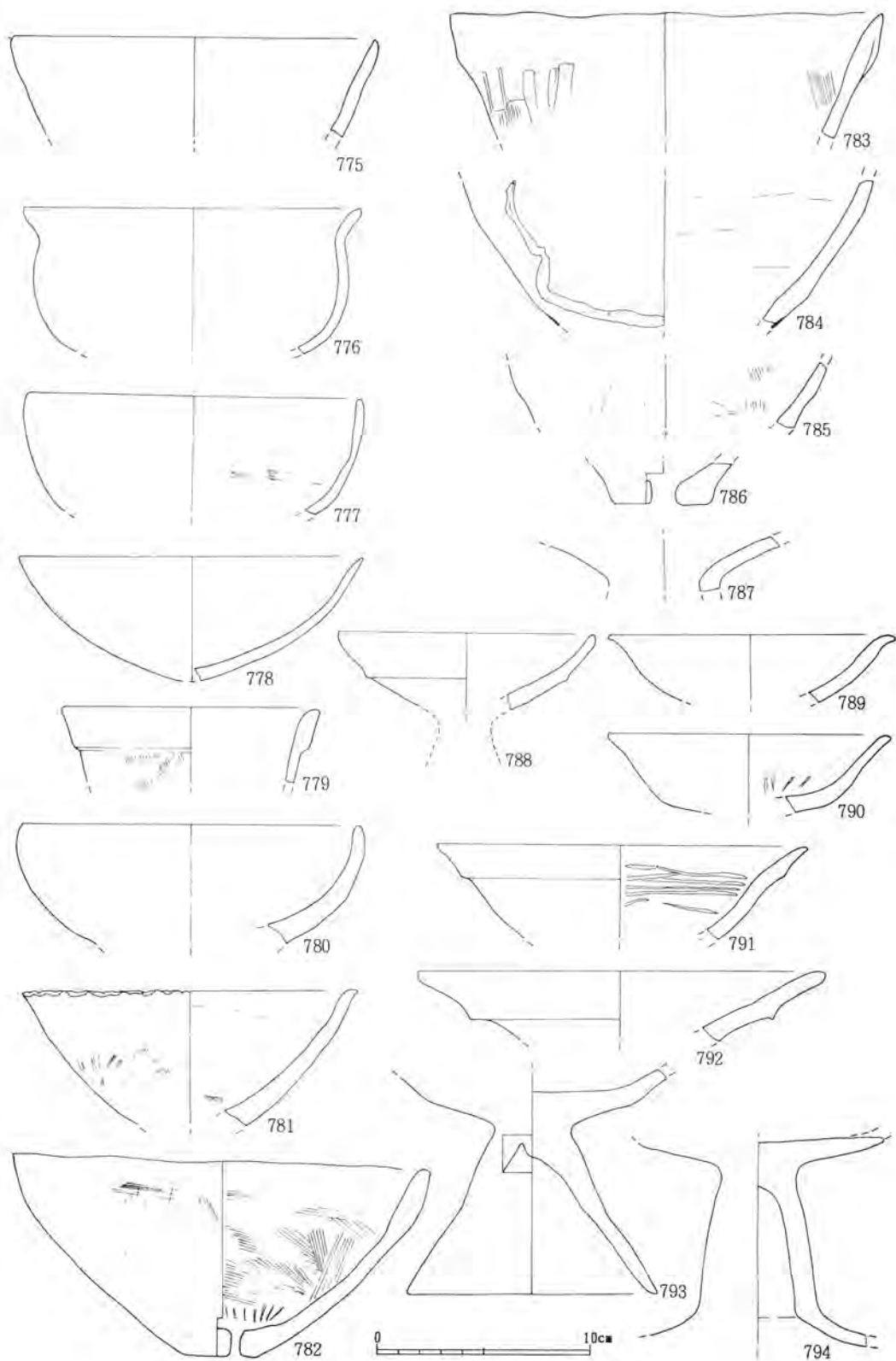
第 80 图 遺構外出土器 2 (埴)



第81图 遺構外出土土器3 (埴・坏・碗)

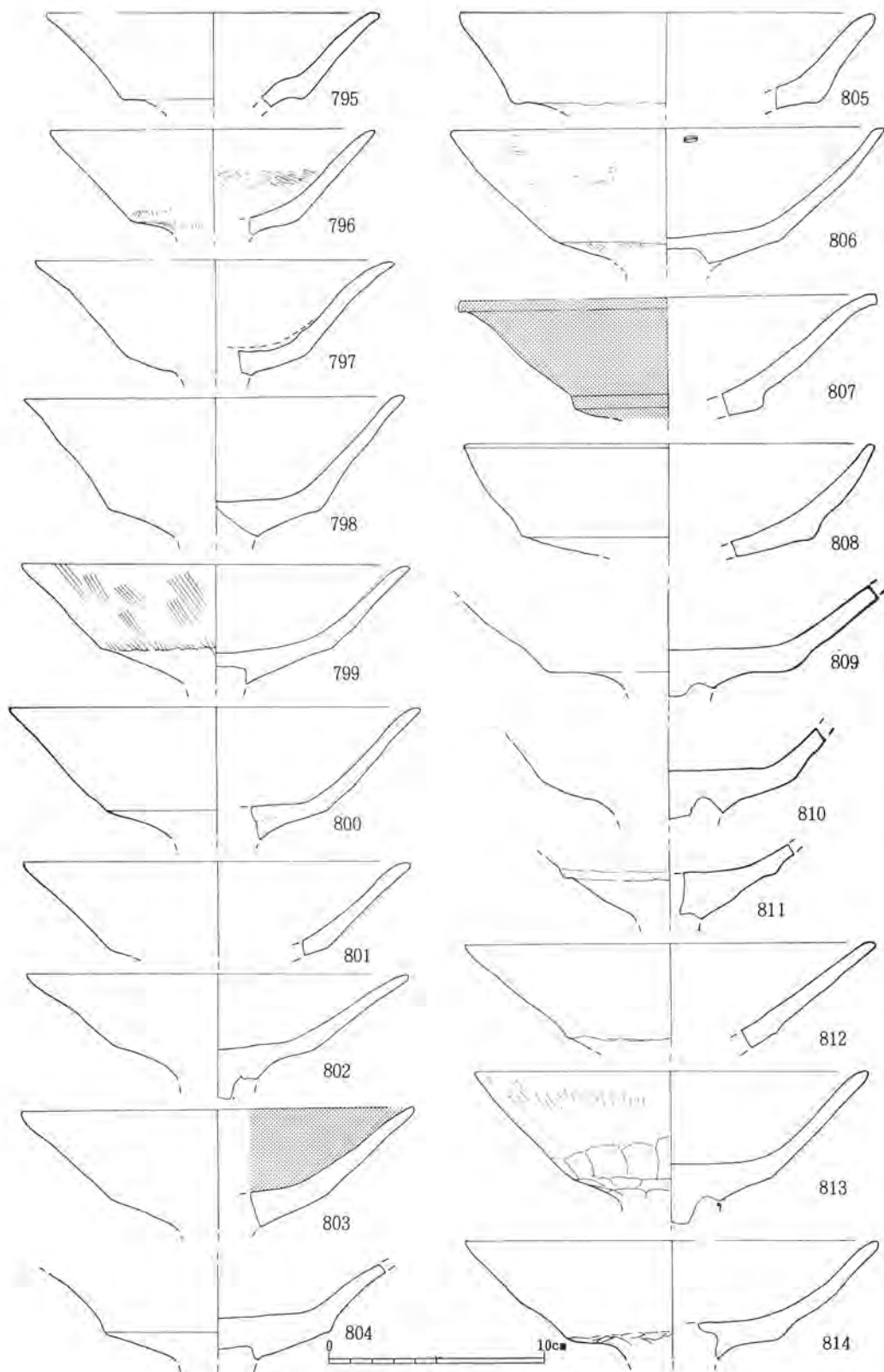


第82図 遺構外出土土器4(碗)

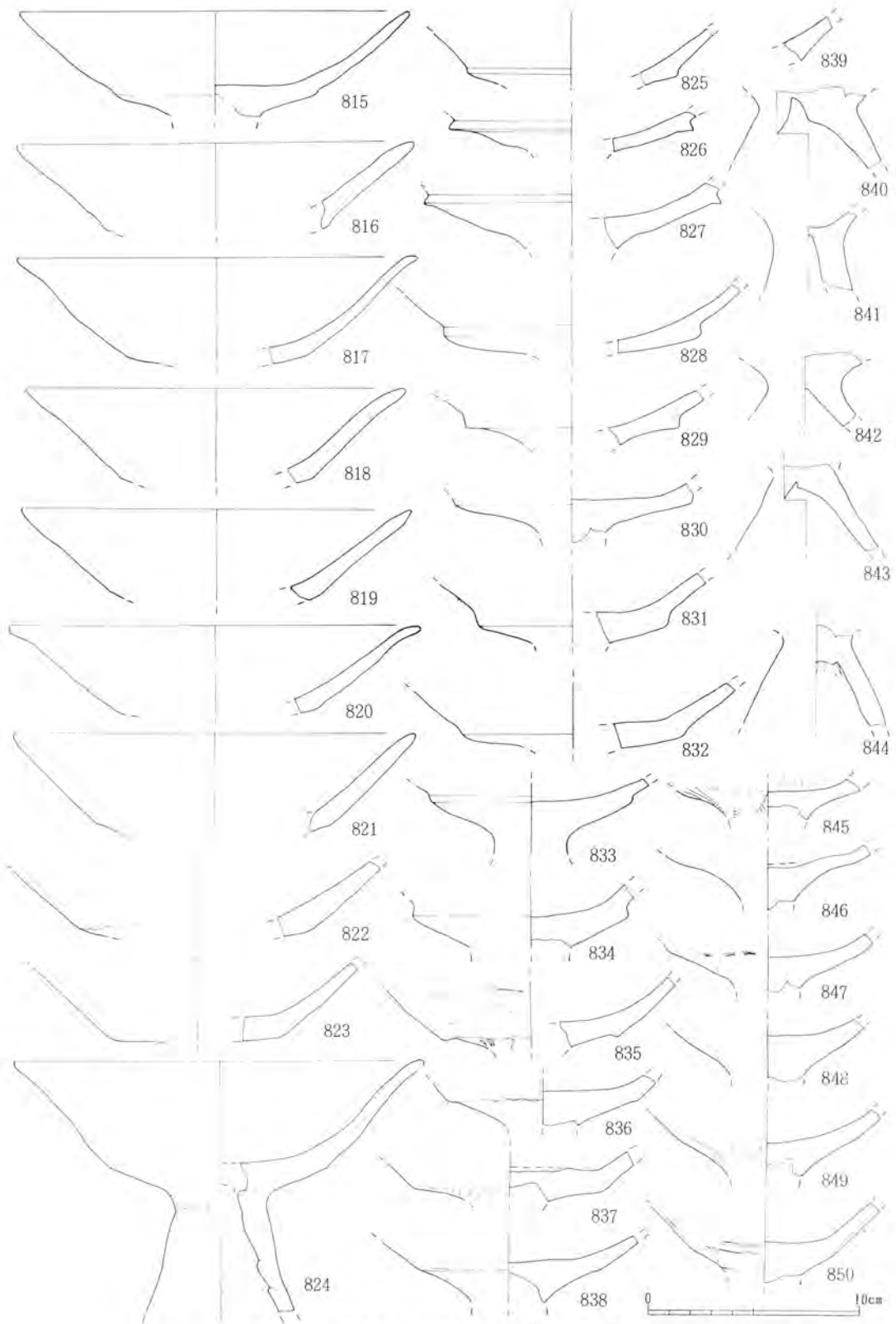


第83图 遺構外出土器5 (鉢・器台・高坏)

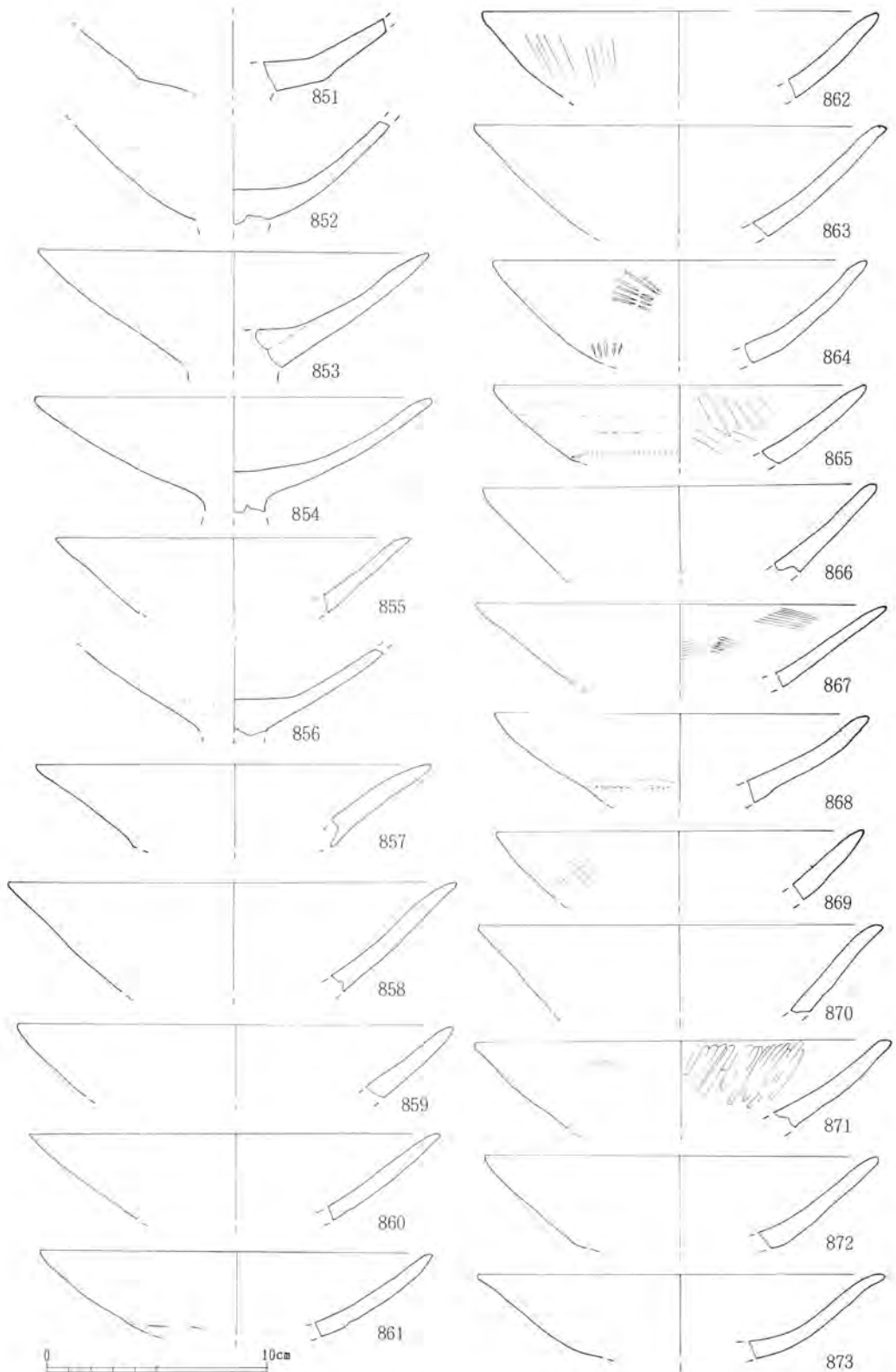




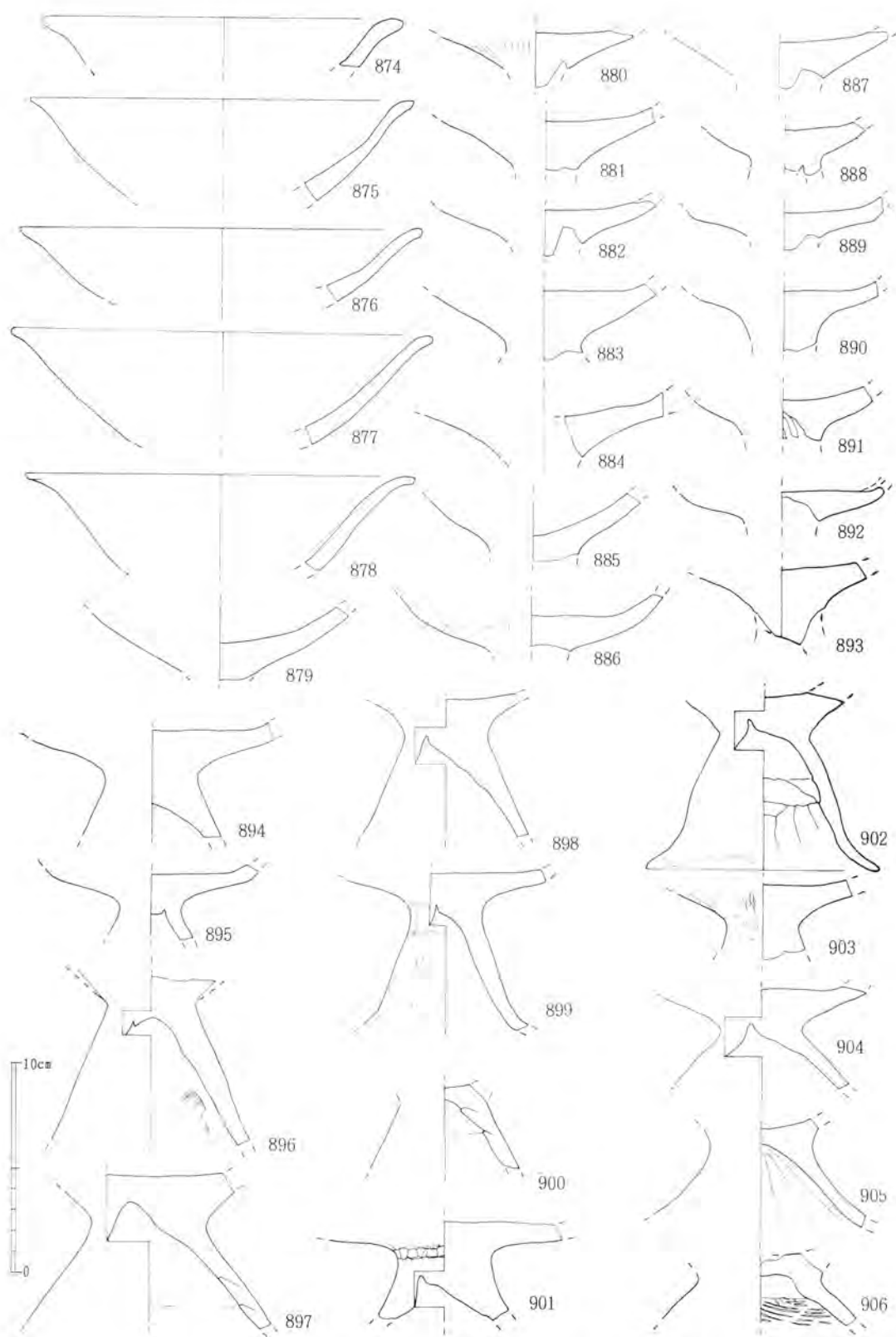
第84図 遺構外出土土器6 (高坏の坏部)



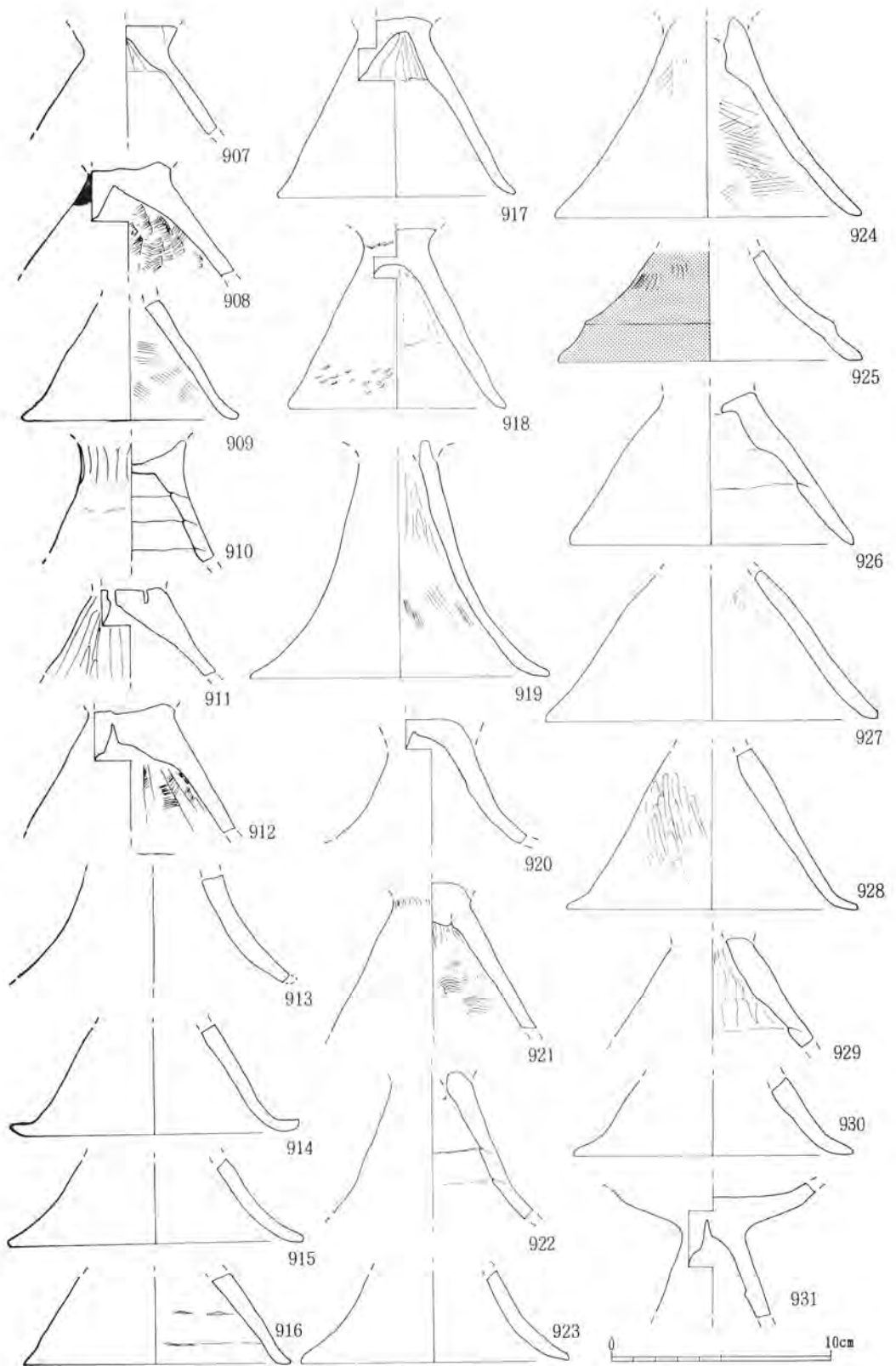
第85図 遺構外出土土器7 (高坏の坏・脚部)



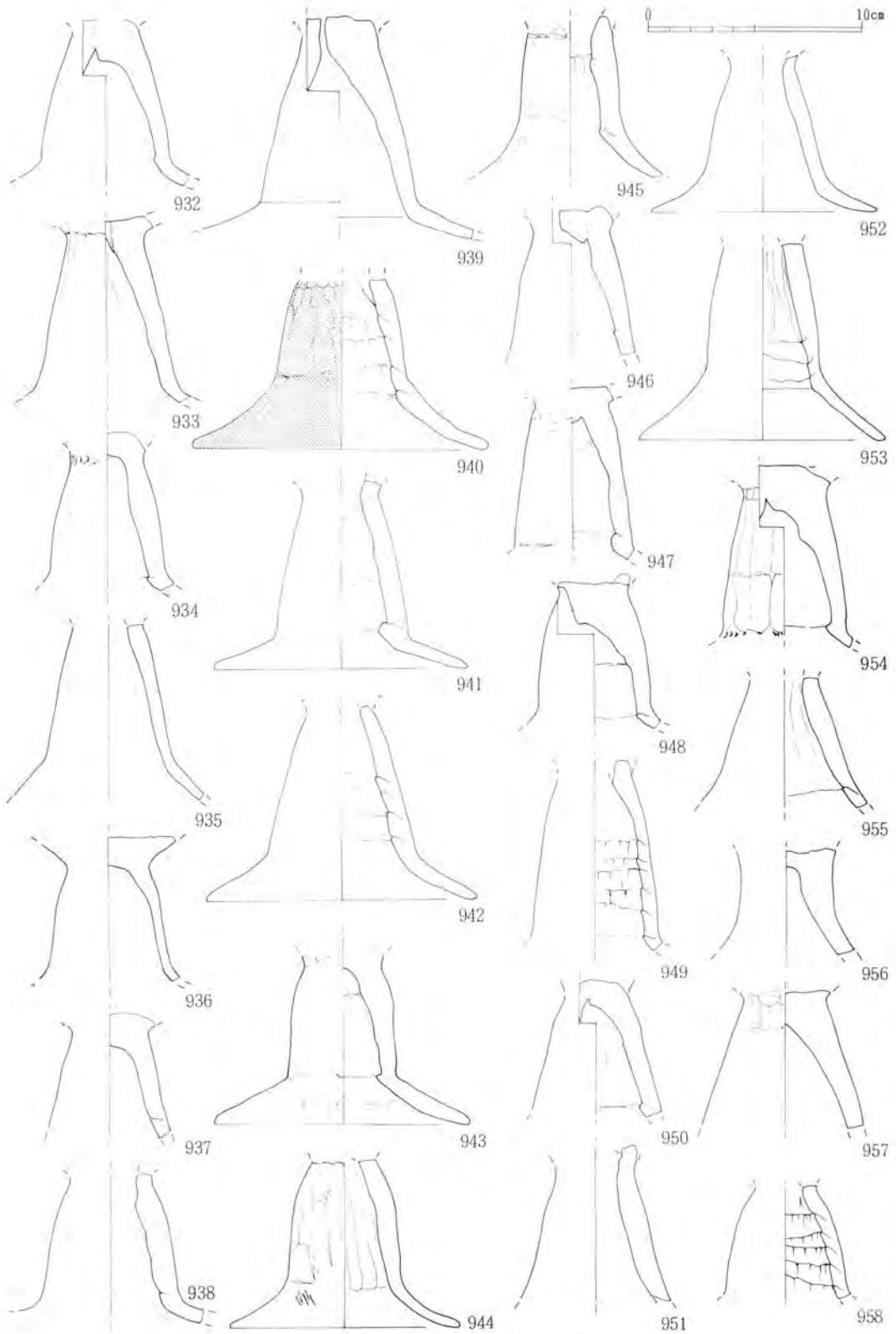
第 86 図 遺構外出土土器 8 (高杯の坏部)



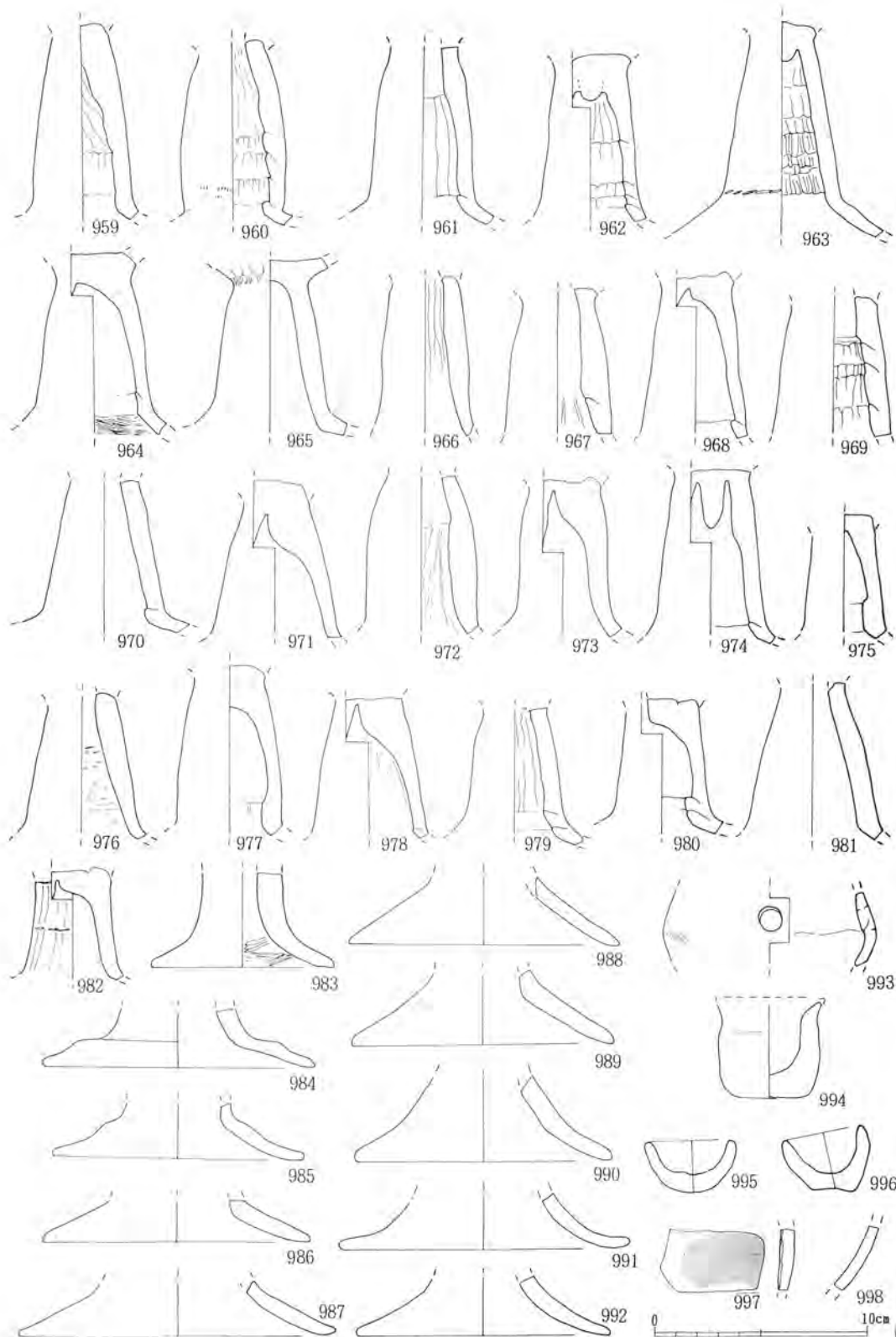
第87図 遺構外出土土器9（高坏の坏・脚部）



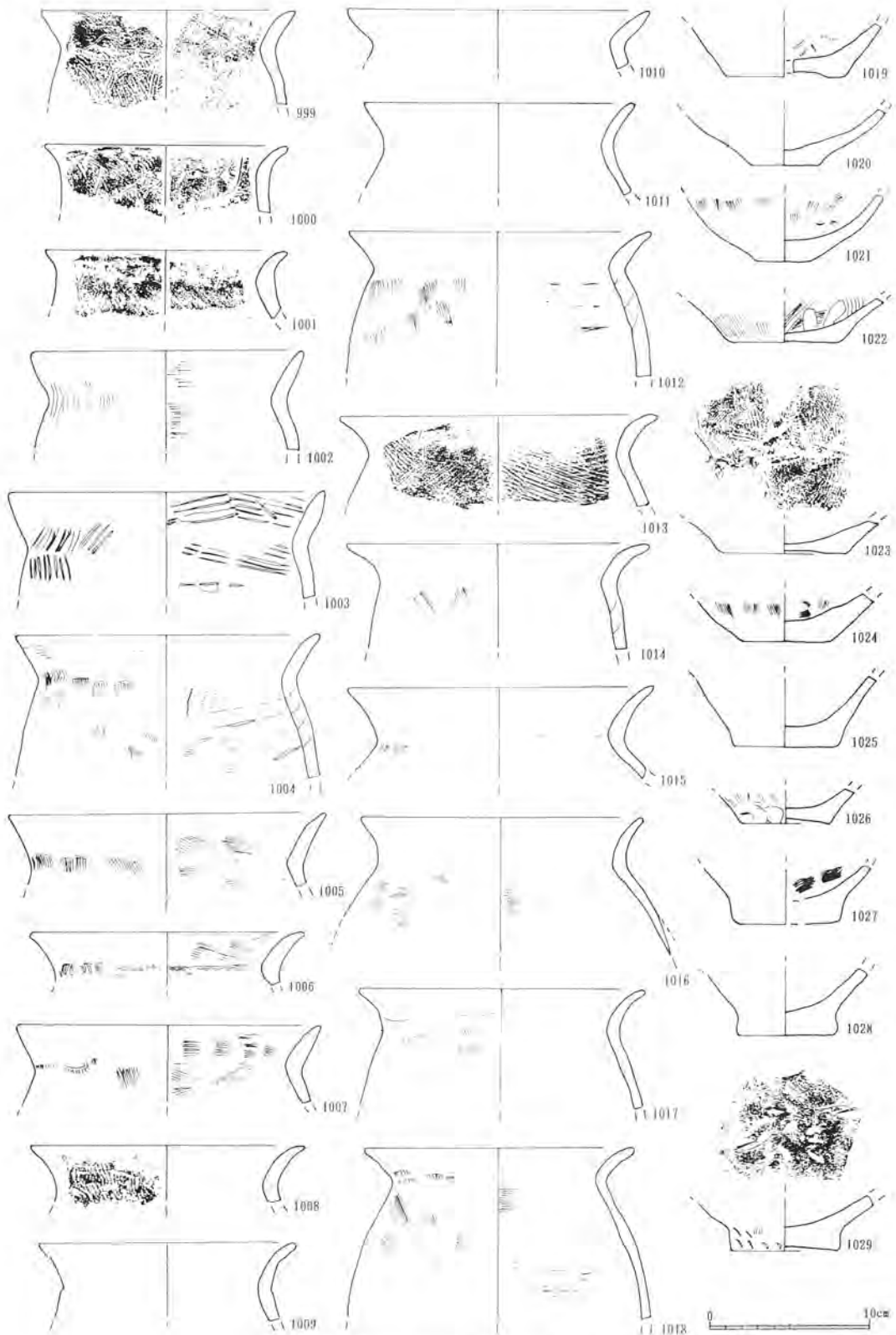
第88図 遺構外出土器10（高坏の脚部）



第 89 図 遺構外出土土器11 (高坏の脚部)

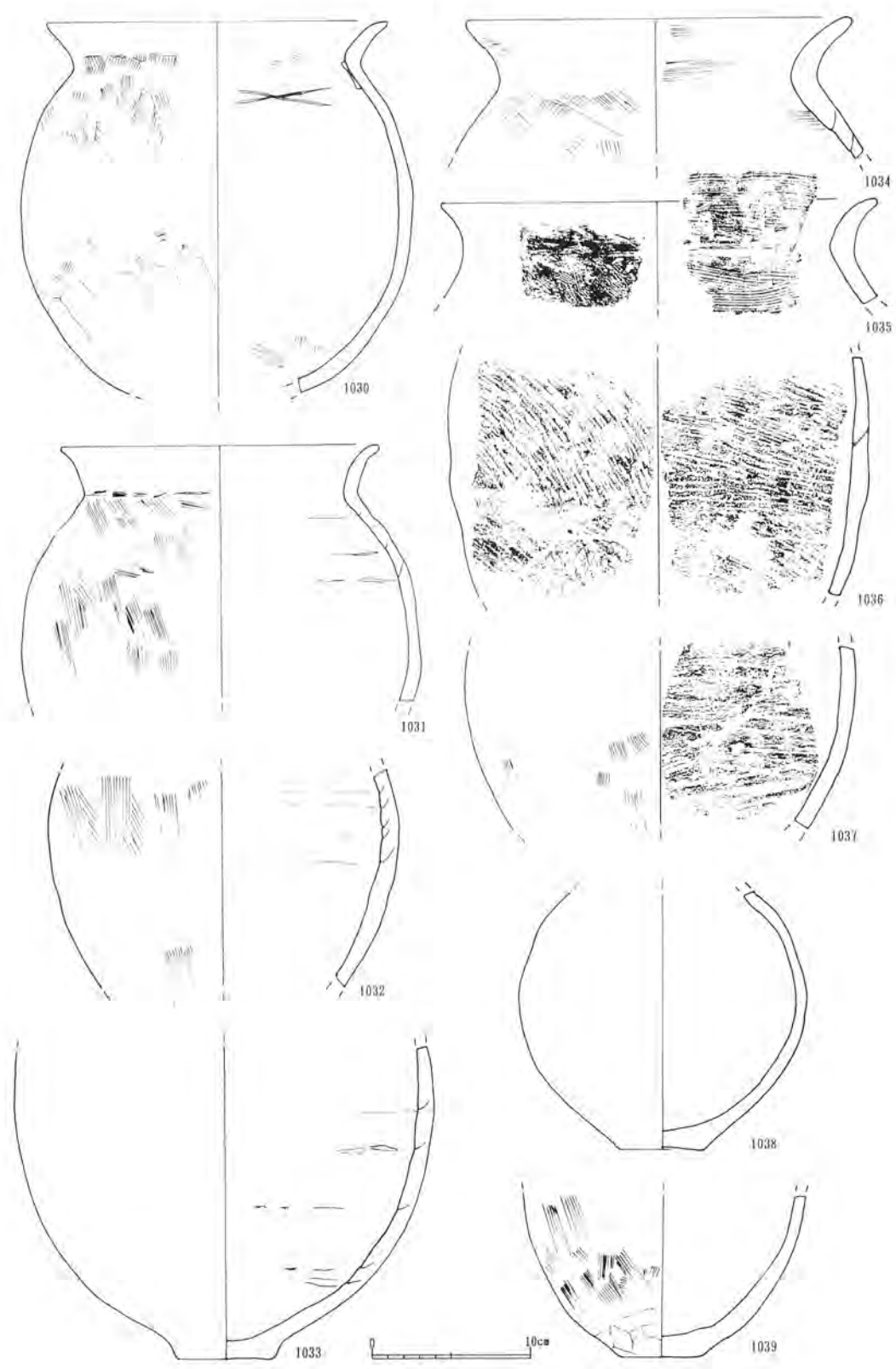


第90図 遺構外出土土器12 (高坏の脚部他)

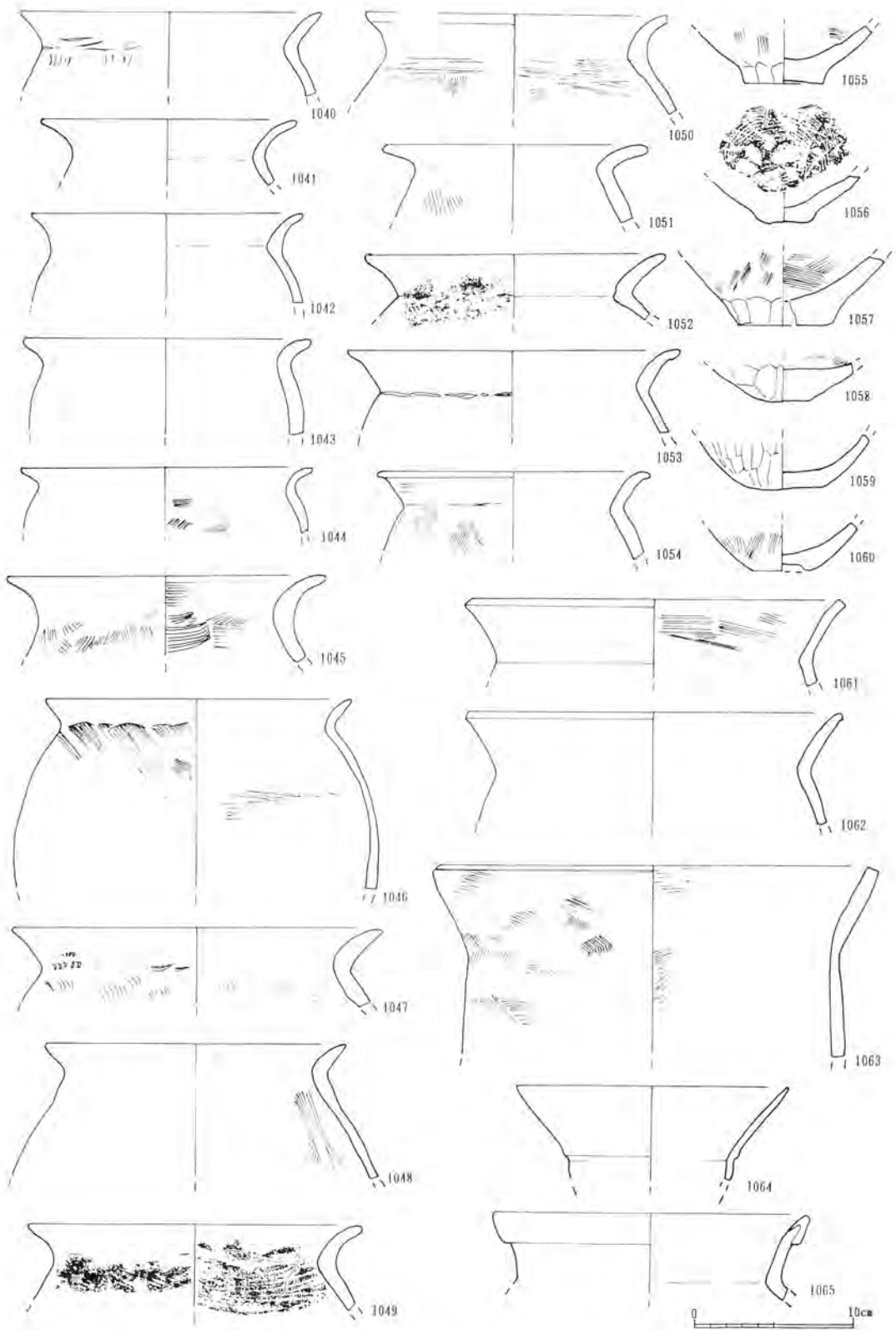


第 91 图 遺構外出土土器13 (甕類・底部)

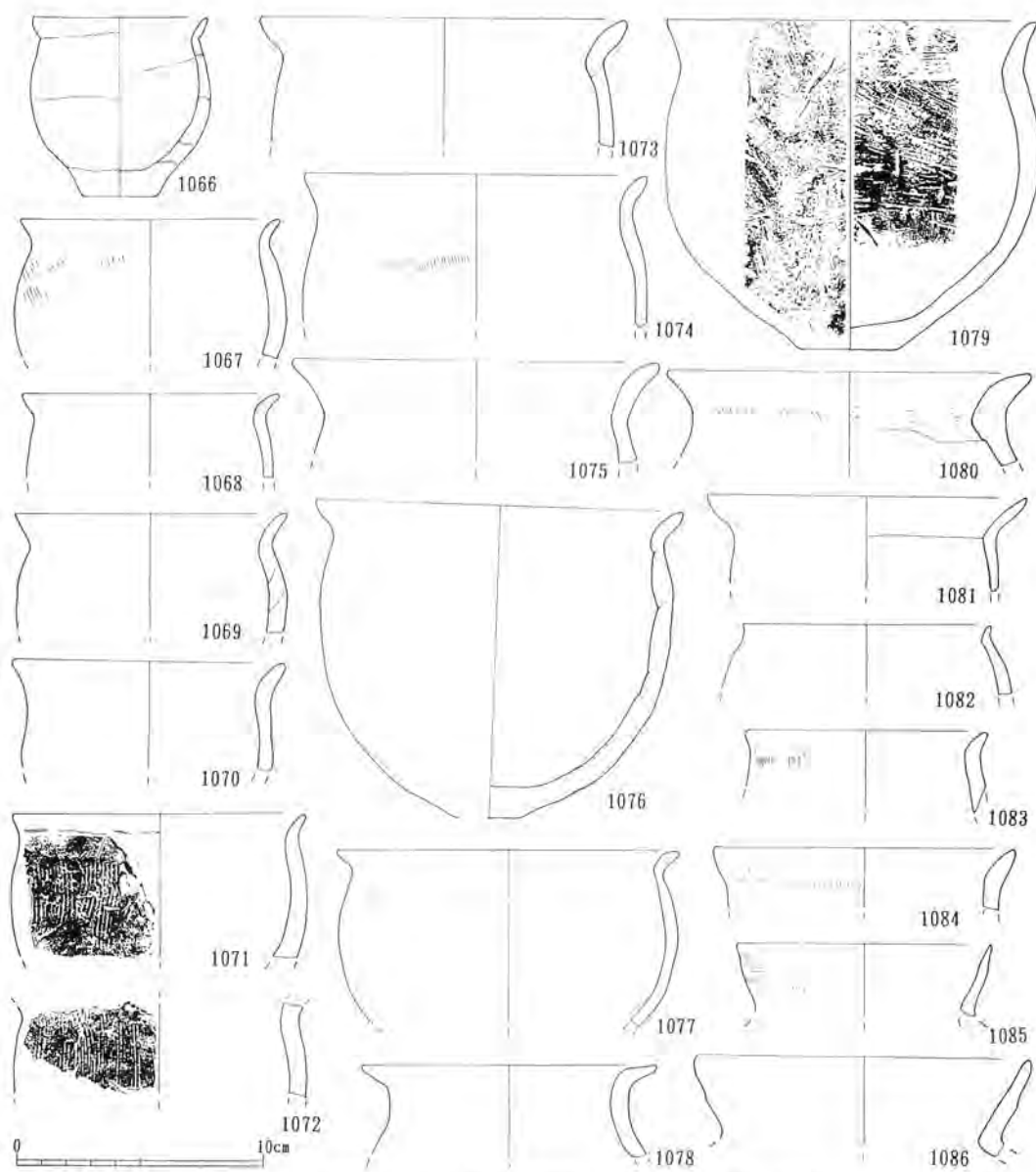




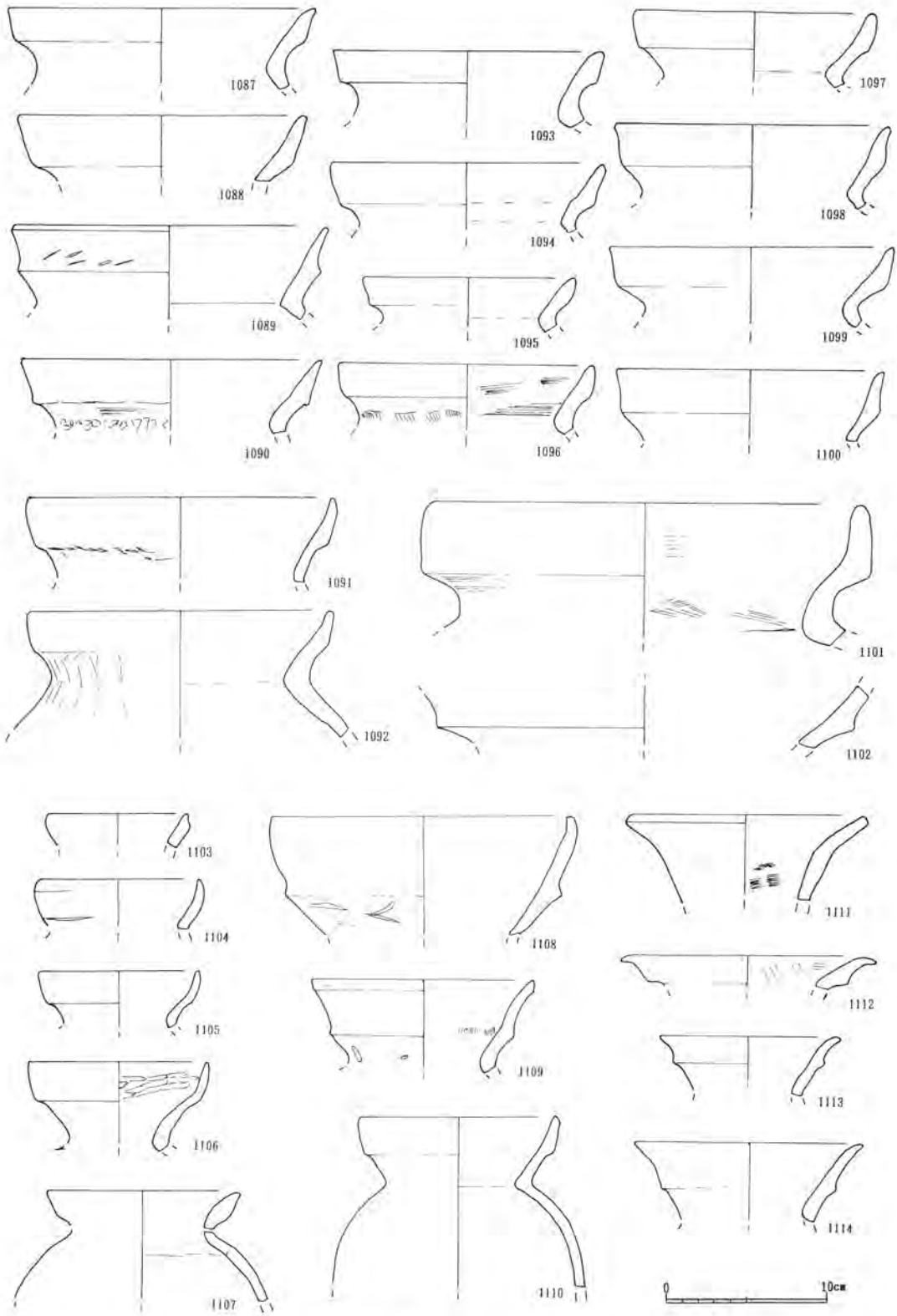
第 92 図 遺構外出土土器14 (甕類)



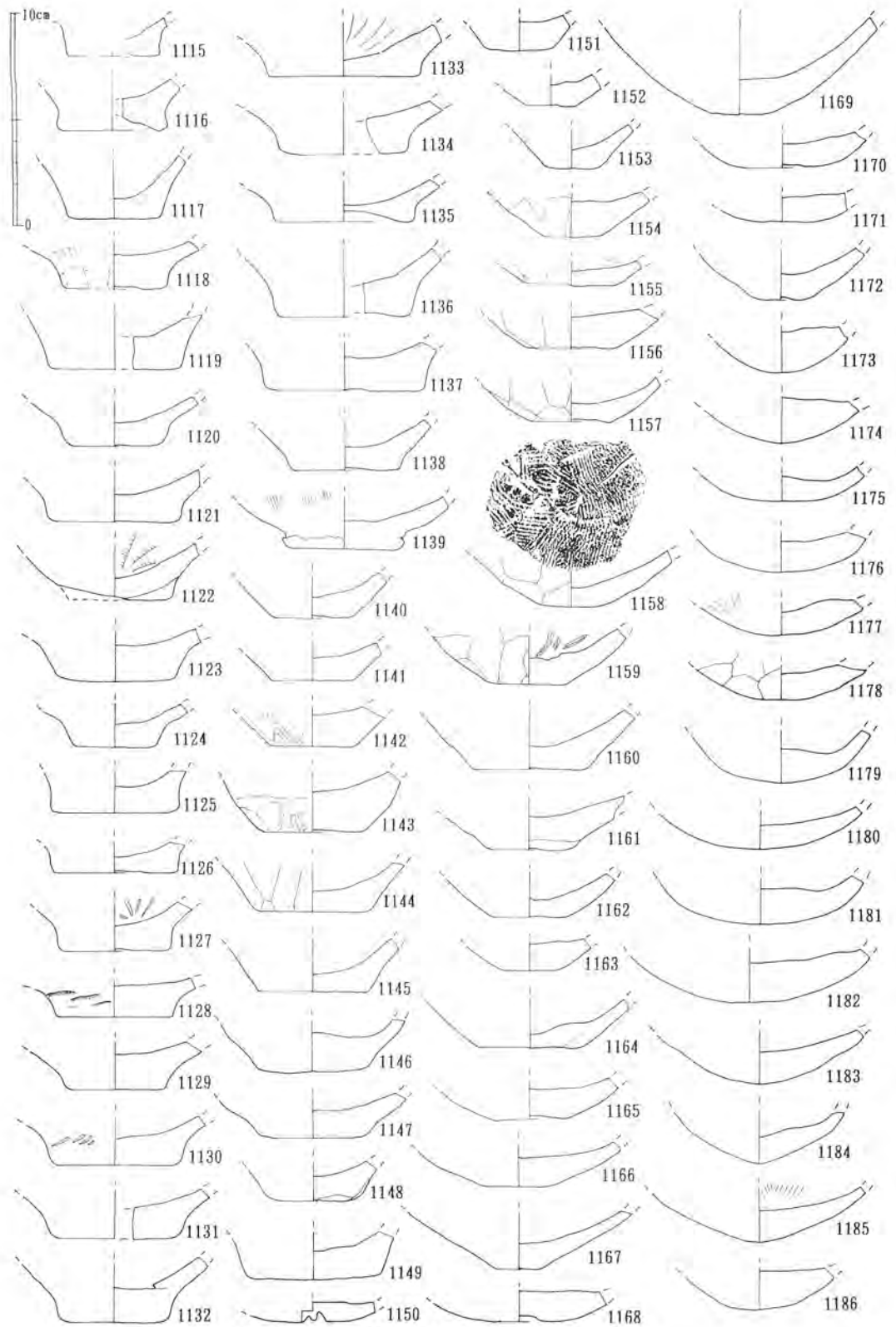
第93図 遺構外出土器15 (甕類・底部 但1,064・1,065は壺)



第94図 遺構外出土土器16（甕類 但1,085・1,086は壺）



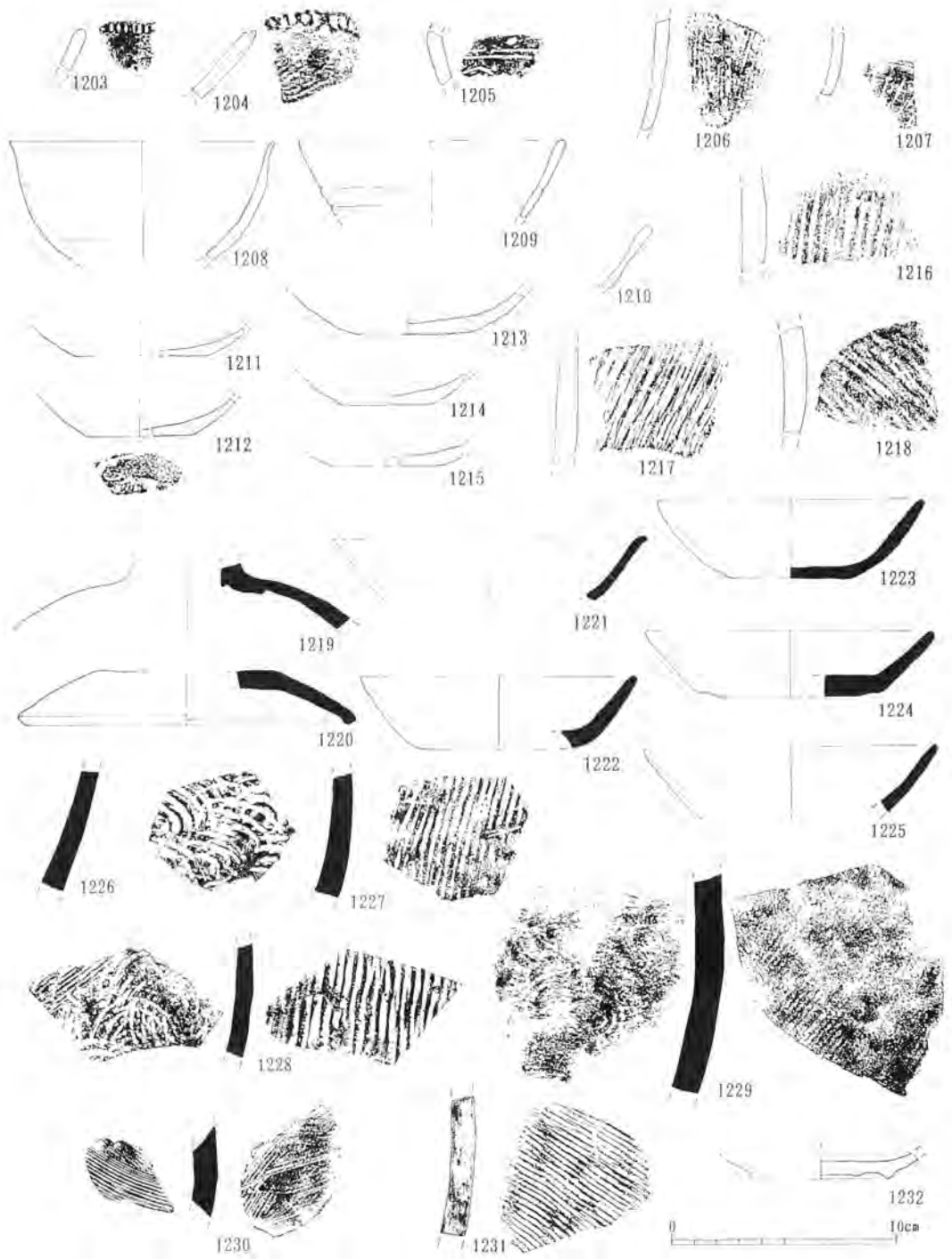
第 95 図 遺構外出土土器17 (壺類)



第96図 遺構外出土土器18（甕・壺類の底部）



第97图 遺構外出土器19(焼土塊・石製品)



第98図 時代の異なる遺物（弥生土器・ロクロ土師器・須恵器・中世陶器・黄瀬戸）

C 時代の異なる遺物 (第98図 図版47)

前述した998の黒色土器や1200・1201の砥石などは多分に時代の降るものとも考えられなくもないが、明らかに時代の異なるものがある。

弥生土器 1203～1206の4点がある。いずれも細片だが弥生中期の遺物である。

土師器 1207～1218の12点は8～10世紀の土師器で俗にロクロ土師器と呼ばれるものである。このうち、1208・1209は黒色土器で内面を黒色に処理されている碗類である。1216～1218は甕である。

須恵器 1219～1230の12点で、壺・坏蓋・坏・甕で9世紀頃の所産である。

中世陶器 1231は中世須恵器で14世紀頃のものである。

黄瀬戸皿 1232がそれであり、15世紀頃のものと考えられる。

果実 ヒョウタン2個体分が1号井戸から検出されている。1223の須恵器坏と併出したことから当遺跡の営まれた時点のものとは考えがたい。

キセル ガンクビ2、吸口1点の出土がある。近世以降のものである。

表2  
高坏の坏部と脚部の関連

No	坏部	脚部	備考
193	A-I	A	
248	A-I	A-I	
339	A-N	A	
384	B	A	
385	B	B	
386	B	A	
507	B-II	508と同一個体	
508		A-II	
576	A-II	A-II	
577	A-II	A-II	
597	B-I	A	A-IIカ
620	B	A-II	
621	A	B-II	

表3  
埴の口縁部と  
体部の関連

No	口縁部	体部
662	C	E
665	C	D
670	A	A
673	C	E
674	A	B
675	C	D
690	A	B



表4 出土遺物比率表

出土位置	坩%	高 環				甕						壺%	鉢%	碗%	坏%	特殊不明%	合計					
		坏部	開脚	折脚	計	%	個体	口縁部	底部	胴部片	計							%				
SI-1	64	6.6	74	11	22	107	11.0	25	39	12	712	788	81.0	4	0.4	4	0.4	4	0.4	2	0.2	973
SB-1	30	1.9	104	20	27	151	9.3	32	57	31	1300	1420	87.7	8	0.5	7	0.4	4	0.2			1620
SB-2	37	18.6	68	5	8	81	40.7	2	2	1	64	69	34.7	6	3.0	5	2.5	1	0.5			199
SB-3	24	1.9	98	12	30	140	10.9	15	52	16	1025	1108	86.3	3	0.2	3	0.2	3	0.2	1	0.1	1284
SB-4			1	1		2	7.7				23	23	88.5							1	3.8	26
SD-1	62	5.5	78	9	15	102	9.0	18	57	8	877	960	84.8	2	0.2	4	0.4	1	0.1			1131
SD-2	17	25.0			1	1	1.5		1	1	47	49	72.0		1	1.5						68
SD-3			2			2	40.0				3	3	60.0									5
SD-4			2			2	4.3	1	1	1	42	45	95.7									47
SD-5			1			1	100.0															1
SD-6									2		13	15	100.0									15
SD-7			2			2	100.0															2
SK-1	47	8.7	121	11	19	151	27.9	11	38	9	279	337	62.1	2	0.4	4	0.7		1	0.2		542
SK-2	12	1.4	128	8	48	184	21.9	13	37	11	613	674	77.1	1	0.1	3	0.3		1	0.1		875
SK-3	22	6.4	34	1	4	39	11.4	1	21	5	250	277	80.7	2	0.6		2	0.6	1	0.3		343
SK-4			37	3	1	41	27.5				107	107	71.8	1	0.7							149
SK-5	67	11.2	65	5	26	96	16.1	7	44	9	363	423	71.1	5	0.8	2	0.3	1	0.2	2	0.3	596
SK-6	34	6.7	37	6	8	51	10.1	3	7		409	419	83.2	1	0.0							505
SK-7	21	2.3	91	9	38	138	15.1	8	36	7	686	737	81.0	5	0.5	6	0.7	1	0.1	2	0.2	911
SK-8	6	0.8	95	12	23	130	16.4	11	41	16	574	642	80.7	6	0.8	7	0.9	3	0.4			794
SK-9	21	15.7	12	1	3	16	11.9	1	10	6	80	97	72.4									134
SK-10	3	2.1	7	1	5	13	9.0	3	4	1	118	126	86.8	1	0.7	1	0.7	1	0.7			145
SK-11			1		3	4	14.8	1	1		21	23	85.2									27
SK-12	5	6.8	4	1	1	6	8.2				60	60	82.3	2	2.7							73
SK-13	13	86.6						1				1	6.7									14
SK-14			1	1		2	7.4				23	23	85.2		1	3.7				1	3.7	27
SK-16	4	0.9	38	4	9	51	11.7	3	29	9	340	381	86.8		1	0.2		1	0.2	1	0.2	439
SK-17			10			10	11.9		2	2	70	74	88.1									84
SK-18					4	4	8.7				42	42	91.3									46
SK-19	18	5.9	31	2	18	51	16.8	4	15	2	208	229	75.4				1	0.3	5	1.6		304
SK-20	43	17.2	45	6	4	55	22.0	1	12	8	131	152	60.8									250
SK-21			8	1		9	15.3		1	5	44	50	84.7									59
SK-22	1	6.3									14	14	87.4	1	6.3							16
SK-23					2	2	3.4				56	56	96.6									58
SK-24			19			19	45.2		3	3	15	21	50.0		1	2.4		1	2.4			42
SK-25			8			8	17.0		2	1	36	39	83.0									47
SK-26	1	2.8	3	1		4	11.1				30	30	83.3	1	2.8							36
SE-2											11	11	100.0									11
Pit1											10	10	100.0									10
Pit2											8	8	100.0									8
Pit3											5	5	100.0									5
Pit4											6	6	100.0									6
Pit5											3	3	100.0									3
Pit6			3	2	2	7	100.0															7
Pit7											6	6	100.0									6
Pit10											3	3	100.0									3
Pit11											16	16	100.0									16
遺構外	1143	5.7	2221	214	408	2843	14.2	94	862	334	14655	15945	79.8	32	0.2	34	0.2	11	0.0	10	0.0	20024
合計	1695	5.3	3449	347	729	4525	14.1	255	1376	498	23398	25527	80.1	83	0.3	84	0.3	24	0.1	3'	0.1	31986

## IV 掲載遺物一覧表

図示した遺物を割付順に一覧表に示し、個々の遺物について挿図番号、割付番号（通し番号）、出土場所、器種と分類記号、計測として器高・口径・底径・最大計を記した。カッコ内の数値は推定数である。残存円周率は12分法を用い数値のみを記した。造りは成形或いは整形に見られる主な特徴を記した。スリップとは化粧土のことで、きめこまかい粘土を泥状にして器面を覆うものであり、○印をもって有無を示した。胎土は粘土に混入された砂粒の状況を現した。焼付は良・中・不の3通りに分けた。なお造りにおける用語で、ハケメは刷毛による条痕、ナデは撫で、ヨコナデは横撫、ヒネリ又はヒネリアゲは捻り揚げ、輪積は別称紐造りである。ヘラ又はヘラケズリは篋・篋削り、ミガキは磨きである。

表5 掲載遺物一覧表

挿図 No	割付 No	遺物 No	出土 位置	器種	計測 (mm)				残存 円周率 a/12	造り			スリッ プの有無	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大		器表	器内	表内				器表	器内	
41	1	9	1号住居	埴口縁部A	130			4	ヨコナデ	ヨコナデ			微砂粒少	不	白茶		口縁	
	2	1		埴 A (113)			143	10	ヨコナデ	ヨコナデ輪積			石英微粒	良	明茶		身	
	3	3		埴 N				2	ヨコナデ	ヨコナデ輪積			微砂粒少々	良	明茶・焦茶	茶	頸・肩	
	4	10		口縁部C	90			2.5					微砂粒多	不	薄茶		口縁	
	5	2		埴 B (99)			118	6					微砂粒多	良	明茶	暗灰	身	
	6	4		埴 N				2		絞り寄せ			微砂粒少々	良	茶		頸・肩	
	7	11		埴 N			94	1.5	ヨコナデ	ハケメ			砂粒多	中	薄茶		腰	
	8	5		埴 N			134	3	ヨコナデ	ヨコナデ輪積			石英・雲母多	中	茶		肩・胴	
	9	6		埴 D			(100)	2		輪積			良	不	薄茶		腰	
	10	8		埴 N				9	ハケメ	絞り寄せ			石英・雲母粒	良	薄茶	焦茶	底	
	11	7		埴 N				2	ヨコナデ	棒状・工具調整			砂粒多	良	黄白		底	
	12	252		高坏A-V	220			5	ミガキ	ミガキ	○	○	石英微粒少々	良	薄茶		坏・脚	
	13	269		高坏A-I				5	ミガキ	ミガキ	○	○	石英微粒多	良	茶		坏	
	14	266		高坏A-IV				3.5	ハケメ	ハケメ			石英微粒少々	中	褐		坏	
	15	265		高坏A-VI				12	ナデ・ヘラケズリ	スリップ		○	石英微粒多	中	薄茶	褐	坏	
	16	267		高坏N				12	ミガキ	ミガキ		○	良	良	茶		坏底	
	17	268		高坏N				10	ヘラミガキ	風化		○	良	良	茶		坏底	
	18	270		高坏B-III	183			4	ミガキ	ミガキ			石英・長石粗粒		茶		坏・絞り寄せ器面アバタ	
	19	271		高坏B-III	200			1.5	ミガキ	ミガキ	○	○	良	不	茶		坏	
	20	251		高坏B-III	160			10	ヘラ調理ハケ・棒状・工具調整	ハケメ		○	石英微粒少々	良	黄土	薄茶	坏	
	21	264		高坏A-IV	182			2.5	ハケメ・ミガキ			○	石英微粒少々	良	茶		坏	
	22	263		高坏B-II	190			1.5	カキメ			○	石英微粒多	良	褐		坏	
	23	258		脚部A-III				1	ヘラ縦ミガキ	ハケメ			石英・長石粗粒少々	中	薄茶		脚	
42	24	254	1号住居床	脚部A-II	110			6	ミガキ	絞り寄せ		○	良	中	明茶		脚・朱塗	
	25	259		脚部A-II	150			3	ミガキ	ミガキ		○	○	石英・長石粗粒多	中	赤茶	薄茶	脚
	26	253		脚部A-I	122			12	ミガキ	絞り寄せ・輪積		○	石英・長石粗粒少々	良	茶		脚	
	27	262		脚部B-II				12	ヘラ縦ミガキ				石英微粒多	中	茶		脚	
	28	273		脚部B-I				6	ヘラ縦ミガキ	ナデ			長石微粒少々	不	茶		脚	

挿入 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				底径	口径	高さ	底径	造り				スリッパの種		胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径					器表	器内	表	内	器表	器内					
42	29	272	1号住居	脚部B-II								12	ヘラ縦ミガキ	ナデ・ハケメ				中	中	茶		脚	
	30	257		脚部B-II								12	ヘラ縦ミガキ	ハケメ・輪積	○			良	良	茶		脚	
	31	255		脚部B-II								4	ヘラ縦ミガキ	輪積絞	○			石英微粒少々	良	茶		脚	
	32	256		脚部B-II								4	ミガキ・ハケメ	ハケメ				石英微粒少々	良	茶		脚	
	33	261		脚部N			126					2	ミガキ	ヘラ横ミガキ	○			良	中	茶		脚	
	34	260		脚部N			106					5	ミガキ	ミガキ	○	○		長石粗粒少々	中	暗褐	茶	脚	
	35	204		鉢B-II (100)		135		140				9	ハケメ	ハケメ	○			微砂粒多	中	明茶			
	36	802	床	鉢A-II			55					12	磨	耗風化				石英・長石粗粒多	不	茶		磨耗・孔径14	
	37	803		鉢A-II			40					1	ハラズリ・ハケメ	ハケメ				石英・長石粗粒多	良	茶			
	38	801		鉢A-II			35					12	磨	耗ミガキ				石英・長石粗粒多	不	茶		孔径9	
	39	205		不明			87					12	ハケメ					石英荒粒多	良	茶			
43	40	1018	1号住居床内	カメB-II (182)	150	85	160				6	ハケメ	ハケメ・ヘラ調整	○			粗砂粒	良	茶				
	41	1014	1号住居床内	カメB-II	180						7	ハケメ	ハケメ				砂粒多	良				口縁・頸	
	42	1037		カメA-IV	170		190				6	ハケメ・粘土	ハケメ				石英・長石粗粒多	良	暗茶			口縁・胴	
	43	1020		カメA-I	240	185	丸底	215			12	ハケメ	ハケメ	○			粗砂粒多	良	茶	焦茶		完形	
	44	1013		カメB-I	220						2	ハケメ・粘土	ハケメ				砂粒多	良	明茶			口縁・肩	
	45	1028		カメB-II	180						12	ハケメ	ハケメ・輪積				石英・長石粗粒多	良	魚茶			口縁・肩	
	46	1019		カメB-I (195)			202				6	ハケメ	ハケメ	○	○		石英荒粒多	中	茶			頸・胴	
	47	1006		カメN	160						2	沈線	ハケメ				石英微粒少々	良	暗茶			口縁	
	48	1004		カメN	160		2.5					2.5	ハケメ	ハケメ				砂粒多	良	魚茶			口縁・炭化物付着
	49	1007		カメN	180						2	ハケメ	ハケメ				石英・長石粗粒多	良	茶			口縁	
	50	1008		カメN	180						1	ハケメ	ハケメ				石英粗粒多	良	黄白			口縁	
	51	1012		カメN	180		1.5					1.5	ハケメ	ヨコナデ				石英粗粒多	中	茶			口縁
	52	1009		カメN	140						1	粘土・ナデ	粘土・ナデ				微砂粒少々	中	薄茶			口縁	
	53	1005		カメN	200						3	ハケメ	ハケメ				荒砂粒多	良	茶			口縁	
	54	1021		カメN							1.5						石英粒多	中	茶			頸・肩	
	55	1015	1号住居	カメN							3	ハケメ	ハケメ	○	○		石英・長石粗粒多	中	茶			頸・肩	
	56	1030		カメN			62				4	ハケメ・粘土	ハケメ				微砂粒	良	茶			腰・底	
	57	1017		カメD-I	150		150				3	ハケメ		○			石英・長石粗粒多	中	茶			口縁～胴、風化	
	58	1023		カメD-I	120		120				4	ハケメ	ハケメ	○			微砂粒多	良	茶			口縁～胴、風化	
	59	1011		カメD-I	140						1	ハケメ					石英・長石粗粒多	良	茶			口縁	
	60	1016		カメD-I	140		150				5	ハケメ	ハケメ	○	○		微砂粒少々	良	魚茶			口縁～胴	
	61	1024		カメD-I	140		140	1.5				1.5	ハケメ・粘土		○			粗砂粒多	良	茶			口縁～胴
	62	1022		カメD-I	160		160	2				2	ハケメ		○			石英・長石粗粒多	不	茶			口縁～胴
	63	1003		壺C-I	170			3				3	ハケメ・指調整	ハケメ	○			石英・粗粒多	中	茶			口縁
	64	1002		壺C-V	150			3				3	粘土・ヨコナデ	粘土・ナデ				石英粒多	良	魚茶			口縁
	65	1027		壺C-II	90			4				4	ヨコナデ	ヨコナデ				粗砂粒多	中	白茶			口縁
	66	1001		壺C-II	90			2				2	ハケメ	ヨコナデ	○			粗砂粒多	中	明茶			口縁、風化
	67	1032		カメN			80	3				3	粘土・ハケメ	ナデ				長石・石英粗粒多	良	薄茶			
	68	1031		カメN			60	6				6			○			石英粗粒多	不	茶			風化
	69	1033		カメN			57	12				12	ミガキ	ハケメ				石英微粒	良	茶	焦茶・灰		
	70	1036		カメN			丸底	3				3	ヘラ調整	ハケメ				石英・長石粗粒多	良	茶	焦茶		
	44	71	12	1号建物址	埴D			145	10			10	ナ	デ	輪積・絞りハケメ			微砂粒少々	良	明茶			頸～腰
		72	14		埴N				3			3	ハケメ	ヨコナデ				石英粒多	中	薄茶			肩
73		13		埴D				1.5			1.5	ヨコナデ	ヨコナデ				石英粒多	良	茶				
74		15		埴N				2			2	風化	ヨコナデ				粗砂粒多	不	黄茶				
75		854		環A	38	110	丸底	2				2	ハケメ	ヨコナデ	○			長石粗粒多	中	明茶			
76		852		環A	32	100	丸底	5				5	ヨコナデ	ヨコナデ	○	○		石英・長石粗粒多	良	茶			
77		853		環A	35	120	丸底	4				4	ヨコナデ	ヨコナデ	○	○		石英・長石粗粒多	良	茶			
78		851		環N	35	120	37	6				6	ミガキ	ミガキ	○	○		石英・長石粗粒多	中	明茶			
79		808		鉢F			110	2				2	ナ	デ	ハケメ			石英微粒多	良	薄茶			小形鉢
80		804		鉢C-IV			175	2				2	ヨコナデ		○			石英・長石粗粒多	良	茶			

種別 No	交付 No	遺物 No	出土 位置	器種	計測 (mm)				残存 円率 の1/2	造り		スリッパの有無	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内				表	内	
44	81	805		鉢 E	145		175	1.5	ハケメ	ミガキ	○	○	微砂粒	良	茶		
	82	806	1号建物址	鉢 A-III	180		180	3	ヘラケズリ、ハケメ	ヘラナデ、ハケメ			石英・長石粗粒多	良	焦茶		有孔鉢、口唇状ハケメ紋
	83	807		鉢 A-II			45	5					石英・長石粗粒少	良	茶		孔径9
	84	810		鉢 A-I			20	6	ヘラ調整	ハケメ			長石粗粒多	不	茶		孔径8
	85	809		鉢 A-II			80	2	ヘラケズリ	カキメ			微砂粒	良	茶		孔径6、多孔カ
	86	310		高坏B-I	120			2	ミガキ	ミガキ	○	○	粗砂粒多	良	茶		坏
	87	276		高坏A-II	210			4.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	○		良	良	赤褐		坏
	88	277		高坏A-I	200			2.5	ヘラケズリ	ハケメ			石英微粒少々	良	茶		坏
	89	282		高坏A-II	180			1.5					良	不	薄茶	黒	坏、風化
	90	312		高坏B-I	182			1.5	ハケメ	ハケメ			中	不	黄土・黒	褐	坏、器内磨耗
	91	311		高坏A-I	150			4	ヘラミガキ	ミガキ	○	○	良	中	赤褐		坏
	92	281		高坏B-I	171			1.5	ヘラケズリ	ミガキ	○	○	石英微粒少々	中	茶		坏
	45	93	278	1号建物址	高坏B-II	216			2	ヘラミガキ	ミガキ	○	○	長石粗粒少々	良	褐	
94		280		高坏B-II	180			1.5	ミガキ	ミガキ	○	○	良	良	茶		坏
95		283		高坏B-II	170			1.5	ミガキ	ハケメ			中	中	茶	黒茶	坏、器表磨耗
96		279		高坏N				3					長石・石英粗粒多	不	赤	黒褐	坏、器表内磨耗
97		284		脚部A-II		152		7	ヘラミガキ	ハケメ	○	○	良	良	茶・黒	薄茶	脚
98		286		脚部A-I		133		12	ハケメ	ハケメ・輪積	○		長石・石英微粒少	良	茶		脚
99		301		脚部A-III				12	ナ	デ	○		長石大粒混	不	薄茶		脚
100		306		脚部A-III				3	ミガキ	ハケメ			長石・石英微粒多	中	薄茶		脚、磨耗
101		307		脚部A-III				12					長石・石英微粒多	不	黄土		脚
102		309		脚部A-III				6					良	不	薄茶		脚
103		308		脚部B-II				6					良	中	薄茶		脚
104		285		脚部B-I				12	ヘラナデ	ナ			良	良	茶		脚
105		290		脚部B-I		118		12	ヘラ調整	ハケメ			長石大粗混	不	明茶		脚
106		300		脚部B-II		124		12	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ・ヘラ調整	○		良	良	茶		脚
107		288		脚部B-II		118		10	ナ	デ			良、砂質	不	薄茶		脚
108	287		脚部B-II		112		12	ミガキ・ナデ	ハケメ			長石・石英微粒多	良	茶		脚	
109	303		脚部B-II				6	ハケメ	輪積・絞り			石英・長石粗粒多	不	茶		脚・磨耗	
110	304		脚部B-B				6	ヘラ調整	輪積			長石粗粒多	不	赤		脚	
111	302		脚部B-II				6	ヘラ縦ミガキ	ナ			微砂粒	良	茶		脚	
112	305		脚部B-II				12	ヘラ縦ミガキ	絞り寄せ			石英細粒少々	中	薄茶		脚	
113	289		脚部B-III		112		12	ハケメ	輪積絞り	○		良	良	褐	赤茶	脚	
46	114	1042	1号建物址	カメA-III	240	184	50	220	12	ハケメ	ハケメ		石英・長石粗粒	良	茶		完
	115	1053		カメA-II (225)	180	丸底	218	4	ハケメ	ハケメ			粗砂粒多	良	茶		完
	116	1043		カメA-III (220)	180	(60)	220	12	ハケメ	ハケメ			粗砂粒多	良	茶		完
	117	1052		カメB-I	190			4	ハケメ	ハケメ			粗砂粒多	良	茶		口縁~肩
	118	1062		カメB-I	217			2	ヘラカキ	ヨコナデ			微砂粒	良	茶	黒	口縁
	119	1070		カメB-I	200			1	ヘラカキ				微砂粒	良	茶		口縁
	120	1061		カメB-I	200			2	ヨコナデ	ハケメ			粗砂粒多	良	茶		口縁
	121	1059		カメB-I	180			1.2	ヨコナデ	ヨコナデ			石英粗粒多	良	明茶		口縁
	122	1055		カメB-I	180			2	ハケメ	ハケメ			石英粗粒多	中	茶		口縁
	123	1064		カメB-I	160			1.5	ハケメ	ハケメ	○		石英粗粒	良	焦茶		口縁
	124	1057		カメB-I	160			1.5	ハケメ				粗砂粒多	不	黄茶		口縁、器内磨耗
	125	1058		カメC	190			2	ヨコナデ	ヨコナデ			微砂粒多	良	茶	黒	口縁
	126	1060		カメC	155			3	ハケメ	ハケメ	○		荒砂多	中	茶		口縁
	127	1056		カメB-I	170			3	ハケメ	ハケメ			微砂粒多	中	茶		口縁
	128	1063		カメB-I	155			2	カキメ	ヨコナデ			微砂粒多	良	茶		口縁
	129	1065		カメB-I	150			1	ハケメ	ヨコナデ			石英粒多	良	茶		口縁
	130	1076		カメN		80		6		ハケメ			粗砂粒多	良	茶	黒	底
	131	1074		カメN		60		12	ミガキ・ハケメ	ハケメ	○		微砂粒少々	良	明茶		底
47	132	1054	1号建物址	カメA-III (254)	210	60	(247)	7	ハケメ	ハケメ			微砂粒少々	良	焦茶		完

挿入 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)			残存 円率 0/12	造り				胎土	焼成	色		備考	
					器高	口径	底径		最大径	器表	器内	表			内	器表		器内
47	133	1044	1号建物址	カメB-II	160			2	ハケメ	ハケメ			石英・長石荒粒多	良	明茶		口縁～肩	
	134	1045		カメB-II	210			1.5	ハケメ				石英・長石粗粒多	不	薄茶		口縁～肩、磨耗	
	135	1071		カメB-II	200			1	ハケメ	ハケメ			粗砂粒少々	不	明茶		口縁	
	136	1068		カメB-II	160			2.5		ハケメ			微砂粒	不	薄茶		口縁～肩、風化	
	137	1066		カメC	160			2.5		ハケメ			微砂粒	不	薄茶		口縁～肩	
	138	1051		カメD-I	140			2.5		ハケメ			石英・雲母微粒多	中	薄茶		口縁～肩、器表磨耗	
	139	1046		カメD-II	120	130		4.5	ナ	デ	ハケメ	○	石英・長石粒	不	黄茶		口縁～胴	
	140	1073		カメD-I	150	163		1.5	ハケメ	ハケメ		○	荒砂粒多	不	茶		口縁～胴	
	141	1072		カメC	125			3	ハケメ	ハケメ			砂大粒多	不	茶		口縁～肩、磨耗	
	142	1067		カメC	140			1.5					微砂粒	不	明茶		口縁～肩	
	143	1047		カメC	105			10	ハケメ	ハケメ		○	石英・長石荒粒多	良	黄茶		口縁～肩	
	144	1049		カメE	92			3	ハケメ・カキ	指調整			長石粗粒多	良	焦茶		口縁～胴	
	145	206		壺C-VI	280			1	ヨコナデ	ハケメ			粗砂粒多	良	茶	灰茶	口縁	
	146	1048		壺C-VI				3	ハケメ・ヘラミガキ	ヨコナデ	○		石英荒粒多	良	茶		頸・肩・把手付	
	147	1040		壺C-I	140			2	ヨコナデ	ヨコナデ			長石・石英粒	良	茶		口縁	
	148	1050		壺C-III	150			5.5	ハケメ	ヨコナデ			微砂粒多	良	焦茶		口縁	
	149	1041		壺C-I	130			3	ヨコナデ	ミガキ	○	○	石英微粒	良	茶		口縁	
	150	1038		壺C-II	120			2		ヨコナデ		○	粗砂粒多	良	茶		口縁、器表磨耗	
	151	1039		壺D-III	130			2					粗砂粒多	不	茶		口縁、磨耗	
	152	1069		壺D-I	100			1		ハケメ		○	○	微砂粒少々	不	薄茶		口縁
	153	1077		カメA-II		60		5		ハケメ			石英粗粒多	良	茶		炭化物付着	
	154	1075		カメN		60		12	ハケメ・ミガキ	ハケメ		○	微砂粒少々	良	明茶			
	155	1116		カメN		28		12	ヘラケズリ	ハケメ			粗砂粒多	中	茶			
	156	1078		カメN		35		6	ヘラケズリ				石英荒粒多	良	白茶			
	157	1079		カメN		35		12	ハケメ				微砂粒	中	焦茶	灰茶	器内磨耗	
	158	1080		カメN		丸底		12					石英粗粒多	中	茶			
	48	159	17	2号建物址	埴口縁部A	80			2	ヨコナデ	ヨコナデ			微砂粒多	中	暗茶		口縁
		160	20		埴口縁部B	90			2	ハケメ	ヨコナデ			粗砂粒多	中	茶	焦茶	口縁
		161	16		埴 N				2	ハケメ	輪	積		微砂粒	良	薄茶		頸・肩
		162	18		埴 N		80		2	輪	積	積		微砂粒多	中	焦茶	茶	胴
		163	19		埴 N				2	ハケメ	ハケメ			石英粒少々	良	焦茶	茶	胴～底、底部黒色
164		207		壺 N				2	ハケメ・ミガキ	ヨコナデ			石英・長石粗粒少々	良	黒		頸、大形埴	
165		220		鉢 E	110	120		2	ナ	デ	ヘラ調整		石英微粒多	中	薄茶		口縁～胴、小形鉢	
166		854		坏 N	115			1					石英微粒少々	良	黒		口縁	
167		1081		カメB-I	160			2	ヨコナデ	ヨコナデ			石英微粒多	良	明茶		口縁	
168		1082		カメA-III		205		12	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ			微砂粒	良	茶		肩～底、器面一部黒色	
169		811		カメA-III		30		12	ヘラケズリ				粗砂粒多	良	焦茶	明茶		
170		315		高坏A-IV	176			12	ミガキ・ハケメ			○	○	微砂粒多	中	薄茶		稜坏
171		318		脚部B-I				12	ヘラケズリ	輪積・絞り			良	良	茶		脚	
172		317		脚部B-II				12	ヘラケズリ ヘラミガキ				長石粗粒少々	良	茶		坏底～脚	
173		319		高坏B-II	170			1	ミガキ	ミガキ			微砂粒多	中	黄白		坏	
174		323		脚部A-III				8		絞り寄せ			良	中	黄土		脚	
175		320		脚部B-I	166			1.5	ナ	デ	ミガキ	○	○	長石・石英微粒少々	中	茶		坏、口縁
176		322		脚部B-I	170			1.5	ハケメ	ミガキ		○	○	粗砂粒	中	暗灰	茶	坏、口縁
177	321		脚部B-III	180			4				○	○	良	中	茶		稜坏	
178	316		脚部A-III				6		絞り、指調整				石英粗粒多	良	黄白		脚	
49	179	21	3号建物址	埴 A	135	106	丸底	130	12	ナデ・ハケメ	ヒネリ上げ	○		微砂粒少々	良	明茶		完
	180	208		埴 C		40	128	12	ヘラ調整	輪	積			石英粗粒多	中	白茶	灰	底部ヘラ削り出し
	181	24		埴 N				1					良	良	焦茶		肩部細片	
	182	22		埴 N		120	25	1	ヨコナデ	ヘラナデ			微砂粒多	中	茶	茶	胴～腰	
	183	23		埴 N		120	1	1	ヨコナデ	ハケメ			長石粒	良	焦茶	茶	胴～腰	
	184	201		埴		丸底	112	12	指調整	輪積・ヘラ調整		○		微砂粒	良	焦茶		歪み

群区 No	町 No	遺物 No	出土 位置	器種	計測 (mm)				底 径	厚 寸	造り				胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径			器表	器内	表	内			器表	器内	
49	185	209	3号建物址	コップ形				77	6		ヘラ・指・調整				石英微粒多	良	明茶		
	186	856		坏 B	62	135	丸底	135	12		ヘラ調整	ヘラ調整			石英・長石粗粒多	良	薄茶	茶	完
	187	210		碗 B		120		120	3.5		ハケメ	ハケメ	○		石英・長石粗粒多	良	焦茶	薄茶	口縁～腰
	188	211		碗 B		120		120	3			ヨコナデ			石英・長石粗粒多	中	茶		口縁～腰
	189	212		碗 N					2		ハケメ・沈線	ナ	デ	○	微砂粒少々	良	茶		胴～腰、器表ミガキ
	190	213		鉢 F		170		170	2		ハケメ・沈線	ヨコナデ			石英・長石粗粒多	良	茶		口縁
	191	214		鉢 F		160		160	1		ハケメ・凸帯	ヨコナデ			粗砂粒多	良	茶		口縁
	192	812		鉢 N					2		貼土	ヨコナデ			石英・長石粗粒多	良	白茶		腰、有孔鉢
	193	326		高坏 A-1		170			12		ミガキ	ミガキ・指ヒネリ			良	良	茶		稜坏・脚
	194	328		高坏 A-1		198			3		ハケメ・ナデ	ハケメ・ミガキ			良	中	黄土		稜坏
195	327		高坏 B-1		190			12		ミガキ	ミガキ			粗砂粒多	中			坏・焼成ムラ	
196	331		脚部 A-1			156		5		ヘラミガキ・ナデ	ハケメ・ナデ			長石粗粒少々	良	茶		脚	
197	332		脚部 A-1			140		2		ミガキ	ハケメ・輪積	○		良	良	茶	黄土	脚	
50	198	329	3号建物址	脚部 A-1		178		5		ミガキ	ハケメ・ミガキ			微砂粒少々	良	褐	黒	稜坏	
	199	330		脚部 B-1		150		2.5		ヘラミガキ・ハケメ	ミガキ・ハケメ	○		良	良	褐		坏	
	200	333		脚部 A-II			153	1.5		ハケメ・ミガキ	ハケメ・ナデ			良	不	黄白		脚	
	201	334		脚部 A-1			140	1		縦ミガキ	ハケメ			良	良	茶		脚	
	202	337		脚部 B-II				5		縦ミガキ	ミガキ	○		良	良	茶		脚	
	203	336		脚部 B-III				12		ミガキ		○		良	良	茶		脚	
	204	335		脚部 B-II				12		縦ミガキ	輪積・絞り			良	良	黄白		脚	
	205	338		脚部 N				3			ハケメ				良	不	茶		脚・器表磨耗
	51	206	1084	3号建物址	カメ A-IV		180		205	7	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ・ミガキ			砂粒少々	中	茶		口縁～腰
207		1094		カメ A-IV		220		1		ハケメ	ハケメ・刺突			石英荒粒多	良	焦茶		口縁	
208		1093		カメ A-IV		220		1.5		ヨコナデ	ヨコナデ			長石・石英粗粒多	良	茶	一部黒	口縁	
209		1092		カメ B-I		200		1.5		ハケメ・ヨコナデ	ハケメ擦消し			長石・石英粗粒多	良	明茶		口縁	
210		1091		カメ B-I		170		2		ハケメ	ハケメ			石英粗粒多	良	明茶	薄茶・灰	口縁～肩	
211		1090		カメ B-I		180		2		ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・輪積			微砂粒多大	良	薄茶		口縁～肩炭化物付着	
212		1085		カメ D-I	140	152	20	152	12		ヘラズリ・ハケメ	ハケメ・ナデ			粗砂粒多	良	茶	焦茶	完
213		1086		カメ N				192	5		ハケメ	ハケメ・貼土			粗砂粒多	良	茶	灰茶	胴～腰
214		1083		カメ A-III	254	194	46	235	12		ハケメ	ハケメ			粗砂粒多	良	茶		完
215		1095		カメ B-II		260			1.5		カキメ・ハケメ	ハケメ			微砂粒少々	良	茶		口縁
216		1098		カメ B-II		180			1.5		ハケメ・ナデ		○		石英粗粒多	良	茶		口縁～肩
217		1097		カメ B-II		170			1		ヨコナデ	ヨコナデ			荒砂粒多	中	茶		口縁
218		1100		カメ A-IV		150			1.5		ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ			粗砂粒多	良	明茶		口縁
219		1099		カメ B-II		137			1.5		ヨコナデ	ヨコナデ			粗砂粒多	中	灰		口縁
220		1096		カメ C		130			2		ヨコナデ	ヨコナデ			微砂粒	中	暗茶	茶	口縁
221		1087		壺 C-II		200			2		沈線	ヨコナデ			石英粒多	良	茶		口縁(複合)・刻印
222		1089		壺 C-III		180			1		ハケメ	ハケメ			石英粒少々	良	明茶		口縁(複合)
223		1088		壺 C-I		140			2		ヨコナデ	ヨコナデ			石英粒少々	良	茶	黒	口縁(複合)
224		1101		カメ N			54		10		ハケメ	ハケメ	○		微砂粒	良	薄茶	明灰	
225		1103		カメ N			60		1		面取り				石英粗粒多	良	茶	明茶	
226	1102		カメ N			35		12		面取り				石英粗粒多	中	白茶			
52	227	215	4号建物址	コップ形	55	75	55	78	12		ヘラ調整	指コネ上げ			粗砂粒多	良	明茶		完
	228	339		脚部 A-II			141		12		ヘラ縦ミガキ	ハケメ・ヘラ調整			良	良	黄白	薄赤	脚
53	229	28	1号溝	埴口縁部 N		120			12		ヘラミガキ	輪積ヘラミガキ	1		石英・雲母多	良	明茶		口縁～胴
	230	31		埴口縁部 C		120			1.5		ヨコナデ	ヨコナデ			砂粒多	中	茶		口縁
	231	32		埴口縁部 C		110			1.5		ハケ刺突	ヨコナデ			微砂粒	中	黄白	薄茶	口縁
	232	33		埴 N					1		ヨコナデ	ヨコナデ			石英粒多	中	薄茶		肩
	233	35		埴 N					2		ハケ・ヨコナデ	ナ	デ		砂粒多	中	薄茶		肩
	234	25		埴 A			88		12		ヘラズリ・ハケメ				砂粒多	中	明茶		頸～底、底部削り出し
	235	27		埴 D			90		3		ヨコナデ	輪積			石英微粒多	中	明茶		肩～腰
	236	34		埴 N					1.5		ヨコナデ	指圧調整			砂粒多	良	茶	暗灰	頸～肩

採区 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				残存 時期 of 12	造り		胎土	焼成	色		備考		
					器高	口径	底径	口径		器表	器内			表	内		器表	器内
53	237	29	1号溝	埴 N				4	ヨコナデ	指圧調整		荒砂粒混	中	薄茶	暗灰	肩		
	238	26		埴 B			93	12		ヘラナデ		石英・雲母粒多	不	茶		胴~底		
	239	30		埴 B				12	ヘラナデ	指調整		石英粒多	良	薄茶	焦茶	腰~底		
	240	190		埴 N				2				荒砂粒多	不	焦茶		頸~肩		
	241	191		埴 N	(100)			2				石英粗粒多	中	茶		口縁		
	242	354		埴B-I		132		2.5	ナ	デ	ミガキ・カキメ		微砂粒多	中	茶		坏	
	243	353		埴B-I				1.3	カキメ	ミガキ		○	微砂粒少々	良	赤茶	茶	坏	
	244	351		高坏B-I				2	ミガキ	ミガキ			微粒少々	中	褐		坏	
	245	350		高坏B-II		188		2	ミガキ	ミガキ	○	○	石英微粒少々	良	明茶		坏	
	246	347		高坏A-VI				4	ヘラズリ・ミガキ	ミガキ			石英粗粒少々	中	茶		坏底、器内磨耗	
	247	343		脚部A-II		141		12	ミガキ	ハケメ・ナデ			粗砂粒多	良	茶		脚	
	248	342		脚部A-I	123	168	142	6	ミガキ	ハケメ・ミガキ			長石粗粒少々	中	赤茶		完、脚内殺り(脚部A-I)	
	249	349		高坏A-I				2					石英・長石粗粒多	中	茶		坏坏磨耗	
	250	341	1	脚部A-III				3	ヘラミガキ	輪積	○	○	微砂粒	良	褐		坏底~脚	
	251	341	2	脚部A-I			157	2.7	ヘラミガキ	輪積	○	○	微砂粒	良	褐		脚底、No250と同一個体カ	
	252	352		脚部A-II			153	1.5	ハケメ・ナデ	ハケメ・ミガキ			長石・石英粗粒少々	良	明茶		脚底	
	253	355		高坏コマ				12									繫コマ	
	254	356		高坏コマ				12									繫コマ	
	255	345		脚部B-I				5	縦ミガキ	ハケメ・殺り			良	良	茶		脚	
	256	346		脚部B-I				2.5	縦ミガキ	ナ	デ			微砂粒	良	茶	赤茶	脚
	54	257	348	1号溝	高坏A-I				3.3				○	粗砂粒多	中	黄土	黒褐	坏坏底、磨耗
		258	344		脚部B-II			126	12	ヘラズリ・ミガキ	ハケメ・ミガキ・殺り			石英微砂粒多	良	茶		脚
		259	216		壺 B			128	7	ヘラ調整				石英粗粒多	不	薄茶		頸~腰、壺カ
260		218		鉢B-II		145	153	3	ミガキ	ヘラナデ			石英粗粒多	良	明茶		口縁~腰	
261		217		鉢B-I		180	183	1.5		ヨコナデ	○		石英粗粒多	中	茶		口縁~腰	
262		814		鉢A-II	120	165	30	175	12	貼土・指圧調整	指圧調整			粗大砂粒多	中	白茶		完、歪み孔径9
263		813		鉢A-II	105	175	65	175	12	ハケメ・ヘラズリ	ハケメ		○	石英粗粒	良	茶		完、孔径7
264		1115	1号溝	カメA-IV		185		272	6	ハケメ		○		石英・長石粗粒多	不	明茶	明灰	口縁~腰、器内磨耗
55	265	1113		カメA-IV		180		2.5	ヨコナデ	ナ	デ			石英粗粒多	良	明茶		口縁
	266	1114		カメA-III		50	263	12	ハケメ	ハケメ			粗砂粒多	中	茶		肩~底	
	267	1135		カメB-I		220		1	ヨコナデ	ヨコナデ			石英・長石粒多	良	明茶		口縁、工具痕	
	268	1133		カメB-I		210		2	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒多	良	茶		口縁	
	269	1132		カメB-I		180		2.5	ハケメ	ハケメ			石英微粒	良	焦茶・黒	茶	口縁	
	270	1134		カメB-I		180		2	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ			石英・長石粒多	良	薄茶			
	271	1138		カメB-II		100		3		輪積			石英・長石粒多	良	焦茶	茶	口縁~肩	
	272	1422		カメN				3	ミガキ	ミガキ			良	良	褐		腰	
	273	1110		カメN			55	12	ヘラ調整	ハケメ			粗砂粒多	良	茶	黒	底	
	274	1104		カメB-II		140		168	4	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ナデ	○		石英粗粒多	良	茶		口縁~胴
	275	1112		カメA-IV		220		3	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ナデ			粗大砂粒	良	茶		口縁~肩	
	276	1106		カメA-III		40	158	8	ハケメ	ハケメ	○		粗砂粒多	中	焦茶	明茶	胴~腰、腰部磨耗	
	277	1107		カメA-III		40	225	12	ハケメ	ヨコナデ	○		荒砂粒多	良	茶・黒		肩~底、底部風化	
	278	1105		カメB-II		175		205	9	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ	○		微砂粒	良	黒	茶	口縁~胴、器面全面炭化物付着
	279	1108		カメN			40	9	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ			砂粒多	良	焦茶	茶・黒	腰~底	
280	1111		カメC		200		2	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ			粗砂粒	良	明茶		口縁		
281	1109		カメB-II		180		5	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ			粗砂粒多	良	茶		口縁~肩		
282	1131		器C-I		200		4	貼土				石英・長石微粒多	中	茶		口縁		
56	283	37	2号溝	埴口縁部A		90		2.5	ヨコナデ	ヨコナデ			微砂粒	良	薄茶		口縁	
	284	38		埴 N				1.5	ヨコナデ	ハケメ・輪積			微砂粒	中	薄茶		肩	
	285	36		埴 A			130	1.5	ハケメ	ヨコナデ	○		砂粒多	不	赤茶	明茶	胴~腰	
	286	219		鉢 N				3	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ	○		石英微粒多	良	明茶		腰~底	
	287	1139		カメN		40		12	ヘラケズリ				石英粗粒多	良	茶		底、8面体	
57	288	361	4号溝	脚部B-I			12	ミガキ	ヘラ縦ナデ			長石粗粒多	中	黄土		坏底~脚		

挿入 No	割付 No	遺物 No	出土 位置	器種	計測 (mm)			存 在 時 期 の 位 置	造 り		スリッパの有無	胎土	焼成	色		備 考	
					器高	口径	底径		器表	器内				器表	器内		
57	289	1117	4号溝	カメA-IV	150		4	ハケメ	輪積・ハケメ			石英粒多	中	茶		口縁~肩	
	290	1140		カメN	60		6	指調整				石英・長石粗多	中	茶		腰~底	
58	291	179	1号土坑	増口縁部A	80		2	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ			微砂粒少々	不	薄茶		口縁	
	292	41		増口縁部A	80		1.5	ヨコナデ	ヨコナデ			石英微粒少々	良	薄茶		口縁	
	293	39		増口縁部A	80		1	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ			微砂粒少々	良	暗灰	灰	口縁~頸	
	294	40		増口縁部A	80		2	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ			石英粗粒少々	良	茶	焦茶	口縁~頸	
	295	183		増 N	100		2.5	ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒	良	焦茶		口縁	
	296	42		増 B			85	ミガキ	絞り、指調整	○		粗砂粒多	良	薄茶	焦茶	頸~腰、歪み	
	297	43		増 N			2	ヘラナデ	ハケメ・輪積			石英粗粒多	良	茶		腰	
	298	368		高環B-I	140		1	ミガキ		○	○	良	中	茶		坏口縁	
	299	374		脚A-III			12	ハケメ・ミガキ	ハケメ・指調整	○		良	良	褐		坏底~脚	
	300	367		高環A-I	175		1	ミガキ	ミガキ	○	○	良	中	赤茶		稜坏	
	301	375		脚部A-II		120	2.3	ミガキ	輪積	○		良	不	赤		脚	
	302	373		脚部B-II			7	ミガキ	輪積・絞り	○		良	中	赤茶		脚	
	303	369		脚部B-II		122	4		指調整・ミガキ			粗砂粒多	不	灰		脚、器表磨耗	
	304	376		高環B-III	174		3	ヘラズリ・ハケメ	ミガキ			石英微粒多	中	茶		坏口縁	
	305	372		脚部B-III			12		絞り寄せ			不	中	灰		坏底~脚	
	306	366		高環A-I			12	ヘラミガキ	ヘラミガキ	○		微砂粒多	良	褐	黄土	稜坏、腰~底	
	307	370		脚部B-II			12	ミガキ	絞り寄せ	○		石英微粒多	中	黄土		脚	
	308	371		脚部B-II			12	ヘラ糞ミガキ	絞り寄せ			良	中	茶		脚	
	309	817		鉢 E	170		6	ヘラ糞・ヘラミガキ	ヨコナデ			石英長石粗粒	良	薄茶		口縁~胴	
	310	816		鉢 A-III	180	180	1	ヘラ調整	ヨコナデ			石英長石粗粒	良	焦茶	薄茶	口縁	
311	815		鉢 A-III	140		2	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ナデ			微砂粒少々	良	焦茶		口縁		
312	821		鉢 A-II		60	6	ハケメ	ヨコナデ			微砂粒少々	良	茶		底、孔径6		
59	313	1120	1号土坑	カメA-IV	220	270	9	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ			石英微粒、長石粗粒	不	明茶	灰	口縁~胴	
	314	1143		カメA-IV	220		1.5	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ			石英微粒、長石粗粒	良	暗茶	黄茶	口縁	
	315	1142		カメB-I	160		2	ハケメ				石英・長石粗粒	不	茶		口縁~肩	
	316	1141		カメB-I	170		3	ハケメ	ハケメ	○		微砂粒	良	焦茶		口縁~肩	
	317	1146		カメN	(320)		1	ヨコナデ				石英粒	良	茶		口縁	
	318	1119		カメD-II	90	92	2	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ			石英微粒	良	焦茶	茶	口縁~胴	
	319	1118		カメD-II	100	100	1.5	ハケメ	ハケメ			粗砂粒	良	焦茶		口縁~胴	
	320	1122		カメB-II	170		1.5	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ			石英・長石粗粒多	良	暗茶	薄茶	口縁~肩	
	321	1144		カメN	180		2	ハケメ	ハケメ			石英粒多	中	白茶		口縁	
	322	1121		壺D-II	160		5	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ			砂粒ナシ	不	赤茶		口縁~肩	
	323	1145		壺C-III	150		3					長石・石英粗粒	中	薄茶		口縁、複合	
	324	1167		カメN		85	2	ハケメ	ハケメ	○		石英粗粒	良	焦茶		底	
	325	1168		カメN		50	3					石英微粒	良	赤茶	薄焦茶		
	60	326	44	2号土坑	増 B		90	12	ナ	ナ	○		砂粒多	中	明茶		肩~底
		327	45		増 N			3	ヨコナデ	ナ			微砂粒少々	良	焦茶		肩
		328	47		増 N			1.5	ナ	ナ			石英微粒少々	中	茶		腰
329		46		増 B		100	7	ハケメ	ハケメ			粗砂粒多	中	焦茶		胴~底	
330		48		増 N			1	ヘラケズリ				微砂粒少々	中	茶	焦茶	底、細片	
331		384		高環A-VI			5	ヘラケズリ	ミガキ			粗砂粒少々	中	茶		稜坏	
332		389		脚部A-II		130	1	カキメ・ナデ				微砂粒多	中	茶		脚	
333		391		高環A-II	190		4	ハケメ・ミガキ	ミガキ	○		微砂粒多	良	茶・黒	黒・茶	坏口縁	
334		382		高環B-I	172		6	ハケメ・ナデ	ナ			粗砂粒少々	不	褐		坏	
335		386		脚部B-II		106	6	ヘラミガキ	輪積・絞り	○		微砂粒多	良	明茶		脚	
336		383		高環B-II	180		6	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ	○	○	長石粗粒多	不	茶	明茶	坏、全体アバタ	
337		387		脚部B-II			12	ミガキ	指調整	○		良	良	黄土		坏底~脚	
338		390		脚部N		140	2	ミガキ	ミガキ			良	良	黒褐		脚底	
339		381		脚部A-III			6	ミガキ	ハケメ	○		石英微粒少々	良			坏底~脚、一部磨耗	
340	388		高環N			3	ヘラミガキ	ハケメ・ミガキ	○	○	石英微粒少々	良	茶		坏底		



押区 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				残存 円周率 % of 12	造り			スリッパ 積	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内	表内				器表	器内	
60	341	385	2号土坑	脚部B-II			120		12	ミガキ	ヨコナデ・輪積	○	良	良	茶・黒		脚	
	342	393		高坏A-I					4	ハケメ・ナデ	ミガキ		微砂粒多	中	黄土		稜坏、砂質	
	343	392		高坏A-I		200			3	ミガキ	ミガキ		長石粗粒少々	中	茶	赤茶	稜坏	
	344	818		鉢A-I	110	200	尖底		12	ハケメ・指圧	ハケメ・カネメ・指圧		長石荒粒多	良	黄茶		完、孔径7	
	345	819		鉢A-III					6	ヘラ調整・ハケメ	ヘラ調整・ハケメ		粗砂粒	良	茶		有孔鉢カ	
	346	820		鉢B-II		160			1	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ		小石混り	良	焦茶	黒	口縁~胴	
	347	857		坏B		110			1.5				微砂粒少々	不	黄白		口縁	
61	348	1125	2号土坑	壺C-V		185			4	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ	○	石英・長石粒	良	明茶		口縁~肩	
	349	1149		カメA-IV		240			2	ナデ			石英荒粒多	不	黄茶		口縁~肩	
	350	1150		カメB-I		200			2	ハケメ		○	石英粒多	良	茶	焦茶	口縁~肩	
	351	1147		カメB-I		240			3	ハケメ	ハケメ		長石荒粒多	中	白茶		口縁~肩	
	352	1148		カメB-I		260			2	ハケメ	ハケメ・ヨコナデ		石英・長石粗粒多	良	茶		口縁~肩	
	353	1130		カメN		40			12	ハケメ	ハケメ	○	長石粗粒多	良	茶	焦茶		
	354	1171		カメN		30			12			○	石英粗粒多	良	茶		腰~底、丸底ぎみ	
	355	1128		カメN		65			12	ハケメ	ハケメ		砂粒少々	良	茶	赤茶	底	
	356	1170		カメN		65			2		ハケメ		石英長石・微粒	良	茶		底	
	357	1123		カメD-II		90	90		5	ヨコナデ	ヨコナデ		微砂粒少	不	茶			
	358	1124		カメD-I		135	138		4	ハケメ	ハケメ		石英微砂	良	暗茶		口縁~胴	
	359	1172		カメN		40			2	カキメ		○	石英微粒多	不	茶	焦茶	底	
	360	1126		カメA-IV			200		9	ハケメ	ハケメ	○	石英・長石粗粒多	良	明茶		肩~腰、一部磨耗	
	361	1127		カメN		85			12	ヘラ調整	ミガキ		荒砂粒多	中	焦茶	明茶	底	
	362	1169		カメN		85			3				石英・長石粗粒	良	焦茶		底	
62	363	50	3号土坑	埴D			90		4	ヘラ調整	ヨコナデ	○	粗砂粒	良	焦茶	明茶	肩~腰	
	364	49		埴D			90		2	ヨコナデ	ヘラナデ	○	粗砂粒多	良	黄茶	明茶	頸~胴	
	365	52		埴N			85		2		指押え		粗砂粒多	中	茶		胴~腰	
	366	51		埴A			70		2		ナデ	○	粗砂粒多	中	黄茶	焦茶	胴~腰	
	367	53		埴A					1	ヨコナデ	ヨコナデ		粗砂粒多	良	茶		胴、細片	
	368	221		壺B-I (58)	85	90			2	ヨコナデ	ヨコナデ・工具ヒナ		微砂粒	良	薄茶		口縁~底	
	369	222		碗B		130			2				石英粗粒	中	茶		口縁~胴	
	370	858		碗A		120			2	ヘラミガキ		○	石英粗粒	良	明茶		口縁~腰	
	371	397		高坏A-III					2	ヨコナデ	ミガキ	○	石英・長石微粒少々	中	茶	黄土	稜坏、腰~底	
	372	395		高坏A-VI					12	ミガキ	ミガキ	○	粗砂粒多	不	褐		稜坏、底	
	373	394		高坏A-VI					3	ミガキ	ナデ	○	長石・石英微粒少々	中	茶	黒	稜坏、腰~底	
	374	396		脚部A-I		152			3	ミガキ	ハケメ	○	中	良	茶		脚部	
	375	1151		壺C-II		180			5	ヘラ調整・ハケメ	ヘラミガキ	○	石英・長石粗粒多	中	黄白		口縁~肩、複合	
376	1152		カメA-III	257	140	60	212	12	ハケメ	ハケメ・ヨコナデ	○	粗砂粒多	不	明茶		完、底部に炭化物付着		
63	377	402	4号土坑	高坏A-V		120			3	ミガキ	ミガキ	○	微砂粒多	不	赤茶・黒		坏、口縁~腰、磨耗	
	378	407		脚部B-II		113			6	縦ミガキ・ナデ	絞り・ヘラ押え	○	良	中	黄土		脚	
	379	401		高坏A-IV		196			5				粗砂粒多	不	茶・黒	黄土	稜坏、磨耗	
	380	406		脚部A-I		156			10	ミガキ	輪積・ハケメ	○	長石粒少々	中	茶		脚	
	381	405		高坏A-IV					6	ハケメ・ヘラ調整	ナデ		長石粗粒少々	中	茶		稜坏底、貼付稜	
	382	408		脚部A-III					8		輪積・絞り		微砂粒	良	茶		脚	
	383	410		高坏B-II					1.5	表面剥離		○	石英粗粒多	中	茶	黄白	坏、口縁~腰、磨耗	
	384	404		高坏N					4	ミガキ	ミガキ	○	微砂粒多	中	茶		坏腰~脚頭	
	385	409		高坏N					12	ミガキ・ハケ調整			微砂粒少々	中	茶		繋ぎ部	
	386	403		高坏N					6	ヘラ調整・ミガキ	ミガキ・ハケメ		石英・長石粗粒多	良	茶		坏腰~脚頭	
	387	1237		壺C-I		130			3	ヨコナデ	ヨコナデ		石英・長石粗粒多	中	白茶		口縁、複合	
64	388	58	5号土坑	埴口線部A		130			2	ハケメ・沈線	ヨコナデ	○	粗砂粒多	中	明茶		口縁	
	389	56		埴A			135		12	スリップ	輪積	○	粗砂粒多	不	明茶		頸~底	
	390	59		埴口線部A		110			2	ヨコナデ	ヨコナデ	○	微砂粒多	中	明茶		口縁	
	391	57		埴B		丸底	130		6	ナデ上げ	輪積	○	粗砂粒多	中	明茶	焦茶	頸~底	
	392	55		埴D			92		12	スリップ	輪積	○	良	不	明茶		頸~底	

種別	区割	遺物	出土位置	器種	計測 (mm)			厚 寸 率 % / 12	造り			リッパの有無	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径		器表	器内	表内				器表	器内	
64	393	54	5号土坑	埴 A			90	11	ハケメ	指ヒネリ	○	石英粗粒多	中	明茶		類~底	
	394	60		埴 D			84	5	ナ	デナ	デ	粗砂粒	中	茶		類~腰	
	395	61		埴 B			70	4	ヨコナデ	ヒネリ上げ	○	粗砂粒	良	薄茶	灰	類~腰	
	396	62		埴 D			73	3	ヨコナデ	絞り寄せ	○	粗砂粒多	良	薄茶	灰茶	類~胴	
	397	63		埴 B				2	ハケメ	輪積	○	微砂粒少々	良	茶・黒	焦茶	底	
	398	64		埴 B			84	2	ヨコナデ	ヨコナデ	○	微砂粒少々	良	明茶		胴~腰	
	399	862		坏 A		100		2		輪積		粗砂粒	良	薄茶		口縁	
	400	861		坏 A		120		2	ヨコナデ	ヨコナデ		石英・長石粗粒多	中	茶		口縁	
	401	859		碗 B				1.5	ヘラミガキ・ハケメ	スリップ	○	石英微粒	良	明茶		口縁~腰	
	402	822		鉢 F		96	150	60	5	ハケメ	スリップ	○	石英・長石粗粒多	中	薄茶	明茶	完
	403	823		鉢 D		180		2	ハケメ	輪積	○	石英・長石粗粒多	不	黄茶		口縁~腰	
	404	412		高坏A-II		162		3	ミガキ	ミガキ		微砂粒少々	中	茶		稜坏	
	405	418		高坏A-IV				4	ハケメ・ミガキ	ハケメ	○	良	良	黄土		稜坏、腰、貼付稜	
	406	421		高坏A-II		180		2	磨	磨		良	不	赤		坏、口縁~腰	
	407	420		高坏B-II		178		1.5	磨	磨		石英・長石粗粒多	不	茶		坏、口縁~腰	
	408	422		高坏B-III		180		2	ミガキ	ミガキ		石英微粒少々	良	黒		坏、口縁~腰	
	409	411		高坏B-II		200		5	磨	磨		微砂粒少々	良	茶		坏、口縁~腰	
	410	419		高坏N				3	磨	磨		粗砂粒多	不	茶		坏底、繫	
	411	413		脚部A-III				12	縦ミガキ	輪積		微砂粒少々	中	薄茶		坏底、繫	
	412	417		脚部B-III				3	ミガキ	絞り寄せ	○	粗砂粒多	不	茶		脚	
413	415		脚部B-II				6	磨	磨		粗砂粒多	不	黄土		脚		
414	414		脚部B-II				12	磨	磨		粗砂粒少々	不	茶		脚		
415	416		脚部B-II				4	縦ミガキ	ヨコナデ		微砂粒多	中	茶		脚		
65	416	1179	5号土坑	カメB-I		160	160	6	ハケメ	ヘラ調整		石英・長石粗粒多	良	焦茶		口縁~腰	
	417	1157		カメA-IV		190		3	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ		石英・長石粗粒多	良	茶		口縁	
	418	1159		カメC		200		2	ヨコナデ	ヨコナデ		石英粒	良	明茶	茶	口縁	
	419	1156		カメA-IV		195		3	ハケメ	ハケメ	○	石英・長石粗粒多	良	暗茶		口縁~肩	
	420	1155		カメC		130		2	ハケメ	ナデ・ミガキ	○	石英・長石粗粒多	良	暗茶・灰		口縁~胴	
	421	1158		壺D-II		130		1.5	ヨコナデ	ヨコナデ		石英粒多	良	黄白		口縁	
	422	1161		壺C-IV		160		1.5	ナ	デ		石英粒	中	茶		口縁	
	423	1160		壺C-II		113		3	ナ	デ		石英粒	良	茶		口縁	
	424	1154		壺C-IV		160		1.5			○	石英微粒	良	明茶		口縁、刻印	
	425	1173		壺C-I		185		11	ヘラ調整	ヨコナデ	○	石英粗粒多	良	茶	一部灰	口縁、複合	
	426	1166		カメN		40		9		輪積		荒砂粒	良	黄白		一部黒	
	427	1164		カメN		55		4				石英・長石粗粒多	良	茶		一部黒	
	428	1165		カメN		40		2				石英粗粒多	良	灰茶	薄茶	腰~底	
	429	1163		カメN		50		4	ヘラ面取り			長石・石英粗粒	良	茶	黒	鉢底カ	
	430	1162		カメN		65		12	ヘラ調整	ハケメ	○	石英粗粒多	良	茶	灰	放射状のハケメ	
	431	1153		カメN				2	ハケメ	輪積		石英微粒	良	茶		肩、精製	
	66	432	65	6号土坑	埴口縁部B		90		1.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	○	石英粒多	良	茶	一部灰	口縁
		433	66		埴口縁部A		90		3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	○	微砂粒多	良	茶		口縁
		434	68		埴口縁部A		120		5				石英・長石粗粒多	良	焦茶		口縁、No.435と同一カ
435		69		埴 E		152		3	ヘラヨコナデ	輪積・指押え	○	石英・長石粗粒多	良	焦茶		肩~腰、No.434と同一カ	
436		67		埴 N		(140)		3	ヨコナデ	輪積・ヨコナデ	○	石英粗粒多	良	焦茶	薄茶	類~肩	
437		70		埴 D		150		2	ヨコナデ	輪積・指押え	○	石英・長石粗粒多	良	茶		肩~腰	
438		432		高坏B-III		190		1	磨	磨		石英微粒多	中	褐黄土		坏、口縁~腰	
439		426		高坏B-I		176		3	ミガキ	ミガキ	○	石英微粒少々	良	茶		坏、口縁~腰	
440		427		高坏A-I		165		2	ハケメ・磨	ハケメ・ナデ		微砂粒多	不	茶		稜坏、口縁~腰	
441		429		脚部A-I		120		10	縦ミガキ	輪積、絞り、ナデ	○	微砂粒多	不	茶		脚	
442		430		脚部A-II				4	磨	磨		微砂粒多	良	赤	黒	脚	
443		431		脚部B-II		140		12	ミガキ	輪積・ハケメ・ナデ	○	微砂粒少々	中	茶		脚	
444		428		脚部B-II				4	ミガキ	絞り寄せ	○	粗砂粒少々	良	褐		坏底~脚頭	

地区	町	遺物	出土位置	器種	計測 (mm)				保存 状態 0/12	造り			スリッパの有無	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	口径		器表	器内	表内				器表	器内	
66	445	434	6号土坑	脚部B-III					4	ミガキ	ハケメ			粗砂粒少々	良	薄茶		脚、大形コマ
	446	435		脚部N					3	磨	スリップ	○		長石微粒多	不	赤茶		脚堀
	447	433		脚部B-III					12	ヘラミガキ	絞り寄せ	○		良	良	薄茶		脚
	448	1176		カメA-I	242	180	丸底	195	6/12	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ・ヨコナデ	○		石英粗粒多	良	茶		完、胴部炭化物附着
	449	1175		カメA-II		140		154	6	ハケメ	工具圧痕			石英・長石粗粒多	中	薄茶		口縁～腰
	450	1174		カメC		160		160	2	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ	○		石英粗粒多	良	焦茶	茶	口縁～胴
	451	1177		カメN			70		2	ヘラズリ・ミガキ	ハケメ			石英微粒	良	黒	灰茶	腰～底
	452	1178		壺C-V		170			3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ			石英他荒粒多	良	茶		口縁
	67	453	71	7号土坑	坩 E	85	95	40	95	12	ヨコナデ・ヘラズリ	ヨコナデ	○		微砂粒少々	良	茶	
454		1187		壺 E				105	2	ハケメ	ナデ	○		微砂粒少々	良	焦茶	薄茶	頸～胴
455		1186		壺B-II	120			120	3	ハケメ	ヘラナデ	○		石英微粒	良	薄茶		口縁～胴
456		1184		壺B-II	150			150	3	ハケメ	ハケメ	○		石英微粒	良	茶・黒		口縁～腰
457		1185		壺B-II	160			160	2	ハケメ	ハケメ	○		微砂粒	良	明茶		口縁～腰
458		863		坏B	100			100	4	ヨコナデ	ミガキ			石英粒多	良	明茶		口縁～腰
459		224		坏A	50	135	33	135	7/12	ヨコナデ	ヨコナデ	○		微砂粒少々	不	赤茶		完
460		223		碗B	79	130	57	130	7/12	ハケメ・貼土	ヘラ調整			石英微粒多	中	明茶		完
461		180		鉢 E				152	4	ハケメ・ミガキ	ハケメ	○		粗砂粒多	良	焦茶	灰	胴～底
462		825		鉢A-III		180			1.5	ハケメ	ヨコナデ			微砂粒	良	明茶	灰茶	口縁細片
463		823		鉢A-I	89	170	18	170	4	指ヒネリ	ハケメ・指押え			長石・石英粗粒多	良	明茶	赤茶	完、孔径7
464		824		鉢A-III		160		160	2	ヘラミガキ	ハケメ・貼土			石英・長石粒	良	茶		口縁～胴
465		442		器台					6	スリップ	スリップ	○		良	不	黄土・黒		受～脚、2ヶ所穿孔
466		439		高坏A-V		117			8	ヘラ調整	ミガキ・ハケメ			粗砂粒多	良			脚堀欠
467		437		高坏A-II		178			12	ハケメ	ミガキ・ハケメ	○		良	良	茶		稜坏
468		448		高坏A-IV					2	ミガキ	スリップ	○		長石微粒多	不	黄土		稜坏腰
469		449		高坏A-VI					12	ヘラミガキ	ハケメ・ミガキ			石英・長石微粒多	良	茶		坏底
470		453		高坏A-IV					12	ミガキ	ミガキ			石英微粒多	良	黄土		稜坏底
471		452		高坏N					4	貼土・磨耗				微砂粒多	中	茶		坏底
472		444		脚部B-II					12	ハケメ・ミガキ	絞り寄せ			良	中	茶		脚
473		443		脚部N			115		2.5	ミガキ	ミガキ			石英微粒	良	茶・黒		脚堀
474		438		高坏A-I		210			4	ミガキ	ミガキ	○		石英粗粒多	良	茶	赤	稜坏、脚堀欠
475		450		高坏A-VI					6	ヘラミガキ	ミガキ			粗砂粒多・石英粗粒少々	良	茶		坏底
476		436		高坏A-II		190			6	ミガキ	ミガキ	○		微砂粒少々	良	赤茶		坏、口縁～腰
477		446		脚部B-II					12	ヘラ調整	輪積・指押え			粗砂粒多	良	茶		脚
478		454		脚部N			125		3		ハケメ			石英粗粒多	中	明茶		脚堀
479		447		脚部B-II					8	ハケメ・ミガキ	輪積・絞り			中	良	茶		脚
480		441		脚部B-II					12	ハケメ・ミガキ	ナデ			良	中	薄茶	褐	脚
481		451		脚部N					2	ヘラミガキ	ミガキ			石英微粒多	良	茶		繫
482		445		脚部B-I					10	ヘラミガキ	絞り寄せ			微砂粒多	中	黄白		脚
68	483	1180	7号土坑	カメA-IV	165		220	7	ヘラミガキ	輪積ナデ			微砂粒多	中	薄茶		口縁～腰	
	484	1181		カメA-IV	175			8	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒少々	良	焦茶		口縁～肩	
	485	1182		カメA-IV	210	240	1.5		ハケメ	ハケメ			石英微粒少々	中	薄茶	灰	口縁～胴、但し胴部省略	
	486	1195		カメC	120	120	2		ハケメ				微砂粒	良	焦茶		口縁～胴	
	487	1194		壺D-II	140			2	ナデ	ヨコナデ			粗砂粒	中	白茶		口縁、複合	
	488	1193		カメN				2	ハケメ	ヘラ調整			石英・長石粗粒多	良	茶		頸～肩	
	489	1183		カメN			260	2	ヘラズリ・ハケメ				石英・長石粗粒多	良	灰茶		胴	
	490	1191		カメN		30		12	ヘラ調整	ミガキ	○		石英微粒	中	茶		腰～底	
	491	1188		カメN		48		12	ハケメ・指押え	ハケメ			石英粗粒多	中	焦茶	薄茶	腰～底、ヘラ調整	
	492	1192		カメN		丸底		12	ミガキ	貼土			粗砂粒多	良	薄茶		底	
	493	1190		カメN		74		6	ナデ				石英・長石荒粒多	良	黄白		底	
494	1189		カメN		45		12	カキメ	指押え			粗砂粒多	中	茶		腰～底		
69	495	72	8号土坑	坩 N	115		120	12	ナデ	ナデ・輪積	○		石英微粒多	良	茶		口縁～胴	
	496	73		坩 A			136	6	ヘラケズリ	輪積・ハケメ	○		微砂粒多	良	薄茶		頸～底	

種別	出付No	遺物No	出土位置	器種	計測 (mm)			最大径	厚	造り		リブの有無	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径			器表	器内				器表	器内	
								器高	口径			底径					
69	497	74	8号土坑	埴 N				2.5		輪	積		微砂粒少々	不	焦茶		頸～肩
	498	193		埴 N				2		輪	積		微砂粒少々	良	茶		頸～肩
	499	226		碗 B		140		1					砂粒無し	中	黄茶		口縁～胴
	500	225		碗 A	70	133	55	133	12	ヘラナデ	ヨコナデ		石英・長石粗粒多	良	茶	茶・黒	完
	501	227		碗 B		130		130	1.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ		微砂粒	良	焦茶		口縁～胴、精製
	502	828		鉢 A-III		160		160	2	ハケメ・指調整	輪積・ナデ		長石荒粒多	良	焦茶	薄茶	口縁～胴
	503	826		鉢 A-II	118	170	50	170	12	ハケメ	ハケメ		石英・長石粗粒多	中	白茶	明茶	完、孔径7
	504	829		鉢 A-II			30		12	面取			石英微粒	中	茶	灰	底、孔径6
	505	830		鉢 A-I			丸底		1	面取	ハケメ		粗砂粒多	良	薄茶		底、有孔鉢カ
	506	827		鉢 C-I		255		255	2	ヘラミガキ	ヘラミガキ		微砂粒少々	良	茶		口縁～胴、精製
	507	462		高坏B-III		151			1	ヘラミガキ	ミガキ		石英微粒少々	良	茶		坏、口縁～腰
	508	469		脚部A-II			102		8	ヘラミガキ	ハケメ・絞り		良	良	茶		脚
	509	459		高坏A-III		188			5	ハケメ・ミガキ	ミガキ	○	良	良	褐・黒	褐	坏、口縁～腰
	510	457		高坏B-I		190			4	ミガキ	ミガキ		石英他粗粒多	中	茶	黒	坏、口縁～腰、磨耗
	511	460		高坏B-I		196			4	ナデ・ハケメ	ミガキ		微砂粒多	不	黄土		坏、口縁～腰、磨耗
	512	456		高坏A-I		186			5	ナデ・ヘラミガキ	ハケメ		石英他微粒多	良	茶	赤黒	坏
	513	466		脚部B-II			170		1.5	縦ミガキ・ナデ	ミガキ・絞り	○	中	良	茶		脚
	514	464		高坏N					12	磨	剥	離	石英微粒少々	不	茶		基底
	515	468		脚部B-II			115		12	ミガキ	絞り寄せ		良	中	褐		脚
516	463		高坏A-VI					2	ヘラ調整	ミガキ	○	○	良	中	茶		坏腰
517	471		脚部B-III					12	ミガキ		○	○	良	中	茶		脚、裾欠
518	465		脚部B-III			131		2	ヘラ調整ナデ	ハケメ・ナデ		微砂粒少々	良	暗褐		脚、裾	
519	467		脚部B-III					6	ミガキ	ミガキ		石英微粒少々	良	茶		繫	
70	520	458	8号土坑	高坏B-I		158			3	磨	剥	離	石英・長石粗粒少々	中	暗褐		坏、口縁～腰
	521	470		脚部B-II				12	ミガキ	絞り寄せ	○		良	不	薄紅		脚、裾欠
	522	473		脚部N			120		2	磨	剥	離	良	中	茶		脚、裾
	523	461		高坏N		187			1.5	ミガキ・磨	ミガキ		良	中	黒		坏、口縁
	524	472		脚部B-II				10	ハケメ・ミガキ		○	○	良	不	黄土	赤	脚、裾欠
	525	474		脚部N		140			2	ミガキ	磨	○	○	良	茶		脚、裾
	526	1197		壺 C-IV		120			2	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ		微砂粒少々	良	茶		口縁、精製
	527	1196		壺 C-IV		140			1	ヨコナデ	ヨコナデ		微砂粒少々	良	灰	暗灰	口縁、精製
	528	1198		壺 C-IV		130			2	ヨコナデ	ヨコナデ		微砂粒少々	良	焦茶		口縁、精製
	529	1199		壺 C-I		150			2	ハケメ	ハケメ		石英・長石粗粒多	良	黄白		口縁
	530	1201		壺 C-I		150			3	ヨコナデ	ヨコナデ	○	○	不	薄茶		口縁～肩、磨耗
	531	1200		壺 C-I		200			2	ヨコナデ・指調整	ヨコナデ		石英粗粒多	良	明茶		口縁
	532	1207		カメA-IV		115			8	ハケメ	ハケメ		石英・長石粗粒多	良	薄茶		口縁～肩
	533	1202		カメA-IV		134			3	ヨコナデ	ヨコナデ		石英荒粒多	不	赤茶		口縁～肩、砂質
	534	1214		カメN			37		12	ヨコナデ			微砂粒少々	良	明茶		腰～底
	535	1215		カメN			72		12		ハケメ		石英・長石粗粒多	良	茶		腰～底
	536	1216		カメN			55		3				微砂粒少々	良	明茶		腰～底
	537	1217		カメN			55		6	ヘラ調整			石英粗粒多	良	黄茶		腰～底
	538	1213		カメN			38		12		ハケメ		石英・長石粒	中	薄茶	焦茶	腰～底
71	539	1212	8号土坑	カメA-III	268	200	40	250	2	ハケメ・粘土	ハケメ		粗砂粒多	中	茶		完、炭化物付着
	540	1211		カメA-IV		195		220	12	ハケメ	ハケメ		石英・長石粗粒	中	茶・黒		口縁～腰部
	541	1208		カメA-IV		190			5	ハケメ	ハケメ	○	石英・長石粗粒多	中	茶		口縁～肩、一部磨耗
	542	1206		カメB-I		195		226	2	ハケメ	ハケメ		石英粒多	中	焦茶		口縁～胴、一部磨耗
	543	1210		カメB-II		175		250	12	ハケメ	ハケメ	○	長石粗大粒多	中	薄茶		口縁～腰、一部磨耗
	544	1209		カメB-II		170		206	5	ハケメ	ハケメ		粗砂粒	良	茶・黒		口縁～腰
	545	1204		カメB-I		200			3	ハケメ	ハケメ		石英粒	良	茶		口縁～肩
	546	1205		カメB-I		200			2.5	ハケメ	ヨコナデ・ハケメ		微砂粒	良	茶		口縁～肩
547	1203		カメB-II		170			3	ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	○	石英粒多	中	茶		口縁～肩	
72	548	76	9号土坑	埴 B			(155)	2	ヨコナデ	ヨコナデ・指押え		石英・長石粗粒多	良	茶		肩	

地区 No.	部付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				底 厚 寸法 or 12	造			スリ、フの 目	胎土	焼成	色		備 考			
					器高	口径	底径	最大径		器	表	器				内	表		内	器表	器内
72	549	75	9号土坑	埴 N				(166)	1	ハケメ・ヘラナデ	ハケメ	○	微砂粒	良	薄茶		肩、細片				
	550	1218		カメB-I	240				2	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ		石英・長石粗粒	良	暗灰		口縁～肩、肉厚				
	551	1219		カメN		丸底			12	ヘラ調整	ハケメ		粗砂粒多	中	茶		底、平坦部削り出し				
73	552	77	10号土坑	埴口線部A	115				3	ヨコナデ	ヨコナデ	○	石英・長石粗粒多	中	茶		口縁～肩				
	553	78		埴 C	110				2	ナ	デ		粗砂粒	中	茶		口縁				
	554	79		埴 N				110	3	ハケメ・ヘラ調整	ナ	デ	粗砂粒多	中	薄茶・黒		胴				
	555	476		高坏A-I	182				10	ミガキ	ミガキ	○	粗砂粒多	良	茶		坏				
	556	477		脚部B-II					3	ヘラミガキ	輪	積	良	良	黒		脚、裾欠				
	557	1493		カメB-II	150				2	ヨコナデ	ハケメ	○	石英粗粒多	中	赤茶	焦茶		口縁～肩			
	558	1221		カメC	140				1	ハケメ	ハケメ		微砂粒	良	薄茶		口縁～肩				
	559	1220		壺C-I	170				2	ヘラカキ	ヨコナデ		微砂粒	良	黄白		口縁				
	560	1222		カメN		20			12	面取り	ハケメ		石英粗粒	良	茶		底				
	561	831		鉢A-II		40			6	面取り	ハケメ		石英・長石粗粒	良	茶	暗茶		腰			
	562	228		碗	N		60		3	ナ	デ		長石・石英粗粒	良	暗灰	薄茶		腰～底			
74	563	481	11号土坑	脚部B-III					12	ヘラ調整			微砂粒多	不	黄土		脚、裾欠				
	564	1229	12号土坑	壺D-II					2	ナ	デ	ナ	石英微粒多	良	黄白		口縁～肩				
	565	1230		壺 N					2	ハケメ	輪	積	石英微粒多	良	薄茶		肩、ビリー1ヶ混入				
	566	484		高坏B-IV					8	磨	磨	磨	粗砂粒多	中	茶		腰～底、器台に使用カ				
	567	487		脚部N		114			8	ナデ・ミガキ	ミガキ		石英粗砂少々	中	赤茶	黄土		脚裾			
	568	485		高坏B-IV					1	磨	磨	ハケメ・ミガキ	粗砂粒多	中	赤茶		坏、腰～底				
	569	486		脚部A-II		115			2	ナ	デ	ハケメ・ナデ	○	石英・長石粗粒多	良	赤茶	茶		脚底		
	570	1223	13号土坑	カメB-II	160				2	ハケメ	ハケメ		石英・長石粒	良	茶		口縁～肩				
	571	832	14号土坑	鉢 N	150				2	ヨコナデ・ハケメ	磨	磨	○	石英荒粒	中	白茶		口縁			
	572	229		ミニチュア	27	40	25	43	6					微砂粒	良	明茶		口縁～底			
	75	573	80	16号土坑	埴				135	1.5	ナ	デ	ハケメ	○	石英微粒	中	薄茶		頸～胴		
574		864		坏 B	40	100	30	100	1	ヨコナデ	ヨコナデ		微砂粒	良	明茶		口縁～腰、口径不確定				
575		833		鉢C-I	85	165	34	165	7	ヘラ調整	ヨコナデ		石英・長石粗粒多	良	茶		口縁～底、腰部断				
576		493		脚部A-II	122	170	122	170	8	ハケメ・ミガキ・ナデ	ミガキ・ハケメ・ナデ		長石・他粗粒多	中	褐	暗褐		完(脚部A-I)			
577		492		脚部A-II	134	163	114	163	12	ハケメ・ヘラミガキ	ミガキ・ハケメ・ナデ	○	良	中	黒褐	黒		完(脚部B-II)			
578		497		脚部B-II					12	ハケメ				微砂粒多	不	白黄	茶		脚、裾欠、穿孔途中		
579		491		高坏A-I					5	ミガキ	ミガキ	○	○	微砂粒多	中	茶		破坏、口縁～腰			
580		496		脚部B-II					12	ヨヘラミガキ	輪	積		石英微粒少々	良	茶		脚、裾欠			
581		494		高坏A-II	180				12	磨	磨	磨		粗砂粒多	不	茶		坏、底欠			
582		495		脚部B-II		130			10	ヘラミガキ	ミガキ			微砂粒多	良	茶		脚			
583		1225		カメB-I	160				3	ハケメ	ハケメ	貼土	○	石英粗粒多	良	茶	黒		口縁～肩		
584		1224		カメB-II	160				2	ハケメ	ナ	デ		石英・長石粗粒多	中	茶	灰		口縁～肩、炭化物付着		
585		1231		カメN					1	ハケメ・ヨコナデ	ヘラケズリ			粗砂粒多	良	暗茶		頸～肩、砂質			
586		1226		カメN		50			12		ハケメ			石英・長石粒	中	薄茶		腰～底			
587		1228		カメN		丸底			7	ハケメ	ハケメ	○		石英・長石粒	中	明茶	灰		底		
588		1227		カメN		55			7		ハケメ			荒砂粒	中	明茶	灰		腰～底		
76	589	82	19号土坑	埴 D				80	2	ヨコナデ	輪	積	○	石英・長石粗粒多	中	茶	灰茶		頸～腰		
	590	81		埴 A				160	11	ヘラミガキ・ナデ	輪積・ハケメ	○		石英・長石粗粒多	良	明茶		頸～腰			
	591	867		坏 B	35	110	丸底	110	12	ヨコナデ・ヘラ調整	ヨコナデ			石英粗粒多	良	薄茶		完			
	592	868		坏 B	110			100	1	ハケメ				石英粒	良	薄茶		口縁～腰、細片			
	593	866		坏 B	115			115	2					石英粒多	良	薄茶		口縁～腰			
	594	865		坏 A	(30)	125		128	12	ヘラ調整	ヘラ調整			石英粒多	中	黄白		口縁～腰			
	595	232		坏 N					2	ハケメ	ハケメ			石英粗粒多	不	薄茶		腰			
	596	230		碗 B		110		110	2	ヨコナデ	ヨコナデ			石英粗粒多	良	白茶		口縁～胴			
	597	501		高坏B-I	180				8	ミガキ	絞り・ミガキ	○	○	良	不	薄茶		脚裾欠、坏内底剥離			
	598	502		高坏B-II	184				12	ヘラ調整・ミガキ	ミガキ・ハケメ			石英微粒多	中	薄茶		坏			
	599	505		脚部B-II					12	ミガキ・ハケメ	ハケメ			良	中	黄白		脚、裾欠			
	600	504		高坏A-I					3	ミガキ	ミガキ			石英・他微粒多	中	茶		坏、内部磨耗			

種別	製付	遺物	出土位置	器種	計測 (mm)				残存 門 0/12	造り			列、70傾	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内	表内				器表	器内	
76	601	506	19号土坑	脚部B-III					5	ミガキ		○	石英・長石粗粒少々	中	茶	黒	脚、裾欠	
	602	503		高坏A-I					4	ミガキ・磨耗	ミガキ・磨耗	○	石英・他粗粒多	不	茶		坏、底欠	
	603	1236		カメN	170				1.5	ヨコナデ	ヨコナデ		石英・長石粗粒	良	茶		口縁	
	604	1235		カメN	160				3.5	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ		石英粗粒	良	焦茶	薄茶	口縁	
	605	1234		カメN	240				4									
	606	1234		カメN	245	180	65	240	12	ナデ・砂目	ナデ・砂目		長石・石英粗粒多	中	茶		肩欠、同一個体	
	607	1233		カメN					5	ヘラ調整	ヘラ調整		石英微粒多	良	茶	黒	腰～底、内面炭化物	
	608	1232		カメN					12	ハケメ	ハケメ		石英・長石粗粒多	良	茶	薄焦茶	腰～底	
77	609	86	20号土坑	埴 A	(100)	85			3	ナデ	輪積・ハケメ		石英粒	良	暗茶		口縁・腰～底	
	610	84		埴口縁部A		90			2	ハケメ	ヨコナデ	○	石英・雲母微粒	良	薄茶		口縁	
	611	83		埴 C		丸底	90	12	ヘラ調整	ヘラカキ	○	微砂粒少々	良	薄茶		頸～底		
	612	184		埴口縁部C		125			1.5	貼土			石英粒	良	明茶		口縁	
	613	1238		カメB-I	170				4	輪積	ハケメ		石英粗粒多	中	明茶		口縁～肩	
	614	1239		カメN		75			3	ヘラ調整	ハケメ		石英・長石粗粒	良	灰		腰～底	
	615	515		高坏A-II	181				4	磨耗	ハケメ		石英微粒多	中	黄白		稜坏	
	616	516		高坏A-II	176				3	ミガキ	ハケメ		石英微粒少々	中	暗褐		稜坏、器表調整不良	
	617	514		高坏B-III	195				5	ミガキ・ハケ痕	ハケメ		粗砂粒多	中	褐	黄土	稜坏、器内剥離	
	618	519		脚部B-III					12	ミガキ・ハケ痕			良	茶		脚、裾欠		
	619	518		脚部A-III					12	ヘラ調整	ハケメ		石英微粒多	中	薄茶		脚	
	620	511		脚部A-II		114			6	ヘラミガキ	ミガキ・ハケメ	○	微砂粒少々	中	茶		口縁欠	
	621	512		脚部B-II					12	ハケメ・ミガキ	スリップ	○	粗砂粒多	不	赤茶		口縁・脚裾欠	
	622	517		高坏A-II	171				3	ヘラズリ・ミガキ	ミガキ		良	良	暗褐		坏、内底剥離	
	623	513		高坏A-I	191				5	ヘラミガキ	ミガキ		長石粗粒多	不	茶		坏、磨耗	
78	624	521	21号土坑	高坏A-VI					3	磨耗	ヘラカキ		長石粗粒少々	不	赤茶	茶	坏、口縁欠	
	625	522		脚部A-I		150			3	ハケメ	ミガキ		良	良	焦茶		脚	
	626	1240		カメN		45			6	ヘラ調整			石英・長石粗粒	良	明茶		底	
	627	231	22号土坑	埴 C		35	123	5-12	4	ヘラ調整・ミガキ	スリップ	○	石英・長石粗粒多	良	白茶	薄茶	頸欠	
	628	869	24号土坑	坏 B	(50)	125		125	4	ヘラミガキ	ヘラミガキ	○	石英粗粒	中	茶		口縁～腰	
	629	834		鉢 E	110		140	3	ハケメ	輪積			石英・長石粗粒多	中	明茶	暗灰	口縁～胴	
	630	1241		カメN		75		12	ハケメ	ハケメ	○	微砂粒少々	不	赤茶	焦茶	腰～底		
	631	1242	25号土坑	カメN		40		10					石英粗粒	中	焦茶		底	
	632	526		高坏B-II	164				3	ミガキ・ハケ痕	ミガキ	○	石英微粒少々	良	茶		坏、口縁～胴	
	633	87	26号土坑	埴 C		30	90	9	ヘラズリ・ハケメ	輪積		○	微砂粒少々	良	明茶		頸～底	
	634	202		壺 N	47	34	46	74	6	ヘラミガキ	テビネリ	○	石英・長石粗粒多	良	茶		完、砂質	
	635	527		高坏B-IV					3	磨耗	磨耗		石英他微粒多	不	黄土		坏、腰～底	
636	528		脚部A-III					5		輪積		微砂粒多	不	茶		脚、裾欠		
79	637	117	B-3	埴口縁部A		60		2.5	磨耗	磨耗			粗砂粒少々	不	薄茶		口縁	
	638	156	C-5	埴口縁部A		80		2	沈線	ヨコナデ	○	粗砂粒少々	良	薄茶		口縁		
	639	149	C-3	埴口縁部B		80		2	沈線	ヨコナデ	○	石英粗粒多	中	茶		口縁、器表磨耗		
	640	109	B-3	埴口縁部A		80		1.5	ハケメ	輪積・ハケメ	○	石英粗粒多	良	薄茶		口縁、器表磨耗		
	641	124	B-4	口縁部埴A		90		1	ハケメ	ナデ	○	微砂粒多	不	赤茶		口縁		
	642	106	B-3	埴口縁部A		85		8.5	ヘラミガキ	ヨコナデ・ハケメ	○	石英・長石粗粒	良	暗茶		口縁		
	643	170	C-6	埴口縁部B		96		1	ハケメ	ハケメ	○	石英微粒少々	中	茶		口縁		
	644	185	B-1	埴口縁部A		90		5	ハケメ				石英粒	中	明茶		口縁	
	645	171	C-7	埴口縁部B		90		2.5	ハケメ	ハケメ			微砂粒多	良	茶		口縁、磨耗	
	646	174	D-6	埴口縁部B		90		3.5	ヘラ調整・ハケメ	ヨコナデ	○	○	微砂粒少々	良	焦茶		口縁	
	647	148	C-3	埴口縁部B		90		1.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	○	○	微砂粒少々	良	茶		口縁	
	648	173	D-2	埴口縁部B		90		3	ハケメ			○	石英・雲母粗粒多	中	茶		口縁、磨耗	
	649	107	B-3	埴口縁部C		100		2.5	ヨコナデ	ヨコナデ	○	○	石英粗粒	中	明茶		口縁	
	650	150	C-3	埴口縁部A		110		2.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	○	○	石英・長石微粒	良	薄茶		口縁～頸	
	651	123	B-4	埴口縁部B		120		1.5					石英粗粒多	良	茶		口縁	
	652	93	B-1	埴口縁部B		105		3		ヨコナデ			微砂粒	良	薄茶		口縁、粗砂1粒	

挿入 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				残存 円率 o/12	造り				列、70種類	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内	表	内				器表	器内	
79	653	122	B-4	埴口縁部A	110			1.5	ハケメ	ヨコナデ	○		石英粗粒多	良	黄茶		口縁		
	654	177	E-5	埴口縁部A	105			4.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	○	○	微砂粒多	良	茶		口縁		
	655	142	B-7	埴口縁部B	110			1	ヨコナデ	ヨコナデ	○	○	微砂粒少々	不	茶		口縁		
	656	141	B-6	埴口縁部C	100			2	種	ヨコナデ	○	○	石英微粒多	中	薄茶		口縁、器表磨耗		
	657	152	C-3	埴口縁部B	115			2.5	ハケメ・ヨコナデ	ハケメ・ヨコナデ	○	○	石英・長石微粒少々	良	焦茶		口縁		
	658	186	C-8	埴口縁部B	130			3	ヨコナデ	ヨコナデ			微砂粒少々	中	薄茶		口縁		
	659	151	C-3	埴口縁部B	140			2	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ	○	○	微砂粒少々	中	焦茶		口縁		
	660	169	C-6	埴口縁部C	150			1	ミガキ	ミガキ	○	○	微砂粒少々	中	茶		口縁		
	661	182	B-2	埴口縁部B	135			5	ヨコナデ・指調整	ヨコナデ	○	○	微砂粒多	中	茶		口縁		
	662	136	B-5	埴 E	90		92	2	ハケメ・ナデ	輪積	○		微砂粒少々	中	茶		口縁～腰		
	663	125	B-4	埴 N				3	ナデ	輪積	○		微砂粒少々	良	薄茶		頸～肩、器内炭化物付着		
	664	172	C-7	埴 N				3	ハケメ・ミガキ	ヘラ痕	○		粗大砂粒混	良	茶		頸～肩		
	665	104	B-3	埴 D			85	2	磨耗	指押え			粗砂粒多	中	薄茶		頸～胴		
	666	143	B-7	埴 B		18	76	7	ミガキ・ヘラ調整	ヒネリアゲ	○		石英微粒	良	焦茶		頸～底		
	667	101	B-2	埴 D			75	3	ヘラ調整	輪積・粘土	○		石英微粒多	良	薄茶		肩～腰		
	668	145	B-8	埴口縁部B	80			2.5	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ・指調整			微砂粒少々	良	茶		口縁～肩		
	669	121	B-4	埴 B			98	7	ハケメ・ヘラ調整	輪積・指圧痕			微砂粒少々	良	薄茶・黒	焦茶	肩～腰、小石混入		
	670	90	B-1	埴 A		106	112	12	ハケメ	ハケメ・絞り	○		微砂粒少々	良	明茶		頸～腰、歪み		
	671	103	B-3	埴 B		丸底	100	5	ヘラ調整・ミガキ	輪積	○		石英粗粒多	良	茶	焦茶	頸～底		
	672	146	C-2	埴 N				2.5	ヨコナデ	輪積			石英微粒少々	中	薄茶		肩		
	673	105	B-3	埴口縁部E	130		155	3.5	ミガキ・ヨコナデ	ミガキ・指調整	○		石英微粒	良	明茶	暗灰・黒	口縁～胴		
	674	188	B-6	埴 B	130		(127)	2	ハケメ・ヘラ調整	ハケメ			石英・長石粗粒多	良	灰茶	薄茶	口縁・胴～腰、肉薄		
80	675	89	B-1	埴 D		丸底	96	12	ナデ	ヒネリアゲ			微砂粒多	不	薄茶		頸～底		
	676	135	B-4	埴 A		丸底	24	91	12	ヘラ調整	輪積	○		粗砂粒多	良	明茶	焦茶	頸～底、内部見えず	
	677	120	B-4	埴 A		丸底	98	12	ハケメ・ヘラ調整	輪積	○		石英微粒	中	明茶		頸～底、内部見えず		
	678	175	D-6	埴 N				2	ハケメ	ナデ			微砂粒少々	良	茶		頸～肩		
	679	133	B-4	埴 D		24	90	2	ハケメ・ヘラ調整	ヒネリアゲ・ヘラ調整			石英粒少々	良	茶	薄焦茶	胴～底、底部や、平坦		
	680	110	B-3	埴 D			102	2.5	ヨコナデ	ハケメ・輪積	○		雲母・石英微粒	良	茶	焦茶	肩～胴		
	681	168	C-6	埴 E			110	5	ミガキ	輪積・絞り	○		石英・長石粗粒多	良	茶		頸～腰		
	682	108	B-3	埴 N				4	ナデ・ミガキ	輪積・絞り	○		石英粒多	良	茶		肩		
	683	126	B-4	埴 A			120	5	ハケメ	輪積・絞り			石英粒少々	良	薄茶		肩～胴		
	684	154	C-3	埴 N				3	磨耗				微砂粒多	中	白茶	薄茶	肩、器表炭化物付着		
	685	95	B-2	埴 N				3					石英微粒	良	薄茶		頸		
	686	166	C-6	埴 N				3	ヨコナデ	絞り寄せ	○		微砂粒	良	暗灰		肩		
	687	94	B-2	埴 N				2.5	ナデ	ハケメ・工具調整			石英微粒多	良	薄茶		頸～肩		
	688	96	B-2	埴 B		120	1.5	ハケメ	絞り寄せ	○		石英粗粒	不	薄茶		肩～胴			
	689	127	B-4	埴 B			130	3	ナデ	輪積・工具調整	○		石英・長石粒	中	明茶		頸～胴		
	690	88	B-1	埴 B		丸底	128	11	ヨコナデ	輪積・工具調整			石英・雲母微粒	良	明茶	焦茶	頸～底		
	691	147	C-2	埴 N				2	ハケメ	輪積・指カキアゲ	○		石英微粒少々	良	薄茶	黒	肩		
	692	128	B-4	埴 N				3	ヨコナデ	輪積	○		石英・長石粗粒	良	明茶		肩		
	693	153	C-3	埴 N				1.5	ナデ	輪積・絞り	○		微砂粒	良	明茶		肩		
	694	130	B-4	埴 B			145	1.5	ミガキ	輪積・指オサエ	○		石英粗粒	良	黒褐	明茶	胴～腰		
	695	187	B-5	埴 N					ハケメ	絞り寄せ	○		石英・長石粒	良	明茶	灰	肩		
	696	138	B-5	埴 E			140	2	ナデ	輪積	○		石英・長石粗粒多	不	薄茶		胴		
	697	100	B-2	埴 N			140	2	ナデ・ヘラ調整	ナデ	○		石英粗粒多	良	薄茶		胴～腰、稜有り		
	698	129	B-4	埴 B			135	2.5	ミガキ	輪積	○	○	石英粗粒多	良	明茶		胴～腰		
	699	111	B-3	埴 A			90	2	ヘラヨコナデ		○		微砂粒少々	良	茶	灰茶	腰		
	700	99	B-2	埴 N			70	2		輪積	○		微砂粒少々	良	灰		胴腰		
	701	176	D-6	埴 D			100	2	磨耗	輪積			微砂粒多	中	白茶		肩～胴		
	702	140	B-6	埴 A			110	3.5	ハケメ・ナデ・ミガキ	輪積	○		石英微粒多	中	薄茶		胴～腰		
	703	157	C-5	埴 B		丸底	90	3.5	面取・ハケメ	指ヒネリアゲ			石英微粒少々	良	茶・黒	黒	胴～底		
	704	112	B-3	埴 B			102	2.5	ヨコナデ	輪積・ハケメ	○		雲母・石英微粒	良	茶	焦茶	肩～胴		

種別	割付 No	遺物 No	出土 位置	器種	計測 (mm)				造り	スリップの有無	胎土	焼成	色		備考					
					器高	口径	底径	口径/12					器表	器内		表内	器表	器内		
80	705	134	B-4	埴 N			25	7	ナ	デ	指オサエ			微砂粒多	不	薄茶		腰~底		
	706	165	C-6	埴 B			30	100	12	ナ	デ	ナ	デ		微砂粒少々	良	明茶		腰~底	
81	707	131	B-4	埴 N				1	ヨコナデ	輪	積	○		石英粒少々	中	薄茶		肩		
	708	167	C-6	埴 N				1	ヨコナデ	ヨコナデ	○	○		微砂粒	良	明茶	焦茶	頸~肩		
	709	158	C-6	埴 N				2	ヨコナデ	ヨコナデ	○	○		石英・長石粗粒多	良	茶		肩		
	710	159	C-6	埴 N				145	3	ヨコナデ	ヨコナデ			粗砂粒少々	中	薄茶		胴		
	711	178	E-6	埴 A				115	1.5	ヘラミガキ	ナ	デ	○		粗砂粒多	良	茶		胴	
	712	98	B-2	埴 D				130	2	ヨコナデ	輪積・指押え	○			石英粒多	良	茶	灰茶	胴	
	713	137	B-5	埴 D				136	2	ヘラ調整・ミガキ	ナ	デア	ゲ		石英微粒多	良	薄茶		胴	
	714	97	B-2	埴 N				135	3	貼	土	ヘラ	ナ	デ	○		粗砂粒	良	黄白	胴~腰
	715	160	C-6	埴 E				150	2.5	ヘラ調整	輪	積	○	○	微砂粒少々	不	茶		胴~腰	
	716	164	C-6	埴 N				1.5		輪	積				微砂粒多	良	灰		腰、硬質	
	717	139	B-5	埴 A				103	1.5	ヘラ調整	ヨコナデ				石英粗粒多	良	白茶		胴	
	718	181	B-4	埴 B				133	3	ハケメ・ミガキ	輪積・指押え	○			石英・長石粗粒多	良	茶		胴~腰	
	719	163	C-6	埴 N				1	ヨコナデ	ハケメ					石英粗粒多	中	茶	暗灰	腰、細片	
	720	132	B-4	埴 B				2	ナ	デ	輪積・ハケメ	○			石英粗粒多	中	薄茶		胴~腰	
	721	155	C-3	埴 B				122	2	ヘラミガキ	輪積・ナ	○			微砂粒少々	中	焦茶	薄茶	胴~腰	
	722	161	C-6	埴 N				2	ハケメ・ヨコナデ	指カキアゲ	○	○			石英・長石粗粒多	良	茶		腰	
	723	114	B-3	埴 B				3	磨	耗	磨	耗			粗大砂粒多	不	茶		胴~腰	
	724	118	B-3	埴 N				3	ヘラミガキ	ナ	デ	○			微砂粒少々	中	焦茶	茶	腰	
	725	162	C-1	埴 E				92	1.5	ミガキ	ハケメ	○			微砂粒少々	良	焦茶		胴~腰	
	726	91	B-1	埴 B				75	3		指押え				微砂粒少々	不	薄茶		胴~腰	
	727	92	B-1	埴 D				71	2.5	ヘラ調整	輪	積			微砂粒多	中	薄茶		胴~腰	
728	115	B-3	埴 N				丸底	5	磨	耗	磨	耗		粗砂粒多	不	薄茶		底		
729	113	B-3	埴 N				丸底	12	ヘラミガキ	ヘラ調整	○			粗砂粒多	良	茶	黒	底		
730	119	B-3	埴 B				丸底	4	ハケメ	指ヒネリアゲ				石英粗粒多	良	茶		底		
731	102	B-2	埴 N				丸底	5	ハケメ		○			石英微粒少々	良	茶		底		
732	872	B-7	坏 A		110			1	ナ	デ		○	○	石英微粒多	良	明茶		口縁~腰		
733	878	B-3	坏 B		110			1						石英微粒多	良	茶		口縁~腰		
734	250	B-3	坏 B		120			2.5	ヨコナデ					石英・長石粗粒多	良	薄茶		口縁~腰		
735	877	B-3	坏 B		122			1						長石粒多	不	黄茶		口縁~腰		
736	874	B-8	坏 B		130			1	ヨコナデ	ヨコナデ				石英・長石粒多	不	焦茶	薄茶	口縁~腰		
737	876	B-8	坏 B		130			1				○		石英微粒	中	明茶		口縁		
738	870	B-7	坏 A		135			1.5	ハケメ			○	○	石英微粒多	良	明茶		口縁		
739	871	B-7	坏 A		130			1.5	ハケメ	ハケメ				石英・長石粗粒	良	明茶		口縁		
740	873	B-8	坏 A		150			1	ヨコナデ	ヨコナデ				石英微粒少々	中	明茶		口縁~胴		
741	875	B-8	坏 A		150			1	ハケメ					石英・長石粗粒	良	白茶		口縁		
742	244	B-4	碗 A		105			5		輪	積			石英微粒多	良	明茶		口縁~腰		
743	247	B-4	碗 A		54	140	30	140	5~12	ヘラ調整	ヘラ調整	○		石英・長石粗粒多	良	茶	焦茶・黒	口縁~底		
744	846	C-7	碗 A		160			165	3	ミガキ	磨	耗		石英粗粒少々	中	茶		口縁~腰		
82	745	922	B-5	碗 A		120			2	ハケメ	ハケメ・ヨコナデ	○		石英粗粒多	中	明茶		口縁~腰		
	746	246	B-4	碗 A	(51)	115	45	120	12	ハケメ	ハケメ	○	○		石英微粒	良	焦茶	暗灰	口縁~底、口唇先端欠	
	747	849	C-8	碗 A		100			3	ハケメ・ヨコナデ	ヨコナデ				良	中	茶		口縁~胴	
	748	243	B-4	碗 A		105			5		輪	積			石英粒多	中	明茶		口縁~胴	
	749	906	C-7	碗 A		56	96	32	100	6	ミガキ	ハケメ・ミガキ			良	良	明茶		全、高台	
	750	912	E-6	碗 A		130			2	ミガキ	ミガキ				石英微粒少々	不	薄茶		口縁~胴	
	751	918	B-3	碗 B		100		100	1.5	ハケメ			○		長石・石英荒粒多	良	明茶		口縁~胴	
	752	235	B-2	碗 B		75	110	50	110	7~12	ハケメ	ヘラ調整			石英粒	中	薄茶		全	
	753	842	C-5	鉢 C-1		130			130	1	ミガキ・ヘラ調整	ミガキ	○		長石粗粒多	中	赤茶		口縁~腰、磨耗	
	754	239	B-4	鉢 C-1	(83)	130			130	3	ナ	デ	ヘラ調整		石英・長石粒多	中	明茶		口縁~腰	
	755	241	B-4	鉢 C-1		120			120	1.5	ハケメ	ヘラヨコナデ				砂粒少々	良	明茶		口縁~腰
756	913	B-8	鉢 D		140			140	1	沈	線			石英微粒多	良	黒		口縁~胴		



地区 No	割付 No	遺物 No	出土 位置	器種	計測 (mm)				保存 内 率 %	造り			スリ-70篩 内	胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内	表				器表	器内	
82	757	903	C-3	鉢C-I	120	120	1	ハケメ・磨耗	ミガキ				石英微粒多	中	茶		口縁~腰、碗力	
	758	836	B-3	鉢F	133	134	1.5	ハケメ	ヘラ調整				砂粒少々	良	明茶		口縁~腰	
	759	910	E-5	鉢C-I	110	110	1.5	ハケメ	ミガキ		○		良	不	明茶	黄白	口縁~腰、磨耗	
	760	909	C-8	鉢C-I	110	110	1	ミガキ	ミガキ		○		中	中	茶		口縁~胴	
	761	901	C-5	鉢C-I	116	116	1	ハケメ	ナデ				良	中	薄茶		口縁~胴	
	762	237	B-2	鉢C-I	140	140	2	ヨコナデ	ヨコナデ				石英微粒	良	茶		口縁~胴	
	763	904	C-3	鉢C-I	94		1	ミガキ	ミガキ				微砂粒少々	中	褐	明茶	口縁~胴	
	764	238	B-4	鉢C-I	75	110	30	1~12	ハケメ	ヘラ調整				石英粗粒	良	明茶		全、底部焼成後削り出し
	765	236	B-2	鉢C-II	130	130	2	ハケメ	輪積		○		石英粗粒	良	暗灰	薄茶	口縁~腰	
	766	242	B-4	鉢D	140	140	1	ヨコナデ	指押え				石英粗粒	中	明茶		口縁~腰	
	767	240	B-4	鉢C-II	125	125	2.5	ハケメ・ヘラ調整			○		石英微粒	良	明茶		口縁~腰	
	768	914	B-3	鉢C-II	120	120	1	ヘラナデ					長石・石英粒	良	明茶		口縁~腰	
	769	917	B-5	鉢C-II	100	100	3	ヨコナデ	ヨコナデ		○		微砂粒少々	中	明茶		口縁~腰	
	770	879	B-3	鉢D	80	80	1	ヨコナデ			○		石英微粒	良	明茶		口縁~胴	
	771	841	C-3	鉢F	140	140	1.5	ナデ			○		石英微粒多	中	茶	明茶	口縁~胴	
	772	847	C-8	鉢C-I		63	6	ハケメ	ミガキ				粗砂粒多	良	茶褐		腰~底	
	773	840	C-2	鉢N			2	ハケメ・ミガキ	ミガキ				良	良	薄茶	黒	腰	
	774	845	C-6	鉢N		45	2	ヘラミガキ					石英・長石粗粒多	不	黄白		底	
	83	775	3000	B-3	鉢N	170		1	ナデ	ナデ・指押え				石英・長石粗粒多	中	黄土	黄土	口縁~胴
		776	837	B-5	鉢C-II	155	155	3	ヨコナデ	ミガキ		○		微砂粒多	良	明茶		口縁~腰
		777	245	B-4	鉢B-I	155	158	1	ヨコナデ	ハケメ		○		石英	良	明茶		口縁~腰
		778	248	B-6	鉢D (59)	160	160	2	ヨコナデ	ヨコナデ・ミガキ				石英・長石粗粒多	良	茶	暗茶	口縁~腰
779		850	B-8	鉢F	120	120	1	ヨコナデ・ハケメ					良	不	茶		口縁、口縁帯	
780		844	C-6	鉢B-I	155	160	3	ミガキ	ミガキ				石英微粒多	良	薄茶		口縁~腰、高坏力	
781		835	B-2	鉢A-III	156	156	3	ハケメ・指調整	ナデ・ミガキ		○		長石粗粒多	中	茶		口縁~腰、有孔鉢力	
782		839	B-6	鉢A-II	95	195	34	195	12	ハケメ	ハケメ			長石粗大粒多	良	薄茶	焦茶	完、孔径4、有孔鉢
783		838	B-5	鉢A-III	200	200	1	ハケメ・ヒラ調整	ハケメ				長石・石英粒	良	薄茶		口縁~顔、有孔鉢力	
784		919	C-3	鉢N			2	ヘラ調整	ヨコナデ		○		石英粒	中	焦茶	茶	腰、ピッチによる修理痕	
785		234	B-1	鉢N			1.5	ヘラ調整・ヘラミガキ	ハケメ				石英微粒	良	黒	薄茶	腰	
786		905	C-3	鉢A-II		45	3	ミガキ					良	中	茶	黒褐	底、有孔鉢、孔径14	
787		723	B-1	器台			2	ミガキ	ミガキ				石英微粒少々	赤茶	薄茶		顔	
788		566	B-5	高坏A-III	120		1.5						良	中	茶		稜坏	
789		623	C-7	高坏B-II	132		2	調整乱雑	磨 耗				長石微粒少々	不	茶		坏、口縁~腰	
790		636	C-8	高坏B-II	131		2	ハケメ	ハケメ・磨耗				石英・長石微粒少々	中	茶		坏、口縁~腰	
791		538	B-3	高坏A-IV	172		1	砂	ハケメ				微砂粒多	不	暗灰	黄土	坏、口縁~腰、口縁帯	
792		565	B-5	高坏A-IV	190		1	稜	磨 耗				長石粗粒多	中	茶		稜坏、口縁~胴	
793		742	A-8	脚部A-I		118	6	ミガキ	ミガキ		○		石英微粒多	中	茶		坏腰~脚部	
794		533	B-2	脚部B-II			12	ミガキ	ミガキ		○		良	中	茶		坏底~脚部、端部欠	
84	795	699	D-5	高坏A-IV	155		3	ミガキ	ミガキ		○		良	良	薄茶		稜坏、口縁~腰	
	796	537	B-3	高坏A-II	150		3	ハケメ・ヘラミガキ	ヘラミガキ				粗砂粒多	良	薄茶		坏、口縁~腰	
	797	535	B-2	高坏A-I	165		8	ミガキ	刺 雑				粗砂粒多	不	赤		坏、口縁~底、繫部欠	
	798	536	B-2	高坏A-I	176		1	ミガキ	ミガキ				粗砂粒多	中	黒褐		坏、口縁~底	
	799	701	D-7	高坏A-I	180		1	ハケメ・ミガキ	ミガキ		○		石英・長石粗粒多	中	赤茶		坏、口縁~底	
	800	542	B-4	高坏A-I	190		1.5	ミガキ	ヘラミガキ		○		砂粒多	良	明茶	暗灰	坏、口縁~底、繫部欠	
	801	589	B-1	高坏A-II	180		3	ミガキ	ミガキ				微砂粒少々	良	茶		坏、口縁~底	
	802	702	D-5	高坏A-I	177		8	磨 耗	磨 耗		○		長石微粒多	不	赤茶		坏、口縁~底	
	803	541	B-4	高坏A-I	183		3	磨 耗	ミガキ・丹塗		○		石英微粒多	中	茶	赤褐	坏、口縁~底、繫部欠	
	804	545	B-3	高坏A-I			12	ミガキ	ミガキ		○		微砂粒多	不	薄茶		稜坏、腰~底、磨耗	
	805	624	C-7	高坏A-IV	190		1	ミガキ	不調整		○		微砂粒少々	良	薄茶		稜坏、口縁~腰、	
	806	567	B-6	高坏A-III	200		2	ハケメ	ハケメ・ミガキ				良	良	茶		坏、口縁~底、羽設痕	
	807	564	B-5	高坏A-IV	192		2	ミガキ・丹塗	ミガキ		○		石英微粒多	良	茶	黒・茶	坏坏、口縁~底、繫部欠	
	808	683	C-5	高坏A-III	190		1.5	ミガキ	ミガキ		○		石英・長石粗粒多	良	茶	赤茶	稜坏、口縁~底、繫部欠	

押込 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)			残存 内径 o/12	造り				スリッパ No.	胎土	焼成	色		備考	
					器高	口径	底径		最大径	器表		器内				器表	器内		
										磨	磨	磨							磨
84	809	750	B-8	高坏A-IV				3	ミガキ	ミガキ				石英粗大粒混	不	赤茶		稜坏、口縁~底	
	810	706	D-6	高坏A-IV				7	ヘラミガキ	ミガキ	○	○		良	良	赤茶		稜坏、口縁~底	
	811	741	E-6	高坏A-IV				2						石英微粒少々	良	茶		稜坏、口縁~底、器内アバタ	
	812	587	B-5	高坏A-II			190	3	磨	磨	ミガキ			微砂粒多	良	赤茶		坏、口縁~腰、器内アバタ	
	813	679	C-5	高坏A-II			182	6	ハケメ・ヘラズリ	ミガキ				石英粗砂粒多	良	茶		坏、口縁~底、内磨耗	
	814	680	C-6	高坏A-II			190	6	ミガキ	ハケメ・ミガキ				粗砂粒少々	中	薄茶	黒・茶	坏、口縁~底、繫部欠	
	815	617	B-3	高坏A-III			186	5	ミガキ	ミガキ				石英・長石微粒少々	中	薄茶		坏、口縁~底	
816	714	D-6	高坏A-II			190	2	ミガキ	ミガキ				良	中	薄茶		坏、口縁~腰		
817	744	E-5	高坏A-I			190	1	ミガキ・磨	ミガキ・ヨコナデ				良	不	黄白		坏、口縁~底、繫部欠		
818	625	C-5	高坏A-I			180	1.5	ミガキ	ミガキ	○	○		石英微粒少々	良	赤		坏、口縁~腰		
819	601	B-3	高坏B-III			186	1.5	磨	磨			○	石英粗粒多	中	赤・黒・茶	薄茶		坏、口縁~腰	
820	711	B-4	高坏A-I			195	2	ミガキ	磨	磨			長石粗粒多	中	明茶		坏、口縁~腰		
821	627	C-3	高坏A-II			190	1	ミガキ	磨	磨			石英微粒多	良	黒	茶		坏、口縁~腰	
822	637	C-6	高坏A-IV				3	ヘラ調整	ミガキ			○	良	不	茶		坏、胴~腰		
823	650	C-8	高坏A-VI				1.5	ミガキ	ミガキ・磨	磨			良	良	薄茶		坏、腰~底、繫部欠		
824	678	C-3	高坏A-I			197	9	ヘラミガキ	ミガキ	○	○		長石・石英粗粒少々	良	赤茶		坏~脚		
825	751	B-8	高坏A-IV				1	ミガキ	ミガキ	○	○		良	良	薄茶		稜坏、腰~底、繫部欠		
826	719	D-1	高坏A-IV				1	沈線	磨	磨	○		良	中	赤	黒暗	稜坏、腰~底、繫部欠		
827	720	B-C-6	高坏A-IV				4	沈線・ミガキ	ミガキ				良	中	赤	薄茶	稜坏、腰~胴、繫部欠		
828	721	C-7	高坏A-IV				2		磨	磨	○		良	不	赤		稜坏、腰~底、繫部欠		
829	718	D-3	高坏A-IV				1.5	ミガキ	磨	磨			石英・長石微粒	良	黄白		稜坏、腰~底、繫部欠		
830	608	B-5	高坏A-IV				1	磨	磨	ミガキ			良	良	茶		稜坏、腰~底		
831	644	C-8	高坏A-VI				4	磨	磨	磨			石英粗粒少々	不	茶		稜坏、腰~底、繫部欠		
832	736	B-4	高坏A-IV				2	ミガキ	ミガキ・アバタ		○		良	中	明茶		稜坏、腰~底、繫部欠		
833	642	C-6	高坏A-IV				6	ミガキ	剥	離	○		微砂粒多	良	茶		稜坏、腰~底		
834	649	C-8	高坏A-IV				3	ミガキ	剥	離	○		石英粗粒多	中	茶		稜坏、腰~底		
835	747	E-6	高坏A-IV				2	ハケメ・ミガキ	ナ	デ			石英微粒少々	良	黄土		稜坏、腰~底、繫部欠		
836	648	C-7	高坏A-IV				3	ミガキ	剥	離			粗砂粒多	不	赤茶		稜坏、腰~底、繫部欠		
837	639	C-5	高坏A-VI				2	ハケメ・ミガキ	剥	離			石英・長石微粒多	良	茶		稜坏、腰~底、繫部欠		
838	710	D-5	高坏A-VI				2	ミガキ	ミガキ				良	良	茶		稜坏、腰~底		
839	689	C-4	高坏A-VI						ウルン塗り				良	良	黒	黄土	坏、腰細片		
840	691	C-3	脚部A-III				12	ミガキ			○		良	良	暗褐		脚、繫		
841	705	D-7	脚部B-1				7	ヘラミガキ					良	良	褐		脚、繫		
842	621	C-1	脚部A-II				6	磨	磨	磨			長石粗粒多	不	薄茶		脚、繫		
843	584	B-4	脚部A-III				12						良	良	茶		脚、繫		
844	585	B-4	脚部A-III				12	ミガキ	絞り寄せ				良	良	茶		脚、繫		
845	748	B-5	高坏N				3	ハケメ	ハケメ				石英・長石粗粒多	中	茶		坏、底		
846	603	B-6	高坏N				2	磨	磨	剥離アバタ		○	石英微粒多	不	茶		坏、腰~底		
847	606	B-7	高坏N				6	ハケメ	剥	離	○	○	良	不	明茶		坏、腰~底		
848	600	B-4	高坏N				4	ミガキ	磨	磨			石英微粒多	不	茶		坏、腰~底		
849	746	E-5	高坏B-IV				2	ヘラズリ	ミガキ				石英微粒多	中	褐		坏、腰~底		
850	613	B-6	高坏B-IV				1	ヘラ調整	ヘラミガキ				良	不	茶		坏、腰~底		
86	851	643	C-6	高坏A-VI			2	ミガキ	ミガキ				良	良	茶		稜坏、腰~底、繫部欠		
	852	707	D-6	高坏B-IV			12	ミガキ	ミガキ・アバタ		○		粗砂粒多	不	赤茶		坏、腰~底		
	853	696	D-3	高坏B-III			180	4	ミガキ	ミガキ	○		微砂粒多	不	茶	赤	坏、口縁~底、繫部欠		
	854	700	D-7	高坏B-III			183	8	ミガキ	ミガキ・アバタ	○	○		石英微粒多	中	暗褐	茶	坏、口縁~底	
	855	604	B-4	高坏B-III			163	2				○	○	長石粗粒少々	中	茶褐		坏、口縁~腰	
	856	546	B-3	高坏B-IV				6	ハケメ・ミガキ	ミガキ				石英粗粒多	中	赤茶		坏、腰~底	
	857	632	C-6	高坏A-I			180	1	磨	磨	磨			中	不	茶		坏、口縁~胴	
	858	598	B-3	高坏N			206	1	磨	磨	磨			微石粗粒少々	中	薄茶		坏、口縁~胴	
	859	596	B-6	高坏N			200	1.5						石英微粒多	良	薄茶	ムラ	坏、口縁~胴	
	860	590	B-5	高坏N			190	1.5	ミガキ	ミガキ				良	良	茶	黒混	坏、口縁~胴	

種別 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				残存 率 % 0/12	造り				スリッパ 有無	胎土	焼成	色		備考		
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内	表	内				器表	器内			
86	861	592	B-5	高坏A-II	180				1.5	磨	磨	磨	磨			粗砂粒多	不	赤茶		坏、口縁~腰	
	862	634	C-8	高坏B-I	180				1.5	ハケメ	磨	磨	磨	○	○	石英微砂粒多	中	明茶		坏、口縁~腰	
	863	599	B-5	高坏B-II	190				1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	○		中	良	褐		坏、口縁~腰	
	864	713	D-1	高坏B-I	170				1.5	ハケメ・ミガキ	磨	磨	磨	○		長石粗粒多	良	褐		坏、口縁~腰	
	865	635	C-3	高坏B-III	170				1	ハケメ・ナデ	ハケメ	ハケメ	ハケメ			良	良	暗褐		坏、口縁~胴	
	866	631	C-7	高坏N	180				2	ミガキ	ミガキ	ミガキ	磨	○	○	微砂粒多	中	黄土		坏、口縁~胴	
	867	716	D-7	高坏N	188				1	ミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	○		微砂粒多	中	薄茶		坏、口縁~腰	
	868	712	D-6	高坏N	170				2	ハケメ・ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			石英微粒多	良	褐		坏、口縁~腰	
	869	715	D-2	高坏N	168				2	ハケメ・ミガキ	ミガキ	ミガキ	ナデ	○		石英微粒多	良	薄茶		坏、口縁~胴	
	870	602	B-3	高坏N	185				2	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	○	○	良	中	茶		坏、口縁~胴、口縁黒色	
	871	633	C-6	高坏N	190				1	ハケメ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ			良	良	黒褐		坏、口縁~腰	
	872	605	B-5	高坏A-II	180				1.5	磨	磨	磨	磨	○		長石粗粒少々	不	黒	赤茶		坏、口縁~腰
	873	628	C-7	高坏B-II	186				2	ミガキ	磨	磨	磨	○		長石・石英粗粒多	中	茶	赤		坏、口縁~腰
	87	874	717	D-1	高坏N	170				1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			長石微粒多	良	明茶		坏、口縁
875		588	B-2	高坏B-II	181				1	ヘラ調整	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラケズリ			微砂粒少々	良	褐	黒・茶		坏、口縁~腰
876		745	E-6	高坏B-II	190				1	ヨコナデ・ヘラミガキ	ナ	ナ	ナ			石英・長石微粒少々	良	褐		坏、口縁~腰	
877		630	C-8	高坏B-II	200				1.5	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			石英微粒多	中	茶		坏、口縁~腰	
878		595	B-5	高坏B-II	184				1	ヘラミガキ	ナデ・磨	ナデ・磨	ナデ・磨			微砂粒多	良	茶		坏、口縁~腰	
879		597	B-2	高坏B-IV					4	磨	磨	磨	ミガキ			微砂粒多	良	薄茶		坏、腰~底	
880		738	D-5	高坏N					2	ハケメ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			粗砂粒多	良	赤茶	茶		坏、底
881		646	C-7	高坏N					1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			良	良	茶		坏、底	
882		594	B-3	高坏N					6	ハケメ・ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ			良	良	茶		坏、底	
883		647	C-7	高坏N					2	ミガキ	ミガキ	磨	磨	○		微砂粒多	不	薄茶		坏、底	
884		722	D-8	高坏N					1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	○	○	石英微粒少々	良	茶		坏、底、繫部欠	
885		640	C-3	高坏N					2	ミガキ	磨	磨	磨	○		良	良	茶		坏、腰~底	
886		547	B-3	高坏B-IV					2	ヘラ調整				○		粗大砂粒多	良	灰		坏、腰~底	
887		708	D-8	高坏N					3	磨	磨	磨	ミガキ・アバタ			石英・長石粗粒多	中	赤		坏、底	
888		752	B-5	高坏N					12	ミガキ	磨	磨	磨			石英微粒少々	不	茶		坏、脚、繫	
889		651	C-2	高坏A-VI					3	磨	磨	磨	磨			良	不	明茶		坏、脚、繫	
890		645	C-7	高坏N					1	ヘラ調整	磨	磨	磨			石英微粒	中	茶		坏、脚、繫	
891		629	C-3	高坏N					7	磨	磨	磨	絞り寄せ			長石粗粒多	中	茶		坏、脚、繫	
892		652	C-3	高坏N					1	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	○		良	良	褐		坏、底、繫部欠	
893		737	C-1	高坏N					1	磨	磨	磨	磨			長石粗粒多	中	赤茶	薄茶		繫
894		614	B-7	脚A-III					8	磨	磨	磨	磨			良	不	赤茶		坏、脚、繫	
895		591	B-3	脚A-III					2	磨	磨	磨	磨			○	微砂粒少々	不	赤茶		坏、脚、繫
896		697	D-3	脚A-III					3	ミガキ	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ	○		長石大粒混	良	茶		繫~脚	
897		611	B-6	脚A-III					8	磨	磨	磨	輪積	○		良	不	赤		繫~脚	
898		569	B-6	脚A-III					3	磨	磨	磨	磨			長石・石英粗粒多	不	茶		繫~脚	
899		622	C-2	脚A-II					6	ヘラ調整	ミガキ	ミガキ	ミガキ			中	良	茶		坏底~脚	
900		725	D-7	脚A-III					6	ナ	ナ	ナ	ナ			石英粗粒多	良	茶		繫~脚	
901		685	C-5	脚A-III					12	ヘラケズリ・ミガキ	指押え	指押え	指押え			石英微粒多	良	茶		坏底~脚	
902		531	B-2	脚A-II			110		4	ヘラミガキ・ハケメ	ヘラ調整	ヘラ調整	ヘラ調整			石英・長石微粒少々	良	茶		坏底~脚	
903		626	C-7	脚A-III					4	ハケメ・ヘラ調整	ミガキ	ミガキ	ミガキ			良	良	茶	黒		坏底~脚
904		568	B-6	脚A-III					4	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	○		石英微粒少々	良	茶		坏底~脚	
905	609	B-6	脚A-III					6	ハケメ・ヘラミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ			石英微粒少々	良	茶		坏底~脚		
906	688	C-4	脚A-III					12	ミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	○		良	良	褐		坏底~脚		
88	907	583	B-6	脚A-III				6	ミガキ	絞り寄せ	絞り寄せ	絞り寄せ			微砂粒多	中	茶		繫~脚		
	908	549	B-2	脚A-III				6	ミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	○		石英・長石微粒多	良	茶		繫~脚、ウルシ痕		
	909	704	D-7	脚A-II			101	12	ヘラミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	○		長石粗粒多	良	茶	明茶		脚、鉾~裾	
	910	687	C-5	脚A-III				12	ヘラミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ			長石粗粒多	不	明茶		繫~脚、磨耗		
	911	727	D-6	脚A-III				8	ヘラケズリ						石英微粒少々	良	褐		繫~脚		
	912	729	D-5	脚A-III				3	ミガキ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	○		石英微粒少々	良	茶		繫~脚		

種別 No.	交付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)			保存 内周率 of 12	造り				スリッパ of 12	胎土	焼成	色		備考		
					器高	口径	底径		器表		器内					表	内		器表	器内
									最大径											
88	913	743	B-6	脚A-I		(132)	2	ヘラミガキ	粗調整				石英・長石粗粒多	良	明茶		脚裾			
	914	540	B-3	脚A-II		135	3	ミガキ	ミガキ				石英微粒多	良	褐		脚裾			
	915	657	C-7	脚A-II		136	3	磨	磨	磨	磨	○	粗砂粒多	不	赤		脚裾			
	916	740	B-5	脚A-I		124	1.5	ヘラミガキ	ハケメ				微砂粒少々	中	薄茶		脚裾			
	917	543	B-4	脚A-I		112	3	ミガキ	絞り寄せ			○	中	中	黒・茶		繫~脚裾			
	918	550	B-2	脚A-I		103	12	カキメ・ミガキ	絞り・ナデ			○	良	良	明茶		繫~脚裾			
	919	698	D-2	脚A-II		140	6	ヘラミガキ	絞・ハケメ・ミガキ				良	良	茶		繫~脚裾			
	920	582	B-5	脚A-III			3	ミガキ	ナデ			○	良	良	茶		繫~脚腰、裾欠			
	921	563	B-4	脚A-III			2	ハケメ・ヘラミガキ	絞り・ハケメ			○	石英微粒多	良	茶		繫~脚腰、裾欠			
	922	586	B-6	脚A-III			12	磨	磨	磨	磨		石英粗粒多	不	赤茶		繫~脚腰、裾欠			
	923	610	B-6	脚A-I		125	2	ミガキ	ナデ				石英・長石粗粒多	良	茶		脚、腰~裾			
	924	570	B-6	脚A-I		141	1.5	ハケメ・スリケン	ハケメ				微砂粒多	良	薄茶		繫~脚裾			
	925	539	B-3	脚A-II		141	1	稜・ハケメ	ハケメ				良	良	薄茶		脚、腰~裾、丹塗カ			
	926	544	B-4	脚A-I		130	1	ミガキ	輪積			○	良	中	薄茶		繫~脚裾			
	927	548	B-4	脚A-I		153	2	ミガキ	ハケメ・スリケン				良	不	黒		脚、顔~裾			
	928	574	B-6	脚A-II		134	1	ヘラケズリ	ナデ				中	不	赤茶	薄茶	脚、顔~裾			
	929	551	B-2	脚A-III			6	ミガキ	絞り寄せ				良	中	薄茶		脚、裾欠			
	930	660	C-6	脚A-II		130	2	ミガキ	ミガキ			○	良	良	黒・茶		脚、腰~裾			
	931	684	C-6	脚B-I			6	ハケメ・ミガキ	絞り寄せ				良	良	薄茶		坏底~脚			
	89	932	578	B-6	脚B-II			12	ハケメ・ミガキ	絞り寄せ				微砂粒少々	良	薄茶		脚、裾欠		
		933	667	C-5	脚B-II			6	ヘラミガキ	絞り寄せ			○	長石粗粒	良	茶		脚、裾欠		
		934	730	D-5	脚B-II			12	ハケメ・ミガキ	絞り寄せ				良	良	茶		脚、裾欠		
		935	726	D-2	脚B-I			6	ミガキ・調整不					粗砂粒少々	中	薄茶		脚、裾欠		
		936	690	C-3	脚B-II			12	ミガキ・磨	ナデ				良	中	褐		脚、裾欠		
		937	732	D-6	脚B-II			12	磨	接合				微砂粒多	良	茶		脚、裾欠		
		938	579	B-6	脚B-II			12	磨	磨	磨	磨		微砂粒	良	薄茶	黒	脚、裾欠		
		939	575	B-4	脚B-I			12	ヘラミガキ	ナデ				長石・石英粗粒多	良	茶	黒褐	脚、裾欠		
		940	703	D-7	脚B-II		140	12	ヘラケズリ	絞・絞り・ハケメ				石英微粒多	良	薄茶		脚、繫部欠、丹塗カ		
		941	573	B-6	脚B-II		120	12	ヘラミガキ	絞り寄せ				微砂粒多	中	薄茶		脚		
		942	576	B-7	脚B-I			12	磨	磨	磨	磨		良	不	赤茶		脚		
		943	686	C-3	脚B-II		122	12	ヘラミガキ	絞り・ハケメ				良	不	黄白		脚		
944		534	B-2	脚B-II		110	3	ヘラミガキ・ハケメ	絞り寄せ				長石微粒多	良	茶		脚			
945		734	D-6	脚B-II			2	ヘラケズリ	絞り寄せ				石英微粒多	良	褐		脚、裾欠			
946		561 <sub>B</sub> 562 <sub>B</sub> 563 <sub>B</sub>	13 <sub>1</sub> 13 <sub>2</sub> 13 <sub>3</sub>	脚B-II			10	ミガキ	接合				微砂粒少々	中	暗褐		脚、裾欠			
947		556	B-4	脚部B-II			12	カキメ・ミガキ	絞り寄せ			○	石英微粒多	良	茶		脚、裾欠			
948		749	E-6	脚部B-II			8	ヘラミガキ	接合				良	良	茶		脚、裾欠			
949		612	B-6	脚部B-II			4	磨	磨	磨	磨		良	不	赤		脚、裾欠			
950		677	C-7	脚部B-II			12	磨	磨	磨	磨	○	微砂粒	中	赤		脚、裾欠			
951		674 <sub>D</sub> 675 <sub>D</sub>	5 <sub>1</sub> 5 <sub>2</sub>	脚部B-I			7	ミガキ	ナデ			○	良	中	茶		脚、裾欠			
952		571	F-6	脚部B-I		106	5	ミガキ	ナデ				微砂粒多	中	黄白		脚、繫部欠			
953		632	B-2	脚部B-I		115	12		輪積・絞り				粗砂粒少々	中	薄茶		脚、繫部欠			
954		728	D-5	脚部B-II			12	ヘラケズリ	接合				良	良	茶		脚、繫部欠			
955		666	C-6	脚部B-I			12	ヘラミガキ	絞り寄せ			○	良	良	茶		脚、繫部欠			
956		572	B-6	脚部B-I			12	磨	磨	磨	磨		粗砂粒多	中	薄茶		脚、裾欠			
957		559	B-2	脚部B-I			6	ヘラケズリ					粗砂粒多	不	茶		脚、裾欠			
958		573	B-4	脚部B-I			4	ミガキ	輪積・絞り			○	石英・長石粗粒少	良	茶		脚、裾欠			
90		959	581	B-6	脚部B-III			6	磨	磨	磨	磨		粗砂粒少々	中	茶		脚、裾欠		
		960	580	B-4	脚部B-II			12	ミガキ・ハケメ	輪積・絞り				良	良	茶		脚、裾欠		
		961	553	B-4	脚部B-II			12	ミガキ	絞り寄せ				良	良	茶		脚、裾欠		
		962	557	B-3	脚部B-III			12	ミガキ	輪積・絞り			○	良	良	茶		脚、裾欠		
	963	577	B-5	脚部B-I			12	ミガキ	輪積・絞り			○	良	中	茶		脚、裾欠			
	964	555	B-4	脚部B-II			12	ミガキ	ナデ・ハケメ			○	微砂粒少々	中	薄茶		脚、裾欠			

種別 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				現存 片数 of 12	造り			スリッパの有無	胎土	焼成	色		備考	
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内	表内				器表	器内		
90	965	724	D-7	脚部B-II					12	ヘラ調整・ミガキ	ナ	デ		石英粗粒多	良	茶		脚、裾欠	
	966	675	C-5	脚部B-III					12	ミガキ	絞り寄せ	○		石英微粒多	中	薄茶		脚、裾欠	
	967	673	C-7	脚部B-III					12	ミガキ	カキメ			石英微粒多	良	赤		脚、裾欠	
	968	552	B-2	脚部B-III					3	ミガキ	ナ	デ	○	微砂粒多	良	赤茶		脚、裾欠	
	969	676	C-1	脚部B-III					12	ミガキ	輪積・絞り	○		良	中	茶		脚、裾欠	
	970	554	B-1	脚部B-I					12	ヘラミガキ	接	合		微砂粒多	中	薄茶		脚、裾欠	
	971	733	D-7	脚部B-II					8	ミガキ	絞り寄せ	○		長石粗粒	中	赤茶		脚、裾欠	
	972	672	C-4	脚部B-II					12	ミガキ	絞り寄せ	○		良	中	赤茶		脚、裾欠	
	973	731	D-2	脚部B-III					6	磨	耗			石英・長石粗粒多	中	黄白		脚、裾欠	
	974	670	C-3	脚部B-II					12	ヘラミガキ	ナ	デ		微砂粒多	良	茶		脚、裾欠	
	975	671	C-5	脚部B-III					12	ミガキ	接	合		長石粗粒少々	良	薄茶		脚、裾欠	
	976	739	B-8	脚部B-I					12	磨	耗	ヨコナ	デ	石英微粒少々	不	茶		脚、裾欠	
	977	618	B-4	脚部B-II					6	磨	耗	接	合	微砂粒多	中	赤茶		脚、裾欠	
	978	558	B-3	脚部B-II					8	磨	耗	絞り寄せ		微砂粒多	中	茶		脚、裾欠	
	979	560	B-4	脚部B-II					12	磨	耗	絞り寄せ		粗砂粒多	不	茶		脚、裾欠	
	980	668	C-4	脚部B-III					12	ヘラミガキ	接	合	○	微砂粒多	良	茶		脚、裾欠	
	981	562	B-3	脚部B-I					12	磨	耗			石英微粒	不	赤茶		脚、裾欠	
	982	735	D-3	脚部B-II					8	ヘラミガキ				良	中	薄茶		脚、裾欠	
	983	669	C-8	脚部B-III			96		12	ミガキ	ハケメ			長石微粒多	不	薄茶		脚、腰～裾	
	984	653	C-8	脚部N			130		1	稜・ミガキ				微砂粒少々	中	黄土		脚、裾	
	985	616	B-2	脚部N			120		1	稜・ミガキ				微砂粒少々	良	薄茶		脚、裾	
	986	658	C-3	脚部B-I			126		12	ミガキ	ハケメ			良	良	茶		脚、裾	
	987	615	B-2	脚部B-I			150		1.5	ミガキ	ミガキ			長石・石英微粒少々	良			脚、裾	
	988	661	C-3	脚部B-I			130		3	ミガキ	ハケメ・ナデ		○	良	良	褐		脚、裾	
	989	654	C-3	脚部B-I			125		1.5	磨	耗		○	微砂粒少々	中	茶		脚、裾	
	990	655	C-8	脚部B-I			125		1.5	ハケメ			○	微砂粒少々	良	茶	薄茶	脚、裾	
	991	662	C-7	脚部B-I			139		3	ヘラミガキ	磨	耗		石英・長石微粒少々	良	茶		脚、裾	
	992	656	C-6	脚部B-I			120		3	磨	耗	磨	耗	○	○	良	良	赤茶	脚、裾
	993	925	C-4	皿			100		2	ハケメ	輪積	○		石英粒	良	明茶		胴、孔径11	
	994	916	B-5	ミニチュア	(48)	(50)	32		12	手ビネリ				石英・長石粗粒	良	明茶		口縁欠	
	995	924	D-7	ミニチュア	25	42	12	43	12	手ビネリ				石英微粒	中	赤茶		完	
	996	923	D-7	ミニチュア	32	38	20	40	12	手ビネリ				石英微粒多	良	黒褐	薄茶	完	
	997	921	B-3	カメ片							被	解						細片	
	998	1493	B-3	不明						黒色ミガキ						黒	薄茶	細片	
91	999	1360	-	カメB-II			160			ハケメ	ナデ・ハケメ			長石粒多	良	黒褐	褐	口縁～肩	
	1000	1483	E-6	カメC			150		2	ハケメ	ナデ・ハケメ			微砂粒少々	中	暗褐		口縁～肩	
	1001	1481	E-6	カメD-I			150		1.5	ハケメ	ナデ・ハケメ			石英微粒少々	良	暗褐		口縁～肩	
	1002	1381	B-5	カメB-I			170		1	ハケメ・スリケン	ハケメ			石英・長石粗粒少々	良	黒		口縁～肩	
	1003	1402	C-5	カメB-I			198		2	ハケメ	ハケメ	○		石英微粒多	不	赤茶	黒	口縁～肩	
	1004	1420	C-6	カメB-I			190		2.5	ハケメ	輪積・ハケメ			良	良	褐		口縁～肩	
	1005	1461	C-6	カメB-I			200		6	ナデ・ハケメ	ハケメ			長石粗粒少々	中	褐		口縁～頸	
	1006	1321	B-2	カメB-I			172		2	ナデ・ハケメ	ハケメ			良	良	黄土		口縁～頸	
	1007	1382	B-5	カメB-I			190		3	ハケメ	ハケメ			粗砂粒多	良	黄土		口縁～肩	
	1008	1482	E-6	カメB-I			170		1.5	ハケメ	ミガキ			石英微粒少々	中	暗褐		口縁～頸	
	1009	1401	C-3	カメB-I			160		1.5	ハケメ	ナデ・ハケメ			粗砂粒少々	良	褐		口縁～肩	
	1010	1386	B-5	カメB-I			190		1	ナ	ナ	ナ	ナ	石英粗粒少々	良	黄土		口縁～肩	
	1011	1456	D-3	カメB-I			170		1	ナ	ナ	ナ	○	○	長石・石英粗粒多	不	茶		口縁～肩、磨耗
	1012	1357	B-4	カメB-I			190		1.5	ヨコナデ・ハケメ	輪積・ナデ			長石粗粒	良	赤褐	茶	口縁～肩	
	1013	1337	B-6	カメB-I			200		2	ハケメ	ハケメ			長石・石英微粒多	良	黄土	一部黒	口縁～肩	
	1014	1383	B-5	カメC			190		2	ヨコナデ・ハケメ	輪積・ナデ			良	良	黄土		口縁～肩	
	1015	1459	D-2	カメA-IV			192		2.5	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	○		石英微粒少々	中	黄白	茶	口縁～肩	
	1016	1478	D-7	カメA-IV			178		1.5	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ			粗砂粒少々	中	赤茶	黄土	口縁～胴	

挿入 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				保存 状態 0/12	造り				胎土	焼成	色		備考
					器高	口径	底径	口径		器表	器内	表	内			器表	器内	
91	1017	1421	C-7	カメB-I	180			4	ヨコナデ・ハケメ	ミガキ			長石粗粒多	良	薄茶	黒褐	口縁～肩	
	1018	1462	D-3	カメB-I	170		190	2	ハケメ	ミガキ・ハケメ・ナデ			良	中	黄土	暗褐	口縁～胴	
	1019	1490	D-5	カメN		75		3	ミガキ	ハケメ			石英・長石粗粒多	良	褐		腰～底	
	1020	1424	C-2	カメN		42		12	ヘラ調整	ハケメ			石英微粒多	不	褐		腰～底	
	1021	1309	B-2	カメN		34		8	ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒多	中	赤	黄土	腰～底	
	1022	1397	B-8	カメN		68		6	ハケメ	ハケメ・指押え			良	中	赤褐	茶	腰～底	
	1023	1464	D-2	カメN		82		7	ミガキ	ハケメ			微砂粒	中	褐		腰～底	
	1024	1367	B-4	カメN		57		12	ハケメ	ハケメ			長石粗粒多	不	明茶		腰～底	
	1025	1473	D-8	カメN		64		8	ミガキ	剥離			良	良	茶		腰～底	
	1026	1387	B-5	カメN		54		4	ヘラズリ・ハケメ				良	良	茶		腰～底	
	1027	1312	B-2	カメN		66		4	ハケメ	ハケメ	○	○	微砂粒少々	良	黄白		腰～底	
	1028	1426	C-3	カメN		60		12	ハケメ	ハケメ	○		微砂粒多	不	暗灰		腰～底	
	1029	1432	C-4	カメN		58		12	ヘラ調整・ハケメ	ハケメ			良	良	薄茶		腰～底	
92	1030	1389	B-7	カメA-IV	210		242	6	ヘラズリ・ハケメ	ナデ・ハケメ			石英微粒多	中	褐		口縁～腰	
	1031	1354	B-4	カメA-IV	187		246	4	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ			石英・長石粗粒多	中	褐		口縁～胴	
	1032	1364	B-4	カメN			216	2	ハケメ	輪積・ハケメ			長石粗粒少々	中	褐		胴～腰	
	1033	1366	B-4	カメA-III		60	260	2	ミガキ	輪積・ミガキ			長石粗粒多	良	黄白		胴～底	
	1034	1406	C-6	カメA-IV	236			2	ヨコナデ・ハケメ	輪積・ヨコナデ			石英・長石粗粒少々	良	褐	暗褐	口縁～肩	
	1035	1417	C-6	カメA-IV	270			6	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ			石英粗粒多	良	褐		口縁～肩	
	1036	1303	B-1	カメN			260	3	ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒多	不	茶	暗褐	胴	
	1037	1363	B-4	カメN			240	2	ハケメ・ナデ	ハケメ			長石粗粒多	中	褐		胴	
	1038	1365	B-4	カメA-III		50	176	6	ナ	ナ	○		長石・石英粗粒多	中	褐	茶	肩～底	
	1039	1342	D-3	カメN		50		6	ヘラズリ・ハケメ	ナ	○		長石・石英粗粒多	中	黄褐		腰～底	
	93	1040	1358	B-4	カメA-IV	190			2	ハケメ	ナ	○		長石粗粒	中	暗褐	茶	口縁～肩
1041		1361	B-4	カメA-IV	160			1	ナ	ナ	○		石英・長石粗粒少々	中	暗褐		口縁～肩	
1042		1409	C-6	カメB-I	170			3	ナ	ナ	○		石英・長石粗粒多	良	褐		口縁～肩	
1043		1359	B-4	カメD-I	180		180	1	ヨコナデ・ハケメ	ナ	○		長石粗粒多	中	暗褐		口縁～胴	
1044		1352	B-3	カメD-I	182			1		ハケメ	○	○	石英粗粒	良	明茶		口縁～肩	
1045		1408	C-6	カメA-IV	200			4	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒少々	中	明茶		口縁～肩	
1046		1419	C-7	カメA-IV	190		230	8	ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒少々	良	薄茶		口縁～胴	
1047		1336	B-4	カメA-IV	232			3	ヨコナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ			石英粗粒多	中	明茶	黒灰	口縁～肩	
1048		1418	C-5	カメA-IV	190			3	ヨコナデ・ハケメ	ハケメ			長石粗粒多	不	赤茶		口縁～肩、磨耗	
1049		1480	E-5	カメA-IV	210			3	ハケメ	ハケメ・ナデ			石英粗粒多	中	茶		口縁～肩	
1050		1355	B-4	カメA-IV	190			4	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ			石英微粒少々	良	褐	黄土	口縁～肩	
1051		1362	B-4	カメB-I	170			1	ハケメ	ナ	○		石英・長石粗粒多	不	明茶		口縁～肩	
1052		1323	B-4	カメA-IV	190			3	ハケメ	磨耗			石英・長石粗粒多	不	黄土	黄白	口縁～肩	
1053		1457	D-2	カメB-I	210			2	ヨコナデ	ナ	○		石英・長石粗粒多	不	黄白		口縁～肩	
1054		1356	B-4	カメB-I	172			2	ヨコナデ・ハケメ	ナ	○		石英・長石粗粒多	中	黒褐	茶	口縁～肩	
1055		1368	B-4	カメN		50		12	ヘラズリ・ハケメ	ヘラ調整・ハケメ			長石・石英粗粒少々	不	茶		腰～底	
1056		1465	D-6	カメN		24		8	ヘラズリ	ハケメ・指押え			長石・石英粗粒少々	良	褐		腰～底	
1057		1390	B-6	カメN		55		2	ヘラズリ・ハケメ	ハケメ			長石粗粒多	不	赤茶	黒褐	腰～底	
1058		1439	C-6	カメN		34		6	面取り	ハケメ			良	良	茶		腰～底	
1059		1437	C-6	カメN		44		6	ヘラズリ	ミガキ	○		良	中	茶		腰～底	
1060		1454	C-3	カメN		38		10	ハケメ		○		良	中	茶		腰～底	
1061		1301	B-1	カメB-I	240			9	ミガキ	ハケメ			石英・長石粗粒少々	中	黄土		口縁～肩	
1062		1319	B-1	カメB-I	236			2.5	ナデ・ハケメ	磨耗			長石・石英粗粒少々	良	明茶	黒褐	口縁～肩	
1063		1318	B-3	カメC	280		280	4	ミガキ・ハケメ	ハケメ・ナデ			長石・石英粗粒多	中	黄褐	暗灰	口縁～肩	
1064		208	B-3	壺A	170			1.5					粗砂粒多	不	黄白	白茶	口縁～頸	
1065		1484	E-6	壺C-VI	200			1	粘土・磨耗	磨耗			石英・長石粗粒少々	不	褐		口縁～頸	
1066		249	B-3	カメD-II	73	70	32	73	5	ヨコナデ	輪積・ヨコナデ	○	○	石英・長石粗粒多	中	茶		完、小カメ
1067		907	C-7	カメD-I	104		110	1	ハケメ	ミガキ			良	良	茶		口縁～胴	
1068	911	E-6	カメD-I	104		104	1	ミガキ	ミガキ	○		良	不	黒	オレンジ	口縁～胴		

種別 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)				残存 片数 0/12	造り		対70箱 表内	胎土	焼成	色		備考	
					器高	口径	底径	口径		器表	器内				器表	器内		
94	1069	908	C-7	カメD-I	110		112	1	ミガキナ	デ			良	中	薄茶		口縁~胴	
	1070	1416	C-6	カメD-I	112		112	1	ナ	デナ	デ		微砂粒多	良	赤茶	黒	口縁~胴	
	1071	902	C-3	カメD-I	118		120	2	ハケメ	ミガキ	○	○	粗砂粒少々	良	黄土		口縁~胴	
	1072	1492	C-8	カメD-I				1	ハケメ	ミガキ			良	良	黒		顔~胴	
	1073	1477	D-7	カメD-I	148		148	1.5	磨	耗	磨	耗	良	中	茶		口縁~胴	
	1074	1341	B-8	カメD-I	140		142	2	ハケメ			○	石英・長石粗粒	中	黄茶		口縁~胴	
	1075	1339	B-6	カメC	150			1	ミガキ	ヨコナデ			石英粗粒多	中	黄褐		口縁~肩	
	1076	1353	B-4	カメD-I	126	150	26	150	12	ヨコナデ・ミガキ	ヘラ調整・ヘラナデ	○	石英・長石粗粒多	中	黄土		完	
	1077	1335	B-4	カメD-I	140		140	2	ヨコナデ			○	○	石英微粒多	良	焦茶	明茶	口縁~腰
	1078	1302	B-1	カメB-I	120			1.5	磨	耗	ミガキ・磨	耗	長石粗粒少々	不	黄白		口縁~肩	
	1079	1404	C-6	カメD-I	133	150	40	152	12	ヘラズリ・ハケメ	輪積・ハケメ		石英微粒少々	良	褐		完	
	1080	1403	C-5	カメD-I	148			1	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ・ハケメ			微砂粒少々	良	黄土		口縁~肩	
	1081	1340	B-8	カメC	130		130	2	厚いスリップ			○	石英微粒	中	薄焦茶	茶	口縁~肩	
	1082	1474	D-2	カメE	100		(120)	1	ミガキ	ミガキ			良	良	黒褐		口縁~肩	
	1083	1475	D-2	カメD-I	98			1	ハケメ	ナ	デ		石英微粒	良	茶		口縁~肩	
	1084	1334	B-4	カメD-I	120			1	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ			良	中	茶		口縁~肩	
	1085	1415	C-6	壺C-III	102			3	ハケメ	ヨコナデ			微砂粒	良	薄茶		口縁	
	1086	1324	C-6	壺C-III	130			2	ヨコナデ	磨	耗		石英粗粒多	良	薄茶		口縁	
95	1087	1400	C-3	壺C-I	190			1	ヨコナデ	ヨコナデ			良	中	黄白		口縁	
	1088	1479	E-5	壺C-III	180			3	ミガキ	ミガキ	○		長石粒少々	良	茶	一部黒	口縁	
	1089	1325	B-4	壺C-III	198			1	ナ	デ	ミガキ		粗砂粒少々	良	黄土		口縁	
	1090	1458	D-3	壺C-III	186			1	ハケメ	ミガキ			石英粗粒少々	中	茶		口縁、調整不良	
	1091	1411	C-6	壺C-II	190			1.5	ナ	デ	ナ	デ	石英微粒多	中	赤茶	黄土	口縁	
	1092	1460	D-5	壺C-II	190			4	ヨコナデ・ヘラミガキ	ヨコナデ			長石粗粒多	良	暗褐		口縁~肩	
	1093	1407	C-6	壺C-I	170			2	磨	耗	磨	耗	石英粗粒多	不	茶		口縁	
	1094	1410	C-6	壺C-I	172			2	ヘラミガキ	ヘラミガキ			良	良	茶		口縁	
	1095	1330	B-4	壺D-I	134			3	ヨコナデ	ナ	デ		粗砂粒多	不	茶		口縁	
	1096	1384	B-5	壺C-I	157			2.5	ハケメ	ハケメ			石英粗粒少々	不	黄白		口縁	
	1097	1329	B-4	壺C-II	146			3.5	ミガキ	ヨコナデ		○	良	良	茶		口縁	
	1098	1326	B-4	壺C-III	170			1	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケメ			長石粗粒多	中	茶		口縁	
	1099	1412	C-6	壺C-III	177			1.5	ナ	デ	ヨコナデ		良	良	暗褐		口縁	
	1100	1328	B-4	壺C-III	165			1.5	ミガキ	ミガキ	○		石英粗粒多	中	茶		口縁	
	1101	1405	C-6	壺C-V	270			5	ナデ・ハケメ	ハケメ			石英・長石粗粒多	中	褐		口縁	
	1102	1379	B-5	壺C-II				2	ナ	デ	ミガキ		石英粗粒少々	良	薄茶		顔、口唇欠	
	1103	1327	B-4	壺D-III	88			1	ナ	デ	ナ	デ	粗砂粒多	中	茶		口縁	
	1104	1489	C-6	壺D-III	100			1	ナ	デ			粗砂粒多	中	黄茶		口縁	
	1105	1491	C-2	壺C-II	98			2	ミガキ	ナ	デ		石英微粒	良	薄茶		口縁	
	1106	1331	B-1	壺C-II	111			10	ナ	デ	ヘラ調整・ナデ		石英・長石粗粒少	良	茶		口縁	
	1107	1380	B-5	壺D-III	120			3	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ			良	不	赤茶		口縁~肩	
	1108	1338	B-4	壺C-II	188			1.5	カキメ	ミガキ			石英・長石粗粒多	良	茶	赤	口縁	
	1109	1332	B-6	壺C-IV	140			2	ナ	デ	ヨコナデ・ハケメ	○	良	良	茶		口縁	
	1110	1476	B-3	壺C-II	122		160	5	ミガキ	ミガキ			石英・長石粗粒多	良	茶		口縁~胴	
	1111	1320	B-3	壺D-III	150			2	ハケメ・ヘラミガキ	ハケメ			良	不	褐	茶	口縁	
	1112	1463	D-6	壺C-IV	160			8	磨	耗	ハケメ		良	中	黄土		口縁	
	1113	1333	B-2	壺C-IV	110			6	ナ	デ	ミガキ		良	良	茶褐		口縁	
	1114	1322	B-2	壺C-IV	140			1	ミガキ	ミガキ			石英・長石粗粒多	中	褐		口縁	
96	1115	1377	B-4	底 N			38	12	ヘラケズリ	磨	耗		長石粗粒多	不	赤茶			
	1116	1428	C-5	底 N			50	3	ハケメ				石英粗粒少々	中	茶			
	1117	1311	B-2	底 N			44	12	磨	耗	ミガキ	○	○	良	不	黄白		
	1118	1372	B-4	底 N			50	12	ヘラケズリ・ハケメ				微砂粒少々	良	黄・黒			
	1119	1314	B-2	底 N			64	6	磨	耗	磨	耗	微砂粒少々	不	灰白			
	1120	1485	E-5	底 N			45	8	磨	耗	磨	耗	微砂粒多	中	赤茶	暗灰		

挿入 No.	割付 No.	遺物 No.	出土 位置	器種	計測 (mm)			残存 時間 0/12	造り			スリッパの 内	胎土	焼成	色		備考				
					器高	口径	底径		最大径	器表	器内				表	内		器表	器内		
96	1121	1392	B-6	底	N		62	6	ナ	デ				長石・石英粗粒多	良	褐					
	1122	1391	B-6	底	N		(50)		ハリ底・ナ	デ				良	不	黄土					
	1123	1433	C-6	底	N		27	8	磨	耗	磨	耗		石英・粗砂粒多	不	褐					
	1124	1315	B-2	底	N		39	3	ミ	ガ	キ		○	微砂粒少々	良	暗褐	黄土				
	1125	1468	C-7	底	N		56	6	ナ	デ	磨	耗		石英・長石粗粒多	不	黄白		底面にハケメ			
	1126	1346	B-3	底	N		58	6	ナ	デ	ハ	ケ	メ	○	良	不	黄土				
	1127	1371	B-4	底	N		50	12	ミ	ガ	キ	ヘ	ラ	調整	良	良	黄土				
	1128	1348	B-3	底	N		54	6	ハ	ケ	メ	ミ	ガ	キ		石英微粒	良	白灰	底面ミガキ		
	1129	1343	B-3	底	N		46	6			磨	耗	○	石英粗粒多	不	黄土					
	1130	1347	B-3	底	N		57	6	ハ	ケ	メ	磨	耗		石英・長石粗粒	不	明茶	黄土			
	1131	1308	B-3	底	N		60	6	磨	耗	磨	耗		粗砂粒多	不	黄土					
	1132	1447	D-2	底	N		49	12	ミ	ガ	キ	ハ	ケ	メ	○	良	良	茶			
	1133	1429	C-5	底	N		72	12	ヘ	ラ	調整	ナ	デ		石英微粒多	良	褐		底面黒		
	1134	1434	C-6	底	N		56	3					○	石英粗粒少々	不	茶	黒				
	1135	1448	D-1	底	N		64	12			ハ	ケ	メ		長石・石英粗粒多	良	褐		底面黒		
	1136	1393	B-6	底	N		64	3						石英粗粒多	良	茶	黒				
	1137	1453	D-2	底	N		72	8	ミ	ガ	キ	ナ	デ		長石粗粒多	中	黄土				
	1138	1396	B-8	底	N		52	12	ナ	デ	ヘ	ラ	調整		良	中	薄茶				
	1139	1369	B-4	底	N		54	12	ハ	ケ	メ			石英・長石粗粒多	中	黄土		貼底			
	1140	1375	B-4	底	N		38	12	ヘ	ラ	ケ	ズ	リ	磨	耗	長石粗粒多	不	赤茶			
	1141	1373	B-4	底	N		40	12						石英微粒多	良	黒褐	黒				
	1142	1471	D-8	底	N		40	12	ハ	ケ	メ			良	良	茶					
	1143	1344	B-3	底	N		47	8	ヘ	ラ	ケ	ズ	リ	ハ	ケ	メ	石英・長石粗粒	良	明茶	黒褐	
	1144	1467	D-6	底	N		52	12	ヘ	ラ	ケ	ズ	リ	ハ	ケ	メ	微砂粒少々	良	黒褐		
	1145	1313	B-2	底	N		52	6	ミ	ガ	キ	ミ	ガ	キ	○	石英微粒多	良	茶褐			
	1146	1451	D-1	底	N		56	4	ナ	デ	ナ	デ		長石粗粒多	良	褐	暗褐				
	1147	1445	C-7	底	N		60	6	ミ	ガ	キ	ミ	ガ	キ	○	良	良	明茶			
	1148	1466	D-6	底	N		49	12	磨	耗				良	中	黄土		ビリー1ヶ混入			
	1149	1425	C-2	底	N		64	12	磨	耗	磨	耗		石英・長石粗粒多	不	茶					
	1150	1351	B-3	底	N		40	12	ハ	ケ	メ	磨	耗	微砂粒多	不	赤茶	黄土		焼成後の穿孔途中		
	1151	1305	B-1	底	N		32	8	ミ	ガ	キ	磨	耗	石英・長石粗粒少々	中	薄茶					
	1152	1349	B-3	底	N		24	12	面	取	り	ハ	ケ	メ	石英・長石粗粒少々	良	褐		底部五角形		
	1153	1306	B-1	底	N		22	12	ミ	ガ	キ	磨	耗	良	中	赤褐					
	1154	1374	B-4	底	N		28	12	面	取	り	ハ	ケ	メ	良	中	褐	黄土			
	1155	1316	B-2	底	N		44	3	面	取	り	ハ	ケ	メ	長石微粒少々	良	暗褐	黄白			
	1156	1450	D-1	底	N		50	6	面	取	り	磨	耗	粗砂粒多	良	褐	暗褐				
	1157	1370	B-4	底	N		38	12	面	取	り	磨	耗	石英・長石粗粒少々	良	黒					
	1158	1444	C-6	底	N		30	6	面	取	り	ハ	ケ	メ	長石粗粒多	良	褐	黒			
	1159	1487	E-6	底	N		32	6	面	取	り	ヘ	ラ	調整	微砂粒多	中	茶				
	1160	1345	B-4	底	N		55	8	ハ	ケ	メ			長石粗粒多	不	赤茶					
	1161	1388	B-5	底	N		40	12	ハ	ケ	メ	ハ	ケ	メ	長石粗粒少々	不	黄土		貼底		
	1162	1440	C-6	底	N		34	6	ハ	ケ	メ	ナ	デ		石英微粒少々	良	茶				
	1163	1452	D-1	底	N		30	6	磨	耗				長石微粒多	良	茶					
	1164	1435	C-6	底	N		50	12	磨	耗	磨	耗		微砂粒多	不	茶					
	1165	1431	C-5	底	N		34	12						粗砂粒多	中	黄白	褐				
	1166	1430	C-5	底	N		30	12			磨	耗		石英微粒多	良	茶	一部黒				
	1167	1438	C-6	底	N		32	12	ミ	ガ	キ	ミ	ガ	キ	良	不	茶				
	1168	1304	B-1	底	N		40	8	磨	耗				長石粗粒多	中	黄土	黒灰				
	1169	1441	C-6	底	N		26	6	磨	耗				長石粗粒少々	中	褐			器内炭化物付着		
	1170	1398	B-8	底	N		40	12	磨	耗				粗砂粒多	不	赤褐	茶				
	1171	1446	C-7	底	N		24	2	ミ	ガ	キ	ミ	ガ	キ	良	良	暗褐				
	1172	1310	B-2	底	N		24	12	ナ	デ	ナ	デ		長石粗粒多	良	赤褐	黄土				



挿入No.	割付No.	遺物No.	出土位置	器種	計測 (mm)			厚さ 円筒 o/12	造り			表内	胎土	焼成色		備考		
					器高	口径	底径		器表	器内	表			器表	器内			
96	1173	1350	B-3	底 N		丸底	6	ミ	ガ	キ	ヘ	ラ	調	整	良	良	黒灰	
	1174	1442	C-6	底 N		丸底	6	ミ	ガ	キ	ハ	ケ	メ		長石粗粒多	良	黒褐	茶
	1175	1317	B-2	底 N		丸底	12	磨	耗	磨	耗			良	不	橙	暗灰	
	1176	1470	D-7	底 N		丸底	4	磨	耗	磨	耗			粗砂粒多	不	褐		
	1177	1307	B-1	底 N		丸底	6	ハ	ケ	メ	磨	耗			石英・長石粗粒少々	不	黄白	
	1178	1399	B-8	底 N		丸底	8	ヘ	ラ	ケ	ズ	リ			微砂粒多	不	茶	
	1179	1472	D-8	底 N		丸底	8	ナ		デ					石英粗粒多	良	茶	
	1180	1378	B-4	底 N		丸底	3								石英粗粒少々	中	茶	
	1181	1443	C-6	底 N		丸底	8	ミ	ガ	キ	ナ	デ			良	良	茶	
	1182	1488	E-6	底 N		丸底	4	磨	耗	磨	耗				石英・長石粗粒多	不	褐	黒
	1183	1394	B-6	底 N		丸底	12	ナ		デ	ナ	デ			石英・長石粗粒多	不	褐	
	1184	1423	C-3	底 N		丸底	3.5								石英・長石粗粒多	良	茶	
	1185	1395	B-6	底 N		丸底	8	ナ		デ	ハ	ケ	メ		石英・長石粗粒多	不	褐	磨耗
	1186	1469	C-8	底 N		丸底	3	ナ		デ					石英粗粒	良	黄土	

挿入No.	割付No.	遺物No.	出土位置	名称	計測 (mm)			材質	備考
					タテ	ヨコ	最大径		
97	1187	915	B-3	焼土塊			45	土製品	握った土を焼成したもの
	1188	920	"	"			45	"	ミニチュアを潰して焼成したもの
	1189	S-1	B-1	石垂	80	62		花崗閃緑岩	網のおもり
	1190	S-15	B-1	不定形石器	140	107			スクレーパー
	1191	S-13	K-8	スリ石	85	53			
	1192	S-11	B-4	"	95	85			
	1193	S-14	B-3	"	112	106			
	1194	S-12	"	"	106	84			
	1195	S-6	D-8	"	105	96		花崗岩	
	1196	S-5	1号柱	"	100	85		砂岩	
	1197	S-7	B-7	"	174	56		花崗岩	
	1198	S-3	B-3	タタキ石	86	67		硬砂岩	
	1199	S-4	D-1	"	105	89		砂岩	スリ面も有り
	1200	S-10	C-3	砥石	165	53		泥岩	
1201	S-8	D-7	"	130	46		"		
1202	S-2	E-6	浮子				軽石	面取り	

挿入No.	割付No.	遺物No.	出土位置	名称	計測 (mm)			底部標高 (cm)	材質	ピット及び 柱 No.	備考
					長さ	最大径	厚さ				
13	M 1	1503	SI2P1-1	柱	600	150		328	クリ	P1-1	
	M 2	1504	P1-2	"	530	160		316	ケヤキ	P1-2	樹皮残存
	M 3	1501	P2-1	"	635	160		334	クリ	P2-1	
	M 3'	1502	P2-2	杭	303	41		352	スギ	P2-2	先端尖る・面取
	M 4	1506	P3-1	柱	512	140		332	クリ	P3-1	
	M 5	1505	P3-2	"	494	158		333	ケヤキ	P3-2	樹皮残存
	M 6	1507	P4-1	"	854	152		289	ナラ	P4-1	
	M 7	1508	P4-2	"	324	146		330	"	P4-2	
18	M 8	1513	4号建物址	柱	329	105		360	クリ	P4-3	焼杭状、尖る、面取
20	M 9	1510	5号 "	"	200	174		348	チャンチン		
	M10	1511	"	"	481	160		340	クリ		
	M11	1512	"	"	308	143		350	"		
	M12	1514	"	"	403	160		354	"		
32	M13	1519	1号杭列	杭	490	45		375	"		面取、尖る
	M14	1520	"	"	810	70		353	"		" "
	M15	1521	"	"	630	65		360	"		割材 "
	M16	1522	"	"	320	30		395	"		丸材 "
	M17	1523	"	"	165	30		393	ケヤキ		" "
	M18	1524	"	"	495	80		384	クリ		割材 "
	M19	1525	"	"	590	80		378	"		" " 切込みあり
M20	1526	"	"	660	70		373	"		" "	

挿図No.	割付No.	遺物No.	出土位置	名称	計測 (mm)			底部標高 (cm)	材質	ビット及び柱 No.	備考
					長さ	最大径	暑さ				
32	M21	1527	1号杭列	杭	150	30		394	ク リ		先端欠
	M22	1528	"	"	298	70		383	"		尖る
	M23	1529	"	"	200	35		390	"		"
34	M24	1515	2号杭列	"	444	103		334	"		丸材 "
	M25	1516	"	"	342	74		335	"		丸材 尖る
	M26	1517	"	"	503	82		326	"		" "
	M27	1518	"	"	450	60		332	"		割材 "
39	M28	1530	C-5	板 材	140	90	14		ケ ヤ キ		板状
	M29	1532	"	"	855	40			ク リ		尖る
	M30	1533	"	"	850	45			チャンチン		先端折

挿図No.	割付No.	遺物No.	出土位置	器種	計測 (mm)				残存円周率	造り		スリップの有無	胎土	構成	色		備考
					器高	口径	底径	最大径		器表	器内				器表	器内	
98	1203	2038	B-5						烈点紋			石英微粒	不	暗茶	薄茶	弥生土器	
	1204	2036							烈点ハケメ	ハケメ		"	"	薄茶	茶	"	
	1205	2037							沈線紋			"	"	暗茶	茶	"	
	1206	2035	B-5						刺突			石英微粒		明茶	暗茶	"	
	1207	2034							ハケメ				良	薄茶	茶	ロクロ土器	
	1208	2002	B-4	碗	118			2	ヨコナデ	黒ミガキ		微砂粒少々		茶	黒	"	内黒
	1209	2001	1号土坑	坏	120				"	"		"	"	"	"	"	"
	1210	2007	B-3	"				1				良	不	黄白		"	
	1211	2006	C-3			60		1				"	中	黄土		"	
	1212	2004	B-3			47		2					良	黄白		"	
	1213	2012	C-8			58		2					良	明茶		"	
	1214	2005	B-3			44		1					中	黄土		"	
	1215	2003	2号土坑			50		2	ミガキ	黒ミガキ		"	不	赤褐		"	
	1216	2022	C-4	カメ					タタキ			石英微粒多		良	茶		"
	1217	2024	B-6	"					"			石英微粒少々		"	"	"	
	1218	2023	C-6	"					"			良	"	"	"	"	
	1219	2015	D-2	長壺				2		水挽		"	"	灰		須恵器	肩
	1220	2014	B-1	环蓋	151			2				"	"	"	"	"	"
	1221	2011	B-8	坏	142			1				"	"	暗褐		"	口縁～腰
	1222	2010	B-3	"	33	124	72	1				"	"	暗灰		"	口縁～底
	1223	2008	1号土坑	"	35	118	54	12				微砂粒多	"	褐		"	糸切底
	1224	2009	C-2		30	128	82	3				"	"	灰		"	"
	1225	2013	D-6		130			1				"	"	暗灰		"	口縁～腰
1226	2016	"	カメ								良	"	灰		"	"	
1227	2018	"	"					タタキ	青海波		"	"	赤褐		"	"	
1228	2017	"	"					"	"		"	"	灰		"	"	
1229	2020	C-4	"					タタキ、ナデ	同心円ナデ		"	"	暗灰		"	"	
1230	2021	C-2	"					ハケメ	ハケメ		"	中	灰		須恵器		
1231	2019	C-6						タタキ			"	良	暗灰		中世陶器		
1232	2025	B-3	皿		64				印花		砂質	"	黄緑		黄瀬戸底		

## V ま と め

### 1 遺物・遺構の時期

当遺跡は推定45,000平方mをはるかに越える大規模なものと考えているが、当調査はそのうちのほんの一部分にすぎず、当調査によって得られた結果が総てではないと承知しているが、ここでは当調査で知り得たことを記述してまとめとしたい。

遺跡の営まれた時期を推定するに当たって、ここで検出されたSI-1号住居址とSI-2号住居址がそれぞれ主軸を異にし、SI-1はN4度W、SI-2はN37度Wである。ごく隣接する住居址であることからこの2棟の住居が同時に営まれたとは考えがたく、ある時間差を見ることができる。SI-1出土の多くの土器は住居廃絶後に投棄されたものであろうと報告したが、この住居址に切り離せない炉内出土の甕や、敷床の下層より出土した高坏などがその他のものとの間に時期差を見るものではない。SI-2号に直接結びつく土器は皆無であるが、南西側に広がる攪乱層出土の土器、即ち遺構外出土の土器として取扱ったものうちのB-6・7区出土のものの中にあるものと考えられる。然しながらこれらの土器とSI-1号出土のものとの間に時期的な差は見い出せない。従ってSI-1とSI-2号住居址の主軸の異りは時期差を隔てるものではなく時間差のうちと考えておきたい。

当調査で採集された土器は、ごく少数の器種を除いた他は同一時期に位置するものである。いまそれぞれの器種組成を見る時、比較的大型器種が多い甕類において、その個体数の把握はできなかったため、各器種共に破片数によるパーセントを見るに、甕類の80%はともかく、高坏の14.1%、埴5.3%、鉢0.2%、碗・坏・壺は各々0.1%で、高坏、埴が非常に多量であることが分る。古墳時代前期から中期にかけて県内での資料は少なく、緒立遺跡〔坂井1983〕、高塩B遺跡〔金子・坂井1983〕、山三賀Ⅱ遺跡〔坂井・他1989〕、金屋遺跡〔山本・他1985〕、曾根遺跡〔家田1981・1982〕の他、礼坊・野附・萱場遺跡などの吉井遺跡群〔品田1985〕などがある。これらの遺跡を1994年新潟シンポ編年に符合させた時、高塩B遺跡は6～8期の幅をもち、山三賀Ⅱ遺跡はⅠ～Ⅲ期に分かれ、Ⅰ期は8・9期、Ⅱ期は10期、金屋遺跡の古手も10・11期、曾根遺跡も10期の範疇に位置づけられ、それぞれ、畿内の庄内式一布留式に併行しそれらの譜系を引いた時期の遺跡であると考えられる。

ところで、当遺跡の土器は山三賀Ⅱ遺跡のⅢ期に後続するものと考えられる。それは、甕形土器に見られる口縁部の「く」の字形態の造りが畿内の譜系を引かないものと見られる単調なもののみであり、さらに7・8期に於て確立・盛行する精製器種の小型丸底壺・小形有段鉢・小型器台のいわゆる小型三点セットとして畿内の影響を特色づけて来たものが、当遺跡の土器群には見られない。この三点セットのうち、小型丸底壺はここでは壺Aとした1064が唯一のものであ

り、小型器台は787が唯一それらしきものと考えられるものである。そして小型有段鉢を見ることはできない。ここではそれらに替って埴と高坏が多量になることはすでに記述した通りである。この様なことから当遺跡の土器群は新潟シンポ編年の11期に位置付けられると考えられ、北陸南西部における漆町編年〔田嶋1986〕の12群に対応するものである。そしてこれは山三賀Ⅱ遺跡のⅢ期に後続し、金屋遺跡の新期に先行するものであろう。

SI-1号住居址には床面中央部の炉址の他に北側に張出し炉がある。いま張出し炉の報文を捜しあぐねているが、県内での報告は見ない。馬場上遺跡〔中川・他1975・1976〕における第2グループの住居址にカマドが見られる。この第2グループは新・古に分かれるものと考えているが、古群の住居址は古墳時代後期の範疇に属するものと考えられ、そこに見られるカマドは煙道が発達している。一方山三賀Ⅱ遺跡における古墳Ⅰ～Ⅲ期の住居址にはカマドの形跡はない。浜松市迎平遺跡・同伊場遺跡〔鈴木1993〕では支脚や焼土が検出され、5世紀末から6世紀初頭には初期のカマドが成立したと報告されている。SI-1号住居址の張出し炉は煙道を持つカマド成立直前の過度期の形態と考えられる。一方SI-1号住居址における敷床施設の類例はいまのところ他に知見しない。竪穴住居の床に乾草や藁を敷いたと考えられるのはすでに縄文時代以来のことであるが、何等かの敷物の下地を造った例の初見である。これが住環境の向上に結びつく一つの画期的なのか、あるいは蒲原平野の低湿地帯に於ける湿気あるいは水害対策なのか、にわかに決めたいが、床面の造り方などから考えて後者の可能性が強い。

## 2 お わ り に

すでに序章で記述した如く当遺跡の背影となる遺跡は多い。特にこの数年に亘っては遺跡背後の新津丘陵の一面に当たる金津丘陵地域の開発に伴った調査によって八幡山遺跡、前方後方墳（前方後方形の墳墓）、八幡山古墳が発見された。八幡山遺跡は弥生時代中期から後期にかけての防衛的集落で、丘陵上に位置し、多重の環濠によって軍事的緊張に備えた集落であり高地性集落、或いは高地性環濠集落と言われるものである。これは『魏志』倭人伝に記される卑弥呼没後の政権獲得のための争乱、あるいはその後の大和政権の全国覇権のための争いがこの地にまで及んでいたことを裏付けるものであり、この防衛的集落は日本海側の北限である。またその後の調査によって周溝墓が発見され主体部より鉄剣が検出されたと報じられた〔新潟日報紙面・1995、2、17〕ことから、かなりの勢力を持った首長の存在が知られる。前方後方形墳墓と八幡山古墳は、それぞれ前後するが八幡山遺跡（高地性集落）の上に造営されたものである。この時すでに軍事的緊張の時代が終り、人々は西麓の低地に生産と生活の場を移し、かつての集落の最高地点に首長墓として前方後方型墳墓を造営した。さらに大きな勢力に発展した人々は県内最大規模である円墳（八幡山古墳）の造営をした。舟戸遺跡を営んだのもこの勢力下につながる人々であったと考えられるが、この時期、かつての畿内・北陸などとのつながりが薄れたことが土器を介して察することが出来る。

ちなみにこれらの遺跡を新潟シンボ編年で示せば八幡山高地性集落の営みは3～5期に及び、前方後方型墳墓は5期、八幡山古墳の造営は8期、舟戸遺跡の営みは前述した様に11期に対応するものと考えている。

出土した多量の遺物の整理作業は、限られた時間の下で限界を超えた。従ってデータ、論考ともに不十分の限りであることを率直に認める。2年度に亘ったこの調査を物心両面の御援助を賜わった当事者、株式会社小川組、地元の多くの方々、終始献身的にお世話下された事務局阿達哲二氏をはじめ多くの方々へ謝意をのべる。

1995. 2.26 川上貞雄

## 参 考 文 献

- 甘 粕 健 『古津八幡山古墳Ⅰ』新津市教育委員会 1992
- 甘 粕 健・他 編 『東日本の古墳の出現』山川出版社 1994
- 家 田 順 一 郎 『曾根遺跡Ⅰ』『同Ⅱ』豊浦町教育委員会 1981・1982
- 金子拓夫・坂井秀弥 『高塩B遺跡発掘調査報告書』西山町教育委員会 1983
- 川 上 貞 雄 「考古」『新津市史』資料編第一巻 新津市史編さん委員会 1989
- 川 上 貞 雄 『八幡山遺跡Ⅰ』新津市教育委員会 1994
- 川 村 浩 司 「越後古墳時代中後期の土器について」『新潟考古学談話会会報 1号』  
新潟考古学談話会 1988
- 坂 井 秀 弥 『緒立遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会 1983
- 坂 井 秀 弥・他 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会・  
建設省新潟国道工事事務所 1989
- 坂 井 秀 弥・他 「古墳出現前後における越後の土器様相－越後・会津・能登－」  
『磐越地方における古墳文化形成過程の研究』同研究会代表甘粕健  
1993
- 品 田 高 志・他 『吉井遺跡群』柏崎市教育委員会 1985
- 品 田 高 志 「越後における古墳時代土器の変遷」『柏崎市立博物館館報No.4』  
柏崎市立博物館 1989
- 品 田 高 志 「越後における古墳時代土器の変遷Ⅱ」『柏崎市立博物館館報No.6』  
柏崎市立博物館 1991
- 鈴 木 敏 則 「三河・遠江の集落」『東日本における古墳出現過程の再検討』  
日本考古学協会新潟大会実行委員会 1993
- 田 嶋 明 人 「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡Ⅰ』石川県立埋蔵文化財  
センター 1986
- 中 根 与八郎・他 『五分一稲場遺跡』新潟県教育委員会 1978
- 中 川 成 夫・他 『馬場上遺跡－第1次・第2次発掘調査概報』十日町市教育委員会  
1975
- 中 川 成 夫・他 『馬場上遺跡－第3次・第4次発掘調査概報』十日町市教育委員会  
1976
- 新 潟 県 史 編 纂 室 『新潟県史』資料編1 原始・古代 1982
- 山 本 一 郎 「坊長の土師器」『山口県の土師器・須恵器』周陽考古学研究会 1981
- 山 本 肇・他 『関越自動車道 埋蔵文化財発掘調査報告書 金屋遺跡』新潟県教育委員  
会 1985

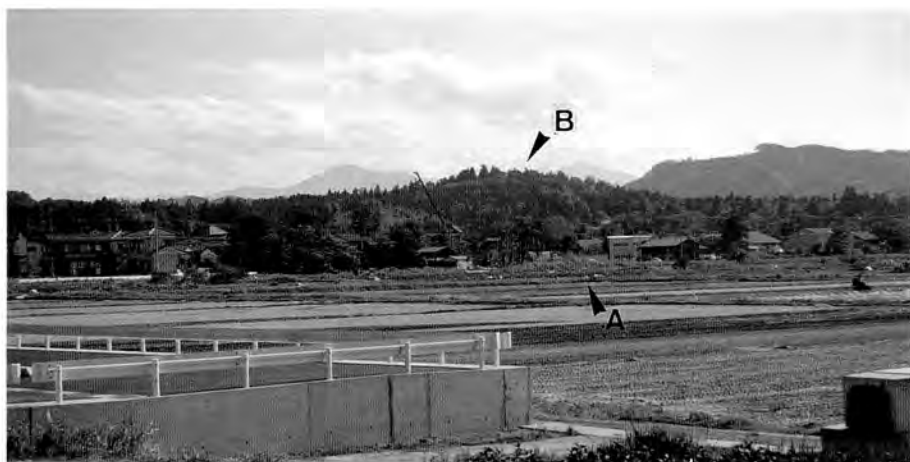
# 報 告 書 抄 録

ふりがな	ふるつふなと いせきはつつちょうさほうこくしょ							
書名	古津舟戸遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	新津市文化財調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	川上貞雄							
編集機関	新津市教育委員会							
所在地	〒956 新潟県新津市大字程島2009 TEL 0250-22-9667							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふるつふなと 古津舟戸	にいしおおあざ 新津市大字  ふるつあざかいなだ 古津字腕田  1899番地	207		37度 46分 05秒	139度 07分 06秒	1993.10.12 ～ 1993.11.20	523.16	事業所建 造物建設 に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
古津舟戸	集落	古墳時代 前期	竪穴住居 3基 小形建物址 3基 土坑 25基 溝 9 井戸 2		埴、高坏 鉢、碗、壺 甕	竪穴住居に木材による 床張の痕跡あり。  出土遺物多量。		

遺跡遠景

A = 古津舟戸遺跡

B = 八幡山高地性集落  
八幡山古墳



発掘調査風景

東方より

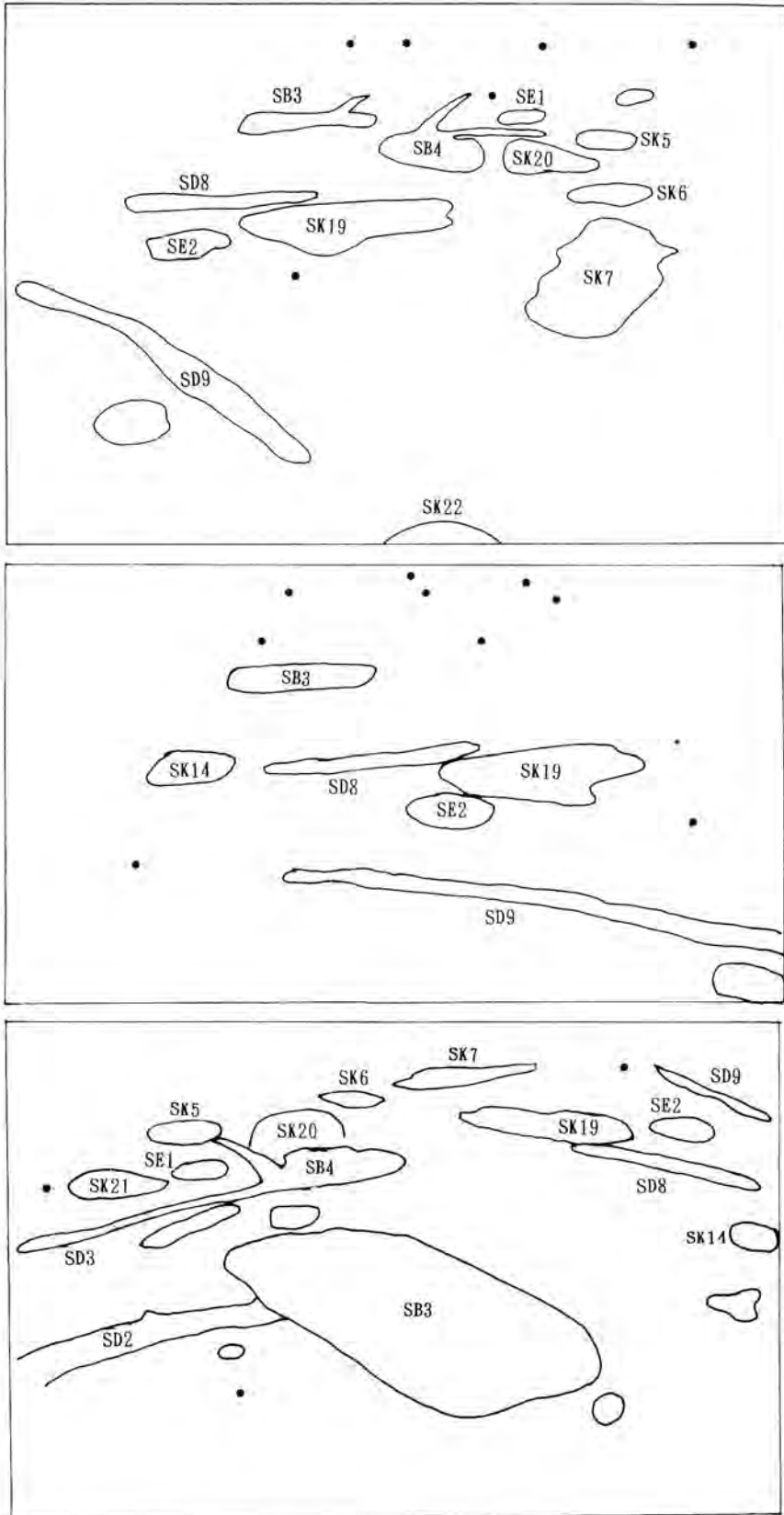


発掘調査風景

南方より







図版 3 の図解



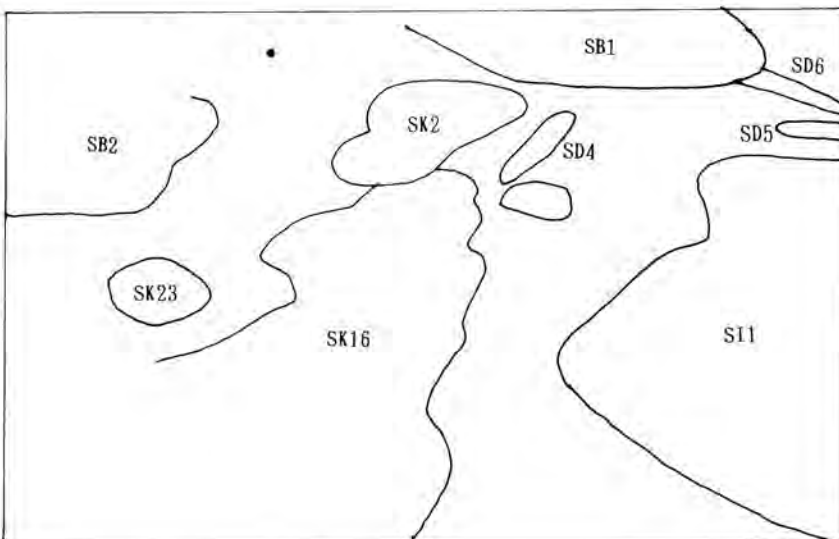
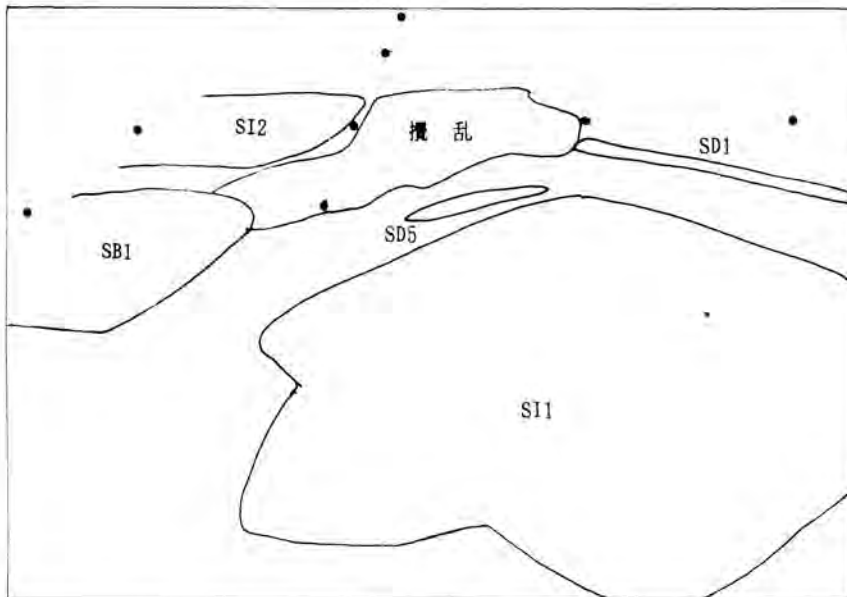
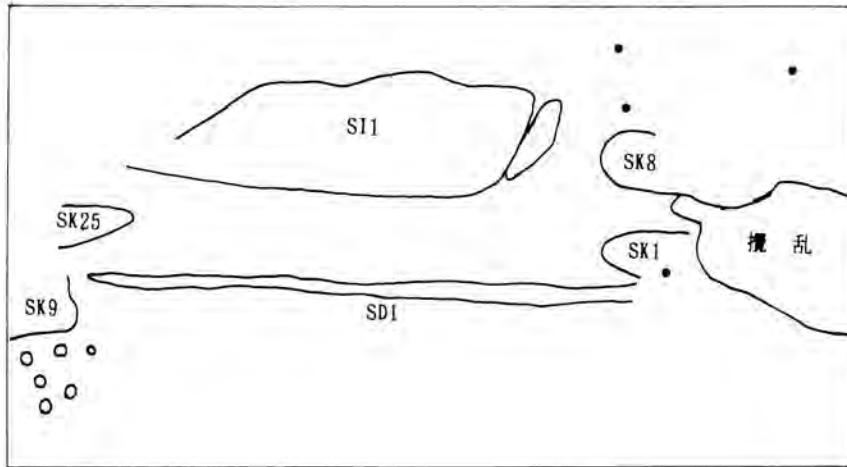
全景  
東方隅より



全景  
南東より



遺跡部分  
南西中央より



遺跡部分  
南方中央より



全景  
北西より



遺跡部分  
西方より





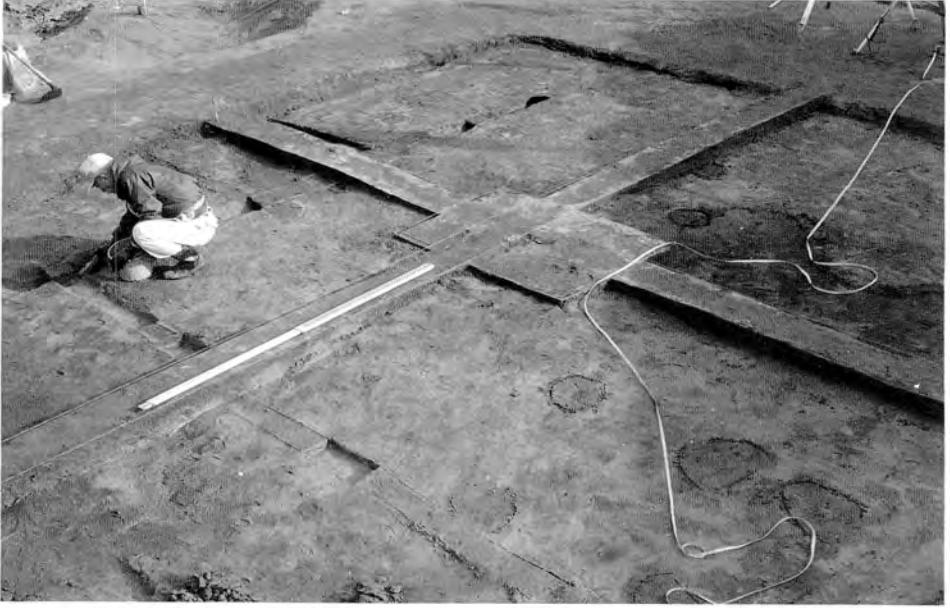
SI-1号住居址



SI-1号住居址  
竪穴の検出



SI-1号住居址  
床面残遺層で溝の検出



SI-1号住居址  
床上部の溝



SI-1号住居址  
床上部の溝



SI-1号住居址  
溝完掘



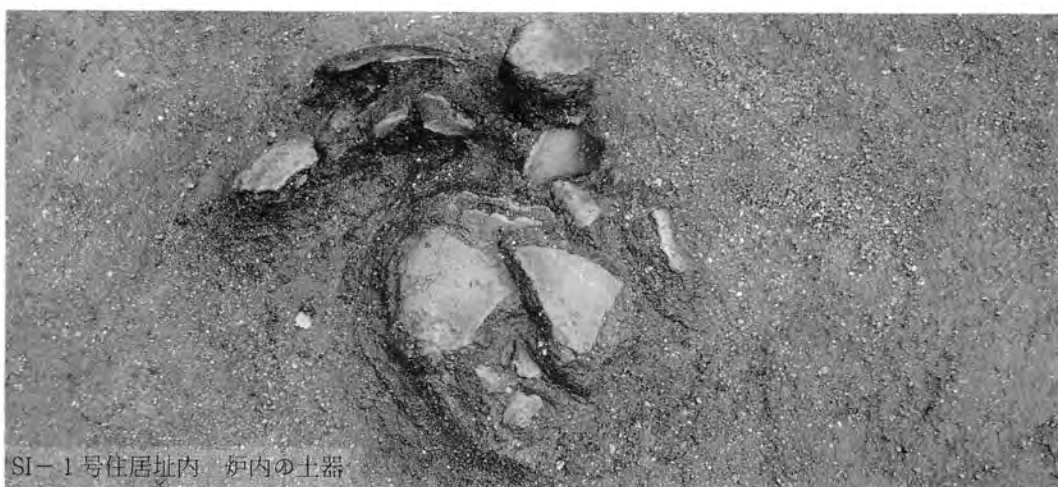
SI-1 号住居址



SI-1 号住居址  
完掘



SI-1 号住居址  
炉址







SI-2号住居址  
北方より



SI-2号住居址  
西方より



SI-2号住居址  
1号柱穴と柱  
(M-4)



SI-2号住居址柱根 2号柱穴と柱 左M-5 右M-1



SI-2号住居址柱根 3号柱穴と柱 左M-5 右M-6



SI-2号住居址柱根 4号柱穴と柱 左M-3 右M-7



SB-1号建物址  
完掘



SB-1号建物址  
土器出土状况



SB-1号建物址  
土器出土状况

SB-2号建物址

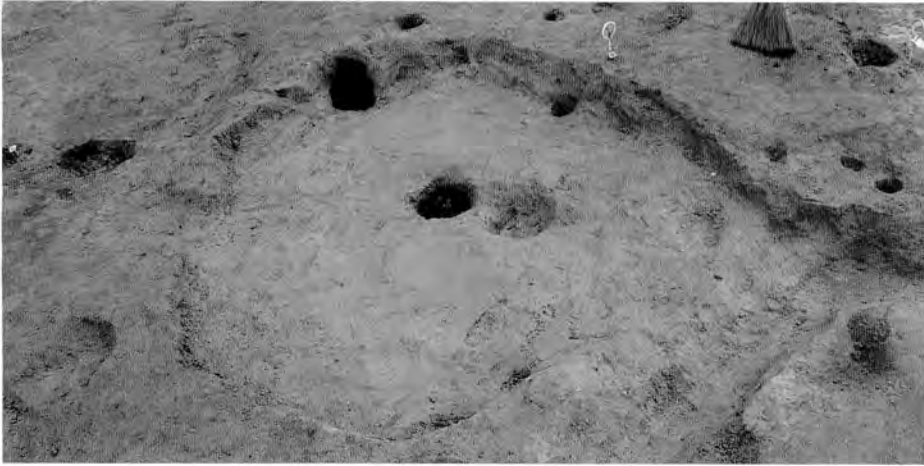


SB-3号建物址



SB-3号建物址  
土器出土状况

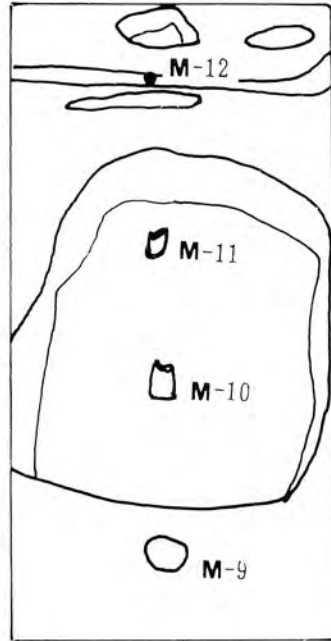




SB-4号建物址



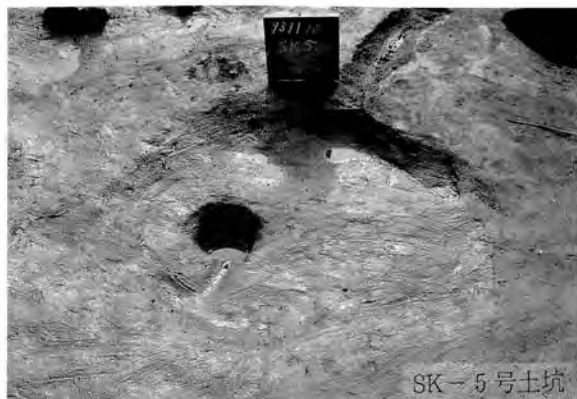
SD-1号溝

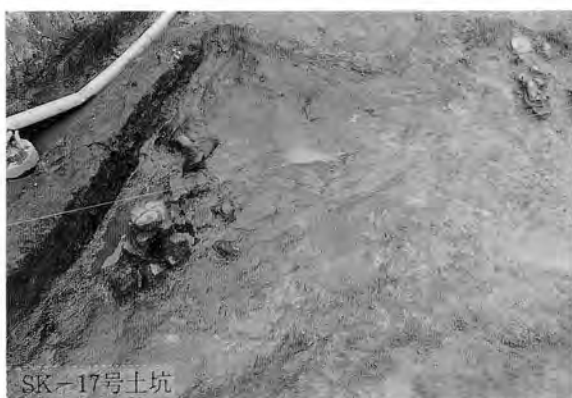
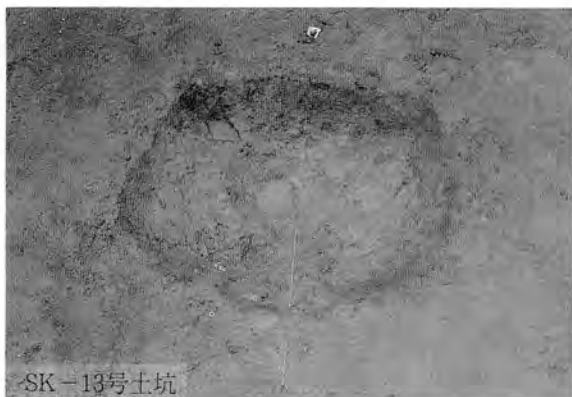


SB-5号遺構



SD-1号溝  
土器出土状況







1号杭列



SE-1号井戸



2号杭列



SE-1号井戸完掘



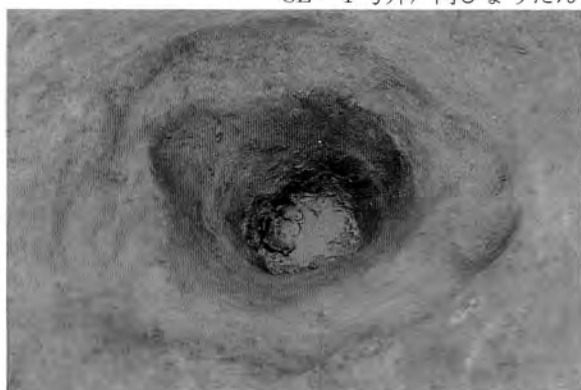
2号杭列



SE-1号井戸内ひょうたん



SX-1号環状ピット群



SE-2号井戸





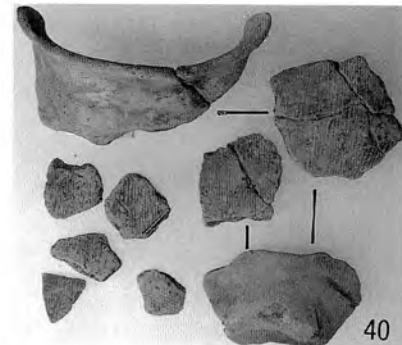
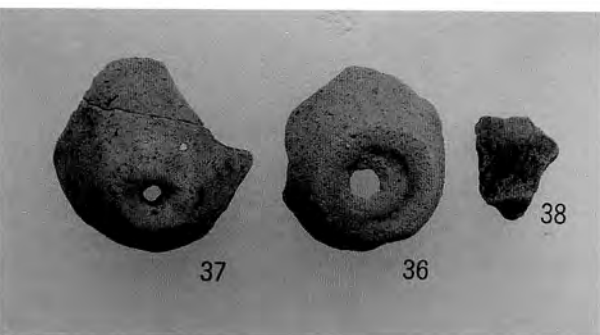
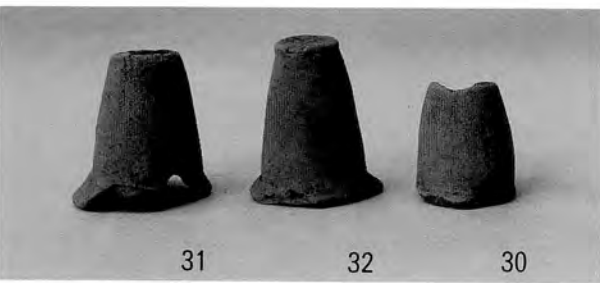
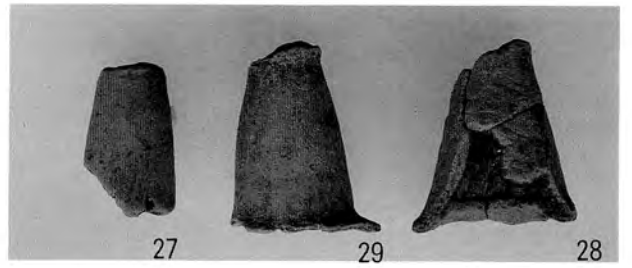
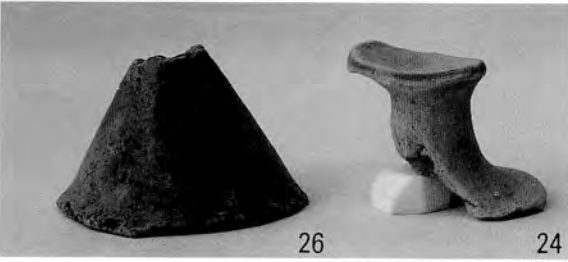
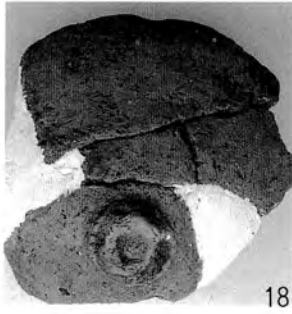
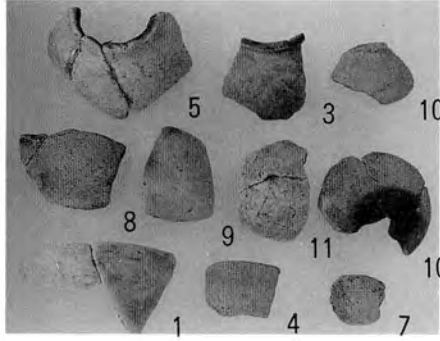
全景



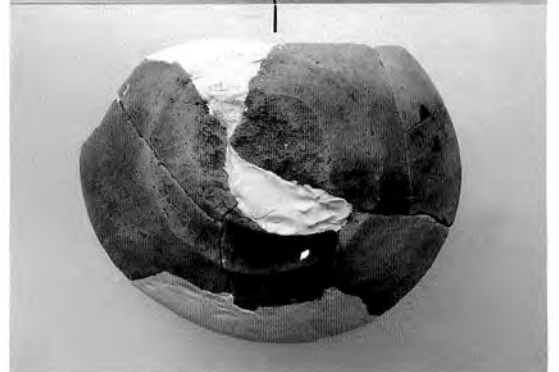
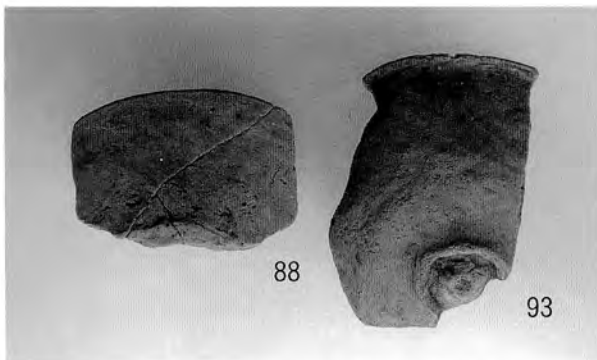
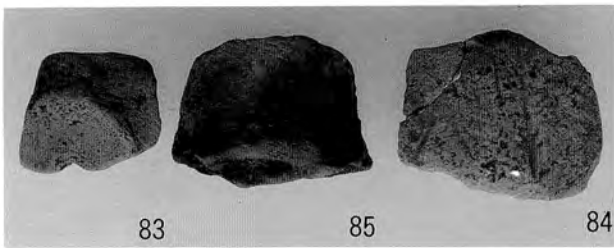
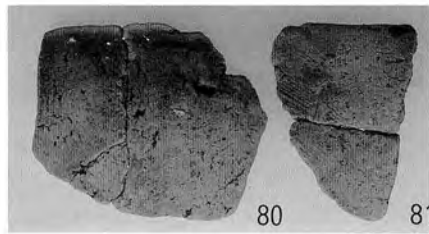
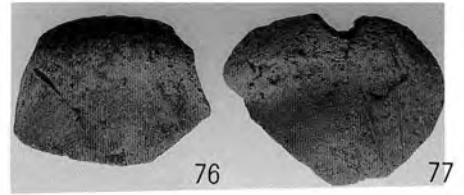
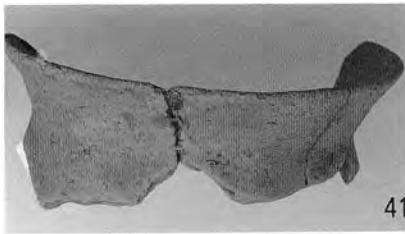
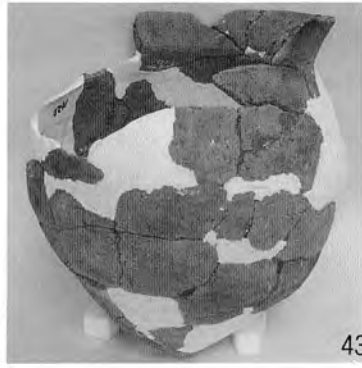
荷負場カ  
しがらみ



しがらみ部分

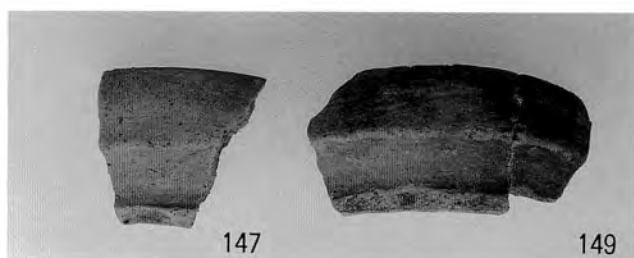
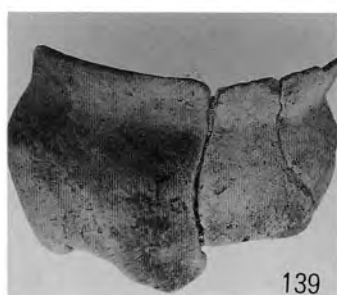
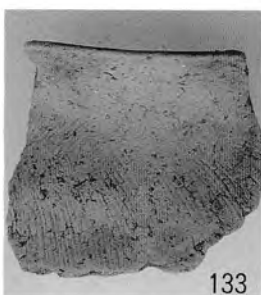
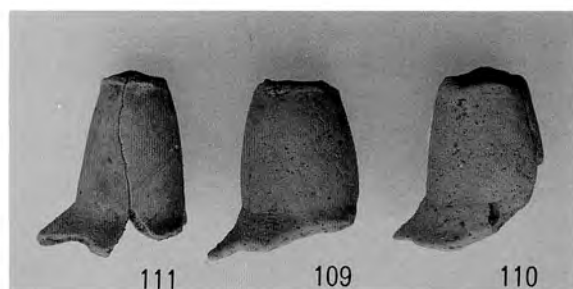
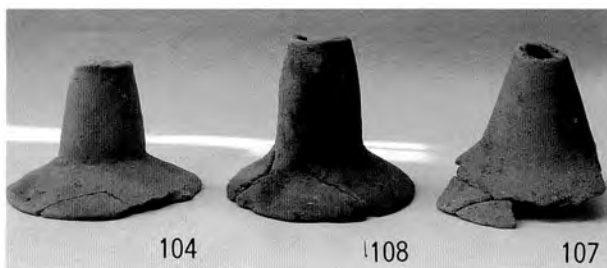


SI-1号住居址出土遺物

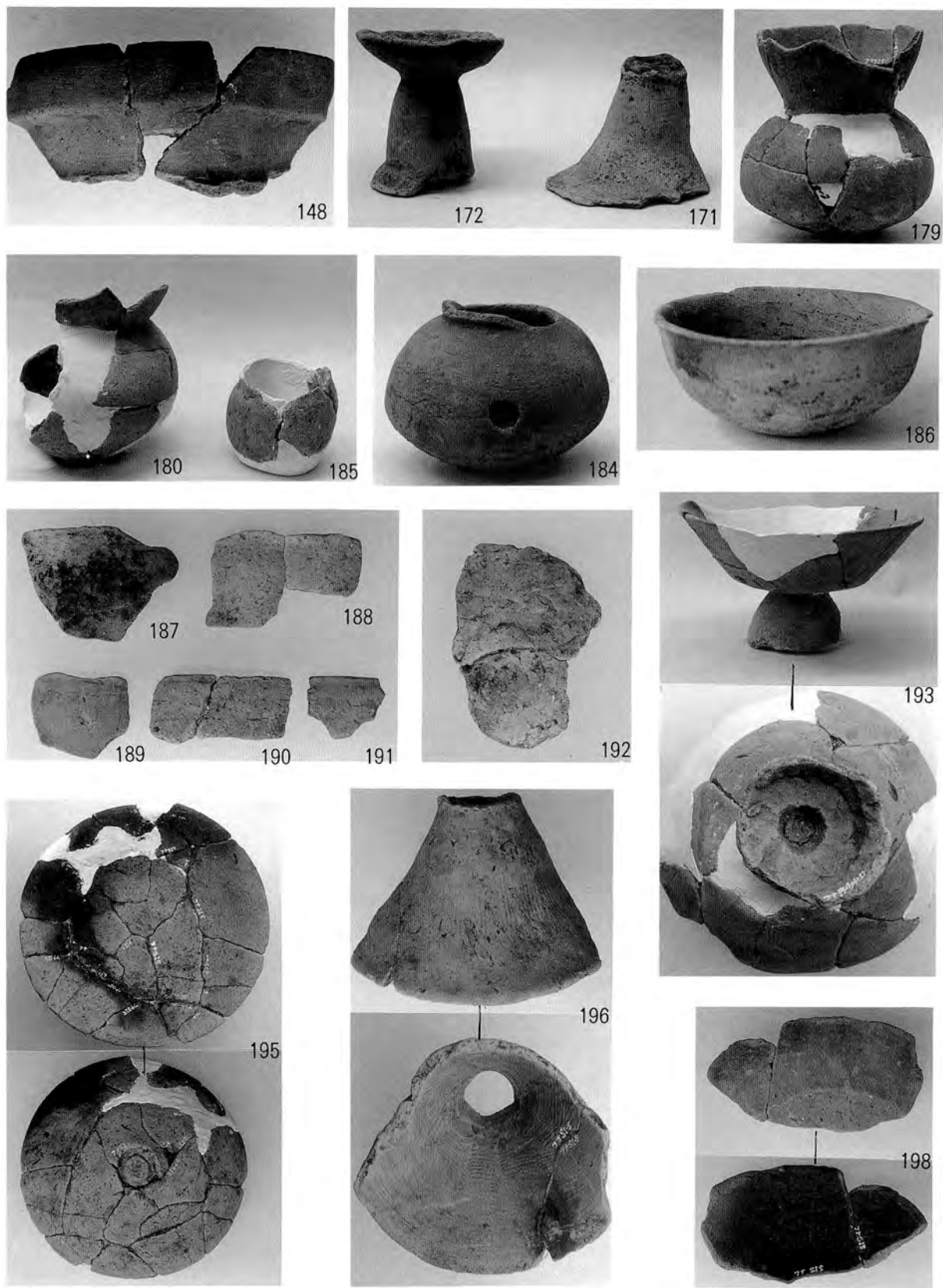


41~45 SI-1号住居址出土遺物

71~93 SB-1号建物址出土遺物



SB-1号建物址出土遺物



148 SB-1 号建物址出土遺物

171~198 SB-3 号建物址出土遺物



194



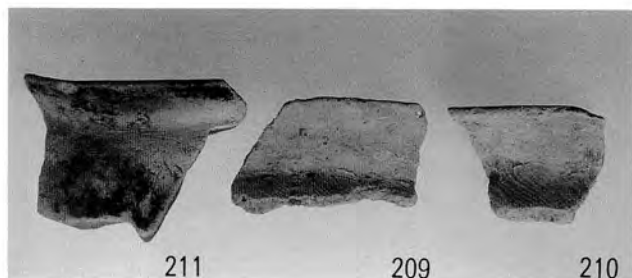
204

203

202



206



211

209

210



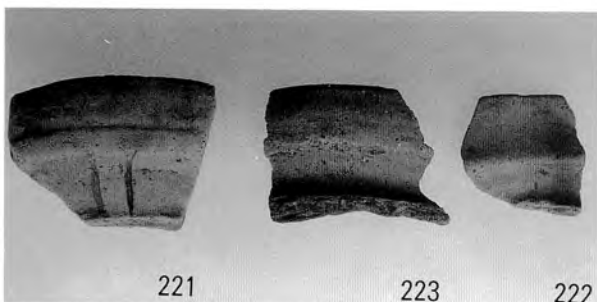
212



214



227



221

223

222



228



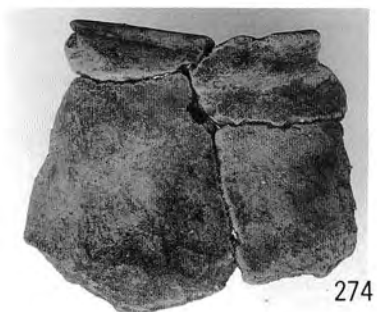
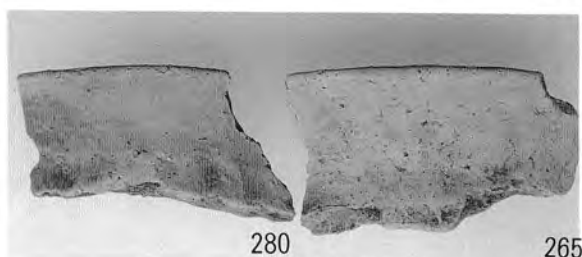
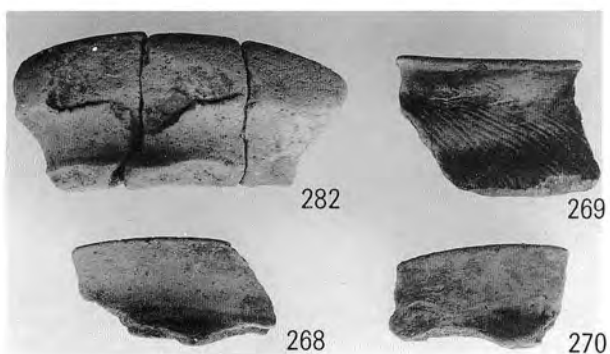
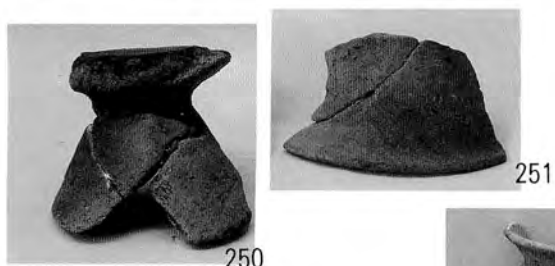
234

229

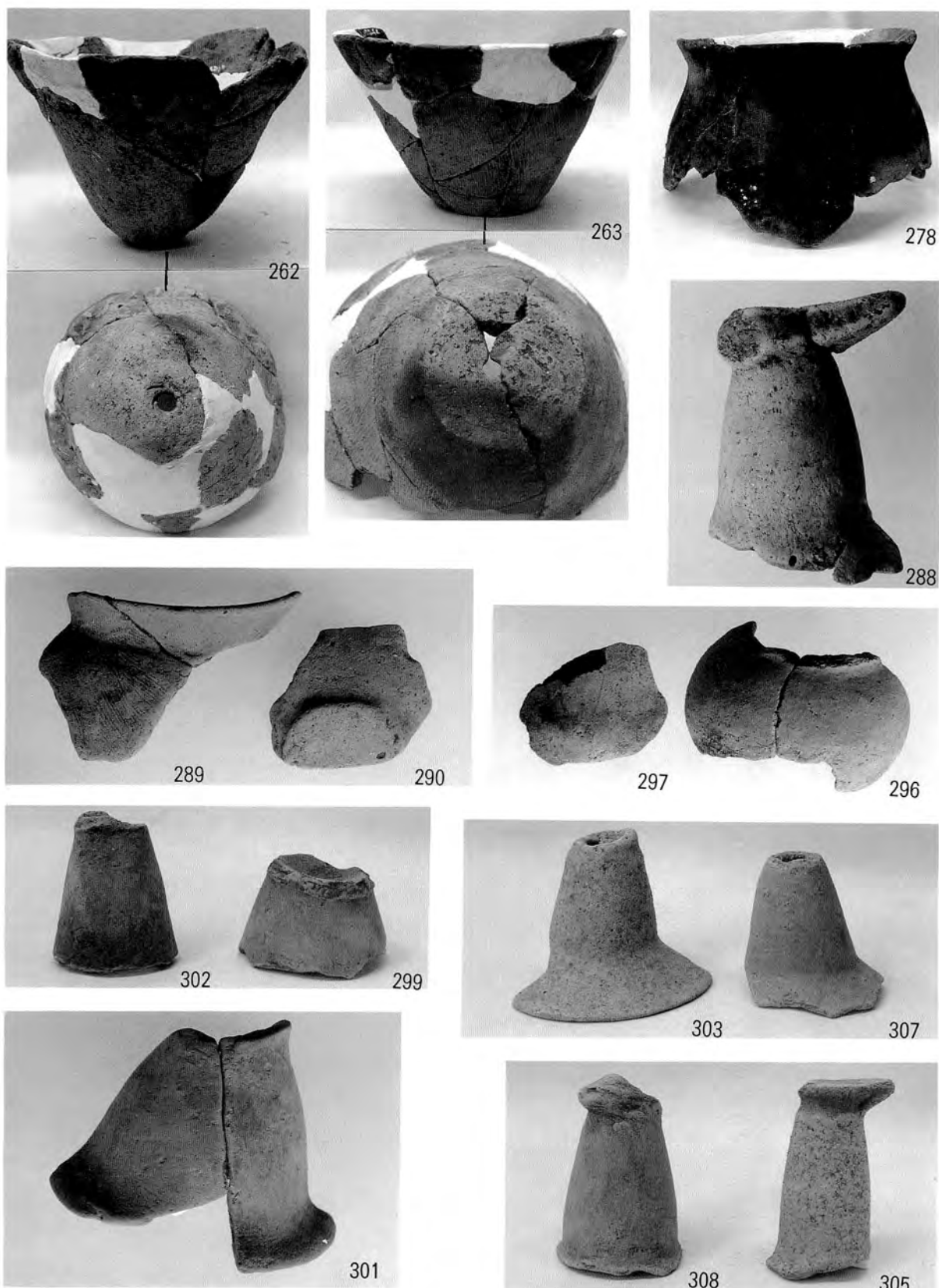


237

239



SD-1号沟出土遗物



262~278 SD-1号溝出土遺物 288~290 SD-4号溝出土遺物 297~308 SK-1号土坑出土遺物





312



313



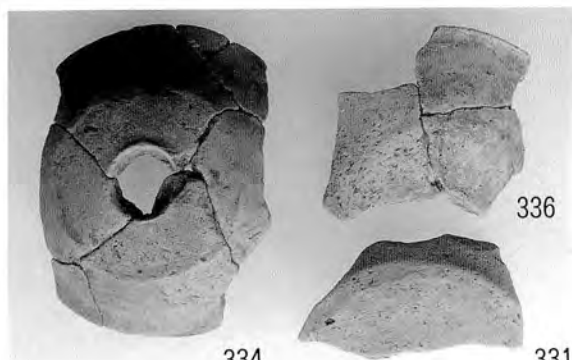
322



326



333



334



331



341

335

337



339



342



344

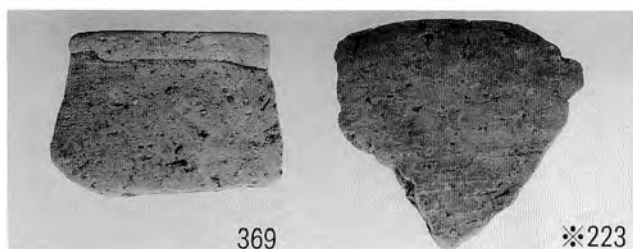
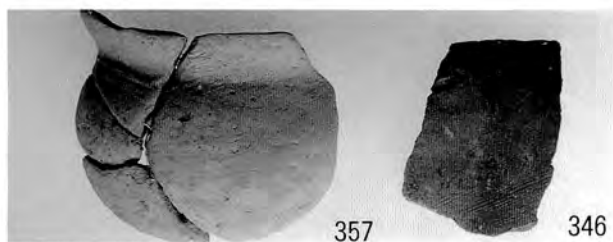


345



312~322 SK-1号土坑出土遺物

326~345 SK-2号土坑出土遺物



346~360 SK-2号土坑出土遺物 369~376 SK-3号土坑出土遺物 377~381 SK-4号土坑出土遺物



386



384



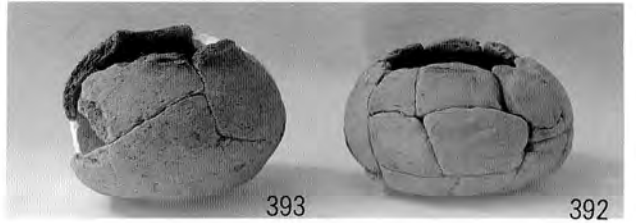
388

382

385

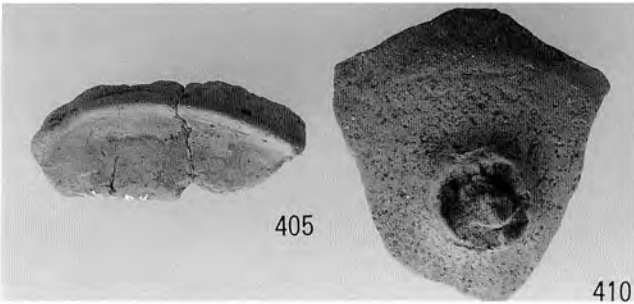


389



393

392



405

410



402



411

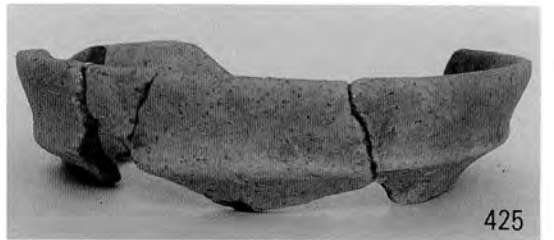
414

413



442

443



425



444

441



416

382~386 SK-4号土坑出土遺物 388~425 SK-5号土坑出土遺物 441~444 SK-6号土坑出土遺物



447



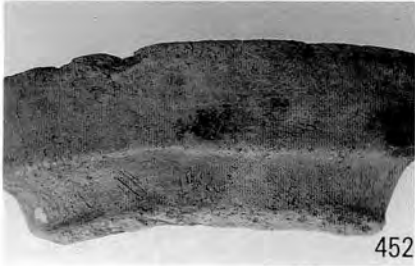
445



448



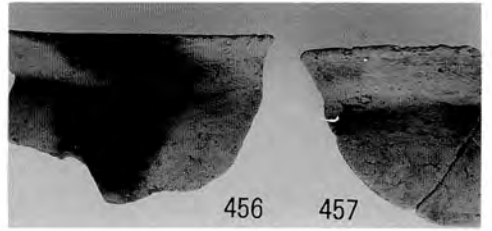
449



452



453



456

457



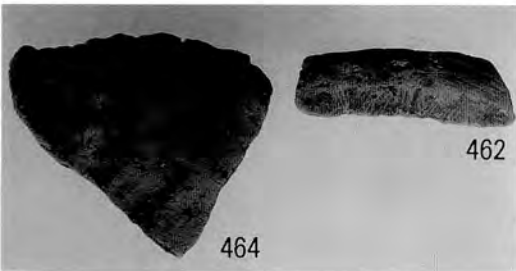
459



461



460



462

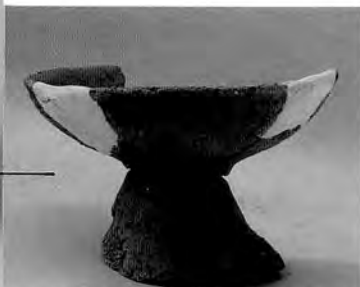
464



463

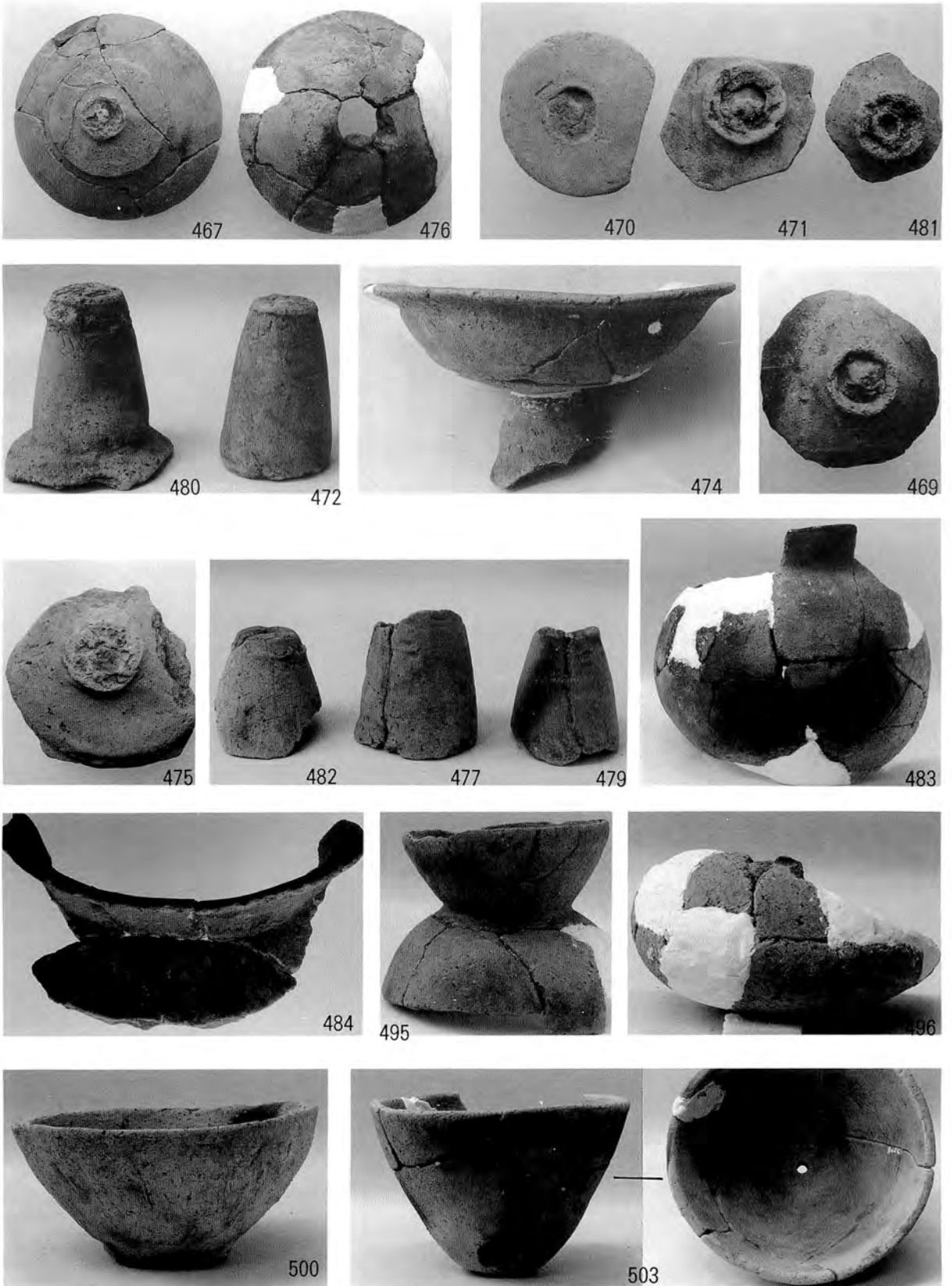


466

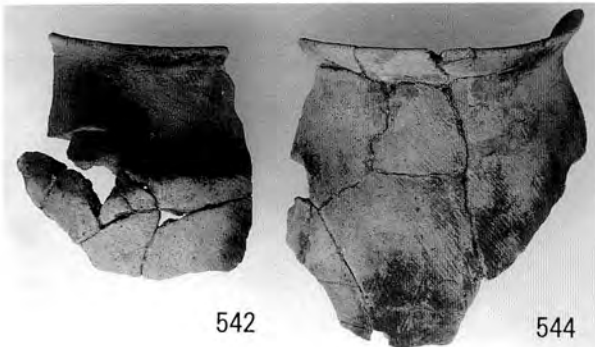
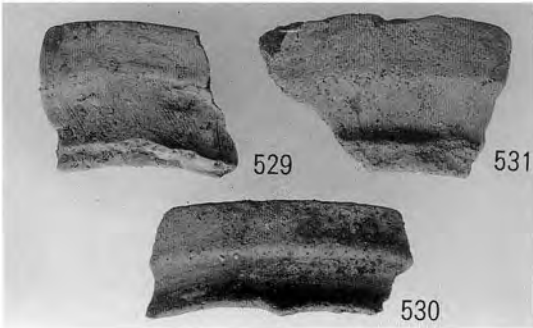


465

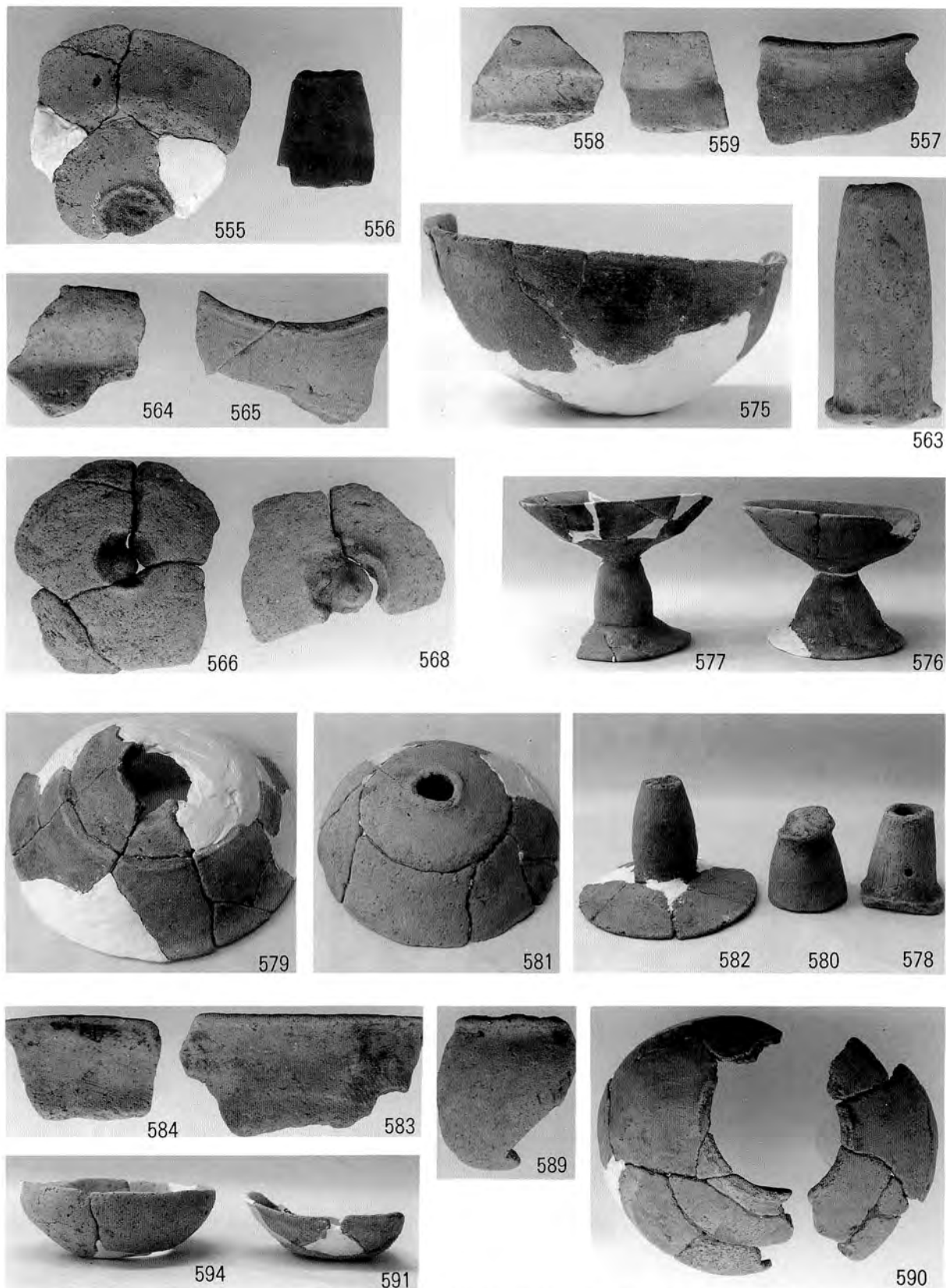
445~452 SK-6号土坑出土遺物 453~466 SK-7号土坑出土遺物



467~484 SK-7号土坑出土遗物 495~503 SK-8号土坑出土遗物



SK-8号土坑出土遗物



555~559 SK-10号土坑出土遺物 563 SK-11号土坑出土遺物 564~568 SK-12号土坑出土遺物  
 576~584 SK-16号土坑出土遺物 589~594 SK-19号土坑出土遺物



598



597



599

601



602

600

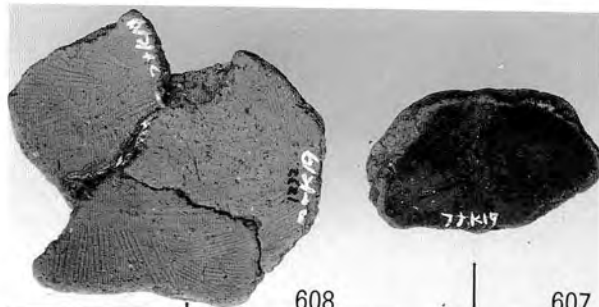


604

603



605

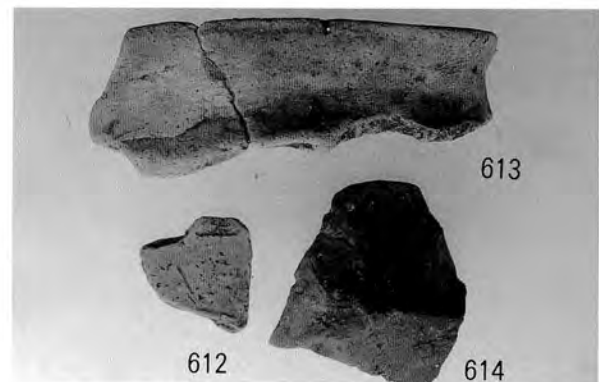


608

607



611



613

612

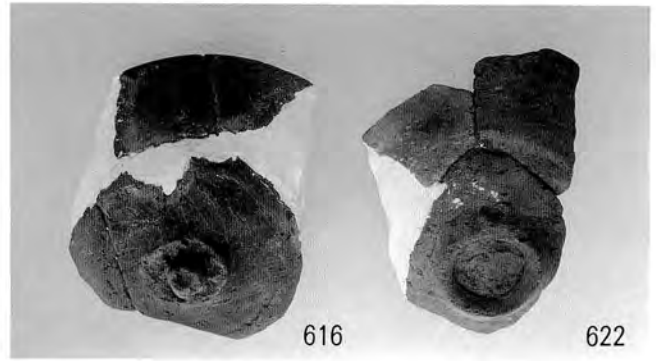
614

598~608 SK-19号土坑出土遺物 611~614 SK-20号土坑出土遺物





615



616

622



617



620

621



618



623



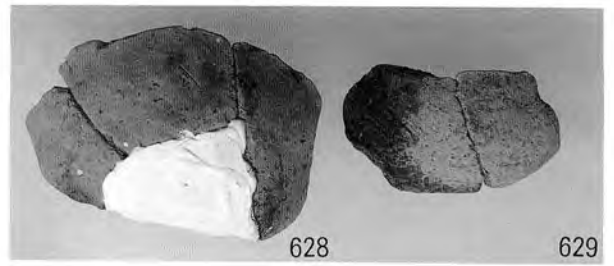
625



624



627

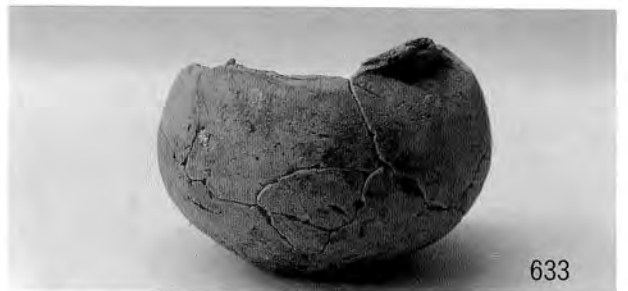


628

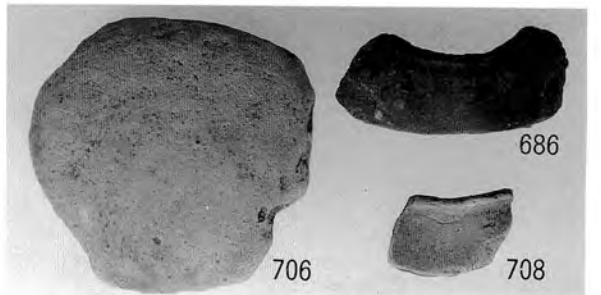
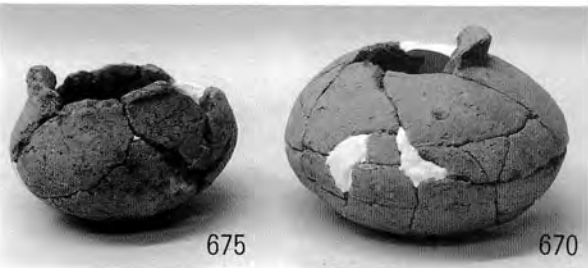
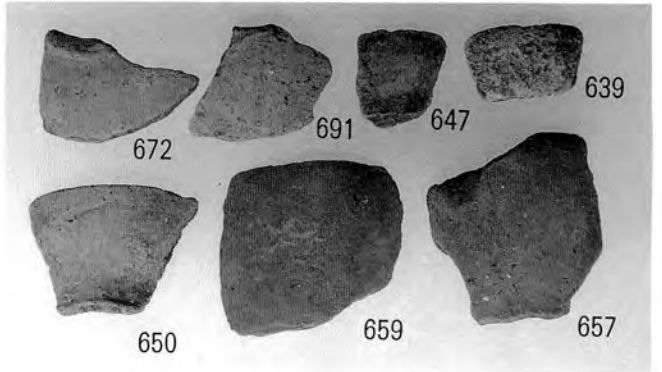
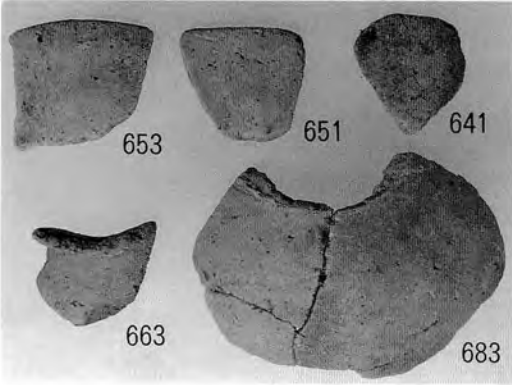
629



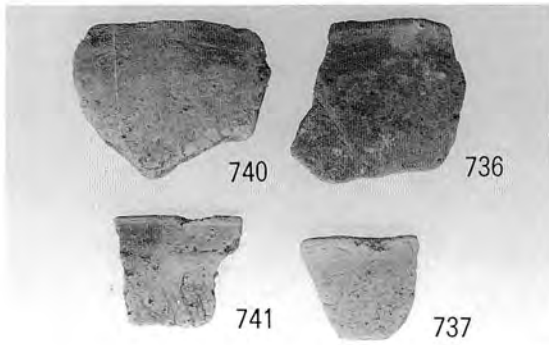
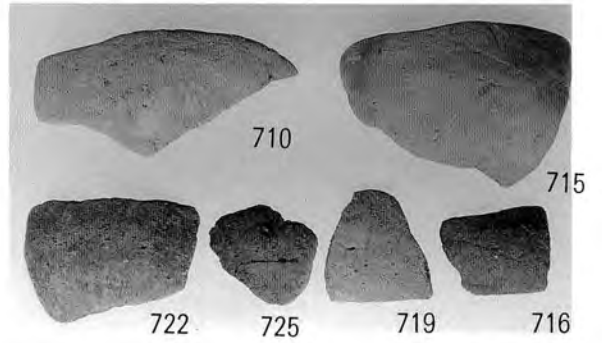
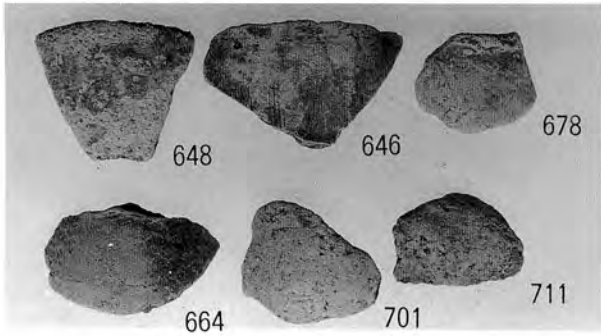
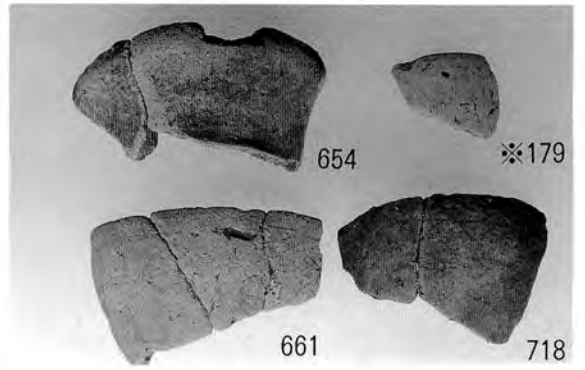
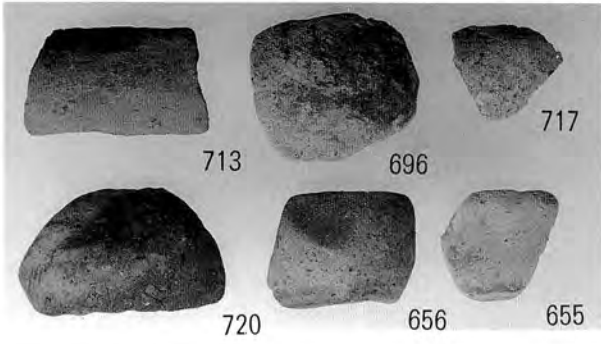
633

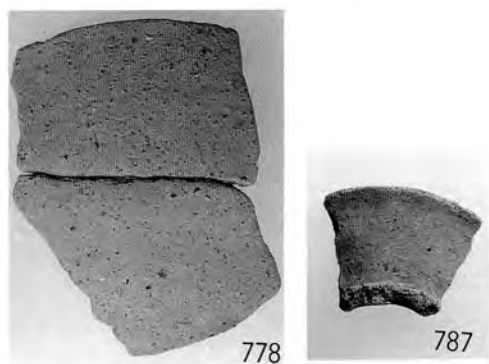
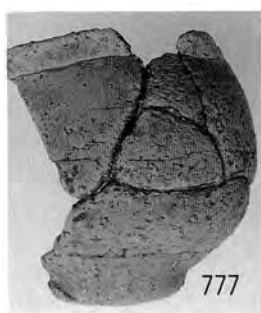
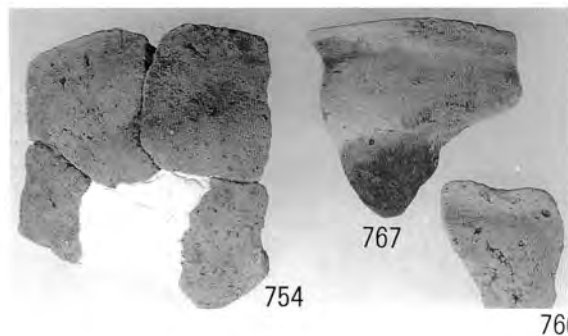
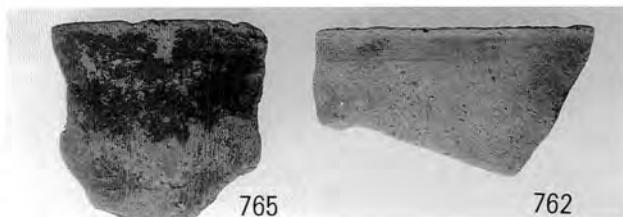
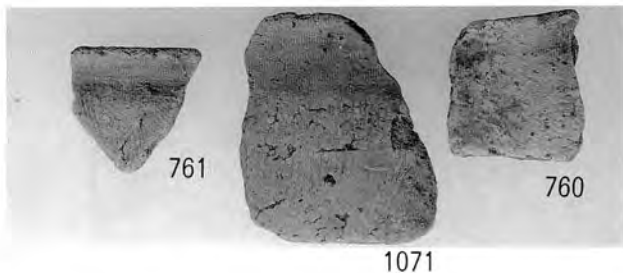


615~623 SK-20号土坑出土遺物 624·625 SK-21号土坑出土遺物 627 SK-22号土坑出土遺物  
628·629 SK-24号土坑出土遺物 633 SK-26号土坑出土遺物

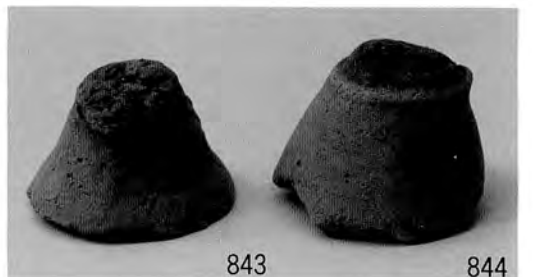
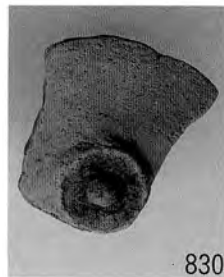
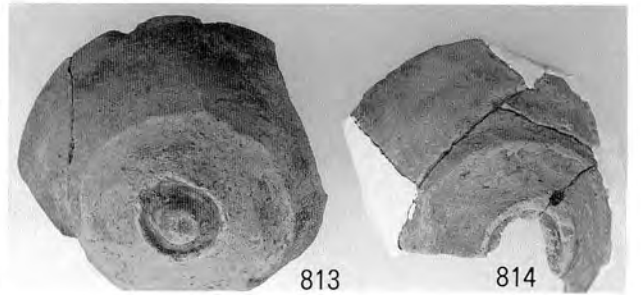
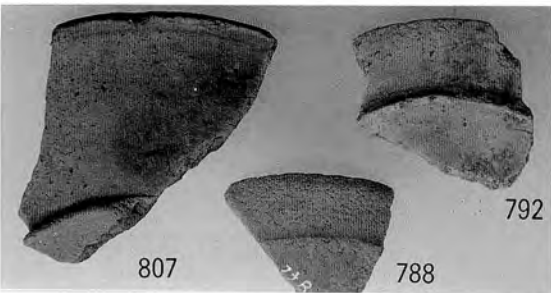
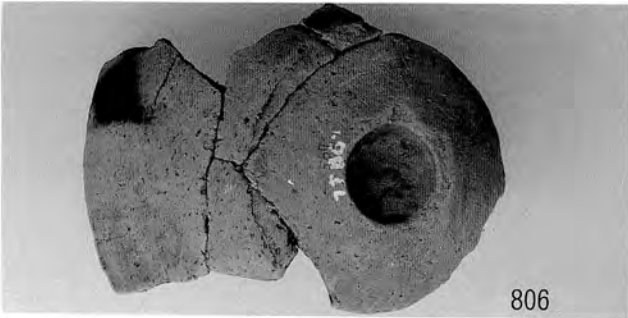
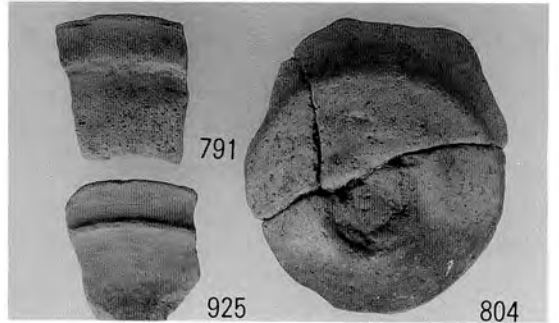
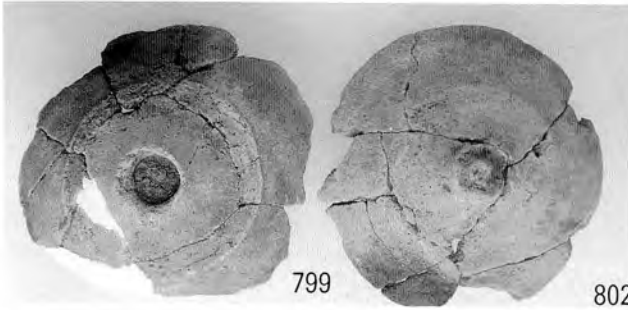
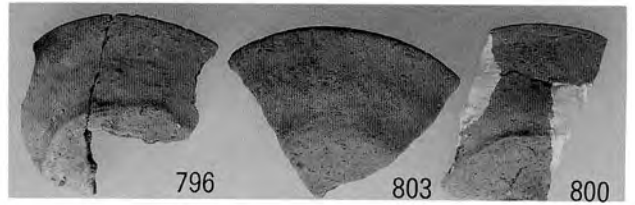


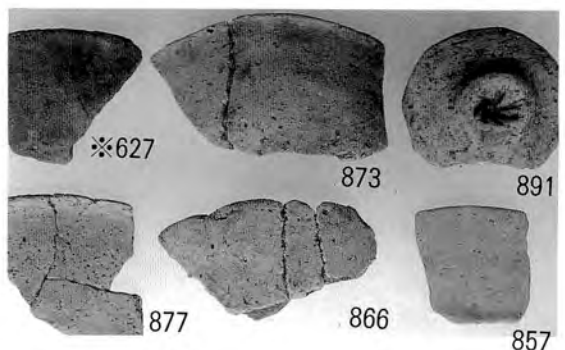
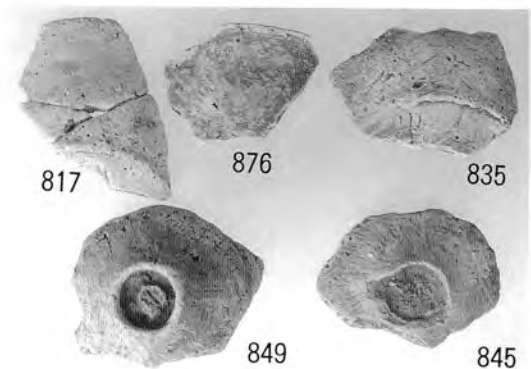
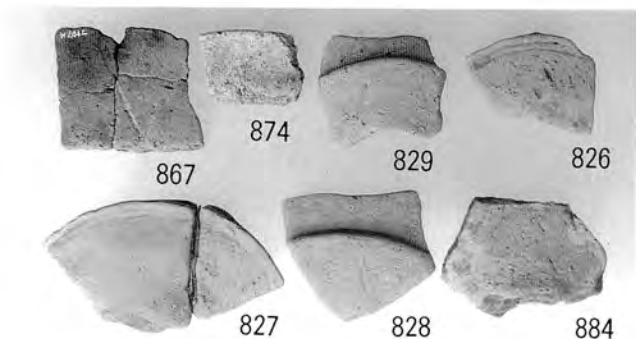
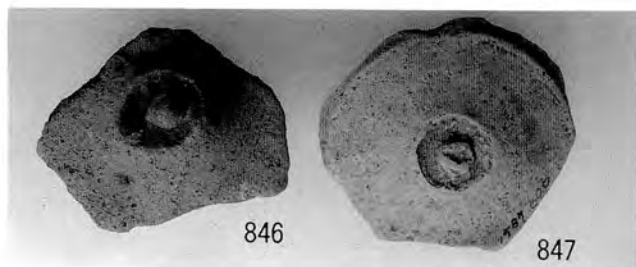
634~636 SK-26号土坑出土遺物 639~690 遺構外出土遺物

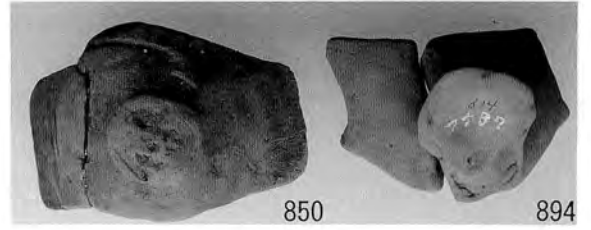
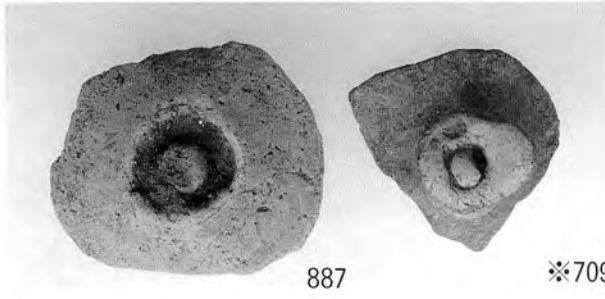
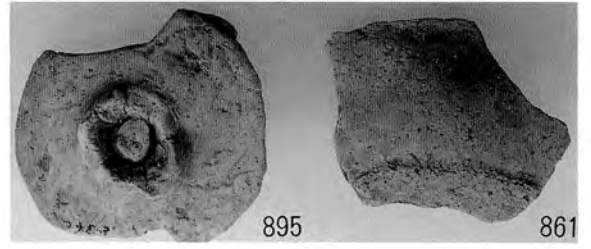




遺構外出土遺物

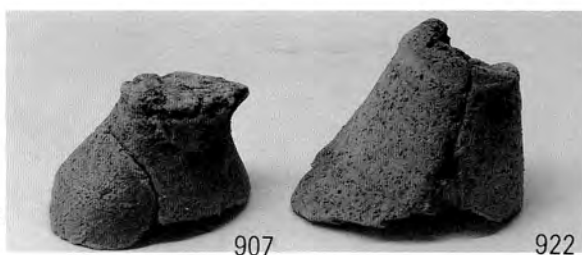








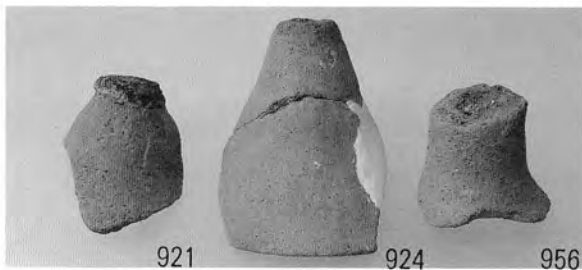
917 908 918



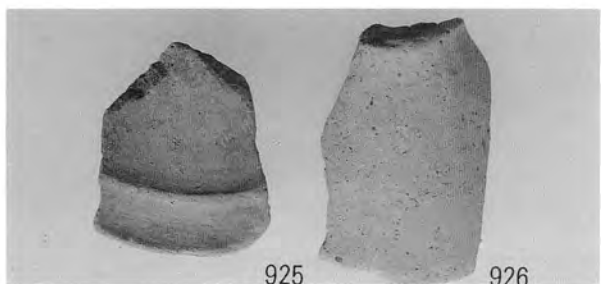
907 922



928 920



921 924 956



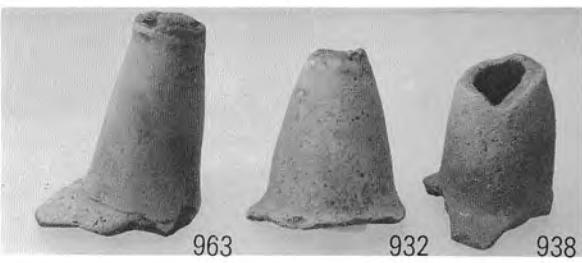
925 926



940 909



964 954 934



963 932 938



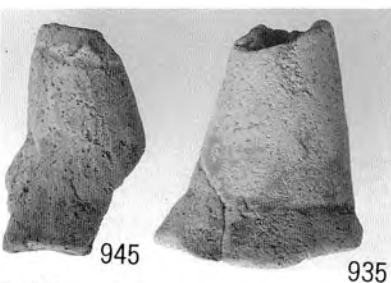
952 941



939 942

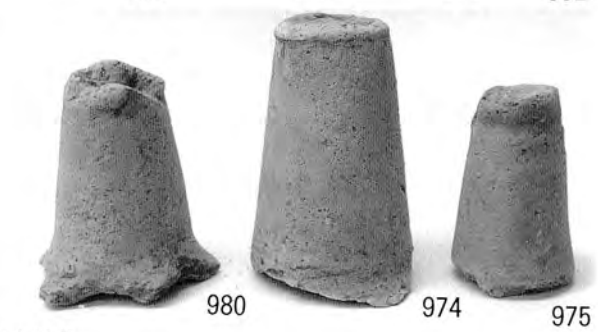
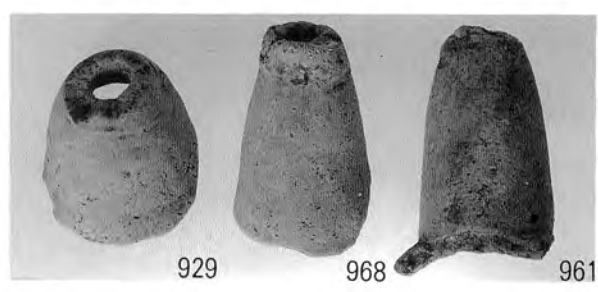
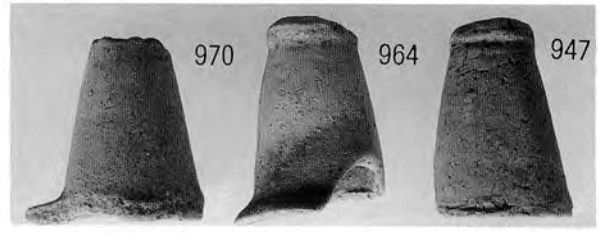
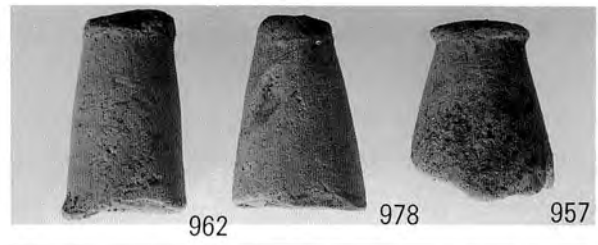


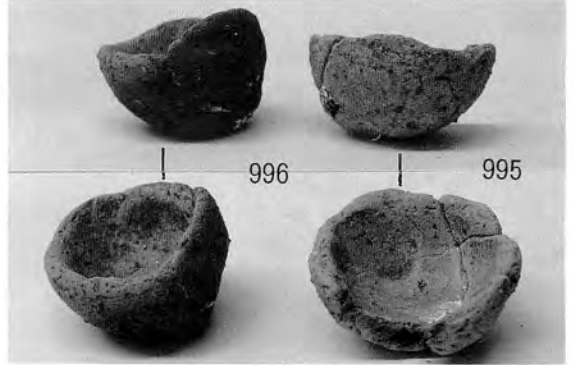
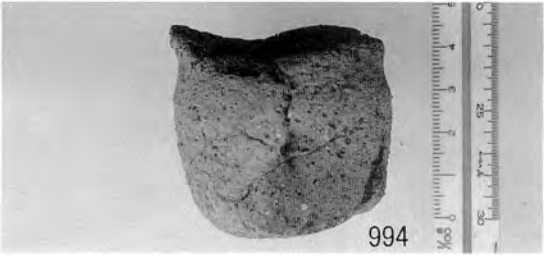
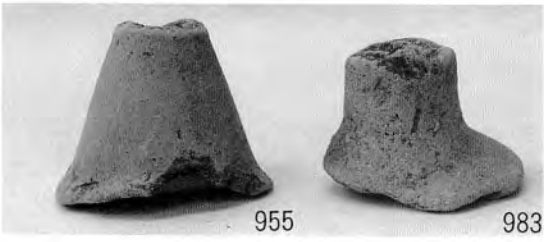
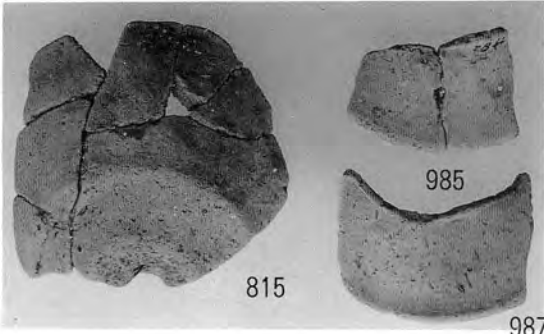
794 944

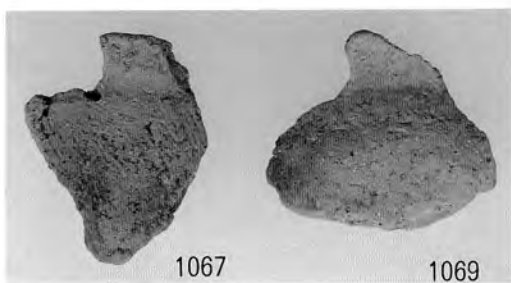
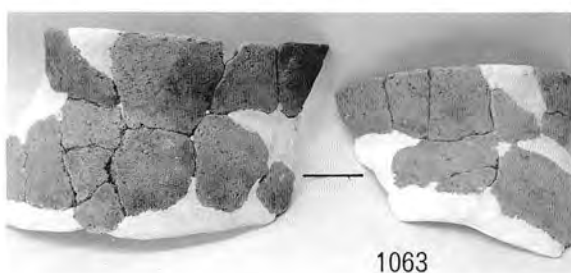
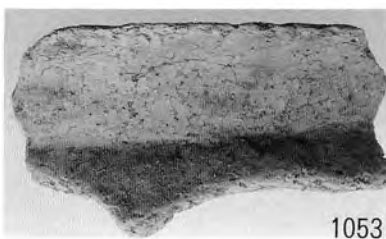
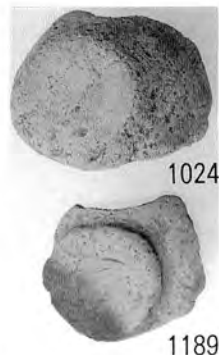
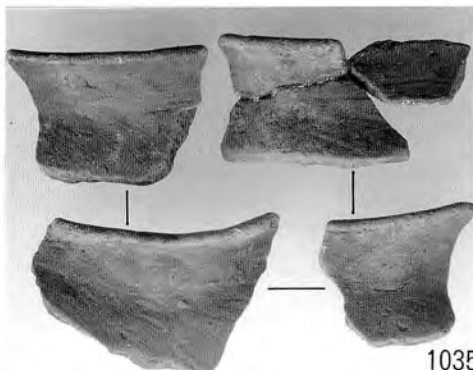


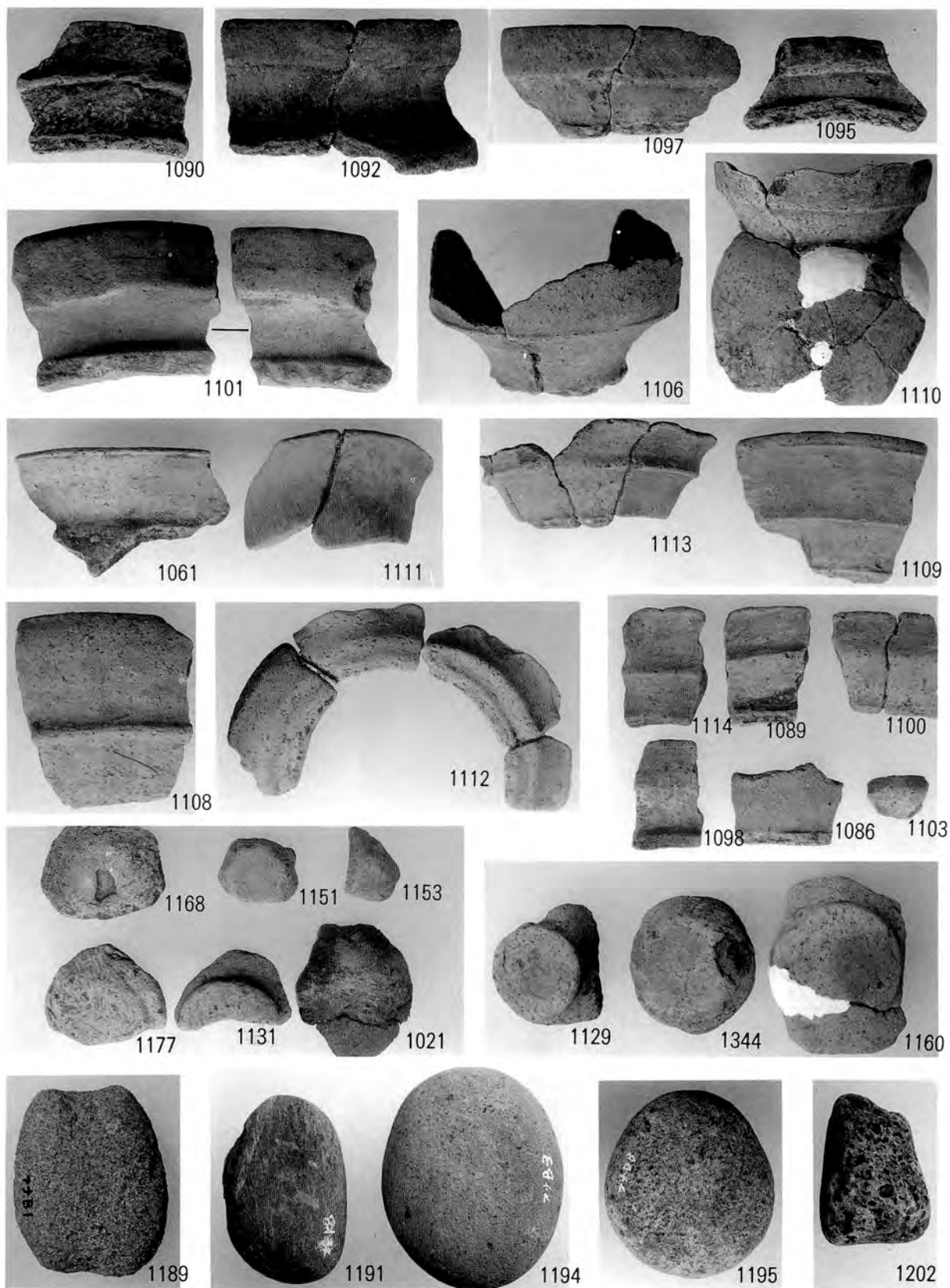
945 935



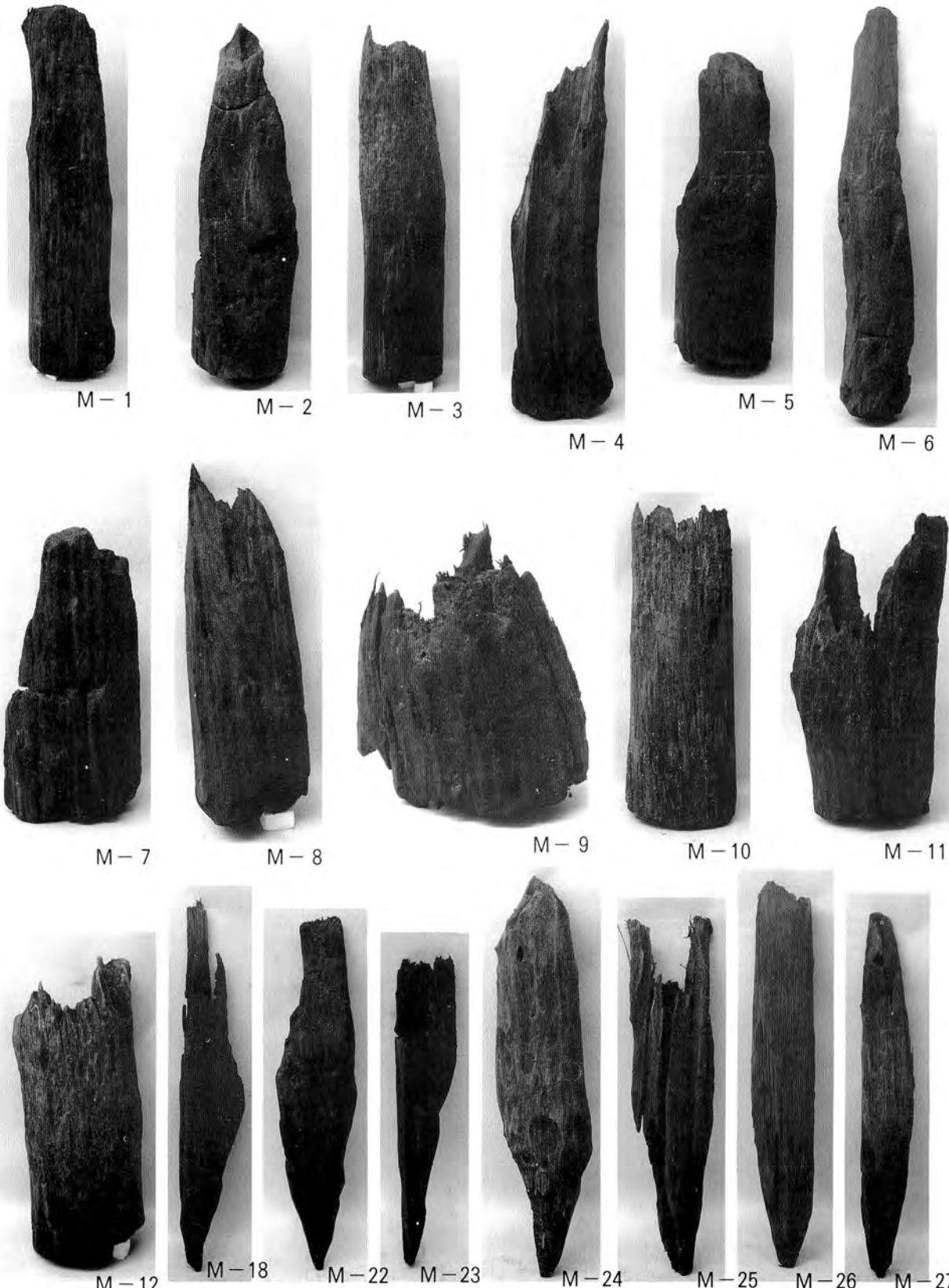




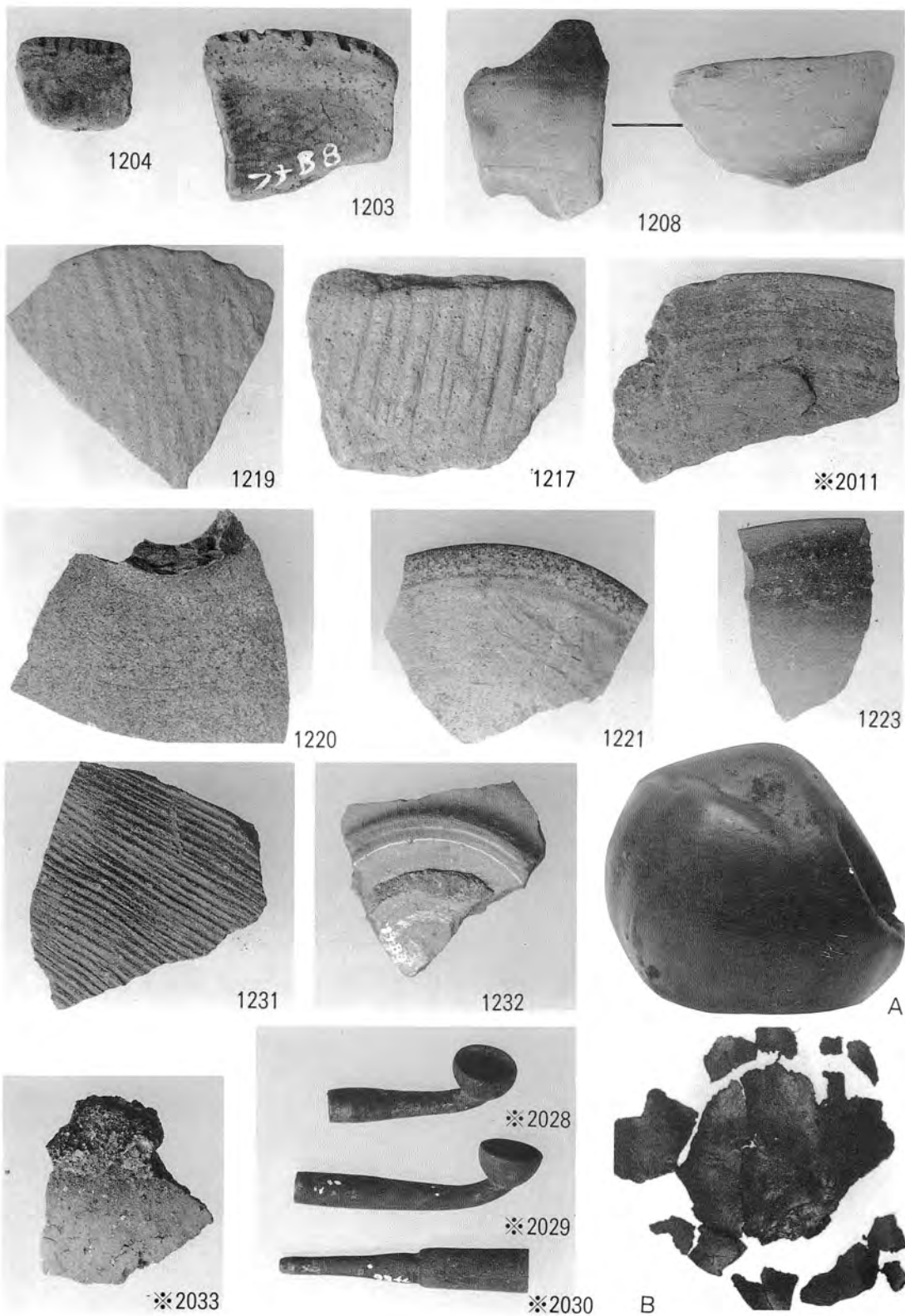




遺構外出土遺物



M 1 ~ M 7 SI- 2 号住居址出土柱根 M 8 SB- 4 号建物址出土柱根 M 9 ~ M 12 5 号遺構出土柱根  
 M 18 ~ M 23 1 号杭列出土杭 M 24 ~ M 27 2 号杭列出土杭



時代の異なる遺物  
A・B ヒョウタン



舟 戸 遺 跡  
発掘調査報告書

1995年3月31日印刷・発行

発行 新津市教育委員会  
〒956 新津市大字程島2009番地  
TEL 0250-24-2111

印刷 有限会社 亀田プリント社  
新潟県中蒲原郡亀田町亀田工業団地1丁目2-5  
TEL 025-382-4601 (代)